

茨城県教育財団文化財調査報告101集

牛久北部特定土地地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)

東山遺跡

平成7年9月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告101集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)

ひがしやま
東山遺跡

平成7年9月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団



上 遺跡遠景 下 遺物包含層全景

序

茨城県南部の牛久市周辺地域には、国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」、茨城県による「グレーターつくば構想」等が計画されております。

住宅・都市整備公団では、県南地域における牛久市のもつ地理的条件を勘案し、JR常磐線新駅の設置や首都圏中央連絡道建設等の広域交通拠点性を生かした整備を行い、新駅を中心とする広域の重要拠点としての業務機能並びに都市機能を備えた新都心の形成と、良好な居住環境を有する住宅、宅地の供給を行うための土地区画整理事業を進めております。その予定地内には東山遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成2年10月から発掘調査を実施してまいりました。その成果は、既に「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)(ヤツノ上遺跡)」、「同(Ⅱ)(中久喜遺跡)」として刊行いたしました。

本書は、平成4年度から平成6年度に調査を実施した東山遺跡の調査成果を取録したものであり、本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である住宅・都市整備公団には、多大な御協力をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成7年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成4年4月1日から平成6年12月31日まで実施した牛久市東端穴町字東山1,220番地ほか所在の東山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 東山遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は、次のとおりである。

理事長	磯田 勇 橋本 昌	昭和63年6月～平成7年3月 平成7年4月～	
副理事長	角田 芳夫 小林 秀文 中島 弘光	平成3年7月～平成6年3月 平成6年4月～ 平成7年4月～	
専務理事	中島 弘光	平成5年4月～平成7年3月	
常務理事	本田 三郎 一木 邦彦	平成3年4月～平成5年3月 平成7年4月～	
事務局 長	一木 邦彦 藤枝 宣一 齋藤 紀彦	平成元年4月～平成4年3月 平成4年4月～平成7年3月 平成7年4月～	
埋蔵文化財部長	石井 毅 安藏 幸重	平成2年4月～平成5年3月 平成5年4月～	
埋蔵文化財部長代理	河野 佑司	平成6年4月～	
企画管理課	課長	水飼 敏夫	平成4年4月～
	課長代理	根本 達夫	平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長)
	主任調査員	根本 康弘	平成3年4月～平成5年3月
	主任調査員	川井 正一	平成5年4月～平成6年3月
	主任調査員	海老澤 徳	平成6年4月～
	主事	杉山 秀一	平成4年4月～平成6年3月
経理課	課長	藤田 和行	平成4年4月～平成5年3月
	課長	小橋 弘明	平成5年4月～
	主任	鈴木 三郎	平成7年4月～(平成5年4月～平成7年3月課長代理)
	課長代理	大高 春夫	平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長)
	主任	飯島 康司	平成4年4月～平成6年3月
	主任	小池 孝	平成7年4月～
	主事	大賀 吉成	平成4年4月～平成5年3月
主事	塚 司浩	平成5年4月～	
調査課	課長(部長兼務)	石井 毅 安藏 幸重	平成2年4月～平成5年3月 平成5年4月～
	調査第二班 長	和田 雄次	平成4年4月～平成5年3月
	調査第二班 長	根本 康弘	平成5年4月～平成6年3月
	調査第一班 長	川井 正一	平成6年4月～平成7年3月
	主任調査員	齋藤 弘道	平成4年4月～平成5年3月調査
主任調査員	後藤 哲也	平成5年4月～平成6年9月調査	

整理課	主任調査員	中村 敬治	平成5年4月～平成5年9月調査
	主任調査員	荒井 保雄	平成4年4月～平成5年3月, 平成5年9月～平成6年3月調査
	主任調査員	松浦 敏	平成4年4月～平成6年3月調査
	調査員	上生 朗治	平成6年10月～平成6年12月調査
	調査員	黒沢 秀雄	平成5年1月～平成5年3月調査
	調査員	白田 正子	平成6年4月～平成6年12月調査
	課長	阿久津 久	平成5年4月～平成7年3月
主任調査員	山本 静男	平成7年4月～	
主任調査員	松浦 敏	平成6年10月～平成7年9月整理・執筆・編集	

- 3 本書に使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、古墳時代の住居の形態については、埼玉県上福岡市史編纂室係長の笹森健一氏、古墳時代の集落のあり方については、埼玉県埋蔵文化財調査事業団主任調査員の井上高明氏に御指導をいただいた。炭化材の同定については、バリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。
- 6 遺跡の概略

ふりがな	うしくほくぶとくていとちかくせいらじぎょうちないまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ(Ⅲ)						
書名	牛久北部特定土地地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)						
副書題	東山遺跡						
巻次	(Ⅲ)						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第101集						
編著者名	松浦 敏						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587						
発行年月日	1995(平成7)年9月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地						
東山遺跡	茨城県牛久市東猫穴町東山1,220番地ほか	08219 -0146	36度 18分 10秒	140度 9分 10秒	19920401～ 19941231	17,911㎡	牛久北部特定土地地区西整理事業に伴う調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
東山遺跡	散布地	旧石器時代			ナイフ形石器、彫器、尖頭器		
	散布地	縄文時代 (早期～中期)	炉穴 陥し穴	2基 7基	縄文式土器片、石器		遺物包含層 (早期～中期)
	集落跡	古墳時代 (中期)	竪穴住居跡 土坑	68軒 228基	土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、鉄製品		竪穴遺構が確認されている。
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 土坑	3軒 2基	土師器、須恵器		

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺 跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
(1) 掘 穴	9
(2) 陥し穴	10
(3) 遺物包含層及び遺構外出土遺物	13
2 古墳時代の遺構と遺物	49
(1) 竪穴住居跡	49
(2) 土 坑	238
(3) 遺構外出土遺物	273
3 平安時代の遺構と遺物	278
(1) 竪穴住居跡	278
第4節 まとめ	285
付章 東山遺跡出土の炭化材同定報告について	288

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	調査区呼称方法概念図		第 35 図	第 3 号住居跡実測図	54
第 2 図	東山遺跡調査区新図		第 36 図	第 3 号住居跡出土遺物実測図	55
第 3 図	周辺遺跡分布図	6	第 37 図	第 4 号住居跡実測図	57
第 4 図	基本土層図	8	第 38 図	第 4 号住居跡出土遺物実測図	58
第 5 図	炉穴実測図	9	第 39 図	第 5 号住居跡実測図	59
第 6 図	陥し穴実測図	12	第 40 図	第 5 号住居跡出土遺物実測図	59
第 7 図	遺物包含層平面図	14	第 41 図	第 6 号住居跡実測図	60
第 8 図	遺物包含層上層断面図及びトレンチ内 出土遺物	15・16	第 42 図	第 6 号住居跡出土遺物実測図	61
第 9 図	遺物包含層出土遺物実測図(1)	23	第 43 図	第 7 号住居跡実測図	63
第 10 図	遺物包含層出土遺物実測図(2)	24	第 44 図	第 7 号住居跡出土遺物実測図(1)	64
第 11 図	遺物包含層出土遺物実測図(3)	25	第 45 図	第 7 号住居跡出土遺物実測図(2)	65
第 12 図	遺物包含層出土遺物実測図(4)	26	第 46 図	第 8 号住居跡実測図	66
第 13 図	遺物包含層出土遺物実測図(5)	27	第 47 図	第 8 号住居跡出土遺物位置図	67
第 14 図	遺物包含層出土遺物実測図(6)	28	第 48 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(1)	68
第 15 図	遺物包含層出土遺物実測図(7)	29	第 49 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(2)	69
第 16 図	遺物包含層出土遺物実測図(8)	30	第 50 図	第 9 号住居跡実測図	70
第 17 図	遺物包含層出土遺物実測図(9)	31	第 51 図	第 9 号住居跡出土遺物実測図	72
第 18 図	遺物包含層出土遺物実測図(10)	32	第 52 図	第 10 号住居跡実測図	74
第 19 図	遺物包含層出土遺物実測図(11)	33	第 53 図	第 10 号住居跡出土遺物実測図	75
第 20 図	遺物包含層出土遺物実測図(12)	34	第 54 図	第 11 号住居跡実測図	77
第 21 図	遺物包含層出土遺物実測図(13)	35	第 55 図	第 11 号住居跡出土遺物実測図	78
第 22 図	遺物包含層出土遺物実測図(14)	36	第 56 図	第 12 号住居跡実測図	79
第 23 図	遺物包含層出土遺物実測図(15)	37	第 57 図	第 12 号住居跡出土遺物位置図	80
第 24 図	遺構外出土遺物実測図(1)	41	第 58 図	第 12 号住居跡出土遺物実測図	81
第 25 図	遺構外出土遺物実測図(2)	42	第 59 図	第 13 号住居跡実測図	83
第 26 図	遺構外出土遺物実測図(3)	43	第 60 図	第 13 号住居跡出土遺物実測図	84
第 27 図	遺構外出土遺物実測図(4)	44	第 61 図	第 14 号住居跡実測図	87
第 28 図	遺構外出土遺物実測図(5)	45	第 62 図	第 14 号住居跡出土遺物実測図	88
第 29 図	遺構外出土遺物実測図(6)	46	第 63 図	第 15 号住居跡実測図	89
第 30 図	遺構外出土遺物実測図(7)	47	第 64 図	第 15 号住居跡出土遺物実測図	89
第 31 図	第 1 号住居跡実測図	50	第 65 図	第 16 号住居跡実測図	90
第 32 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図(1)	51	第 66 図	第 16 号住居跡出土遺物実測図	91
第 33 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図(2)	52	第 67 図	第 17 号住居跡実測図	92
第 34 図	第 2 号住居跡実測図	53	第 68 図	第 17 号住居跡出土遺物実測図	93
			第 69 図	第 18 号住居跡実測図	94

第 70 图	第18号住居跡出土遺物実測図	95	第 108 图	第34号住居跡出土遺物実測図	143
第 71 图	第19号住居跡実測図	96	第 109 图	第35号住居跡実測図	145
第 72 图	第19号住居跡出土遺物実測図	97	第 110 图	第35号住居跡出土遺物実測図(1)	146
第 73 图	第20号住居跡実測図	98	第 111 图	第35号住居跡出土遺物実測図(2)	147
第 74 图	第20号住居跡出土遺物実測図(1)	99	第 112 图	第36号住居跡実測図	151
第 75 图	第20号住居跡出土遺物実測図(2)	100	第 113 图	第36号住居跡出土遺物実測図	151
第 76 图	第20号住居跡出土遺物実測図(3)	101	第 114 图	第37号住居跡実測図	153
第 77 图	第21号住居跡実測図	105	第 115 图	第37号住居跡出土遺物実測図	153
第 78 图	第21号住居跡出土遺物実測図(1)	106	第 116 图	第38号住居跡実測図	154
第 79 图	第21号住居跡出土遺物実測図(2)	107	第 117 图	第38号住居跡出土遺物実測図	154
第 80 图	第22号住居跡実測図	109	第 118 图	第39号住居跡実測図	156
第 81 图	第22号住居跡出土遺物位置図	110	第 119 图	第39号住居跡出土遺物実測図(1)	157
第 82 图	第22号住居跡出土遺物実測図	111	第 120 图	第39号住居跡出土遺物実測図(2)	158
第 83 图	第23号住居跡実測図	113	第 121 图	第39号住居跡出土遺物実測図(3)	159
第 84 图	第24号住居跡実測図	114	第 122 图	第40号住居跡実測図	161
第 85 图	第24号住居跡出土遺物実測図	115	第 123 图	第40号住居跡出土遺物実測図(1)	162
第 86 图	第25号住居跡実測図	117	第 124 图	第40号住居跡出土遺物実測図(2)	163
第 87 图	第25号住居跡出土遺物実測図	118	第 125 图	第40号住居跡出土遺物実測図(3)	164
第 88 图	第26号住居跡実測図	119	第 126 图	第41号住居跡実測図	167
第 89 图	第26号住居跡出土遺物実測図	120	第 127 图	第41号住居跡出土遺物実測図	168
第 90 图	第27号住居跡実測図	121	第 128 图	第42号住居跡実測図	169
第 91 图	第27号住居跡出土遺物実測図(1)	122	第 129 图	第42号住居跡出土遺物実測図(1)	170
第 92 图	第27号住居跡出土遺物実測図(2)	123	第 130 图	第42号住居跡出土遺物実測図(2)	171
第 93 图	第28号住居跡実測図	125	第 131 图	第43号住居跡実測図	173
第 94 图	第28号住居跡出土遺物実測図	125	第 132 图	第43号住居跡出土遺物実測図(1)	174
第 95 图	第30号住居跡実測図	126	第 133 图	第43号住居跡出土遺物実測図(2)	175
第 96 图	第31号住居跡実測図	127	第 134 图	第44号住居跡実測図	176
第 97 图	第31号住居跡出土遺物実測図	128	第 135 图	第45号住居跡実測図	177
第 98 图	第32号住居跡実測図	129	第 136 图	第45号住居跡出土遺物実測図	177
第 99 图	第32号住居跡出土遺物実測図(1)	130	第 137 图	第46号住居跡実測図	179
第 100 图	第32号住居跡出土遺物実測図(2)	131	第 138 图	第46号住居跡出土遺物実測図	180
第 101 图	第32号住居跡出土遺物実測図(3)	132	第 139 图	第47号住居跡実測図	183
第 102 图	第32号住居跡出土遺物実測図(4)	133	第 140 图	第47号住居跡出土遺物実測図(1)	184
第 103 图	第32号住居跡出土遺物実測図(5)	134	第 141 图	第47号住居跡出土遺物実測図(2)	185
第 104 图	第32号住居跡出土遺物実測図(6)	135	第 142 图	第48号住居跡実測図	186
第 105 图	第33号住居跡実測図	138	第 143 图	第48号住居跡出土遺物実測図	187
第 106 图	第33号住居跡出土遺物実測図	139	第 144 图	第50号住居跡実測図	188
第 107 图	第34号住居跡実測図	142	第 145 图	第50号住居跡出土遺物実測図	189

第 146 图	第 51 号住居跡実測図	191	第 181 图	第 68 号住居跡実測図	230
第 147 图	第 51 号住居跡山土遺物実測図	192	第 182 图	第 68 号住居跡出土遺物実測図	230
第 148 图	第 52 号住居跡実測図	192	第 183 图	第 70 号住居跡実測図	232
第 149 图	第 52 号住居跡山土遺物実測図	193	第 184 图	第 70 号住居跡出土遺物実測図	233
第 150 图	第 53 号住居跡実測図	194	第 185 图	第 71 号住居跡実測図	236
第 151 图	第 54 号住居跡実測図	195	第 186 图	第 71 号住居跡出土遺物実測図	236
第 152 图	第 54 号住居跡出土遺物実測図	196	第 187 图	第 72 号住居跡実測図	237
第 153 图	第 55 号住居跡実測図	197	第 188 图	第 72 号住居跡山土遺物実測図	238
第 154 图	第 55 号住居跡出土遺物実測図(1)	198	第 189 图	土坑実測図(1)	239
第 155 图	第 55 号住居跡出土遺物実測図(2)	199	第 190 图	土坑実測図(2)	240
第 156 图	第 56 号住居跡実測図	200	第 191 图	土坑実測図(3)	241
第 157 图	第 56 号住居跡出土遺物実測図	201	第 192 图	土坑実測図(4)	242
第 158 图	第 57 号住居跡実測図	202	第 193 图	土坑実測図(5)	243
第 159 图	第 57 号住居跡出土遺物実測図	203	第 194 图	土坑実測図(6)	244
第 160 图	第 58 号住居跡実測図	204	第 195 图	土坑実測図(7)	245
第 161 图	第 59 号住居跡実測図	204	第 196 图	土坑実測図(8)	246
第 162 图	第 59 号住居跡出土遺物実測図	205	第 197 图	土坑実測図(9)	247
第 163 图	第 60 号住居跡実測図	206	第 198 图	土坑実測図(10)	248
第 164 图	第 60 号住居跡出土遺物実測図	207	第 199 图	土坑実測図(11)	249
第 165 图	第 61 号住居跡実測図	208	第 200 图	土坑実測図(12)	250
第 166 图	第 61 号住居跡山土遺物実測図	209	第 201 图	土坑実測図(13)	251
第 167 图	第 62 号住居跡実測図	212	第 202 图	土坑実測図(14)	252
第 168 图	第 62 号住居跡出土遺物実測図	213	第 203 图	土坑実測図(15)	253
第 169 图	第 63 号住居跡実測図	214	第 204 图	土坑実測図(16)	254
第 170 图	第 64 号住居跡実測図	215	第 205 图	土坑実測図(17)	255
第 171 图	第 64 号住居跡出土遺物実測図	216	第 206 图	土坑出土遺物実測図(1)	265
第 172 图	第 65 号住居跡実測図	218	第 207 图	土坑出土遺物実測図(2)	266
第 173 图	第 65 号住居跡山土遺物実測図	219	第 208 图	遺構外出土遺物実測図(1)	275
第 174 图	第 66 号住居跡実測図	221	第 209 图	遺構外出土遺物実測図(2)	276
第 175 图	第 66 号住居跡山土遺物実測図(1)	222	第 210 图	遺構外出土遺物実測図(3)	277
第 176 图	第 66 号住居跡出土遺物実測図(2)	223	第 211 图	第 29 号住居跡実測図	278
第 177 图	第 66 号住居跡出土遺物実測図(3)	224	第 212 图	第 49 号住居跡実測図	280
第 178 图	第 67 号住居跡実測図	226	第 213 图	第 49 号住居跡出土遺物実測図	281
第 179 图	第 67 号住居跡山土遺物実測図(1)	227	第 214 图	第 69 号住居跡実測図	282
第 180 图	第 67 号住居跡山土遺物実測図(2)	228	第 215 图	第 69 号住居跡出土遺物実測図	283

付 図

遺跡全体図

表 目 次

表1 周辺遺跡一覧表	7	表3 住居跡一覧表	283
表2 土坑一覧表	268		

写真図版日次

P L 1	1・2区完掘全景, 3区完掘全景		跡遺物出土状況
P L 2	遺構確認状況(1区),(2区),(3区)	P L 16	第27号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡, 第29号住居跡
P L 3	第1・2・3号住居跡	P L 17	第30・31・32号住居跡
P L 4	第4号住居跡, 第4号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡	P L 18	第32号住居跡遺物出土状況(1), 第32号住居跡遺物出土状況(2), 第33号住居跡
P L 5	第6号住居跡, 第6号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡	P L 19	第33号住居跡遺物出土状況, 第34号住居跡遺物出土状況, 第34号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
P L 6	第7号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡炭化材出土状況, 第8号住居跡	P L 20	第35号住居跡, 第35号住居跡遺物出土状況, 第35号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
P L 7	第8号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡, 第10号住居跡	P L 21	第36・37・39号住居跡
P L 8	第10号住居跡遺物出土状況, 第11号住居跡, 第11号住居跡炭化材出土状況	P L 22	第40号住居跡, 第41号住居跡電柱遺構内遺物出土状況, 第41号住居跡電柱遺構断面
P L 9	第12号住居跡, 第12号住居跡焼土・炭化材出土状況, 第12号住居跡遺物出土状況	P L 23	第41号住居跡遺物出土状況, 第42号住居跡, 第42号住居跡遺物出土状況
P L 10	第13・14・15号住居跡	P L 24	第43・44・45号住居跡
P L 11	第16・17・18号住居跡	P L 25	第46号住居跡, 第47号住居跡, 第47号住居跡遺物出土状況
P L 12	第19号住居跡, 第20号住居跡, 第20号住居跡遺物出土状況	P L 26	第47号住居跡炭化材出土状況, 第48号住居跡, 第49号住居跡
P L 13	第21号住居跡, 第21号住居跡遺物出土状況, 第22号住居跡	P L 27	第49号住居跡電遺物出土状況, 第50号住居跡, 第51号住居跡
P L 14	第23号住居跡炭化材出土状況, 第23号住居跡, 第24号住居跡遺物出土状況	P L 28	第53・54・55号住居跡
P L 15	第25号住居跡, 第26号住居跡, 第26号住居		

- P L 29 第55号住居跡遺物出土状況, 第56号住居跡, 第57号住居跡
- P L 30 第58・59・60号住居跡
- P L 31 第60号住居跡遺物出土状況, 第62号住居跡, 第62号住居跡出入ロピット
- P L 32 第62号住居跡遺物出土状況, 第63号住居跡, 第64号住居跡
- P L 33 第64号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第65号住居跡, 第65号住居跡遺物出土状況
- P L 34 第66号住居跡, 第66号住居跡遺物出土状況, 第67号住居跡
- P L 35 第68・69号住居跡, 第69号住居跡職遺物出土状況, 第70号住居跡
- P L 36 第71号住居跡, 第72号住居跡, 第17号土坑遺物出土状況
- P L 37 第1号炉穴, 第2号炉穴, 第1号陥し穴
- P L 38 第2・3・4号陥し穴
- P L 39 第80号土坑(陥し穴), 第102号土坑(陥し穴) 第155号土坑(陥し穴)
- P L 40 第1・3号住居跡出土遺物
- P L 41 第3~8号住居跡出土遺物
- P L 42 第6~9号住居跡出土遺物
- P L 43 第9・10・12号住居跡出土遺物
- P L 44 第12~14号住居跡出土遺物
- P L 45 第12・14・16~20号住居跡出土遺物
- P L 46 第20号住居跡出土遺物
- P L 47 第20・21号住居跡出土遺物
- P L 48 第21・22号住居跡出土遺物
- P L 49 第22・24・25・27号住居跡出土遺物
- P L 50 第26・27・31号住居跡出土遺物
- P L 51 第31・32号住居跡出土遺物
- P L 52 第32号住居跡出土遺物
- P L 53 第32・33号住居跡出土遺物
- P L 54 第33~35号住居跡出土遺物
- P L 55 第35・36・39・43号住居跡出土遺物
- P L 56 第39・40号住居跡出土遺物
- P L 57 第39~42号住居跡出土遺物
- P L 58 第41~43号住居跡出土遺物
- P L 59 第43・46・54号住居跡出土遺物
- P L 60 第42・46・47・49~51号住居跡出土遺物
- P L 61 第46・47・52・54~56号住居跡出土遺物
- P L 62 第55・56・57・59・61・62号住居跡出土遺物
- P L 63 第55~57・59・61・62・66号住居跡出土遺物
- P L 64 第60~62・64~67号住居跡出土遺物
- P L 65 第64・66・67~70号住居跡出土遺物
- P L 66 第66~68・70・71号住居跡出土遺物
- P L 67 第67~69・71・72号住居跡, 第7・17・31号土坑, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 68 第9・12・14・22・35・67号住居跡, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 69 住居跡出土土製品・石製品, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 70 住居跡出土石器・石製品
- P L 71 住居跡出土土製品・鉄製品・炭化種子, 遺構外出土遺物(縄文時代)
- P L 72 遺構外出土遺物(縄文時代) 1
- P L 73 遺構外出土遺物(縄文時代) 2
- P L 74 遺構外(縄文時代)・遺物包含層出土遺物
- P L 75 遺物包含層出土遺物(1)
- P L 76 遺物包含層出土遺物(2)
- P L 77 遺物包含層出土遺物(3)
- P L 78 遺物包含層出土遺物(4)
- P L 79 遺構外・遺物包含層出土遺物(1)
- P L 80 遺構外・遺物包含層出土遺物(2)

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系を原点とし、 $X = +920m$, $Y = 28,960m$ の交点を基準点(E9a.)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西及び南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」……のように呼称した。小調査区も同様に、北から南へa, b, c……「j」、西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a区」、「B2b区」のように呼称した。(第1図)

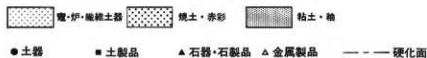
- 2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 土 坑-SK
ヒット-P₁~

遺物 土 器-P 土製品-DP 石器-Q 金属製品-M 拓本土器-TP

土層 複乱-K

- 3 遺構、遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

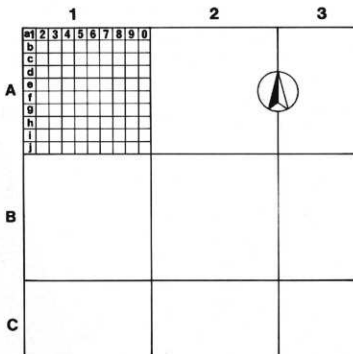


- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄 日本色研事業株式会社)を使用した。

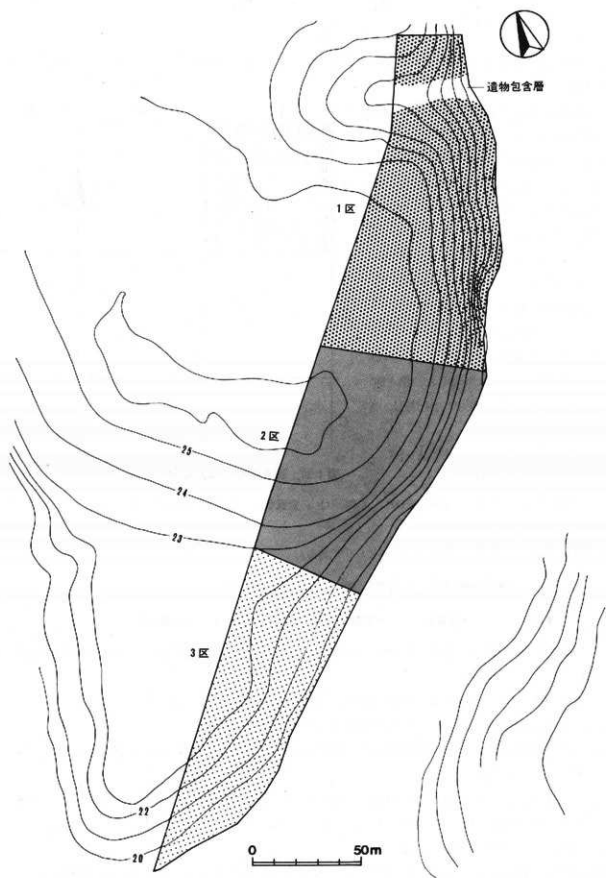
- 5 遺構、遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は、竈、竈をとる軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 $N-10^{\circ}-E$, $N-10^{\circ}-W$)
なお、[] を付したものは推定である。

- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台径(脚部径)、E-高台高(脚部高)とし、単位はcmである。現存値は()で、推定値は[]を付して示した。



第1図 調査呼称方法概念図



第2図 東山遺跡調査区割図

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県が進めている「グレーターつくば構想」は、牛久市、土浦市、つくば市の三都市を業務核都市として100万田園都市圏の一翼を担うことが期待されており、牛久市の北部地区に「竜ヶ崎・牛久都市計画事業牛久北部特定土地区画整理事業」が計画された。この事業は、業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより、昭和63年10月13日、住宅・都市整備公団つくば開発局は、茨城県教育委員会に対し、この事業計画地である牛久市北部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け、茨城県教育委員会は、同月26日から、牛久市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い、平成元年2月7日、表面観察及び試掘調査を実施した結果、東山遺跡ほかヤツノ上遺跡など数遺跡が所在することを確認し、住宅・都市整備公団あてに回答した。平成4年1月29日から、住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねた結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとした。そこで、茨城県教育委員会は、住宅・都市整備公団に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から遺跡発掘調査の依頼を受け、平成4年4月1日、住宅・都市整備公団と東山遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、同年4月から東山遺跡2区の発掘調査を、翌年4月1日から東山遺跡1区、さらに翌年4月1日から東山遺跡3区の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

東山遺跡の発掘調査は、中久喜遺跡、馬場遺跡、行人田遺跡の調査と併せて、平成4年4月1日から平成6年12月31日までの2年9か月にわたって、2区〔6,984㎡〕、1区〔7,359㎡〕、3区〔3,568㎡〕（第2図）の順に実施した。以下、調査経過の概要について記述する。

平成4年度 - 2区の調査

- 10月 業者委託による立木の伐開、焼却、清掃を実施した。終了後、中久喜遺跡の遺構調査と併行して、遺構確認のための試掘調査を開始した。
- 11月 前月に引き続き、遺構確認のための試掘調査を実施し、竪穴住居跡9軒、土坑13基を確認した。17口には、中久喜遺跡の調査の終了を待って、現場倉庫及び休憩所を移設した。
- 12月 1日から、重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。表土除去は、調査区の東部大半が急斜面であるため難行し、22日に終了した。その後、遺構確認作業を引き続き実施し、竪穴住居跡30軒、土坑120基を確認した。
- 1月 5日から調査区南西部の遺構調査及び方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を開始した。竪穴住居跡11軒、土坑16基の調査を終了した。
- 2月 引き続き、遺構調査を進め、竪穴住居跡16軒、土坑53基の調査を終了した。
- 3月 13日に、中久喜遺跡の成果と併せて現地説明会を開催した。16日に、航空写真撮影を実施し、25日に、

すべての調査を終了した。

平成5年度-1区の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。9日から作業を開始し、休憩所の設置及び遺跡内の清掃を実施した。馬場遺跡の試掘調査と併行して、27日から業者委託による立木の伐開、焼却作業を開始した。
- 5 月 7日に業者委託伐開を終了し、13日から遺構確認のためのグリッド及びトレンチ試掘調査を開始した。グリッド試掘調査によって、竪穴住居跡13軒、土坑9基、溝2条を確認した。
- 6 月 引き続き6日まで、トレンチ試掘調査を実施し、調査区の北東部に縄文時代の遺物を包含する地点のあることを確認した。8日から25日まで、重機による表土除去を実施し、28日から遺構確認作業及び方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を開始した。
- 7 月 遺構確認作業の結果、竪穴住居跡28軒、土坑49基、溝3条を確認した。このうち、溝については近・現代の根切り溝と判断した。16日から、調査区の北東部の遺構調査を開始した。
- 8 月 馬場遺跡の遺構確認作業と併行して、引き続き、竪穴住居跡、土坑の調査を実施し、住居跡8軒、土坑16基の調査を終了した。
- 9 月 竪穴住居跡及び土坑の遺構調査を進め、竪穴住居跡11軒、土坑10基の調査を終了した。
- 10 月 馬場遺跡内の一部グリッド試掘と併行して、遺構調査を進め、竪穴住居跡7軒、土坑18基の調査を終了した。
- 11 月 15日までに、住居跡、土坑の遺構調査を終了し、16日には、遺跡内清掃をして航空写真撮影及び遺跡全景写真撮影を行った。17日、18日と補足調査を行い、包含層の調査を除いて遺構調査を終了した。
- 12 月 7日から、馬場遺跡の遺構調査と併行して、包含層の調査を開始した。
- 1 月 引き続き、馬場遺跡の遺構調査と併行して、包含層の第2層の調査を進めた。18日から25日まで、3区の業者委託による立木の伐開、焼却作業を実施し、28日から遺構確認のためのグリッド試掘調査を開始した。
- 2 月 1日、3区の試掘調査を終了し、竪穴住居跡4軒、土坑6基を確認した。包含層の調査は第3層まで進んだ。
- 3 月 1日から4日まで、3区の表土除去を実施し、6日には、東山遺跡1区と馬場遺跡について現地説明会を開催した。15日から、包含層の調査と併行して、3区の遺構確認作業を実施し、竪穴住居跡13軒、土坑58基を確認した。25日にすべての調査を終了した。

平成6年度-3区の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。11日から、馬場遺跡と併せて、遺跡内の清掃を行い、18・19日には、方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を実施した。
- 5 月 昨年度、確認した竪穴住居跡13軒、土坑58基について、2日から遺構調査を開始した。
- 6 月 馬場遺跡2区及び行人田遺跡の試掘、遺構確認作業と併行して、引き続き遺構調査を実施し、竪穴住居跡12軒、土坑56基の調査を終了した。
- 7 月 5日に航空写真撮影を実施し、6日から、補足調査を開始した。14日にはすべての調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

東山遺跡は、牛久市東鑑穴町字東山11,220番地ほかに所在し、牛久市役所の北北西約4kmに位置している。

遺跡のある牛久市は、茨城県南部の中ほどに位置し、東は江戸崎町、西は荖崎町、南は竜ヶ崎市、北は阿見町、土浦市、つくば市と境を接している。市域は、東西約15km、南北約10km、面積約59.00km²を擁している。市の西側には、国道6号線と、JR常磐線が平行してほぼ南北に通じ、中央部には国道408号線が東西に走っている。

牛久市の地形は、標高25～28mの洪積台地である稲敷台地と、小野川や乙戸川、桂川水系の沖積低地とからなっている。稲敷台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が樹枝状に入り込み、台地は複雑な地形となっている。小野川は、つくば市を水源とし、市のほぼ中央部を北西から南東に流れている。市の南東端で小野川に合流する乙戸川は、土浦市を水源とし阿見町を流れて本市東部に入り、桂川を併せている。桂川、乙戸川を併せた小野川は、大きく北東に湾曲し、霞ヶ浦に流入している。市の西端には牛久沼が形成されている。

稲敷台地は、土浦市、竜ヶ崎市、江戸崎町を結ぶ三角地帯の中にその大部分が入り、台地の東端は東村阿波崎付近にある。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり、下部から上部にかけて、成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積し、堆積状況は、水平で単調であり、褶曲や断層はみられない。

東山遺跡は、牛久市の北西部にあり、小野川左岸から北東側に入り込む小支谷に挟まれた舌状台地の東部に立地している。遺跡の標高は19～24m前後で、調査区の大半が東側に入り込む小支谷に向けた斜面部となっている。遺跡のある台地と小支谷の比高は1～6mほどで、調査前の現況は、山林である。

注・参考文献

- (1) 茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 竜ヶ崎』 1986年 12月
- (2) 茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 佐原』 1988年 12月
- (3) 蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年 11月

第2節 歴史的環境

東山遺跡<1>が所在する地域は、大小の河川、低地、台地と変化に富んだ自然景観をもち、数多くの遺跡が残されている。特に、牛久沼周辺や小野川・乙戸川水系によって形成された台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が分布している。ここでは、当地域の主な遺跡について、時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、中久喜遺跡<2>、西ノ原遺跡<3>等があり、ナイフ形石器や尖頭器等が出土している。

縄文時代の遺跡は、牛久市の守子橋遺跡<4>、ヤツノ上遺跡<5>、荖崎町の下大井遺跡<6>、大井遺跡<7>、土浦市の沖新田遺跡(沖新田遺跡)<8>、塚下遺跡<9>等がある。守子橋遺跡、下大井遺跡、大井遺跡は、小野川沿いの右岸台地縁辺部に、ヤツノ上遺跡は、小野川左岸から入り込む小支谷の東側の台地上に位置している。ヤツノ上遺跡からは、縄文時代晩期の土器片とともに、同時期の土偶が出土している。沖新田遺跡(沖新

遺跡、塚下遺跡は、それぞれ乙戸川右岸台地縁辺部、左岸台地縁辺部に対峙している。牛久市奥原町の小野川と乙戸川とが合流する左岸台地縁辺部には、中期から後期にかけての集落跡である奥原遺跡（出戸地区）があり、牛久市柿町の乙戸川左岸台地縁辺部には赤塚遺跡がある。牛久沼から入り込む小支谷を臨む台地上には、早期から後期の中C遺跡が、また、同台地上には、後期中葉から後葉にかけての主浜貝塚を形成する城戸貝塚がある。

弥生時代の遺跡は、縄文土器片とともに弥生式土器片の散布がみられる小野川右岸台地縁辺部に位置する坂本遺跡（10）があり、奥原町の天王峯遺跡では、弥生時代後期の集落跡が確認されて注目されている。

古墳時代の遺跡は、今回報告する東山遺跡のほか、牛久市中久喜遺跡、ヤツノ上遺跡、馬場遺跡（11）、中下根遺跡（12）、奥原遺跡、すかき台遺跡、源臺遺跡、天王峯遺跡、土浦市の向原遺跡、烏山遺跡、竜ヶ崎市の平台遺跡、長峰遺跡、稲敷郡阿見町の中根遺跡（13）、宮脇遺跡、阿見東遺跡等がある。

これらの遺跡を時期別にみると、古墳時代前期の遺跡は、すかき台遺跡、奥原遺跡、向原遺跡、烏山遺跡等がある。小野川と乙戸川の合流する左岸台地縁辺部に位置する奥原町のすかき台遺跡では、竪穴住居跡9軒、同じく奥原遺跡（姥神地区）では、竪穴住居跡3軒、方形周溝墓3基が確認されている。乙戸川左岸台地上に位置する久野町の源臺遺跡からは、6基の方形周溝墓が確認されている。花室川の南にある北東から南西に延びる台地上に位置する向原遺跡からは、竪穴住居跡61軒が確認されている。また、烏山遺跡からは同時期の竪穴住居跡が16軒確認されており、そのうち11軒の竪穴住居跡内から勾玉、管玉の未製品が大量に出土していることから、玉造工房跡と考えられている。

古墳時代中期の遺跡は、東山遺跡のほか、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、馬場遺跡、西ノ原遺跡、華人山遺跡（14）、宮脇遺跡、阿見東遺跡、長峰遺跡、平台遺跡等がある。牛久市中根町付近の小野川・乙戸川水系の小支谷によって開析された台地上には、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、中下根遺跡、西ノ原遺跡、華人山遺跡があり、広範囲にわたって古墳時代中期後半の集落跡が確認されている。阿見町北西部の清明川によって開析された台地上に位置する宮脇遺跡（第Ⅱ期）からは、同時期の竪穴住居跡23軒確認されている。宮脇遺跡の東側に位置する阿見東遺跡からは、石製模造品が多数出土しており、石製品工房跡と考えられている。竜ヶ崎市の長峰遺跡、平台遺跡からは、古墳時代中期前半の集落跡が確認されている。

古墳時代後期の遺跡は、西ノ原遺跡、天王峯遺跡、奥原遺跡等がある。西ノ原遺跡では、竪穴住居跡5軒、天王峯遺跡では竪穴住居跡2軒、奥原遺跡では竪穴住居跡が20軒ちかく確認されている。

古墳は、集落に付随するように、室町の下大井古墳群（15）、阿見町の内記古墳群（16）、実教古墳群（17）、牛久市猪子町の道山古墳群（18）がある。なかでも小野川に流れる一支流に面した標高20mの台地上には、9基からなる道山古墳群があり、第3、4、5号墳からは直刀が出土している。これらの古墳は、いずれも6世紀後半から7世紀前半のものである。

奈良・平安時代の遺跡は、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、奥原遺跡、行人田遺跡（19）等がある。このうち、ヤツノ上遺跡、奥原遺跡（姥神地区）からは、竪穴住居跡と同時期の掘立柱建物跡が確認され、墨書土器が出土している。

中世の遺跡は、岡見城跡（20）、小坂城跡、上小池城跡（21）等がある。岡見城跡は、牛久市阿見町に所在し、室町時代初期ごろから漸次勢力を拡大していった岡見氏発祥の城跡であり、同市小坂町の小坂城跡は戦国期に入って岡見氏によって築造されたものと考えられている。阿見町小池に所在する上小池城跡は、戦国時代末期に土岐氏によって構築、支配されたものと考えられる。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図中の該当番号と同じである。

注・参考文献

- (1) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 中久喜遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』 1994年 9月
- (2) 茨城県教育財団 「西ノ原遺跡・華人山遺跡 現地説明会資料」 1995年 1月
- (3) 笠崎教育委員会 「笠崎村史」 1973年 3月
- (4) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) ヤツノ上遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年 3月
- (5) 土浦市教育委員会 「土浦の遺跡 埋蔵文化財包蔵地」 1984年 3月
- (6) 奥原遺跡発掘調査会 「奥原遺跡」 1989年 12月
- (7) 赤塚遺跡発掘調査会 「赤塚遺跡」 1984年 4月
- (8) 牛久市教育委員会 「牛久町史 史料編(Ⅱ)」 1979年 1月
- (9) 牛久市大王塚発掘調査会 「天王塚遺跡報告書 第二次調査」 1988年 4月
- 00 阿見町史編さん委員会 「阿見町史」 1983年 3月
- 01 牛久市すかき台遺跡発掘調査会 「すかき台遺跡」 1991年 8月
- 02 牛久市教育委員会 「常陸源臺遺跡」 1989年 10月
- 03 土浦市向原遺跡発掘調査会 「向原遺跡」 1987年 3月
- 04 国士館大文学部考古学研究室 「烏山遺跡」 1988年 3月
- 05 阿見町教育委員会 「宮脇遺跡(第Ⅱ期)」 1990年 3月
- 06 阿見町阿見東遺跡調査会 「阿見東遺跡」 1992年 5月
- 07 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第58集』 1990年 3月
- 08 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 8 平台遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第19集』 1983年 3月
- 09 小坂城跡発掘調査会 「小坂城跡」 1979年 12月



第3図 周辺遺跡分布図

表1 周辺遺跡一覧表

番号	奥遺跡番号	名称	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世以降	番号	奥遺跡番号	名称	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世以降	
1		東山遺跡		○		○	○			20	1708	阿見城遺跡								○
2		中久喜遺跡	○	○			○			21	3982	上小池城跡								○
3		西ノ原遺跡	○			○				22	5701	於山古墳				○				
4	2794	守子橋遺跡		○						23	5699	大塚古墳					○			
5		ヤツノ上遺跡		○		○	○			24	5700	北古辺古墳					○			
6	2811	下大井遺跡		○						25	3363	大久保遺跡					○			
7	2808	大井遺跡		○						26	3991	東鑑穴一里塚								○
8	5241	沖新田道祖神遺跡		○		○				27	5698	だめき古墳					○			
9	5240	塚下遺跡		○		○				28	3368	宮坂古墳					○			
10	3366	坂本遺跡		○	○					29	3371	根柄古墳					○			
11	3364	馬場遺跡				○	○			30	3369	中宿遺跡					○			
12		中下根遺跡				○				31	3375	占塚敷遺跡					○			
13	5703	中根遺跡				○				32	3372	愛宕脇古墳					○			
14		作人山遺跡				○				33	3373	梨の木古墳					○			
15	5730	下大井古墳群				○				34	3376	宮の台遺跡					○			
16	5702	内記古墳群				○				35	3377	琴塚古墳					○			
17	5697	尖坂古墳群				○				36	3378	水落下遺跡					○			
18	1706	道山古墳群				○				37	3380	榎現山上池遺跡	○				○			
19	3365	行人田遺跡				○	○			38	1703	田宮一里塚								○

第3章 遺 跡

第1節 遺跡の概要

東山遺跡は、牛久市の北西部、小野川左岸から北東方向に入り込む小支谷によって挟まれた標高19～25m程の舌状台地上にあり、古墳時代中期を中心に、縄文時代、平安時代の複合遺跡である。現況は山林で、面積は17,911m²である。

今回の調査によって確認された遺構は、縄文時代の炉穴2基、陥し穴7基、古墳時代中期の竪穴住居跡69軒、平安時代の竪穴住居跡3軒、及び土坑230基である。その他、調査区の北東部に縄文時代早期から前期の遺物包含層を確認した。

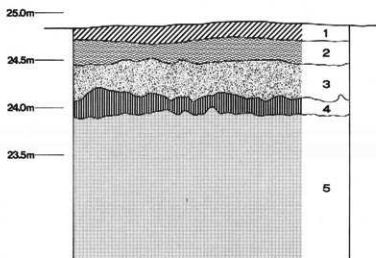
遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に156箱出土している。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、彫器、尖頭器が出土している。縄文時代の遺物は、早期から前期の土器片、石鏃、凹石、磨石、スタンプ形石器が出土している。古墳時代の遺物は、土師器の壺、壺、甗、高坏、埴、須恵器の坏、埴、蓋、甕、土製品の勾玉、小玉、球状土鏃、石製品の勾玉、白玉、双孔門板、石器の砥石、尖頭器、鉄製品の刀子等が出土している。

第2節 基本層序

東山遺跡においては、調査1区南西部D9a区にテストピットを設定し、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、暗褐色の表土であり、ローム粒子と炭化粒子を少量含み、厚さは10～20cmである。第2層は、明褐色のソフトローム層で、厚さは15～30cmである。第3層は、黄褐色のソフトローム層であり、赤色のバミスを微量含み、厚さは25～45cmである。第4層は、褐色のハードローム層で、赤色のバミスを微量含み、厚さは10～30cmである。第5層は、黄褐色のハードローム層で、厚さは120～140cmである。第3層から第5層は、極めて総まりがある。

東山遺跡の遺構は、第1層下面及び第2層上面から確認されており、竪穴住居跡は第2層から第3層を掘り込み、陥し穴遺構は第5層まで掘り込まれている。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 炉 穴

炉穴は、調査区北東部に位置する遺物包含層付近から2基確認されている。

第1号炉穴 (第5図)

位置 1区北西部, B11a₂区。

規模と平面形 長軸1.44m, 短軸1.02mの不定形で, 深さは42cmである。

底面と壁 底面は浅い皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 9層からなる人為堆積で, 底面には焼土層が堆積している。第6層は赤褐色土, それ以外は褐色土である。

第1層は焼土粒子を少量, 第2層は焼土粒子を微量, 第3層は焼土粒子を少量と焼土中ブロックを微量, 第4層は焼土粒子及び炭化粒子を少量, 第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量, 炭化粒子及び炭化物を微量, 第6層は焼土粒子及び焼土中ブロックを多量, 第7層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量, 第8層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量, 第9層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量, それぞれ含んでいる。

遺物 貝殻条痕文系の縄文式土器片が1点出土している。

所見 覆土の状態, 遺構の形態及び縄文式土器片が出土していることから, 縄文時代早期の炉穴と考えられる。

第2号炉穴 (第5図)

位置 1区北西部, B11a₂区。

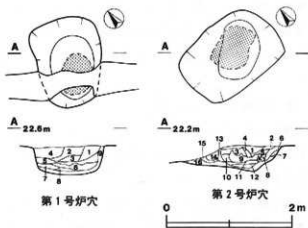
規模と平面形 長軸(1.60)m, 短軸(1.12)mの隅丸長方形をしていたものと考えられ, 深さは40cmである。

底面と壁 底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 16層からなり, ローム粒子及び焼土粒子を含む褐色土, 明褐色土を主体に堆積している。

第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含むにぶい赤褐色土, 第2層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む明褐色土, 第3層はローム

粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を多量含む明赤褐色土, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量含む褐色土, 第5層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量含む明褐色土, 第6層はローム粒子を多量含むにぶい褐色土, 第7層はローム粒子を多量含むにぶい褐色土, 第8層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量含む明褐色土, 第9層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を多量含む褐色土, 第10層はローム粒子及びローム中ブロックを少量と焼土粒子を多量含む明褐色土, 第11層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む明褐色土, 第12層はローム粒子を多量含む明褐色土, 第13層は焼土粒子を少量含む明褐色土, 第14層はローム粒子を多量, 焼土粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含むにぶい褐色土, 第15層は焼土粒子及び炭化物を微量含む明褐色土, 第16層はローム粒子及び焼土粒子を多量含む黄褐色土である。



第5図 炉穴実測図

遺物 出土していない。

所見 覆土の状態及び遺構の形態等から、縄文時代早期の炉穴と考えられる。

(2) 陥し穴

当遺跡で確認した陥し穴は7基で、調査区の中央部及び北東部に位置している。このうち、北東部に位置する4基は、遺物包含層の調査の際に上面を削平してしまったものがほとんどで、上部形状の詳細は不明である。なお、遺構番号は調査時に付した番号である。

第1号陥し穴（第6図）

位置 1区北西部，A11h区。遺構の北西部は調査区域外に延びている。

規模と平面形 長径1.26m，短径0.34mの長楕円形で，深さは152cmである。

長径方向 N-65°-W。

底面と壁 底面はU字状で，南西壁はオーバーハングしたあと，外傾して立ち上がっている。

覆土 11層からなり，自然堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む褐色土，第2層は焼土粒子を中量含む黒褐色土，第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量及び炭化粒子を少量含む褐色土，第4層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む褐色土，第5層は焼土粒子を微量含む暗褐色土，第6層は焼土粒子を微量含む黒褐色土，第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む暗褐色土，第8層はローム中ブロックを中量含む黒色土，第9層はローム小ブロックを少量含む極暗褐色土，第10層はローム大ブロックを多量含む灰褐色土，第11層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む褐色土である。

遺物 覆土中から縄文式土器片が極少量出土している。

所見 本跡は，覆土中から縄文時代前期の遺物が出土していること，遺物包含層第2層の上面から掘り込まれていることから，縄文時代前期もしくはそれ以降に構築されたものと考えられる。

第2号陥し穴（第6図）

位置 1区北西部，A11j区。

規模と平面形 長径1.24m，短径0.50mの長楕円形で，深さは30cmである。

長径方向 N-68°-W。

底面と壁 底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は6層で，人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土，第2層はローム粒子及び褐色土粒子を少量含む極暗褐色土，第3層はローム粒子を少量含む黒褐色土，第4層はローム粒子を中量含む褐色土，第5層はローム粒子を少量とローム中ブロックを微量含む暗褐色土，第6層はローム粒子を多量含む褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 本跡の上面は削平されているため上部形状の詳細はとらえられないが，周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第3号陥し穴 (第6図)

位置 1区北西部, A11h,区。

規模と平面形 長径1.48m, 0.62mの長楕円形で、深さは14cmである。

長径方向 N-36°-E。

底面と壁 底面は平坦で、壁は急角度に外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は3層で、自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を微量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及び焼土粒子を少量含む暗褐色土、第3層は焼土粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 縄文式土器片が少量出土している。

所見 本跡の上面は削平されているが、周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第4号陥し穴 (第6図)

位置 1区北西部, A11h,区。

規模と平面形 長径2.68m, 短径0.54mの長楕円形で、深さは32cmである。

長径方向 N-62°-W。

底面と壁 底面はU字状で、粘土層まで掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は2層で、自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を微量含む黒色土、第2層はローム粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 第2・3号陥し穴同様上面が削平されているが、周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第80号土坑 (第6図)

位置 2区北東部, D9d,区。

規模と平面形 長径3.44m, 短径0.64mの不定形で、深さは106cmである。

長径方向 N-66°-E。

底面と壁 底面は平坦で、壁は外反して立ち上がっている。

覆土 12層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム粒子を少量含む黄褐色土、第4層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を中量含む褐色土、第10層はローム粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む黄褐色土、第12層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む明黄褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が極少量出土している。

所見 本跡は、遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが、詳しい時期については不明である。

第102号土坑 (第6図)

位置 2区北東部, D9g,区。

規模と平面形 長径2.32m、短径0.30mの長楕円形で、深さは54cmである。

長径方向 N-70°-W。

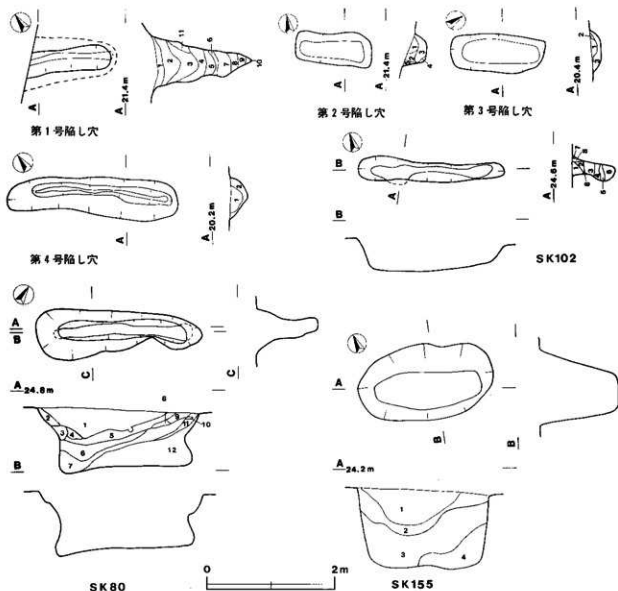
底面と壁 底面は凹んで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第3層の暗褐色土、第8層の黄褐色土のほかはすべて褐色土である。

第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第2層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量、第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量、第6層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量、第8層はローム粒子を多量、それぞれ含んでいる。

遺物 覆土中から縄文式土器片及び土師器片が極少量出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や縄文時代前期後半の土器片が出土していることから、縄文時代の陥し穴と考えられる。



第6図 陥し穴実測図

第155号土坑 (第6図)

位置 2区南西部, C10j区。

規模と平面形 長径2.16m, 短径1.42mの楕円形で, 深さは126cmである。

長径方向 N-65°-W。

底面と壁 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり, 人為堆積である。すべて褐色土で, 第1層はローム粒子を少量, 第2層はローム粒子を中量, ローム小ブロックを少量, 第3層はローム粒子を中量, 第4層はローム粒子を多量, それぞれ含んでいる。

遺物 覆土中から, 縄文式土器片が極少量出土している。

所見 本跡は, 遺構の形態や縄文時代前期後半の土器片が出土していることから, 縄文時代の陥し穴と考えられる。

(3) 遺物包含層及び遺構外出土遺物

遺物包含層は, 1区北東部A11区とB11区との間に入り込む小支谷の斜面部に, 幅2m, 長さ約34mのトレンチを南東方向に設定し, 掘り込んだ結果確認された。

堆積する層は11層からなり, 縄文時代の遺物を包含する層は概ね第1~6層(第8図)で, 北東から南東に向けて傾斜して堆積している。第1層は厚さ8~20cmで, ローム粒子を少量とスコリアを微量含む黒褐色土, 第2層は厚さ6~40cmで, ローム粒子を多量含む褐色土, 第3層は厚さ26~50cmで, ローム粒子及びスコリアを少量含む黒褐色土, 第4層は厚さ18~38cmで, ローム粒子を少量, 黒色粒子を微量とスコリアを中量含む極暗褐色土, 第5層は厚さ6~52cmで, ローム粒子を中量とスコリアを多量含む黒色土, 第6層は厚さ8~30cmで, スコリアを中量含む黒色土, 第7層は厚さ10~22cmで, ローム粒子を多量含む明褐色土, 第8層は厚さ8~18cmで, ローム粒子を多量含む褐色土, 第9層は厚さ12~30cmで, ローム中ブロックを少量含む褐色土, 第10層は厚さ8~14cmで, ローム粒子を多量含む明褐色土, 第11層は厚さ6~28cmで, ローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む暗褐色土である。第4層から第6層は粘性, 締まりともに非常に強く, 第6層については途中から水が湧き出てきたため全掘していない。

調査の結果, 遺物包含層は, A11i区を中心に最大長34m, 最大幅18mの範囲に広がっており, さらに調査区の西側の谷津頭に向けて延びているものと考えられる。

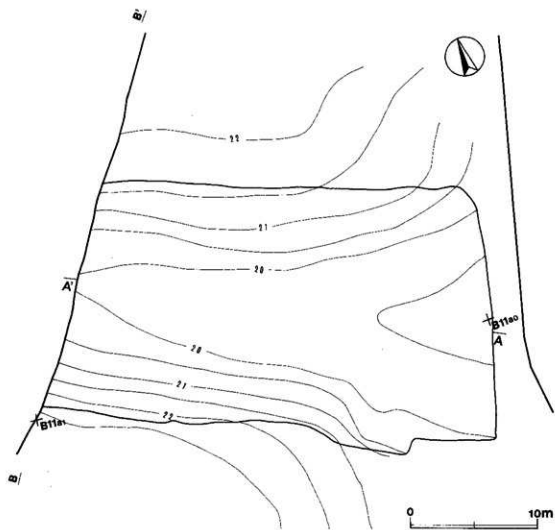
出土遺物は縄文時代早期・前期の縄文式土器片が主体であるが, 中期初頭の縄文式土器片も極少量出土している。石器は磨石, 凹石, スタンプ形石器等が出土している。これらの出土遺物を各層ごとにみても, 第1層には各時期の遺物が混在してはいるものの, 前期後半の貝殻沈線文系の土器群が多く出土している。第2層は第1層で主体をなした土器群が圧倒的な割合を占め, 早期後葉の貝殻条痕文系の土器群の割合も増えてくる。第3層は早期後葉の貝殻条痕文系の土器群が主体を占め, 早期前葉の燃糸文系の土器群の割合が増えてくる。第4層及び第5層は早期前葉の燃糸文系の土器群及び無文土器が主体で, その他の土器片は数点を数えるのみである。第6層からは早期の燃糸文系の土器のみ出土している。

以上のようなことから, 第1・2層は縄文時代前期に, 第3層は縄文時代早期中葉から後葉の時期に, 第4層から第6層は早期前葉の時期に堆積したものと考えられる。

ここでは, 遺物包含層出土遺物及び遺構外出土遺物について, 実測図, 拓影図及び観察表で報告するが, 土器については以下の分類基準を用いて解説する。

第1群 縄文時代早期の土器

- 第1類 撻糸文系土器
- 第2類 無文土器
- 第3類 貝殻沈線文系土器
- 第4類 貝殻条痕文系土器
- 第2群 縄文時代前期の土器
 - 第1類 羽状縄文系土器
 - 第2類 竹管文系土器
 - 第3類 貝殻沈線文系土器
 - 第4類 縄文原体に痕文及び結節文が施されている土器
- 第3群 縄文時代中期初頭の土器



第7図 遺物包含層平面図



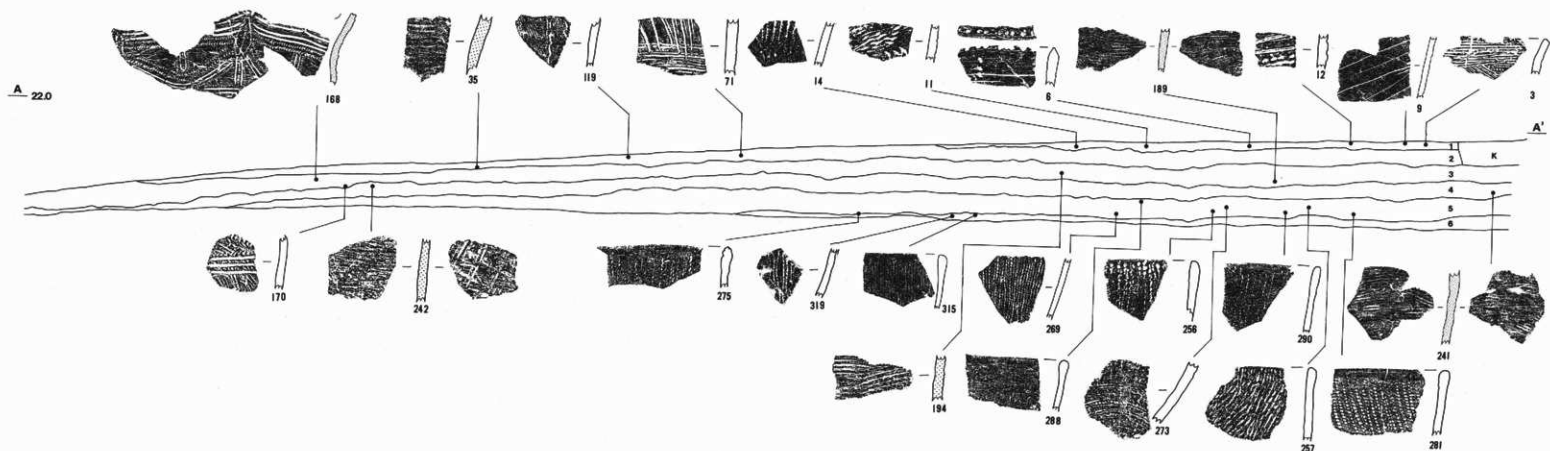
B-B' 土層断面図



第3層遺物出土状況



完備状況



第8図 遺物包含層土層断面図及びピトレンチ内出土遺物

遺物包含層出土遺物

第1層出土遺物(第9図)

本層からは、204点の土器片(第1群-第1類6点,第2類4点,第3類5点,第4類15点及び第2群-第1類2点,第2類3点,第3類167点並びに第3群-2点)と円石が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器(第9図)

第4類 貝殻条痕文系土器(第9図1・2)

1は口縁部片,2は底部に近い胴部片である。1の口唇部は内削ぎ状で,外面端部に軽キザミをもつ。胴部外面には斜位の貝殻条痕文が施されている。胎土は少量の繊維と長石粒,石英粒及び雲母片を含んでいる。2は外面に縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土は多量の繊維と長石粒及び雲母片を含んでいる。1・2とも焼成は普通である。

第2群 縄文時代前期の土器(第9図3~14)

第2類 竹管文系土器(第9図3・4)

3は口縁部片,4は胴部片である。3の口縁部は僅かに外反している。縄文施文後,口縁直下から半截竹管による平行沈線文を横走させ,その下には斜行する沈線によって三角文が構成されている。4は平行沈線文が間隔をおいて横走している。3・4とも,胎土に長石粒・雲母片を多量に含み,焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器(第9図5~14)

5~7は口縁部片,8~14は胴部片である。5は外傾,6はほぼ垂直に,7は僅かに外反して立ち上がる。5は,胴部1位から幅1~2cmの薄い粘土紐を5段以上重ねた後,縦方向の沈線を実施することにより,輪積文を構成している。6の口唇部には棒状工具の押圧がなされている。口縁部直下には沈線施文後,円形刺突文が3段施されている。7は小波状口縁で,口縁直下から縦走する沈線文が施されている。5・7の胎土は長石・石英粒を僅かに含み,焼成は普通である。6の胎土はスコリアを微量含み,焼成は良好で硬く焼き締まっている。8~10は斜位及び横位の沈線文が施されている。11は半截竹管による波状の沈線下に貝殻波状文が,12は半截竹管による沈線下に連続刺突文が施されている。8~10の内面には縦位のナデが施されている。13には貝殻波状文が施されている。14は底部に近い胴部片で,貝殻複線文が施されている。8~14とも胎土に微量のスコリアを含み,焼成は良好である。

第3群 縄文時代中期初頭の土器(第9図15)

15は口縁部片である。口唇部は内削ぎ状で,外面端部から口縁部にかけて縦位のキザミをもつ。頸部の沈線間には鋸歯状文が横走している。口唇部及び胴部内面はよく磨かれている。胎土は緻密で,焼成は良好である。

第2層出土遺物(第9~12図)

本層からは、1,655点の土器片(第1群-第1類53点,第2類4点,第3類6点,第4類181点及び第2群-第1類13点,第2類26点,第3類1,330点,第4類39点並びに第3群-3点)と円石が2点,珠状耳飾りが1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器(第9図16~40)

第1類 燃糸文系土器(第9図16・17)

16は口縁部片で,口唇部は肥厚するものほとんど外反がみられない。口縁部直下に5mm程度の無文帯もち,その下から燃糸文が間隔を疎に施され,補修孔が穿たれている。17は底部に近い胴部片で,16と同様,

燃糸文の施文間隔は疎である。16・17とも胎土に石英・長石粒を多く含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第9図18・19)

18・19は口縁部片である。18の口縁部は僅かに外傾し、頸部外面に丁寧なナデが施されている。胎土は石英・長石粒及び窯母片を多く含み、焼成は普通である。19の口縁部はほぼ直立し、内外面ともヘラによるナデが施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第9図20~24)

20~22は沈線によって文様が構成されている胴部片で、20は細沈線による斜格子目文が、21は方向の異なる斜行する太沈線が、22は沈線間に2本の山形文が施されている。23は口縁部片、24は胴部片で、いずれも沈線文、刺突文、貝殻文が組み合わされた文様が施されている。23は内彎気味に立ち上がり、胴部内面端部に棒状工具によるキザミ目をもつ。20~24の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第9図25~40)

25~31は沈線により、縦位・斜位の区画がなされ、無文部と有文部を構成している。有文部は刺突文を斜位に充填し、沈線と沈線の交点に円形竹管文が施されている。25~28は口縁部片、29~31は頸部片である。25は口唇部にキザミ目が施され、隆帯が屈曲部を形成している。有文部には竹管による押し引き文が充填されている。26は内外面に貝殻条痕文を施し、25と同じ施文がなされる小波状口縁部片である。27・28は口唇部にキザミ目をもち、細沈線間に刺突文が充填されている。27・28は内外面に貝殻条痕文が施されている。29~31は頸部の屈曲部にあたり、屈曲部上にはキザミ目と円形竹管文が施されている。25~31の胎土は繊維及び小石、雲母片を含み、焼成はあまりよくない。32~40は胎土に多量の繊維を含み、貝殻条痕文が施されている。32~34は口縁部片で、35~40は胴部片である。32・33の口唇部はほぼ平頭で、32はキザミ目をもつ。34は小波状の口縁部である。口唇部は内削ぎ状で、軽いキザミ目をもつ。33の外表面には擦痕が残されている。胴部片は内外面に貝殻条痕文を施す35~37、外面に縦位、内面に横位の貝殻条痕文を施す38、外面に斜位及び縦位、内面に縦位の貝殻条痕文を施す39、外面に貝殻背底痕文、内面に貝殻条痕文を施す40がある。

第2群 縄文時代前期の土器 (第10~12図41~119)

第2類 竹管文系土器 (第10図41~46)

41は口縁部片、42・43は頸部片、44・45は胴部片、46は底部片である。41・42は同一個体で、口縁部下に横走する爪形文を2条巡らし、隆帯上に斜位のキザミ目が施されている。隆帯下には沈線に区画された木葉文が施されるものと考えられる。43・44は縄文を地文とし、横走する竹管による沈線文が施されている。43のくびれ部は沈線を縦走及び斜行させて文様を構成している。45・46は横走する集合沈線文が開閉をあけて施されている。45は胎土及び文様等から第1層出土4の土器片と同一個体と考えられる。本類の胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第10~12図47~117)

47~50は地文に燃糸文が施され、その上に平行沈線文、爪形文、貝殻文が施されるものである。47は口縁部近くの頸部片で、括れが強く口縁部直下に横走する平行沈線文を3段巡らせている。48~50は頸部あるいは胴部上半部片で、48には爪形文が、50には貝殻条痕文が施されている。51~73は沈線文、条線文を主文様とするものである。51~53は沈線文を地文にし、口縁部直下に円形刺突文が施されている。51~52は縦位3個1単位が2列、53は同じく4個1単位が2列施されていたものと考えられる。54~58は口唇部にキザミ目が施されている。59は反外して立ち上がり、58と同様、多方向の沈線文が施されている。60~62は口縁部直下に半截竹管によるキザミ目をもち、60には補修孔が穿たれている。63・64は波状口縁で、条線文が63は粗く、64は細かく

施されている。65～73は胴部片である。65～67は多方向の沈線文が、68は斜行する沈線文が、69は曲線的な条線文が施されている。70～72は同一個体で、横走する沈線間に斜行する沈線を施す文様構成をとっている。73は半載竹管による沈線文が多用され、菱形状の無文部がみられる。74～78は輪積文をもつ口縁部片である。74の輪積文は2段構成で棒状工具による凹凸文が、胴部には斜行する沈線文が施されている。75・76は口縁部直下に斜行するキザミ目をもつ。輪積文は2段以上の構成で凹凸文が施されている。77・78も輪積文は2段以上の構成で、輪積文上に斜行する沈線文が施されている。79～83は隆帯をもつ口縁部片である。79・80には隆帯上に弱い沈線文が施されている。81は口唇部に棒状工具の押圧によるキザミ目が施され、隆帯直下に弱い指頭痕が残る。82・83は無文で、僅かに擦痕がみられる。82は内頸気味に立ち上がっている。84～109は貝殻文を主文様とするものである。84～95は貝殻波状文が施されている口縁部片である。84・85は口縁部下に幅広い無文帯をもち、その下に貝殻波状文が施されている。86・87は口縁部直下から貝殻波状文が施されている。88～95は口唇部に棒状工具による押圧や半載竹管によるキザミ目をもち、口縁部に沿ってキザミ目や刺突文が施され、その下に貝殻波状文が施されている。95にみられる口縁部下のキザミ目は貝殻腹線によって施されている。96～103は貝殻波状文が施されている胴部片である。104は他の土器に比べ貝殻を大きく傾けて波状文を施文している。104～108は貝殻腹線文が施されているものである。104～106は口縁部片で、104・106は口縁部直下から、105は口縁部のキザミ目の下から貝殻腹線文が施されている。104の口唇部には棒状工具の押圧によるキザミ目が施される部分と施されない部分がある。107・108は胴部片である。107は沈線によって貝殻腹線文が区画されているものと考えられる。108は沈線内の貝殻腹線文を磨り消している。109は口縁部片で、密に施されたキザミ目の下から、有節平行線文が施されている。110～115は同一個体の胴部片である。単節縄文を地文とし、沈線により曲線や鋸歯状文が施されている。116は口径約41cmで、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部下位に棒状工具による凹文が、頸部には半載竹管による沈線文が施されている。117は口径15.7cmで、僅かに外傾して立ち上がる。口唇部には棒状工具による押圧がなされ、外面は単沈線と貝殻波状文が施されている。木製の胎土はスコリアを含み、焼成は良好で硬く焼き締まったものが大半を占めている。

第4類 縄文原付印文及び結節文が施されている土器 (第12図118～120)

118は口径約23.6cmで、外傾して立ち上がる。輪積文は5段で、輪積文上及び胴部下半には単節縄文が施されている。119・120は同一個体と考えられる。いずれも胴部片で、結節文が間隔をおいて縦走している。胎土には雲母片を僅かに含み、焼成は良好である。

第3群 縄文時代中期初頭の土器 (第12図121・122)

121は口縁部近くの破片である。連続刺突文の下には、沈線間に交互刺突による鋸歯状文が施されている。121は胴部片で、122の文様構成を縦方向にとるが、連続刺突文に変えて有節平行沈線文が施されている。胎土は長石粒、雲母片を含み、焼成は普通である。

第3層出土遺物 (第12～14図)

本層からは、896点の土器片(第1群-第1類178点、第2類26点、第3類14点、第4類565点及び第2群-第2類1点、第3類103点、第4類7点並びに第3群-2点)と磨石が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第12～14図123～196)

第1類 撫糸文系土器 (第12図122～163)

123・124は口縁部片、125は底部に近い胴部片である。123・124とも口唇部は僅かに肥厚し、口縁部は外反して立ち上がる。口唇部及び外面に縄文が密に施されている。126～132は縄文が口縁部直下から比較的密に施

されているものである。126～131が口縁部片で、口唇部は肥厚するが外反は著しくない。132は胴部片である。126は口縁部直下に斜位の縄文が施されている。133～156は細い燃糸文が比較的疎に施されるものである。133～147は口縁部片で、口唇部が肥厚するものがほとんどである。133～140は口縁部直下に無文帯をもち、141～147は口縁部直下から燃糸文が施されている。148・149は底部に近い胴部片、150～156は胴部片である。157～163は太い燃糸文が疎に施されるもので、157～162が口縁部片、163は胴部片である。本類の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第12図164・165)

164・165は口縁部片である。164はほぼ直立し、内外面とも平滑に整形されている。165は口唇部が肥厚し、口縁部直下に軽いナデが施されている。165は胎土に砂粒を多く含み、焼成は不良である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第13図166～172)

166・167は胴部片で、太めの沈線が施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。168～171は胎土及び文様から同一個体と考えられる。山形の波状口縁で、頸部は細くくびれる。口唇部中央には沈線が巡らされている。文様は条痕文を地文とし、沈線文と押し引き刺突文で構成されている。胎土は繊維を少量含み、焼成は普通である。172は口縁部片である。口唇部に軽いキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻沈線文を施した後、指頭痕を巡らせている。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通である。173は6単位の波状口縁をもち、口径は約3.4cmである。口唇部中央に沈線が巡り、内・外端部に細かいキザミ目が施されている。文様は単沈線によって蛇行、弧状、山形状、円形状に描かれている。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第13～14図174～195)

174～176は口縁部片で、口唇部及び口縁部下の降帯上にはキザミ目が施されている。文様は沈線または押し引き文によって、縦位・斜位の区画がなされ、その交点には竹管による円形刺突文が施されている。174には区画内に刺突文が充填されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を多く含み、焼成はあまり良くない。177～196は胎土に多量の繊維を含み、貝殻条痕文・擦痕文が施されているものである。177～187は口縁部片で、177～184には貝殻条痕文が、185～187には擦痕文が施されている。177・179・181・183・184には内外面に、178・180・182には外面だけに貝殻条痕文が施されている。178～180・182の口唇部には軽いキザミ目が施されている。188～196は胴部片で、188～194は内外面に、195は外面に貝殻条痕文が施されている。196は外面に擦痕文が、内面に貝殻条痕文が施されている。

第2群 縄文時代前期の土器 (第14図197～199)

第3類 貝殻沈線文系土器 (第14図197～199)

197・198は口縁部片、199は胴部片である。197の口唇部は外削ぎ状で、外面端部にキザミ目をもち、頸部以下に浅い沈線文が施されている。198は降帯上から頸部に三角文が施されている。199は太さの異なる沈線文が多方向から施されている。胎土はいずれも砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第4層出土遺物 (第14・15図)

本層からは、466点の土器片(第1群-第1類375点、第2類62点、第4類39点)とナイフ形石器が1点、磨石が1点、スタンプ形石器が3点、土製刀板が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第14～15図200～243)

第1類 燃糸文系土器 (第14～15図200～237)

200～203は口縁部片、204は胴部片である。200～203の口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。200～202に

は口唇部にも縄文が施されている。205～214は縄文が比較的密に施されているもので、205～209が口縁部片、210～214が胴部片である。口唇部は肥厚するものが多いが、著しい外反はみられず、口縁部直下から縄文が施されている。215～228は細い燃糸文が比較的疎に施されるものである。215～218は口縁部片で、口唇部は著しく肥厚するが外反はみられない。219～227は胴部片、228は底部に近い胴部片である。229～237は太めの燃糸文が疎に施されているものである。229～233は口縁部片で、口唇部は229・230を除いて肥厚せず、ほぼ垂直に立ち上がる。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第15図238・239)

238・239は口縁部片である。238は頸部から僅かに外傾して立ち上がる。内外面に撫痕文が施されている。239はほぼ垂直に立ち上がり、内面は平滑に整形されている。胎土は砂粒・雲母片を含み、焼成は普通である。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第15図240～243)

240は口縁部片、241～243は胴部片である。240の口唇部は内閉じ状で、軽いキザミ目と施されている。口縁部下にある孔は焼成前のものである。外面にはかすかに貝殻条痕文が施されている。241～243には内外面に貝殻条痕文が施されている。胎土は繊維を多く含み、焼成は普通である。

第5層出土遺物 (第15・16図)

本層からは、449点の土器片 (第1群-第1類433点、第2類10点、第3類1点、第4類土器5点) と石鏝が1点、スタンプ形石器が6点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第15～16図244～307)

第1類 燃糸文系土器 (第15～16図244～302)

244～251は口縁部片、252は胴部片である。口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。244～249は口唇部及び外面に縄文が密に施されている。253～274の口唇部は肥厚するもの外反は著しくないものであり、比較的密に縄文が施されている。253～268は口縁部片で、269～272は胴部片、273・274は底部片である。253・254の口唇部外面端部には斜行する縄文が施されている。267は口縁部下に焼成後に穿たれた補修孔がある。275～296は細い燃糸文が比較的疎に施されているもので、275～290は口縁部片、291～296は胴部片である。口唇部は肥厚するものが大半を占め、外反するものは少ない。口縁部に無文帯をもつ。280は口唇部から口縁部内面にかけて焼成後に穿たれた孔をもつ。297～302は太めの燃糸文が疎に施されているものである。297～299は口縁部片、300～302は胴部片である。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第16図303～307)

303～306は口縁部片、307はミニチュア土器の口縁部から胴部にかけての破片である。303の口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。内面は丁寧なナデが施されている。304・305の口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。306の口唇部は外削ぎ状で、胴部内外面とも平滑に整形されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は303が良好、その他は普通である。

第6層出土遺物 (第16図)

本層からは、63点の土器片 (第1群-第1類62点、第2類1点) と磨石が2点、スタンプ形石器が2点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第16図308～324)

第1類 燃糸文系土器 (第16図308～323)

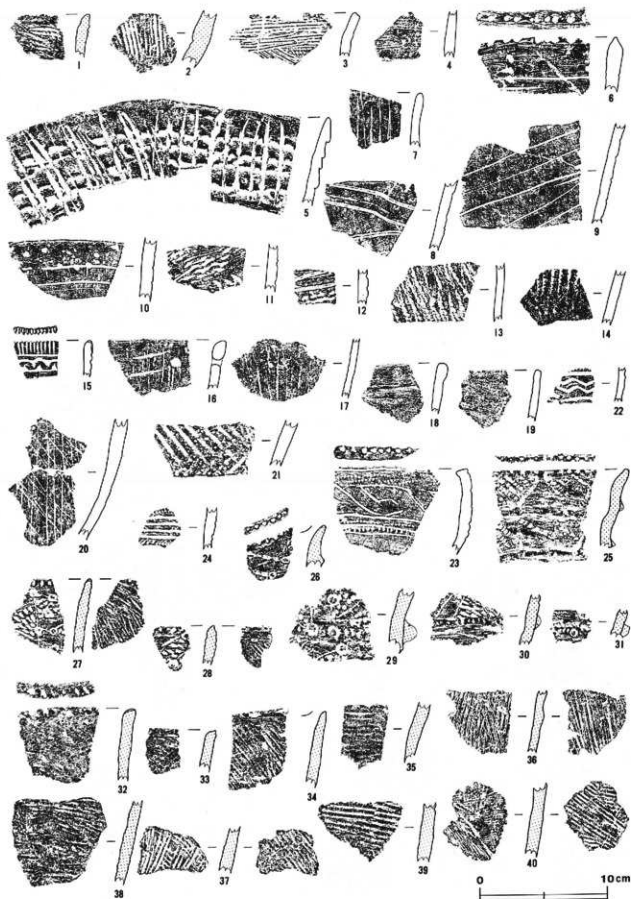
308・309は口唇部の肥厚・外反が著しい。308は口唇部全面に縄文が施され、頸部には斜行、胴部には縦走する縄文が施されている。309は口唇部外面に縄文が施され、頸部に幅1.5cm前後の無文帯をもつ。胴部上位には斜行する縄文が施されている。310・311の口唇部は僅かに肥厚し、ほとんど外反しない。口縁部直下から、比較的密に縄文が施されている。312・313はその胴部片である。314~322は細い燃糸文が比較的疎に施されるもので、314~316は口縁部片、317~322は胴部片である。口縁部直下に無文帯をもつものを特徴としている。314は頸部に施した燃糸文を磨り消している。323は太めの燃糸文が施されている口縁部片で、口縁部直下に僅かな無文帯をもつ。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は314~316、323は良好、その他は普通である。

第2類 無文土器 (第16図324)

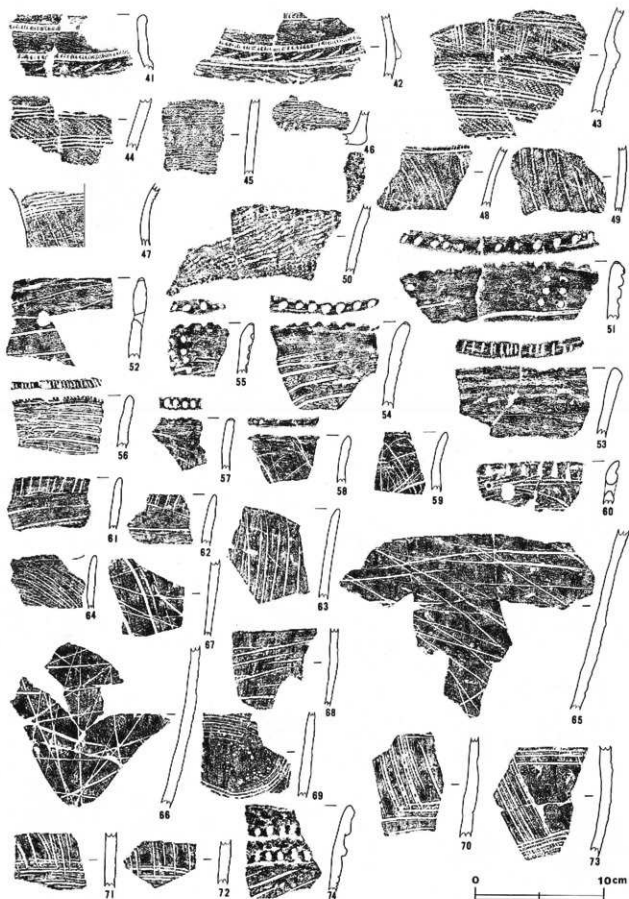
324は口縁部から胴部の破片である。小形の土器で第1群第1類土器に伴うものと考えられる。

遺物包含層出土遺物観察表

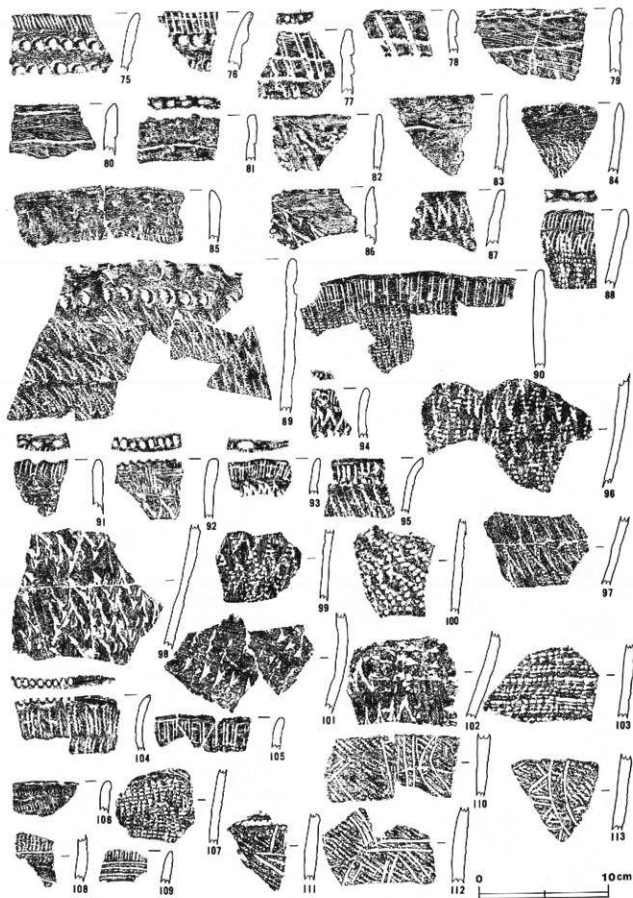
図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	彫 器	(7.6)	(3.0)	0.9	21.9	第4層	Q219 頁岩 P L 80
2	石 鏃	6.7	4.4	0.7	31.9	第5層	Q220 流石片岩 P L 80
3	磨 石	12.7	6.7	3.2	648.7	第6層	Q227 安山岩
4	磨 石	9.4	6.4	4.3	379.0	第6層	Q229 安山岩
5	磨 石	7.2	6.4	2.9	178.3	第3層	Q230 安山岩
6	磨 石	(7.9)	6.5	3.9	319.5	第4層	Q231 安山岩
7	凹 石	19.0	15.0	7.7	2358.6	第1層	Q224 雲母石 P L 80
8	凹 石	13.9	(11.6)	3.5	854.7	第2層	Q225 麻青石
9	凹 石	10.8	(10.0)	4.7	683.5	第2層	Q226 麻青石
10	スタンプ彫石器	11.4	7.7	6.6	669.0	第6層	Q235 安山岩 P L 80
11	スタンプ彫石器	11.9	7.4	6.6	642.7	第5層	Q236 安山岩 P L 80
12	スタンプ彫石器	11.6	7.1	6.6	537.4	第5層	Q237 安山岩 P L 80
13	スタンプ彫石器	11.0	5.9	6.9	471.4	第5層	Q239 安山岩 P L 80
14	スタンプ彫石器	9.7	7.6	5.6	416.8	第4層	Q240 安山岩 P L 80
15	スタンプ彫石器	13.1	5.4	5.7	494.7	第4層	Q241 安山岩 P L 80
16	スタンプ彫石器	9.4	7.4	5.0	516.1	第3層	Q242 安山岩 P L 80
17	スタンプ彫石器	9.4	5.5	4.9	272.1	第5層	Q243 安山岩 P L 80
18	スタンプ彫石器	9.1	5.8	5.2	276.4	第4層	Q244 安山岩 P L 80
19	スタンプ彫石器	9.7	5.4	5.0	256.0	第5層	Q245 安山岩 P L 80
20	スタンプ彫石器	6.9	5.5	4.7	218.4	第3層	Q246 安山岩 P L 80
21	土 製 円 板	3.7	3.5	0.7	8.7	第4層	孔径 0.7mm DP42 100% P L 71
22	珠状片断	5.7	(4.0)	1.2	10.3	第2層	DP38 50% P L 71



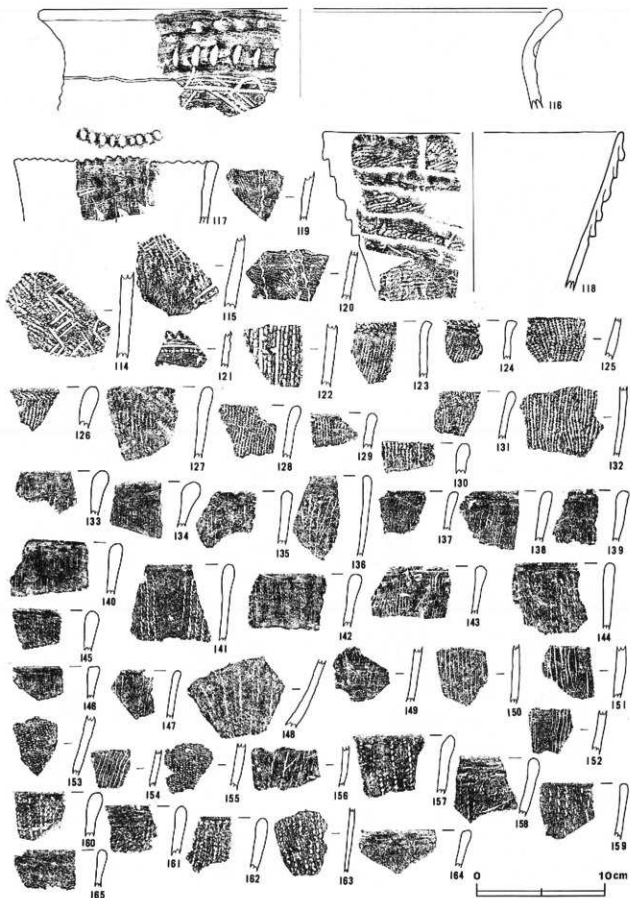
第9图 遗物包含層出土遺物実測図(1)



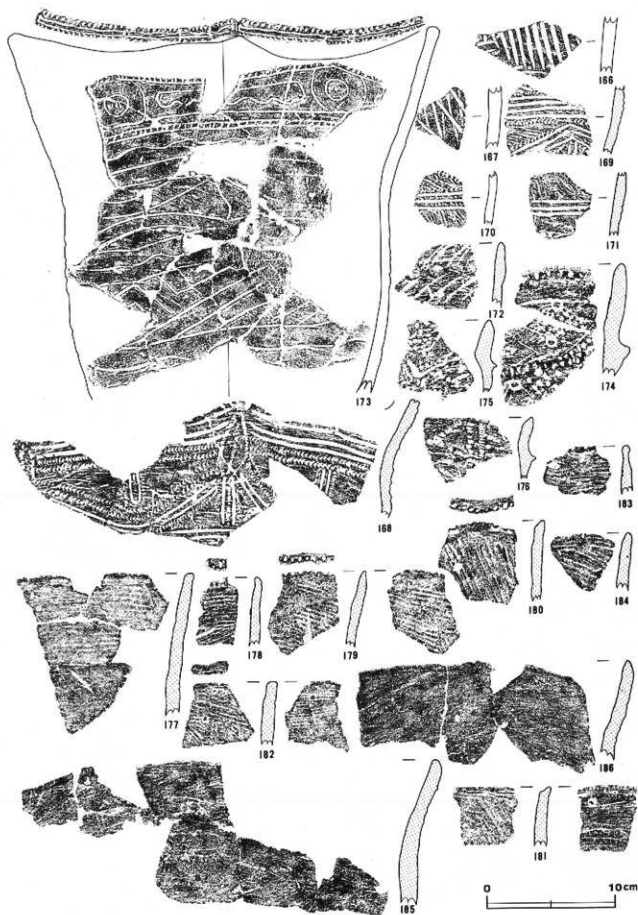
第10图 遗物包含層出土遺物実測図(2)



第11图 遗物包含層出土遺物実測图(3)



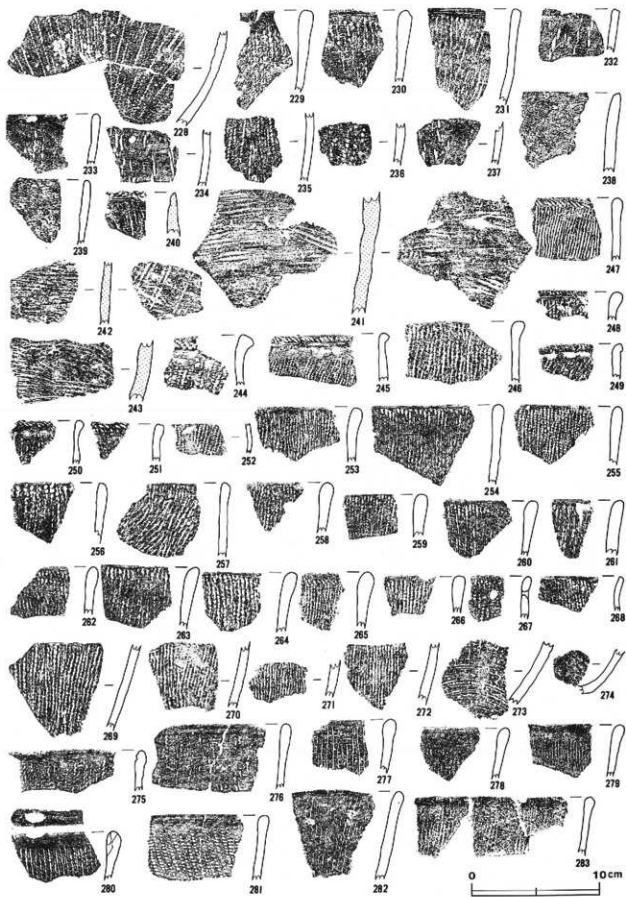
第12图 遗物包含层出土遗物实测图(4)



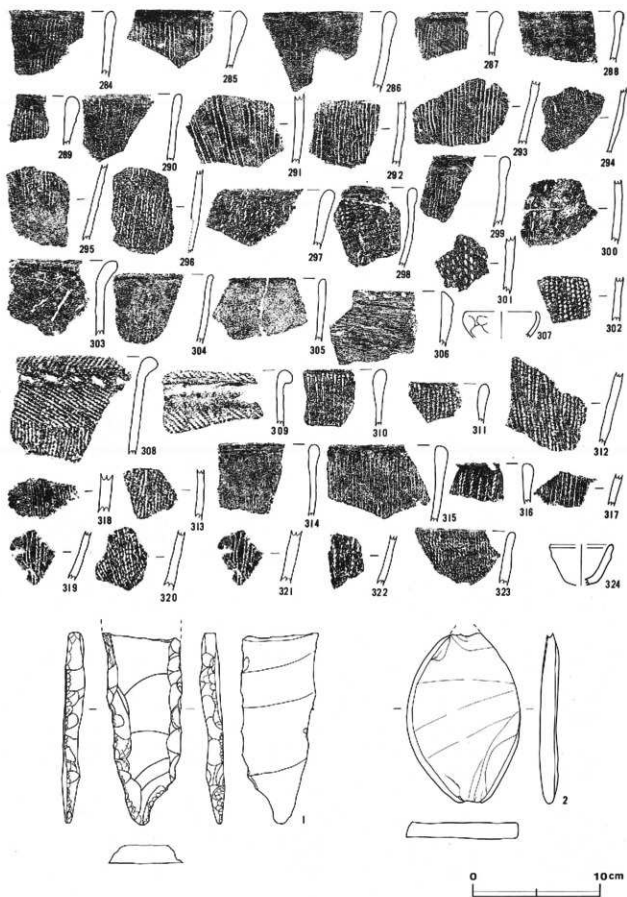
第13图 遗物包含層出土遺物実測図(5)



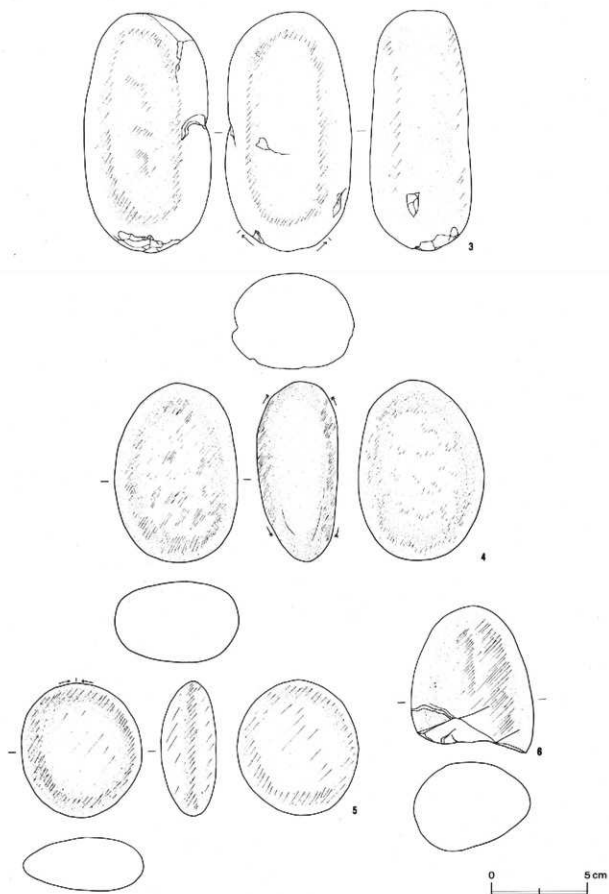
第14图 遺物包含層出土遺物実測図(6)



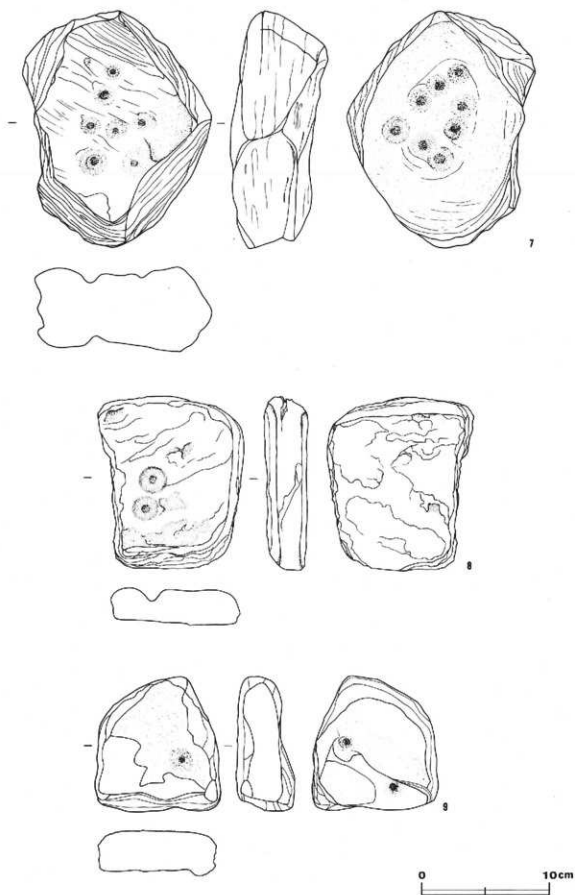
第15图 遺物包含層出土遺物実測図(7)



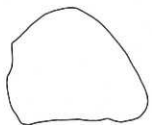
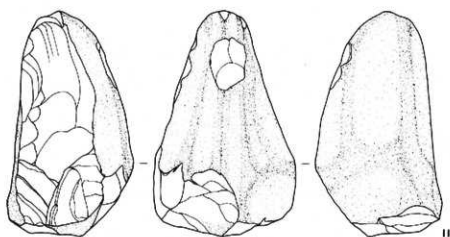
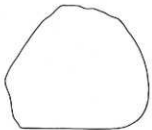
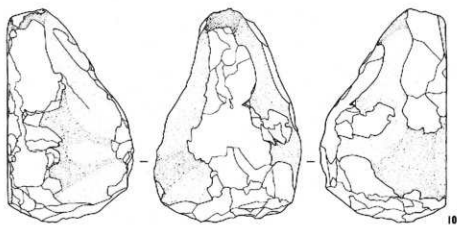
第16图 遺物包含層出土遺物実測図(8)



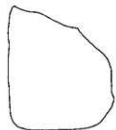
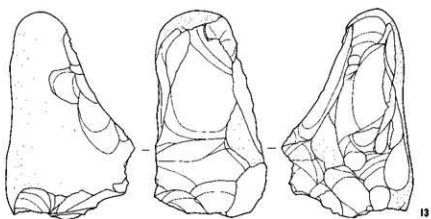
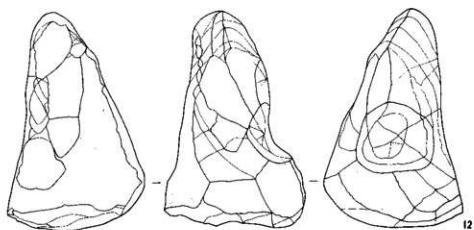
第17图 遗物包含层出土遗物实测图(9)



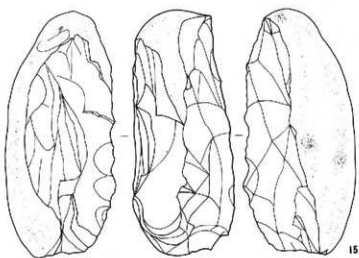
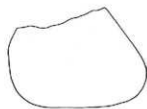
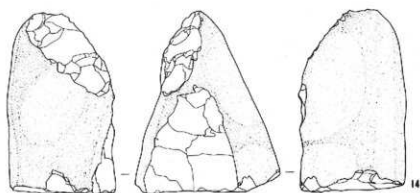
第18图 遗物包含層出土遺物実測図(10)



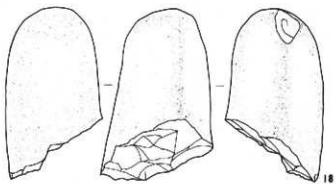
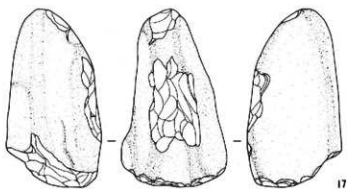
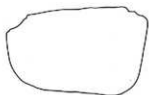
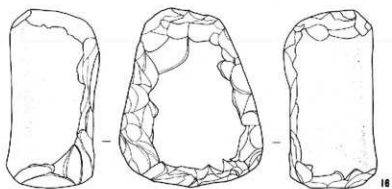
第19圖 遺物包含層出土遺物実測図(1)



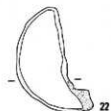
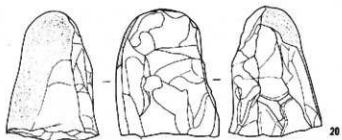
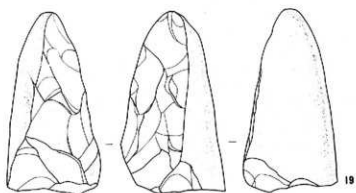
第20图 遺物包含層出土遺物実測図(12)



第21图 遺物包含層出土遺物実測図⑬



第22图 遺物包含層出土遺物実測図(4)



第23圖 遺物包含層出土遺物実測図(19)

遺構外出土遺物

第1群 縄文時代早期の土器 (第24図1~35)

第1類 燃糸文系土器 (第24図1~14)

1~4は縄文が密に施されているものである。いずれも口縁部片で、口唇部は肥厚し外反して立ち上がる。口唇部外面から頸部に縄文が施されるが、3の口縁部は無文である。胎土は長石・石英粒を僅かに含み、焼成は普通である。5~7は口縁部直下から比較的密に縄文が施される口縁部片である。口唇部は肥厚するが、著しい外反はみられない。7の胎土には特に長石粒が多く含まれている。焼成は普通である。8~12には細い燃糸文が比較的疎に施されている。8・9は口縁部片で、口縁部に無文帯をもち、頸部以下に燃糸文を縦走させている。8・9の焼成は良好である。13・14は太めの燃糸文が疎に施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第24図15)

15は口縁部片で、口唇部は僅かに肥厚し、ほぼ垂直に立ち上がる。頸部には指によると思われるナゲが施されている。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。第1群第1類土器に伴うものと考えられる。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第24図16~37)

16は口縁部片で口唇部には斜行するキザミ目をもち、沈線下に斜格子目文が施されている。17~19は胴部片である。17・18は沈線間に連続刺突文が17には1段、18には2段施されている。17の刺突には貝殻が用いられている。19には斜格子目文が施され、内面は平滑に整形されている。16~19の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は17が良好、その他は普通である。20~24は口縁部片である。20は外反気味に立ち上がり、口唇部及び外面には斜行する沈線文が施されている。20も21と同様の文様構成をとるが、沈線間に斜めの刺突文が施されている。20・21とも胎土に長石粒・スコリアを僅かに含み、焼成は良好である。22はほぼ垂直に立ち上がり、外面には横走及び斜行する沈線文が施されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は普通である。23・24は内削ぎ状の口唇部で、23の外面には擦痕が残る。24は口縁部直下から横位に太沈線が施されている。23・24とも、胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。25~33は胴部片である。25・26は沈線文による区画内に連続刺突文が施されている。いずれも胎土に長石粒・スコリアを僅かに含み、焼成は良好である。27・28は胎土及び文様構成から同一個体と思われる。横走する沈線間にヘラ状工具による刺突文が施されている。胎土は長石・砂粒を多く含み、焼成は不良である。29・30は27・28とは別個体ではあるが、同一の文様構成をとる。焼成は普通である。31は長さ3~4cm単位の太沈線が横位に、32は比較的細めの沈線が横位に、33は横位に細めの沈線、縦位に太沈線が施されている。31~33の胎土は長石粒・スコリアを含み、焼成は良好である。34は尖底部に近い破片で、太沈線が斜位に施されている。胎土及び焼成は31~33と同様である。35は斜行、横走する沈線間にキザミ目が施されている。36・37は尖底部片で、37は小形の土器と思われる。胎土は長石・石英粒を多く含み、焼成は普通である。

第2群 縄文時代前期の土器 (第24~27図38~148)

第1類 羽状縄文系土器 (第24~25図38~63)

本類は胎土に繊維を多く含んでいる。38~42は口縁部片である。38・39は、口縁部直下から単節縄文が球状に施されている。40は波状口縁で、口縁部に沿って横走する爪形文が3段施され、その下に細い単節縄文が斜行している。41・42は無文で、41の口唇部には小突起がみられる。43・44は胴部片で、43には太い縄文が、44にはループ文下に単節縄文がそれぞれ羽状に施されている。45~51の口縁部片には、隆帯やボタン状の突起が貼り付けられている。45・46は同一個体で口縁部直下に幅5~7mmの隆帯が丸く貼り付けられている。口唇部

及び隆帯上には同一工具によるキザミ目が施されている。47～50は内削ぎ状の口唇部で、口縁部にキザミ目をもつ。沈線で区画された頸部には方向の異なる斜行沈線とキザミ目により文様が構成されている。口縁部及び頸部にはボタン状の突起が貼り付けられている。49・50は同一個体で、内面は平滑に整形されている。51は波状口縁で、47～50とほぼ同様の文様構成がとられ、ボタン状の突起は口唇部にも貼り付けられている。52は45・46と同一個体である。53～62は単節縄文、あるいは組紐文を地文とする口縁部片である。53～57は組紐文による地文上に、他の文様を施されているものである。53は櫛歯状の工具による沈線で弧状文、鋸歯状文が施されている。54は口縁部直下にコンパス文が施され、その下に半截竹管による沈線文が斜行している。55は54と別個体であるが、同じ文様が施されている。57は口縁部に櫛歯状の工具による沈線文が斜位に施され、頸部以下に組紐文が施されている。59は波状口縁で、ヘラ状工具による幅広の沈線文が施されている。56は単節縄文が羽状に施されている。58・60～62は口縁部直下から組紐文が施されている。60・62の口唇部は内削ぎ状をしている。63は底部片で、底部外面及び胴部直下に貝殻背丘痕文が充填されている。

第2類 竹管文系土器 (第25図64)

64は口縁部片で、口唇部は内削ぎ状をしている。キザミ目が施された横走及び斜行沈線の間に単節縄文が充填されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第25～27図65～135)

65～67は波状口縁で、65は撚糸文を地文に弱い沈線文が、66は沈線文のみが施されている。67は口縁部に沿って斜位のキザミ目が施され、その下に半截竹管による沈線文が施されている。68は単口縁で沈線文が斜位に施されている。69～78は輪襷文をもつものである。69～72は輪襷文上に棒状工具による凹凸文が、73は指頭による凹凸文が施されている。69は口唇部に棒状工具の押圧によるキザミ目が、70は口縁部にヘラによるための沈線が縦位に施されている。74～77は輪襷文上に沈線文を施すものである。74・75は格子目状に、76・77は斜位に施されている。78は口縁部直下に隆帯が貼り付けられ、その下から斜行する沈線文が施されている。79～81は口唇部に棒状工具による押圧がなされている。79は口縁部直下から細く鋭い沈線が横位、斜位に施されている。80・81は波状口縁で、胴部は無文である。82・83は口縁部直下に、82は半截竹管による沈線文が、83は交互する単沈線が施されている。84～87は櫛歯状の工具による沈線文が施されている。84・85は口縁部に縦位のキザミ目が施されている。88～93は半截竹管による沈線文が施されている。92・93以外は口唇部にキザミ目をもつ。93は折り返し口縁上に半截竹管によるキザミ目が施されている。94～98は刺突文が施されるもので、94・95は波状口縁である。94は口縁部に沿って細かい刺突がなされ、以下半截竹管による連続刺突文が羽状に施されている。95は口唇部にキザミ目をもつ。96は口唇部に半截竹管の刺突によるキザミ目をもつ。外面は横走する単沈線に沿って刺突文が施されている。97の口縁部は断面三角形で、斜位のキザミ目をもつ。口縁部直下から連続刺突文が横位に施されている。98は口縁部に半截竹管によるキザミ目をもち、外面に同一の工具によって連続刺突文を施している。蛇行する口唇部は貼り付けられたものである。99～116は貝殻文が施されている。99～101は外削ぎ状の口唇部に斜位のキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が施されている。102は外反する口唇部にキザミ目をもち、外面は貝殻波状文を地文とし、横走する沈線文が施されている。103は口縁部に短いキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が密に施されている。104～107は口縁部に半截竹管によるキザミ目をもち、貝殻波状文が粗く施されているものである。108は口唇部に棒状工具の刺突によるキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が施されている。109は外反する幅広の口縁部に貝殻波状文が施されている。110は口縁部に隆帯をもち、その下から貝殻波状文が施されている。111・112は口唇部に棒状工具の押圧が加えられている。口縁部には半截竹管によるキザミ目をもち、その下に凹凸文と貝殻波状文が施されている。

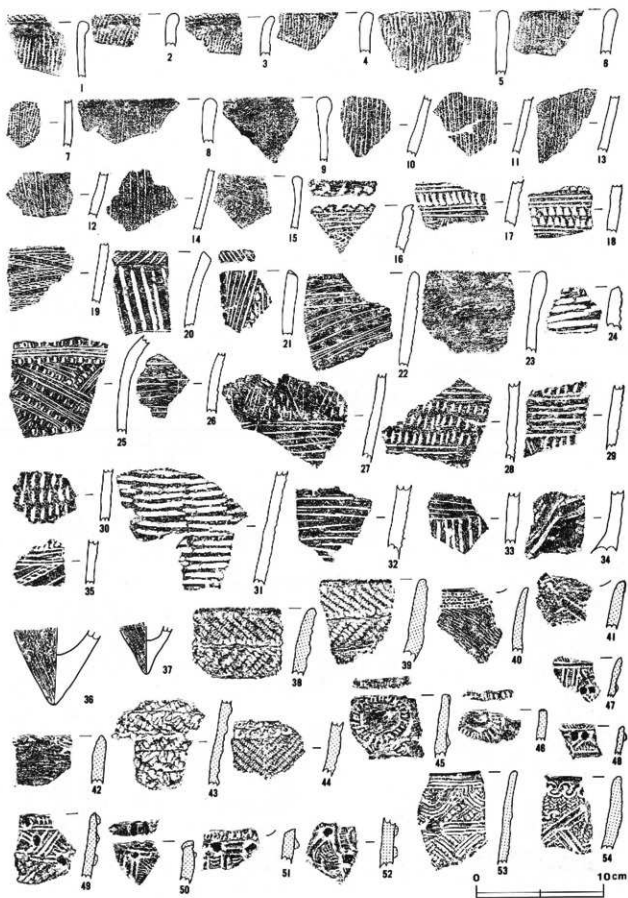
113は口縁部に軽いキザミ目もち、外面は充填された貝殻波状文上に平行沈線文が施されている。114は口縁部に細かいキザミ目もち、平行沈線で区画された文様帯に貝殻腹縁文が充填されている。115は口縁部直下から貝殻波状文が施されている。116の口縁部には半截竹管によるキザミ目が密に施され、その下には平行沈線文を挟んで2段の凹凸文が施されている。117～123は貝殻波状文が、124・125は貝殻波状文と沈線文が施されている。126は沈線文と変形爪形文が、127には三角文が、128には連続刺突文が施されている。129は貝殻腹縁文が密に施されている。130は貝殻腹縁文を地文とし、曲線的な沈線で区画されている。沈線外は磨り消しが施されている。131は底部片で、胴部最下位まで変形爪形文が施されている。132は縁孔土器である。口径は約8.3cmで口縁部下には径4mm程の孔が約2cm間隔に穿たれている。133～135は底部片である。133は130同様、貝殻腹縁文を地文とし、細く鋭い沈線文が曲線的に施されている。134は無文で、縦位の磨きが施されている。135には条線文が密に施されている。本類の胎土はスコリア・長石を含み、焼成は全体的に良好である。

第4類 縄文原体圧痕文及び結節文が施されている土器（第27図136～156・158）

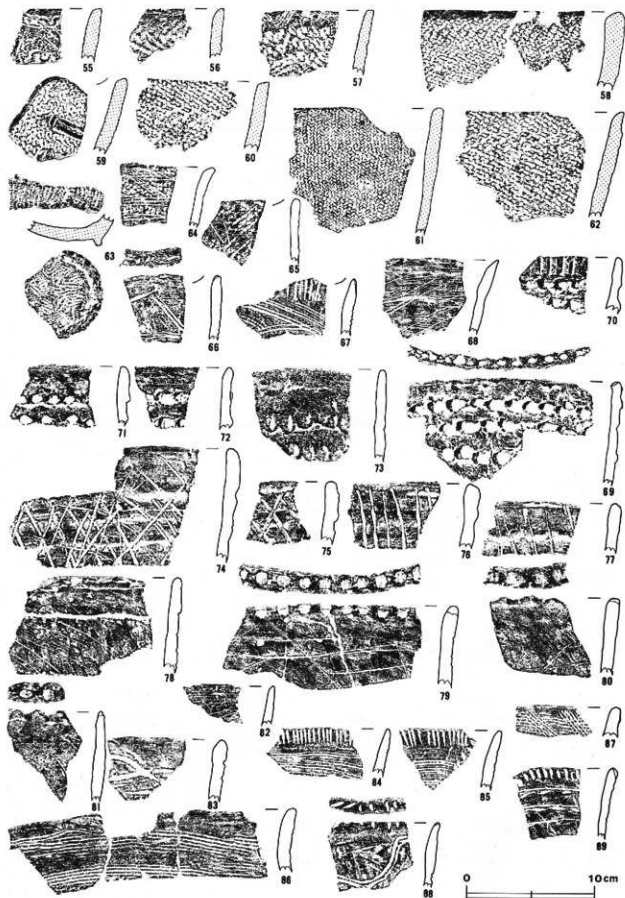
131～143は口唇部及び胴部外面に単節縄文が施されている口縁部片である。144～148は輪痕文もち、単節縄文が施されている口縁部片である。144・145には口唇部にも縄文が施されている。144には補修孔が穿たれている。149～152は口縁部に沿って縄文原体圧痕文が施されている。149は波状口縁である。150・151は同一個体で、口唇部には棒状工具によるキザミ目をもつ。152には口唇部にも単節縄文圧痕文が施されている。153～156は結節文が施されているものである。153は折り返し口縁下に2条の横走る結節文が施され、その下に細い単沈線による鋸歯状文が施されている。154も折り返し口縁で、口縁部に1条の結節文を横走させている。口唇部には縄文原体の押圧によるキザミ目が施されている。155は口縁部直下に1条の結節文が施されている。156は胴部片である。158は薄い隆帯を貼り付け、隆帯上に刺突文が施されている。158を除き、胎土は長石粒・砂粒を含み、焼成は良好である。158の胎土はバミス粒を含み、焼成は普通である。158は本来、本類に含まれるべきものではないが、在地の土器とは異なる縄文時代前期後葉のものと考え、ここに掲載した。

第3群土器 縄文時代中期初頭の土器（第27図157）

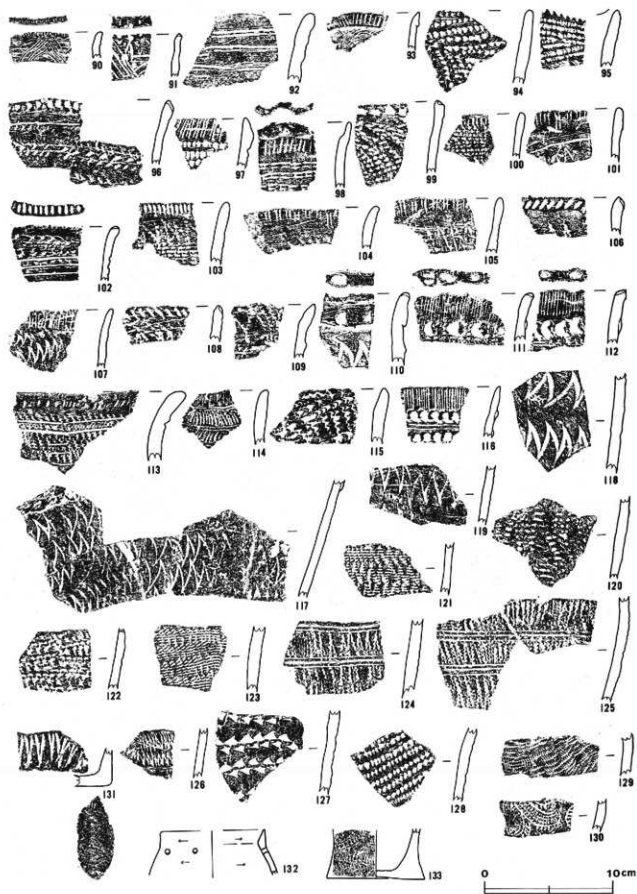
157は波状口縁部片である。口縁部には縦位のキザミ目をもつ。文様は交互刺突による鋸歯状文と連続刺突文によって構成され、頸部には細い隆帯が貼り付けられている。内面は平滑に整形されている。胎土は長石・石英粒及び霰片を含み、焼成は普通である。



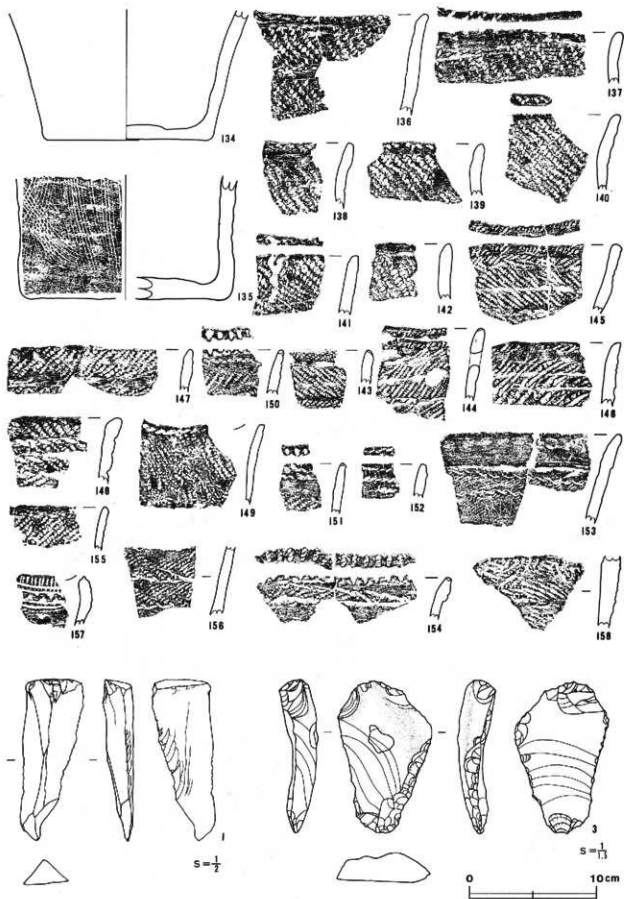
第24図 遺構外出土遺物実測図(1)



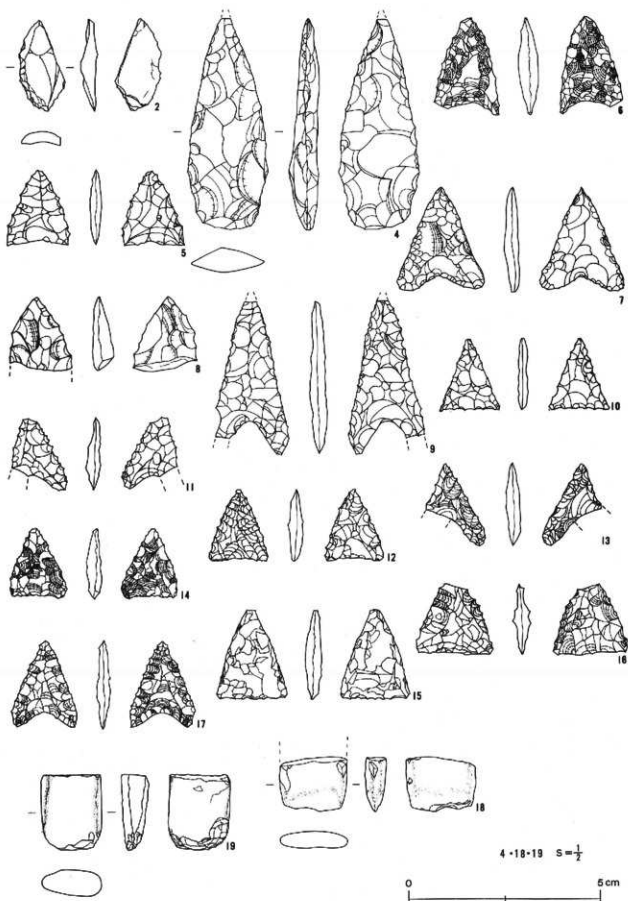
第25图 遺構外出土遺物実測図(2)



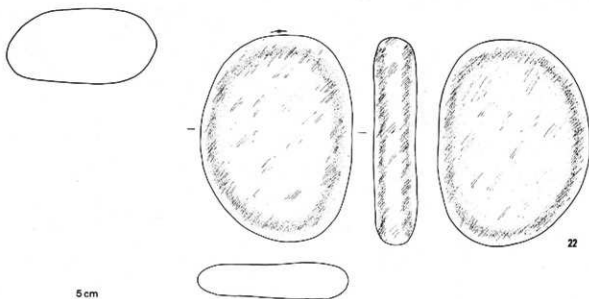
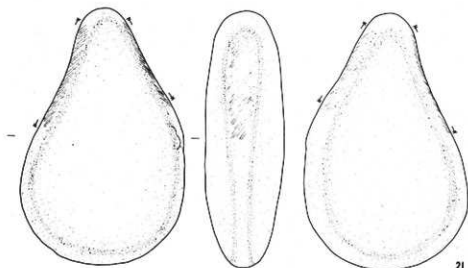
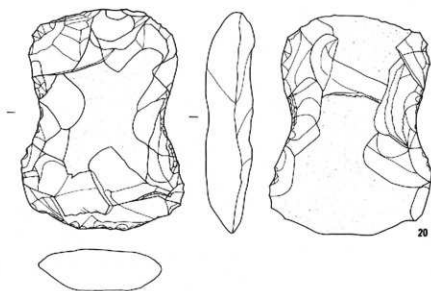
第26图 遺構外出土遺物実測図(3)



第27图 遗物外出土物实测图(4)

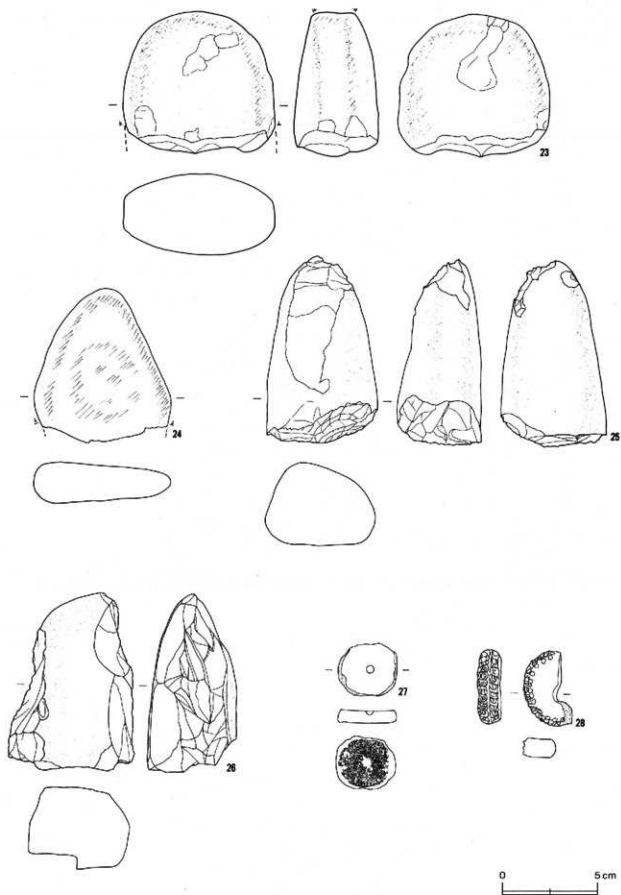


第28图 遼東外出土遺物実測図(5)



0 5 cm

第29図 遺構外出土遺物実測図(6)



第30圖 遺構外出土遺物実測図(7)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
附-3E1	銅片	8.3	3.3	1.6	32.5	E9区	Q202 安山岩 P L79
2	ナイフ形石炭	3.6	1.8	0.5	3.0	表探	Q204 100% 頁岩 P L79
3	ナイフ形石炭	6.1	3.7	1.4	24.1	E9区	Q201 100% 頁岩 P L79
4	灰皿器	(11.2)	4.2	1.7	55.8	SI-17覆土	Q212 95% 流紋岩 P L79
5	石鉄	2.0	1.6	0.3	0.8	確認面	Q183 100% チャート P L79
6	石鉄	2.6	1.7	0.5	1.5	表探	Q184 95% 黒曜石 P L79
7	石鉄	2.8	2.3	0.5	1.3	表探	Q185 100% チャート P L79
8	石鉄	(1.9)	1.7	0.5	1.3	D10区	Q189 50% チャート P L79
9	石鉄	4.1	2.0	0.5	2.3	表探	Q186 95% チャート P L79
10	石鉄	1.9	1.6	0.3	0.7	表探	Q187 100% チャート P L79
11	石鉄	1.9	1.5	0.4	0.6	E10区	Q188 90% 安山岩
12	石鉄	1.9	1.6	0.4	0.7	SI-1覆土	Q210 100% チャート P L80
13	石鉄	2.2	(1.6)	0.4	0.6	SI-4覆土	Q211 60% 黒曜石 P L80
14	石鉄	1.9	1.5	0.4	0.8	B10区	Q213 100% 黒曜石 P L80
15	石鉄	2.4	1.8	0.5	1.6	B0区	Q214 100% チャート
16	石鉄	(1.9)	2.0	0.4	1.3	C10区	Q215 90% チャート
17	石鉄	2.3	1.8	0.4	0.8	D10区	Q216 100% メノウ P L80
18	磨製石斧	(2.9)	(3.6)	(1.1)	15.1	D9区	Q200 安山岩 P L80
19	打製石斧	(4.0)	3.2	1.4	27.8	表探	Q208 ホルンフェルス P L80
20	打製石斧	11.7	8.4	2.2	316.2	表探	Q198 100% 安山岩 P L80
21	磨石	13.6	8.5	4.0	629.9	E9区	Q190 安山岩
22	磨石	10.9	7.9	2.4	291.1	D10区	Q191 安山岩
23	磨石	(7.7)	8.0	4.5	362.5	D10区	Q194 安山岩
24	磨石	(8.2)	7.2	2.1	181.2	B10区	Q195 安山岩
25	スタンプ形石炭	9.9	5.9	4.4	320.0	D10区	Q196 100% 安山岩 P L80
26	スタンプ形石炭	9.4	6.6	4.6	346.7	表探	Q218 100% 安山岩 P L80
27	土製円板	3.2	2.8	0.7	8.1	C10区	孔径 4.0mm DP41 100% P L71
28	块状耳飾り	4.0	(2.7)	1.1	21.3	表探	外面赤彩 DP37 50% 土製 P L71

2 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

当遺跡から確認された古墳時代の竪穴住居跡は69軒で、調査区中央部の平坦部に集中して確認されている。これら住居跡の中には、規模も大塚なものから小型なもの、さらには内部施設の有無等、様々な差異がみられ、必ずしもすべてが住居跡とはとらえにくく、居住以外の別の目的・用途をもった建物跡と考えられるものも含まれている。ここではそれらの建物跡も一括して竪穴住居跡として取り上げ、その特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

第1号住居跡（第31図）

位置 2区南西部、E8i区。

規模と平面形 長軸7.70m、短軸7.46mの方形である。

主軸方向 N-44°-W。

壁 壁高は14~32cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅11~24cm、下幅5~14cm、深さ5~10cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 8条（a~h）。北東壁側に3条（a~c）、南東壁側に1条（d）、南西壁側に2条（e・f）、北西壁側に2条（g・h）確認され、長さ1.04~1.70m、上幅15~28cm、下幅5~18cm、深さ6~14cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側から北西壁際にかけて、特に硬く踏み固められている。北側から南側にかけては緩やかに傾斜している。南東壁から中央寄りには、貯蔵穴を囲むように、幅26~72cm、高さ6cm程の鈎の子状の高まりがみられ、出入口施設と考えられる。

ピット 6か所（P₁~P₆）。P₁~P₄・P₆は、径50~56cm、深さ58~84cmである。P₁~P₄は主柱穴、P₆は位置的に主柱穴に関連するピットと考えられる。P₅は、径34cm、深さ20cmで性格は不明である。

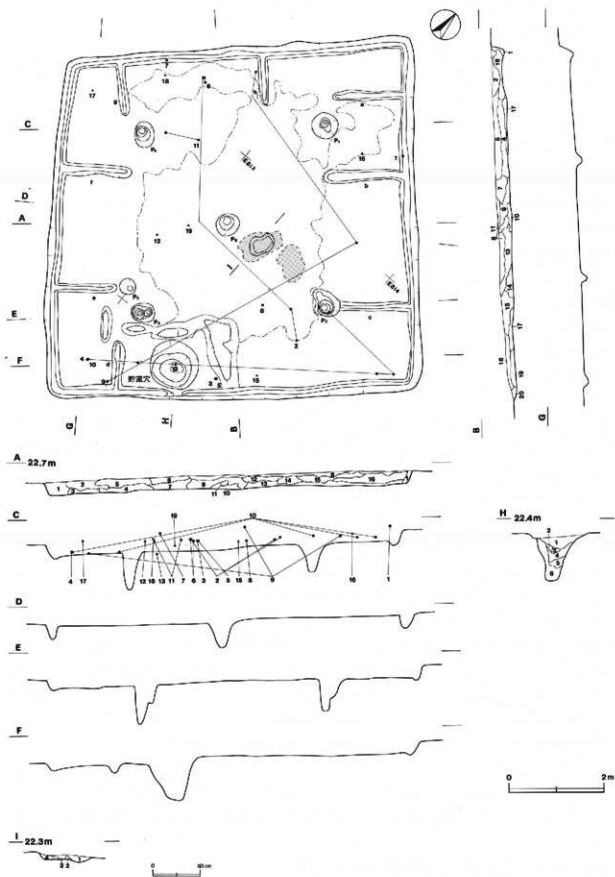
炉 ほぼ中央部にあり、長径58cm、短径42cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり、第1層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を少量含む褐色土、第3層は焼土大ブロックを多量含む赤褐色土、第4層は焼土粒子を微量と焼土小ブロックを少量含む明褐色土である。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁から中央寄りに付設されている。径1.02mの円形で、深さ86cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は6層ですべて褐色土である。第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量、第2層はローム粒子及び粘土粒子を少量、第3層はローム粒子を少量、第4層は焼土粒子及び炭化粒子を微量、第5層はローム粒子及び焼土粒子を微量、第6層はローム粒子を微量含んでいる。

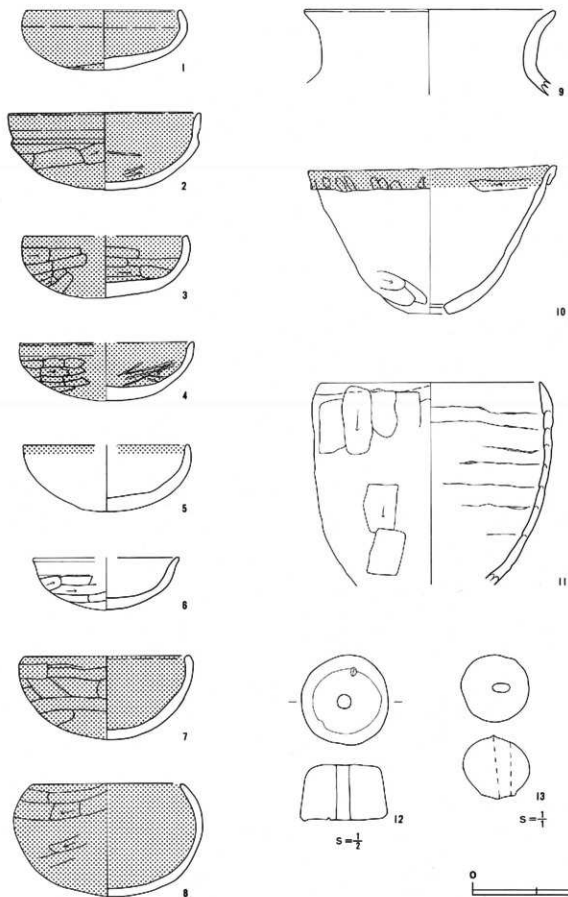
覆土 20層からなり、人為地積である。中央部付近（第10~15層）は、暗褐色土ブロックをまばらに含む褐色土で細かく埋め戻されている。

遺物 覆土上層から下層にかけて多量に出土している。第32図10の土師器甕は南東壁側の覆土下層から、15の磁石は、南東中央壁際の覆土下層から正位の状態で出土している。13の小玉は貯蔵穴覆土第1層から出土している。

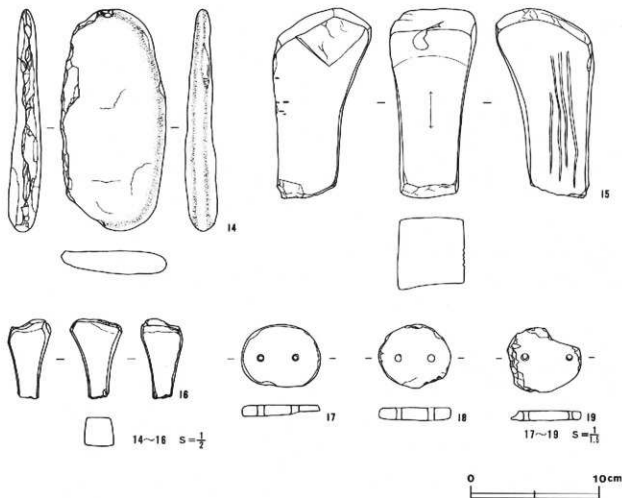
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第31图 第1号住居跡実測図



第32图 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32・33図 1	坏 土師器	A 12.3 B 4.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P1 PL40 95% 覆土上層
2	坏 土師器	A 15.4 B 6.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に轡をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 赤褐色 普通	P2 PL40 70% 覆土上層
3	坏 土師器	A [13.0] B 5.0	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 明赤褐色 普通	P3 60% 覆土上層
4	坏 土師器	A [13.6] B 4.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P4 60% 覆土下層
5	坏 土師器	A [13.2] B 5.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面赤彩。体部内・外面厚削。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P5 PL40 70% 覆土上層
6	坏 土師器	A [11.6] B 4.3	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P6 55% 覆土上層
7	埴 土師器	A 13.1 B 6.7	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P7 PL40 95% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・絵成	備考
8	埴土師器	A 11.6 B 8.8	丸底で、体部から口縁部は大きく内彎して立ち上がる。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へテ張り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P8 P.L40 95% 覆土中層
9	埴土師器	A 19.8 H (20.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P9 P.L40 30% 覆土中層
10	埴土師器	A 19.5 B 12.0 C 3.0	体部の一部欠損。無底式。体部から口縁部は外傾する。口唇部は外向きに折り返される。	口縁部外面に拍頭尻。内面横ナデ。体部外面へテ張り。内面ヘナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P10 P.L40 70% 覆土下層
11	埴土師器	A 17.2 B (16.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へテ張り。内面ヘナデ。	石英・砂粒 明赤褐色 普通	P11 P.L40 70% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	紡錘車	3.0	4.8	3.0	73.2	覆土上層	孔径 8.0mm DP1 100% 土製 P.L69
13	小石	1.8	1.8	1.8	4.4	貯蔵穴	孔径 4.5mm DP2 100% 土製 P.L68
14	不明な製品	11.8	5.5	1.6	152.8	床面	Q1 100% 肉内片石 P.L70
15	砥石	(10.1)	4.5	5.0	(274.2)	覆土中層	Q2 70% 砂岩 P.L70
16	砥石	(4.2)	2.7	2.1	(23.5)	覆土下層	Q3 50% 頁岩 P.L70
17	双孔円板	3.1	2.5	0.5	(5.0)	覆土上層	孔径 2.5mm Q4 95% 滑石 P.L70
18	双孔円板	2.9	2.6	0.5	(3.4)	覆土上層	孔径 2.5mm Q5 90% 滑石 P.L70
19	双孔円板	(2.9)	2.6	0.4	(4.7)	覆土	孔径 2.5mm Q6 70% 滑石 P.L70

第2号住居跡(第34図)

位置 2区南西部, E8h区。

規模と平面形 長軸2.28m, 短軸2.06mで台形状をしている。

長軸方向 N-40° E。

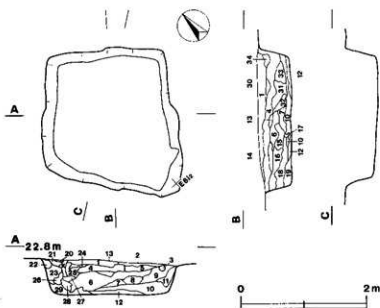
壁 壁高は46~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められた部分はみられない。北西部分は僅かに窪んでいる。

覆土 34層からなり、第1・2層を除き人為堆積である。北西壁際は、ローム粒子やロームブロック混じりの褐色上、明褐色土を主体に、特に細かく埋め戻されている。

遺物 覆土中から、土師器の坏・変片を中心に少量出土しているが、ほとんどが細片で接合されるものはない。

所見 出土した遺物は、本跡発掘後、間もなく埋め戻された土とともに投げ込まれたものである。小形の建物跡で、内部施設を何もたないことから住居跡とは考えにくい。本跡は、出土遺物から古墳時代中期の建物跡と考えられる。



第34図 第2号住居跡実測図

第3号住居跡 (第35図)

位置 2区南西部, E7f区。

重複関係 木跡の中央部は, 第7号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.70m, 短軸3.46mの長方形である。

主軸方向 (N-22°-W)。

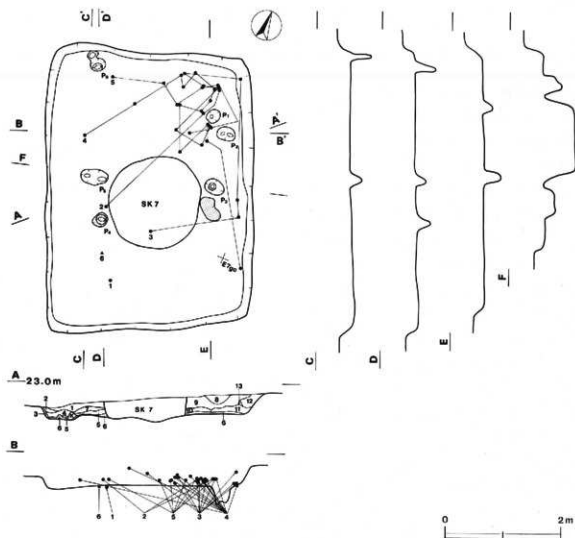
壁 壁高は16~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 全体的に踏み固められている。

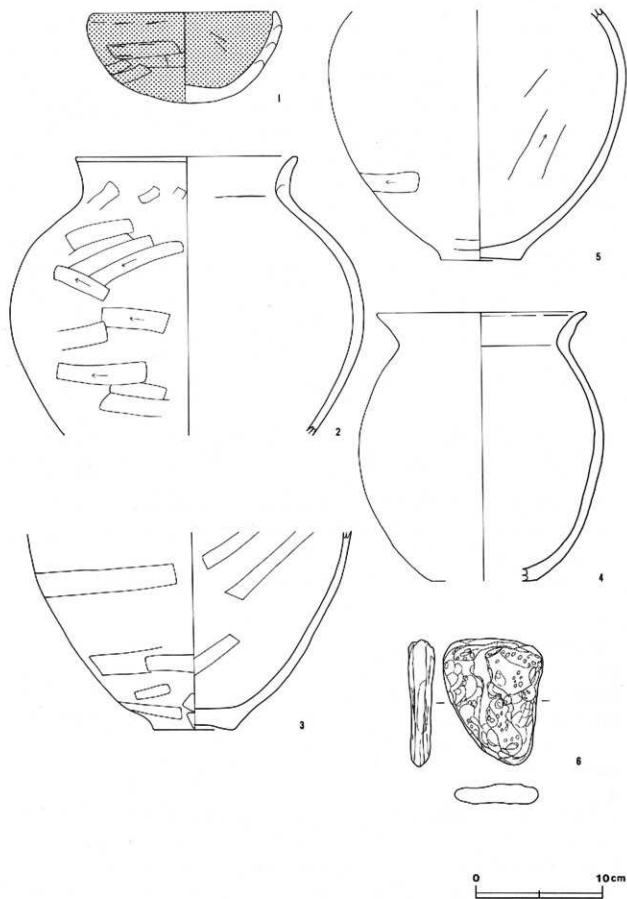
ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₃・P₄は, 径34cm~48cm, 深さ20~30cmで主柱穴と考えられる。その他のピットは, 径25~30cm, 深さ18~44cmで性格は不明である。

炉 中央から北東寄りにあり, 長径43cm, 短径20cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が亦変硬化している程度である。

覆土 13層からなり, 人為堆積である。覆土中央部は上層から第7号土坑に掘り込まれている。第1層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を多



第35図 第3号住居跡実測図



第36图 第3号住居跡出土遺物実測図

量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む黒褐色土、第5層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量含む黄褐色土、第7層はローム粒子を少量、ローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第10層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む黒褐色土、第12層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第13層はローム粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 北東コーナーの床面及び覆土下層を中心に多量の土師器片が出土している。第36図1の土師器片は、南コーナー床面から正位の状態、4の土師器片は北東コーナーの覆土中層から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	環 土師器	A 14.6	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P12 P.L40 100% 床面
		B 7.2				
2	寛 土師器	A 17.6	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へツ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 暗褐色 普通	P13 P.L41 30% 二次焼成 覆土中層
		B (22.4)				
3	狭 土師器	A (15.8)	底面から体部の破片。底面は突出し、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面へツ削り。	長石・砂粒 明褐色 普通	P14 P.L40 30% 覆土下層
		B 3.0				
4	狭 土師器	A 16.6	底面の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面割離。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P15 P.L40 70% 覆土中層
		B (21.5)				
		C 8.4				
5	寛 土師器	B (20.0)	底面から体部の破片。底面は突出する。体部は球形状で、最大径を上位にもつ。	体部内・外面へツ削り。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P16 P.L41 30% 覆土下層
		C 6.3				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	不明石製品	10.2	8.0	2.0	(203.1)	床面	Q8 重曹石 P.L70

第4号住居跡 (第37図)

位置 2区南西部、E7e区。

重複関係 本跡の北部は、第5号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.84m、短軸3.58mの方形で、南東部の東コーナー付近には、長軸1.40m、短軸1.02mの台形状の張り出し部が付設されている。

主軸方向 N-42°-W。

壁 壁高は14~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 全体的に凸凹である。南東壁から中央寄りには、長径1.16m、短径0.48mの楕円形状で、4~8cmの高まりがみられる。

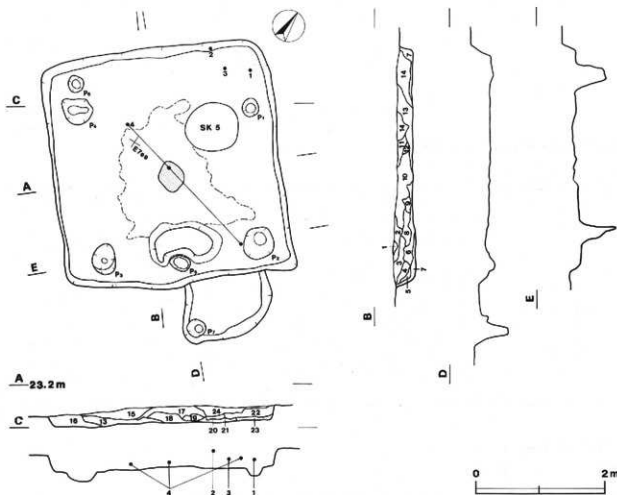
ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁~P₄は、径17~54cm、深さ14~54cmで主柱穴と考えられる。P₅は径22cm、深さ11cm、P₆は径30cm、深さ44cmで、それぞれ出入り口施設、張り出し部施設に伴うものと考えられる。P₇は径28cm、深さ12cmで、性格は不明である。

炉 ほぼ中央部にあり、径50cmの円形である。炉床は掘り窪められてはいないが、火熱を受けブロック状に赤変硬化している。

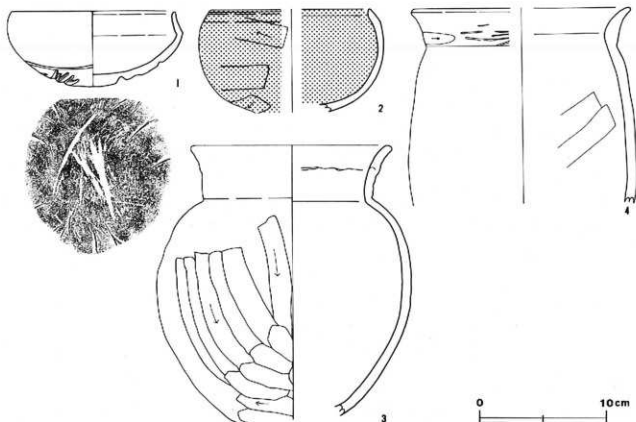
覆土 24層からなり、人為堆積である。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。

遺物 床面及び覆土中から、土師器の坏・埴・甕等の破片が多量に出土しているが、実測可能なものは第38図1～4の4点のみである。1～3は、いずれも東コーナー付近から出土している。1の土師器坏は覆土中層から正位の状態で、2の土師器埴は覆土上層から正位の状態で、3の土師器甕は覆土中層から斜位の状態で出土している。

所見 張り出し部底面までの深さは4cm程で、底面はほぼ平坦で踏み固められている。床面との比高は16cmで位置的に出入りに利用されていたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第37図 第4号住居跡実測図



第38図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	坏 土 師 割	A 13.0 B 6.1	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部は内傾し、口唇部は突る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P17 P L41 100% 砥石に転用 覆土中層
2	埴 土 師 割	A [12.4] B (8.3)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P18 P L41 50% 覆土上層
3	壺 土 師 割	A 15.2 B (21.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。頸部に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 にぶい褐色 普通	P19 P L41 90% 覆土中層
4	壺 土 師 割	A [17.1] B (15.8)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部外面へラ削り。内面横ナデ。体部内面へラナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 にぶい褐色 普通	P20 P L41 20% 覆土中層

第5号住居跡 (第39図)

位置 2区南西部, E7e区。

重複関係 本跡の南コーナーから南東壁の大半は、第1号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.00m, 短軸1.74mの長方形である。

長軸方向 (N-40°-W)。

壁 壁高は50~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。南西壁中央部は木根によって攪乱されている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

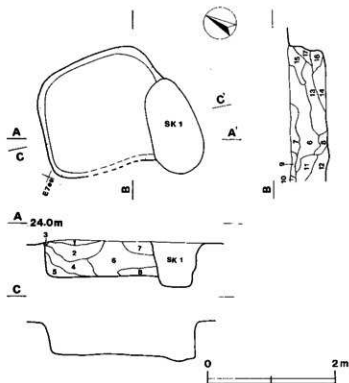
覆土 17層からなり、人為堆積である。中央部は暗褐色土、壁際は褐色土が堆積している。第1層はローム粒

子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を多量を含む黄褐色土、第4層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を少量含む褐色土、第10層はローム粒子を中量含むに多い黄褐色土、第11層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第12層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土、第13層

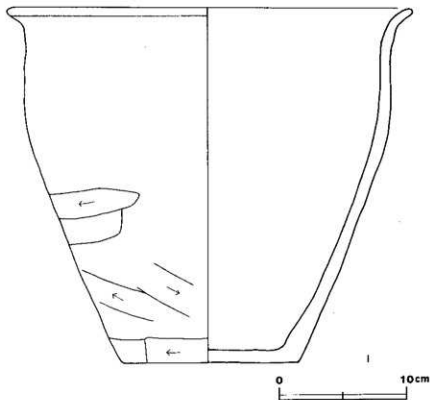
はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第14層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第15層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第16層はローム粒子を少量含む褐色土、第17層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 北東壁側の覆土を中心に土師器片が少量出土している。第40図1の土師器壺は東コーナー覆土上層からまとめて出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の規模及び内部施設をもたないことから、居住以外の目的をもった建物跡と考えられる。出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第39図 第5号住居跡実測図



第40図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	平伏の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40回 1	甕 上部器	A 27.2 B 30.0 C 13.6	体部の一部欠損。平底で、体部は外傾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外側横ナデ。体部外面へう削り。内面へくナデ。	灰石・砂粒 物所赤褐色 普通	P21 P.L.41 50% 覆土上層

第6号住居跡 (第41回)

位置 2区南西部, E8c区。

規模と平面形 長軸2.94m, 短軸2.40mの不定形である。

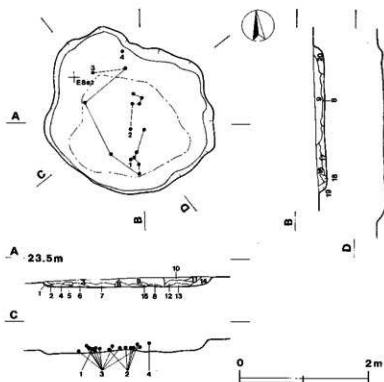
長軸方向 N-43°-W。

壁 壁高は6~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。東部から南東部にかけては、僅かに窪んでいる。

覆土 20層からなり、人為地積である。各層に破砕された土師器片が混入している。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第6層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第8層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第10層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第11層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む褐色土, 第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第14層はローム粒子を多量を含む明褐色土, 第15層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む明褐色土, 第16層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む明褐色土, 第17層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第18層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第19層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第20層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土である。

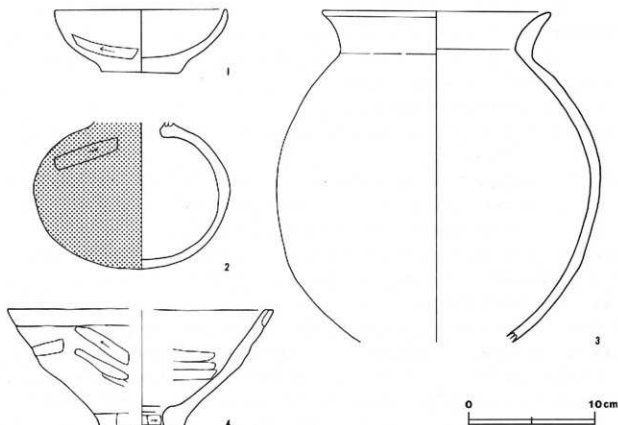
遺物 中央部覆土下層から床面にかけて、土師器の破片が多量に出土している。第42回図1の土師器片は、



第41回 第6号住居跡実測図

中央から南寄りの覆土最下層から正位の状態で、2の土師器壺は中央部覆土最下層から出土した細片が接合されたものである。3の土師器壺は中央から北西寄りの覆土下層から潰れた状態で出土している。

所見 出土した遺物は、意図的に破碎されたと思われる細片が多く、本跡発掘時に投棄されたものと考えられる。また、規模やプラン、内部施設をもたないことから、居住以外の目的をもった建物跡と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第42図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	環 土師器	A 13.6 B 5.1 C 6.2	底部は平底で、突出する。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 に多い褐色 普通	P22 P.L.41 100% 覆土下層
2	壺 土師器	B (11.8)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。体部外面赤彩。	長石・砂粒 に多い赤褐色 普通	P23 P.L.41 60% 覆土下層
3	壺 土師器	A 18.2 B (26.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 に多い赤褐色 普通	P24 P.L.41 60% 覆土下層
4	瓶 土師器	A (21.0) B (9.4) C [6.6]	底部から口縁部の破片。単孔式。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部は折り返される。	体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P25 P.L.42 45% 覆土上層

第7号住居跡（第43図）

位置 2区南西部，E8f区。

規模と平面形 長軸5.30m，短軸4.56mの長方形である。

主軸方向 N-43°-W。

壁 壁高は18～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北及び西コーナー付近と南東壁の南コーナー寄り以外の壁下から確認されている。上幅6～20cm，下幅4～10cm，深さ6～9cmで，断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 5条（a～e）。北東壁側に1条（a），南東壁側に1条（b），南西壁側に2条（c・d），北西壁側に1条（e）確認されている。長さ0.60～1.26m，上幅12～24cm，下幅4～12cm，深さ7～12cmで，断面形はU字状をしている。aは，P₁に連結されている。

床 ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁・P₂は，径24cm，深さ42～52cmで支柱穴，P₃は，径24cm，深さ8cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり，長径45cm，短径24cmの楕円形で，床面を6cm程掘り窪めている。覆土は，2層からなり，第1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含む褐色土，第2層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを中量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁中央の壁際に付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは42cmである。底面は皿状で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は1層で，焼土粒子と炭化物を多量に含んでいる。

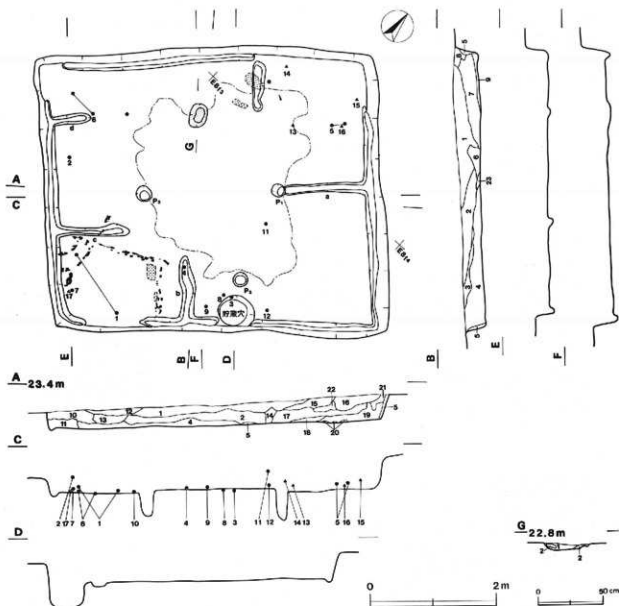
覆土 23層からなり，人為堆積である。ローム粒子及びローム小ブロックを含む褐色土を主体に，北東及び南西壁方向から，埋め戻されている。第4層中には，焼土ブロックや炭化材が含まれている。

遺物 覆土中層から床面にかけて多量に出土している。第44図3の土師器環は南東壁から中央寄りの床面に潰れた状態で，5の土師器環は北コーナー寄りの覆土下層から同じく潰れた状態で，9の土師器鉢は南東中央壁際の床面から，12の須恵器環は南東中央壁際の覆土下層から出土している。14と15の双孔円板は北コーナー覆土最下層から出土している。16の滑石は5の土師器環と同じ位置から，17の鎌は南コーナーの床面から出土している。

所見 覆土下層から焼土塊や炭化材が確認されている。特に南コーナーの床面には住居の建築材の一部と考えられる炭化材が良好に遺存している。本跡は，出土遺物から，焼失後，間もなく人為的に埋め戻された古墳時代中期後半の住居跡である。

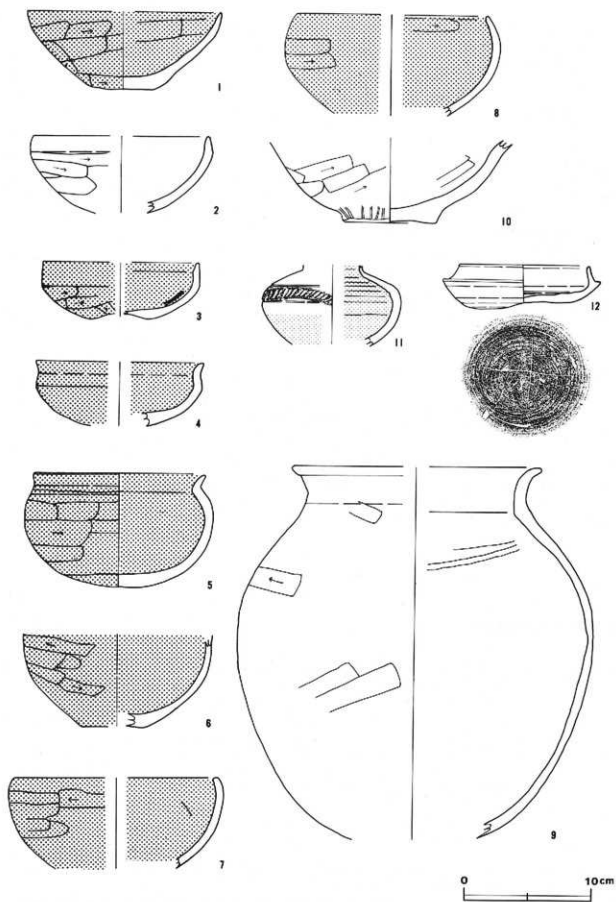
第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44-43図 1	坏土師器	A [15.2]	体部及び口縁部の一部欠損。平底で，体部は血脚的に立ち上がり，口縁部は低かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内西ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤色 普通	P26 P L41 75% 覆土下層
		B 6.3				
		C 5.0				
2	坏土師器	A [13.9] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内傾して立ち上がり，口縁部はほぼ垂直立す。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内西ナデ。	長石・砂粒 微色 普通	P27 P L41 40% 覆土上層
		A [12.6] B (4.5)				
3	坏土師器	A [12.6] B (4.5)	底部から口縁部の破片。上り底で，体部は内傾して立ち上がる。口縁部は直立し，内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ後，磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P28 40% 床面
		A [13.3] B (5.1)				
4	坏土師器	A [13.3] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内傾して立ち上がり，口縁部は外反し，体部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨耗。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P29 45% 床面
		A [13.3] B (5.1)				

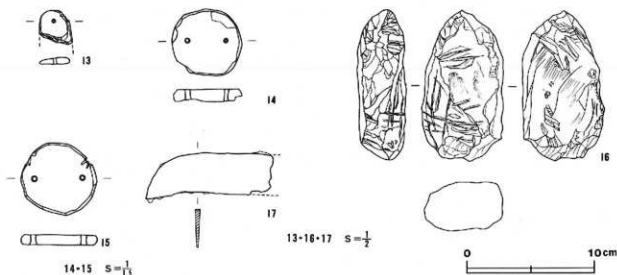


第43図 第7号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	埴土器	A 13.7 B 9.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナズ。体部外面へツ削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P30 P L42 90% 覆土下層
6	埴土器	B (7.4) C 4.4	平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へツ削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P31 30% 床面
7	埴土器	A [16.1] B (7.3)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎する。	口縁部内・外面横ナズ。体部外面へツ削り。内面ヘラナズ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P32 20% 覆土下層
8	埴土器	A [15.6] B (6.1)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎する。	口縁部内・外面横ナズ。体部外面へツ削り。内面ヘラナズ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P33 15% 床面
9	埴土器	A [19.4] B (29.8)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナズ。体部外面へツ削り。内面ヘラナズ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P34 P L42 40% 床面



第44图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第45図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
10	土削器	B (6.7) C 7.4	底部から体部の破片。底部は平底で、突出する。体部は内嚢気味に立ち上がる。	体部外向へラ削り。体部下端及び内面ヘナゲ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P35 15% 覆土下層
11	底須置器	B (4.0)	体部の破片。	体部内・外面横ナゲ。肩部に2条の沈線を通らし、間に磨削工具による刻突が施される。	長石・砂粒黒褐色良好	P36 P L41 15% 自然軸付着、覆土上層
12	杯形土器	A 10.2 B 3.5	丸底で、体部は内嚢気味に立ち上がる。受部は外上方にのび、端部はシャープである。口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナゲ。	長石・砂粒黒褐色普通	P37 P L41 95% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	不明石製品	(1.9)	1.7	0.4	1.4	覆土下層	孔径 2.0mm Q10 滑石 P L69
14	双孔円板	2.7	2.7	0.5	6.0	覆土下層	孔径 2.0mm Q11 100% 滑石 P L70
15	双孔円板	3.1	2.9	0.4	6.7	覆土下層	孔径 2.5mm Q12 100% 滑石 P L70
16	石核	12.1	6.4	4.0	454.5	覆土下層	Q13 滑石 P L70
17	鏃	(6.7)	2.4	0.3	(8.5)	床面	M2 鉄製 P L71

第8号住居跡 (第46図)

位置 2区南西部, E8c区。

重複関係 本跡の中央から西寄りの一部は、第39号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.88m, 短軸4.62mの長方形である。

主軸方向 N-46°-W。

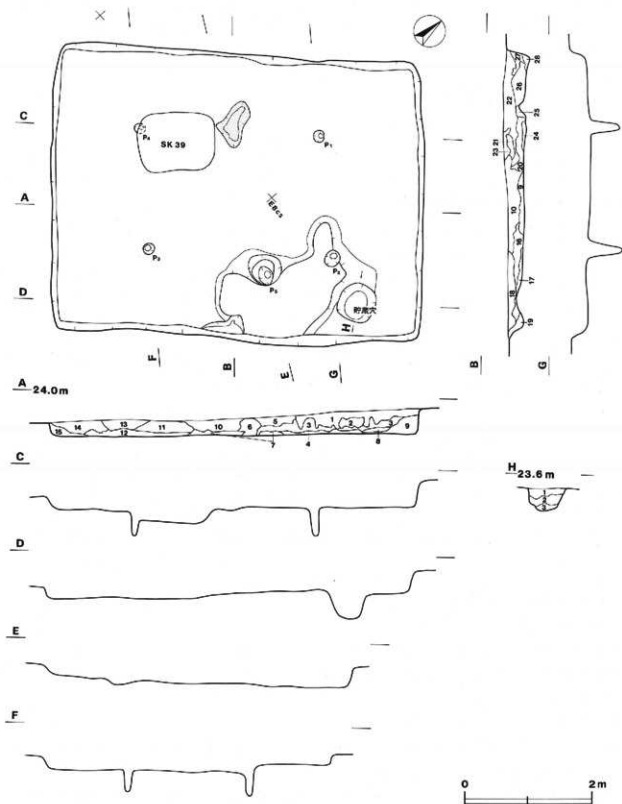
壁 壁高は18~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。北西壁下の一部は僅かに窪んでいる。南東壁から中央寄りには、高さ20cm程の不定形の高まりがみられる。

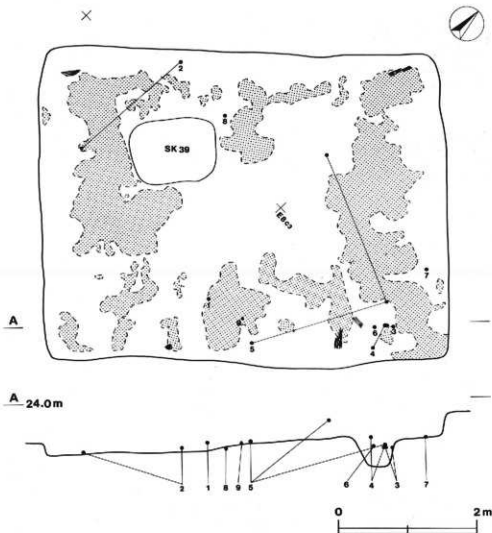
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径18~26cm, 深さ40~54cmで主柱穴, P₅は、径52cm, 深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長軸76cm、短軸34cmの不整形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を多量に含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径63cm、短径56cmの楕円形で、深さは46cmである。底面は皿状で、



第46図 第8号住居跡実測図



第47図 第8号住居跡出土遺物位置図

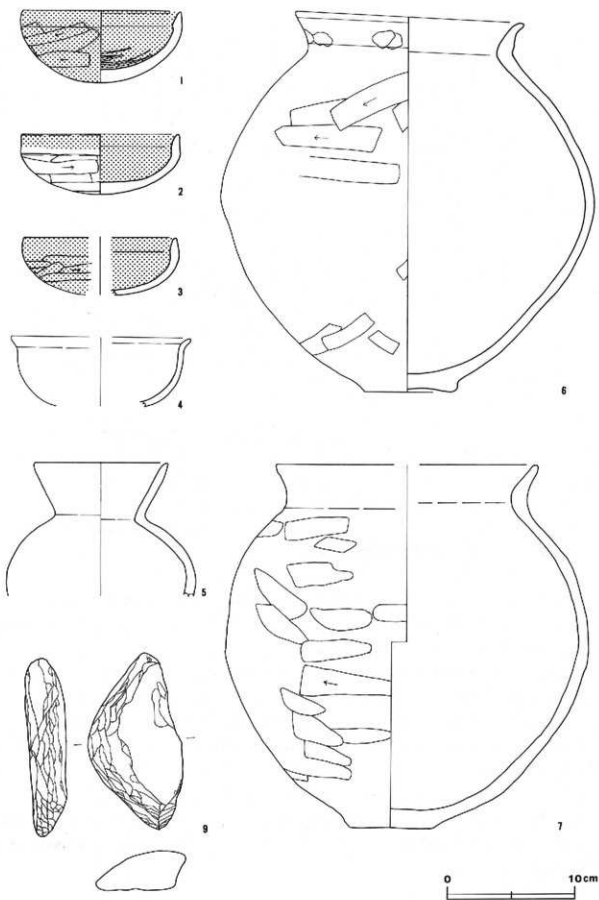
壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子及び粘土中ブロックを少量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

覆土 28層からなり、人為堆積である。下層には、焼土塊や炭化材が多量に含まれている。

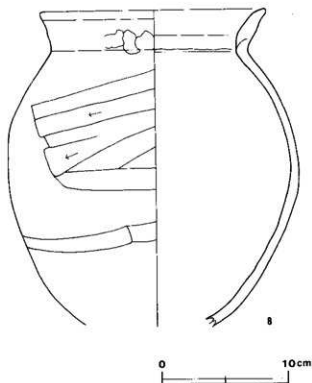
遺物 覆土下層から床面にかけての焼土及び炭化材に埋もれるように破砕された土師器片が多量に出土している。第48・49図1の土師器環は南東壁から中央寄りの床面から正位の状態、6と7の土師器壺は東コーナーの床面から、それぞれ斜位、横位の状態出土している。8の土師器壺は中央から北西寄りの床面に潰れた状態で出土している。

所見 壁際を中心に、床面から10cm程の厚さで、焼土及び炭化材が堆積しており、焼失住居と考えられる。

出入口施設と思われる不定形の高まりは、支柱穴であるP₂の位置まで広がりを見せており、当遺跡の住居跡内から確認された出入口付近の高まりとは異なるものである。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第48图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第49図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第48・49図 1	坏 土師器	A 12.6	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色、普通	P38 P L41 95% 床面
		B 5.9				
2	坏 土師器	A 12.6	口縁部の一形欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P39 P L41 90% 覆土下層
		B 4.9				
3	坏 土師器	A [12.0]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し、内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P40 30% 床面
		B (4.6)				
4	坏 土師器	A [12.1]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P41 P L42 25% 床面
		B (5.6)				
5	豆 土師器	A 10.4	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。口縁部内面及び体部外面ヘラナデ。	砂粒 赤色 普通	P42 P L42 45% 覆土下層
		B (10.6)				
6	埴 土師器	A 18.0	体部の一部欠損。底部は突出する。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。外面に指頭痕。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P43 P L42 90% 床面
		B 30.5				
		C 7.4				
7	甕 土師器	A [20.5]	口縁部の一部欠損。底部は突出する。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P44 P L42 80% 床面
		B 29.2				
C 6.6						
8	埴 土師器	A 18.0	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部にかけて外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外面に指頭痕。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P45 P L42 85% 床面
		B (25.6)				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
9	不明石製品	14.2	7.5	3.1	373.3	覆土 Q14 凝灰石 P L70

第9号住居跡 (第50図)

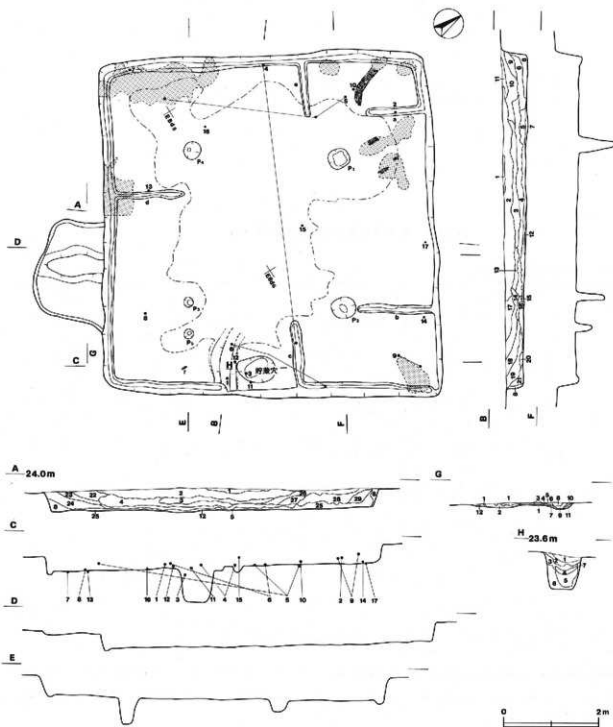
位置 2区南西部, E8c区。

規模と平面形 長軸7.28m, 短軸6.98m の方形で, 南西壁の南コーナー寄りには, 長軸(2.04)m, 短軸1.20m の台形状の張り出し部が付設されている。

主軸方向 N-60°-W。

壁 壁高は32~54cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北東壁下を除き全周している。上幅12~22cm, 下幅5~14cm, 深さ2~7cmで, 断面形は皿状をしている。



第50図 第9号住居跡実測図

間仕切り溝 5条(a~e)。北東壁側に2条(a・b)、南東壁側に1条(c)、南西壁側に1条(d)、北東壁側に1条(e)確認され、長さ1.18~1.48m、上幅13~24cm、下幅4~13cm、深さ3~12cmで、断面形状は逆台形状をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには幅約60cm、高さ7cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径22~50cm、深さ30~80cmで支柱穴と考えられる。P₅は、径22cm、深さ38cmで性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁中央の壁下に付設されている。長径82cm、短径56cmの楕円形で、深さは62cmである。底面はU字状で、壁は垂直に立ち上がっている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第2層は粘土粒子及び粘土小ブロックを多量に含むにぶい黄褐色土、第3層はローム粒子を少量と粘土粒子を微量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と粘土小ブロックを微量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量と粘土粒子を中量含む褐色土、第6層はローム粒子及び粘土粒子を少量含むにぶい黄褐色土、第7層はローム粒子を微量含む暗褐色土である。

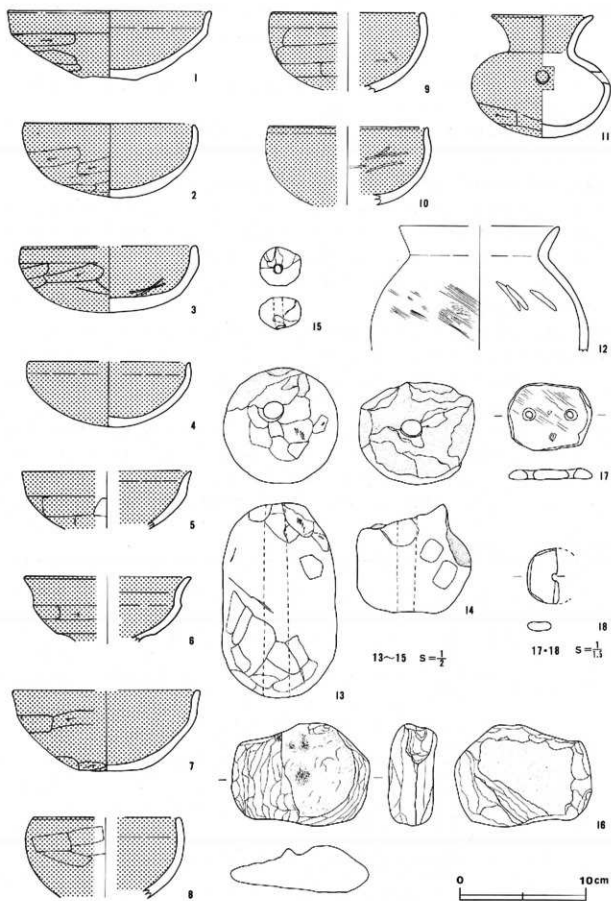
覆土 29層からなり、人為堆積と思われる。下層から床面にかけて多量の焼土及び炭化物がみられる。

遺物 壁際及び張り出し部を中心に、土師器片が少量出土している。第51区7の土師器環は西コーナーの床面から逆位の状態で、11の土師器冠は南東壁南コーナー寄りの壁際の床面から正位の状態で、13の管状土師は南西壁からやや中央寄りの床面に正位の状態で出土している。

所見 壁際の床面及び覆土下層には、焼土塊や炭化材がみられることから、焼失住居跡と考えられる。張り出し部は、底面までの深さが7cm程で、中央部は盛り上がり硬く踏み固められている。床面との比高は28cmで、性格は不明である。南東壁側にみられる馬の背状の高まりについては、本来は貯蔵穴を囲むように弧状に存在していたと考えられる。炬は確認されていない。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51区 1	土師器	A 16.2	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P46 P L43 80% 覆土下層
		B 5.6				
		C 4.4				
2	土師器	A [13.7]	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P47 P L42 80% 覆上下層
		B 6.0				
3	土師器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P48 P L42 55% 貯蔵穴覆土上層
		B 5.4				
4	土師器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P49 P L42 40% 床面
		B 5.2				
5	土師器	A [13.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は欠る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P50 20% 床面
		B (4.6)				
6	土師器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P51 15% 覆土
		B (5.2)				
7	土師器	A [14.7]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P53 P L42 70% 床面
		B 6.5				
8	土師器	A [11.3]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P52 10% 床面
		B (6.5)				



第51图 第9号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	埴土胎器	A 12.0 B (6.4)	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 暗赤褐色 普通	P54 P.L42 75% 覆土中層
10	埴土胎器	A [12.6] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P55 15% 覆土下層
11	埴土胎器	A 8.0 B 9.9	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、上位に円孔を穿つ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位ナデ。下位ヘラ削り。口縁・頸部及び体部外面赤彩。	灰石・砂粒 明赤褐色 普通	P56 P.L43 100% 床面
12	埴土胎器	A [12.7] B (10.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整。内面ヘラナデ。	灰石・砂粒 におい褐色 普通	P57 20% 外壁層付首 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	管状土鉢	10.3	6.3	-	324.6	床面 孔径 14.0mm DP3 85% 土製	P.L69
14	管状土鉢	(5.8)	5.4	-	125.4	覆土下層 孔径 11.0mm DP4 40% 土製	P.L69
15	球状土鉢	1.7	2.2	-	6.1	覆土下層 孔径 5.0mm DP5 95% 土製	P.L68
16	円石	8.2	11.0	3.8	416.3	床面 Q15 重晶石	
17	双孔円板	2.7	3.3	0.4	6.8	床面 孔径 5.0mm Q16 100% 滑石	P.L70
18	双孔円板	2.2	(1.3)	0.3	(1.6)	覆土 孔径 3.0mm Q17 50% 滑石	P.L70

第10号住居跡 (第52図)

位置 2区南西部, E8c1区。

規模と平面形 長軸3.96m, 短軸3.28mの長方形である。

主軸方向 (N-44°-W)。

壁 壁高は11~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、あまり踏み固められていない。

炉 中央から北西寄りにあり、長径38cm, 短径32cmの楕円形で、炉床はほとんど掘り深められておらず、床面が僅かに火熱を受け赤変している程度である。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土、第2層はローム粒子と焼土粒子を少量含む明褐色土である。

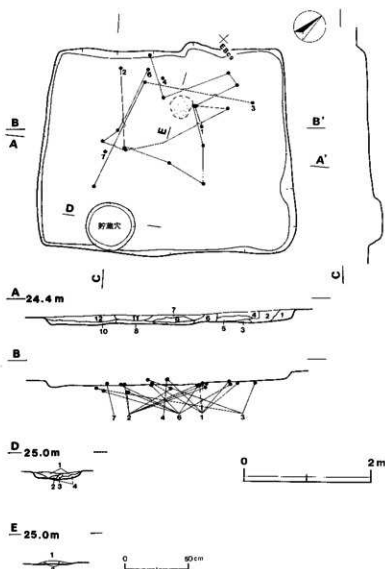
貯蔵穴 南コーナー寄りの南東壁際に設置されている。径76cmの円形で、深さは12cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量、第2層はローム粒子を微量、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。第4層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量に含む明褐色土である。

覆土 12層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を微量に含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第3層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第4層はローム粒子及び炭化粒子を極微量に含む暗褐色土、第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む暗褐色土、第8層はローム粒子及び炭化粒子を極微量に含む褐色土、第9層はローム粒子及びローム小ブロックを多量に含む褐色土、第10層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第

12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を極微量に含む褐色土である。

遺物 が周辺の覆土下層から土師器の甕・甌片が集中して出土している。第53図1～3の土師器甕は炉の西側床面から3個体まとまって正位の状態出土している。7の土師器甕は中央から南西寄りの覆土下層から、正位の状態出土している。

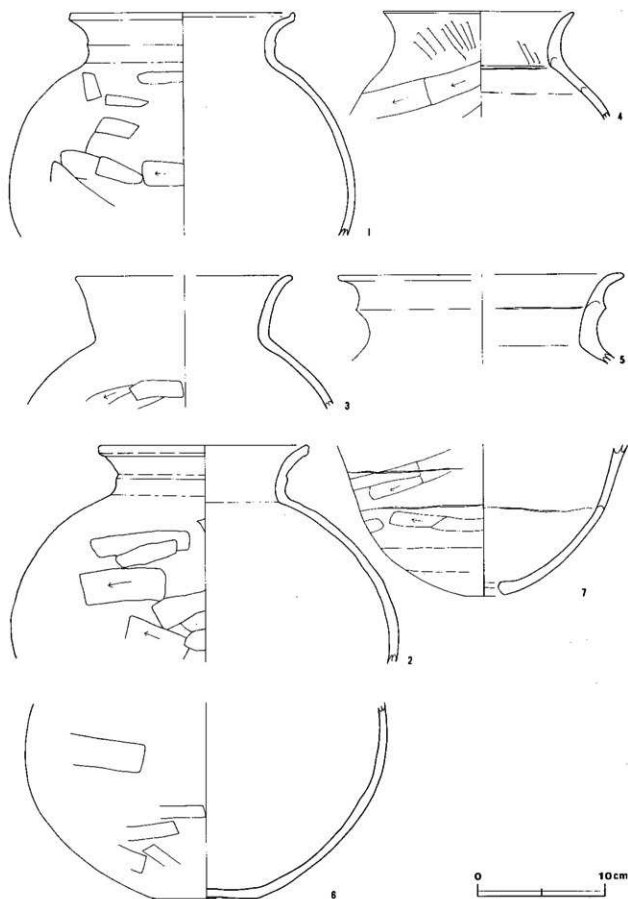
所見 本跡から出土した遺物は、覆土下層からのものがほとんどで床面出土のものはみられず、本跡廃絶後もなく投棄された遺物であること、また、器種の大半が甕・甌類でその他は僅かに5点の坏片しか出土していないことから、居住以外の目的で使用されていた建物跡と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第52図 第10号住居跡実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	甕	A 17.7	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。頸部に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にふい褐色 普通	P58 P.L43 50% 床面
	土師器	B 18.0				
2	甕	A 16.2	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P59 P.L43 45% 床面
	土師器	B (17.5)				
3	甕	A [16.8]	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P60 P.L43 40% 床面
	土師器	B (10.7)				
4	甕	A 15.2	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外向ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P61 P.L43 30% 覆土上層
	土師器	B (8.6)				
5	甕	A [22.6]	頸部から口縁部の破片。頸部から口唇部にかけて外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 褐色 普通	P62 P.L43 15% 覆土
	土師器	B (7.2)				



第53图 第10号住居跡出土遺物実測図

図説番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	甕 土師器	B 115.6 C 8.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内傾して立ち上がる。	体部外面へうけ削り。内面ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	P63 30% 灰面
7	甕 土師器	B (12.0) C 2.8	底部から体部の破片。半乳式。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面へうけ削り。内面ナデ。	灰石・砂粒 褐色 普通	P61 P.L13 50% 覆土下層

第11号住居跡 (第54図)

位置 2区南東部, E9d₁区。

規模と平面形 長軸6.08m, 短軸5.90mの方形である。

主軸方向 N-28°-W。

壁 壁高は14~58cmで, 北東・北西壁はほぼ垂直に, 南東・南西壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 北西・南西壁下から確認されている。上幅11~20cm, 下幅6~10cm, 深さ3~9cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 7条(a~g)。北東壁側に2条(a・b), 南東壁側に2条(c・d), 南西壁側に2条(e・f), 北西壁側に1条(g)確認され, 長さ0.80~1.28m, 上幅18~44cm, 下幅8~30cm, 深さ9~19cmで, 断面形はU字状をしている。b, e, fは, それぞれP₁~P₄に連結し, c, dは, 出入り口部の高まり及び貯蔵穴と, 他の部分を区画するように確認されている。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 壁と平行するように4cm前後の高まりがみられ, 間仕切り溝c, dと併せて出入り口施設に伴うものと考えられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径24~38cm, 深さ58~68cmで主柱穴, P₅は, 径26cm, 深さ32cmで, 出入り口施設に伴うピットである。P₆は, 径24cm, 深さ45cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径58cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り深めている。覆土は3層からなり, 第1層は焼土粒子を少量含む褐色土, 第2層は焼土粒子を中量と焼土ブロックを少量含む濃い赤褐色土, 第3層は焼土粒子を少量含む暗褐色土である。炉床は, 火熱をうけ赤変硬化している。

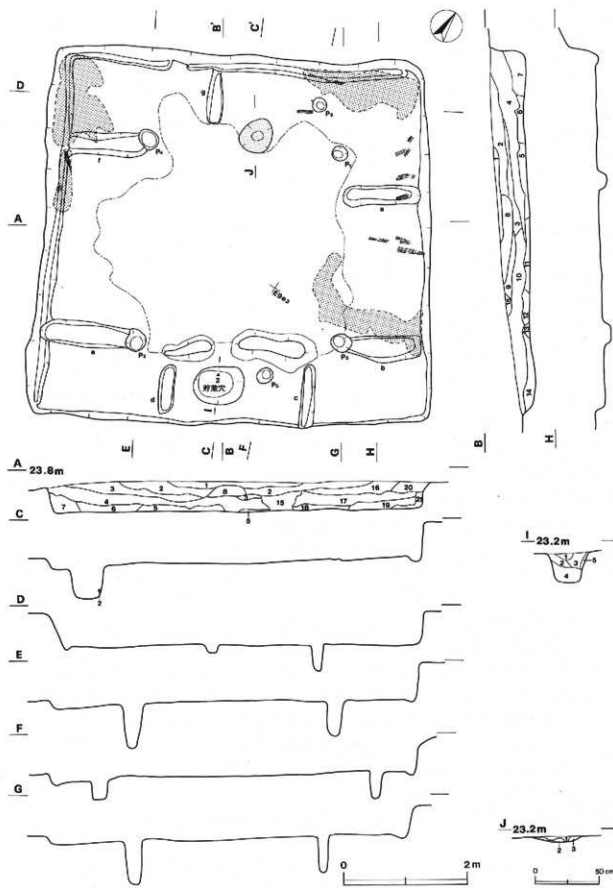
貯蔵穴 南東壁中央の隙間に付設されている。長径80cm, 短径60cmの楕円形で, 深さは52cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり, 第1~4層は褐色土で, 第1層にはローム粒子を少量と炭化粒子を微量, 第2層には炭化粒子及び炭化物を微量, 第3層には炭化粒子及び焼土粒子を微量, 第4層にはローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量に含んでいる。第5層は明褐色土でローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含んでいる。

覆土 21層からなり, 人為堆積である。北東壁際の床面付近を中心に, 炭化材及び焼土が確認されている。下層(5~7, 12, 13)は, 炭化物, 焼土粒子等を含む褐色土及び暗褐色土で, 中層から上層にかけては, ローム粒子, ローム小ブロック等を含む褐色土及び暗褐色土で, 北西壁方向から埋戻されている。

遺物 主に, 第3~6層及び床面にかけて, 土師器の坏, 埴等の破片が少量出土している。第55図1の土師器壺片は貯蔵穴覆土第2層から, 2の紡錘車は, 同じく貯蔵穴第4層から斜位の状態出土している。

所見 本跡は, 床面及び覆土下層から, 炭化材及び焼土塊が確認されていることから焼失住居と考えられる。

本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第34图 第11号住居跡実測图

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	土師器	A [9.2] B (4.7)	頸部から口縁部の破片。頸部は外傾し、口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び腹部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P65 10% 貯蔵穴裡土第2層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	紡錘車	(3.9)	(2.0)	1.3	(10.1)	貯蔵穴 孔徑 [6.0]mm Q18 50%	滑石 PL69

第12号住居跡 (第56図)

位置 2区中央部, E9b1区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.48mの方形である。

主軸方向 N-33°-W。

壁 壁高は34~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北西壁下から南西壁下にかけてと北東壁下の一部から確認されている。上幅6~18cm, 下幅3~15cm, 深さ4~7cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 8条(a~h)。北東壁際に4条(a~d), 南

西壁際に1条(e), 北西壁際に3条(f~h)確認され、上幅10~25cm, 下幅3~18cm, 深さ5~10cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、P₁~P₄の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには貯蔵穴を囲むように、長さ1.76m, 幅26~34cm, 高さ3cmの上手状の高まりがみられる。

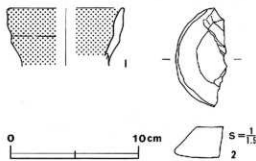
ピット 4か所(P₁~P₄)。径24~40cm, 深さ60~78cmで主柱穴と考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径66cm, 短径46cmの楕円形で、床面を6cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり、第1層は焼土粒子を中量含む赤褐色土である。第2層から第5層暗赤褐色土で、第2層は焼土粒子を多量、第3層は焼土粒子を中量、第4層は焼土粒子を少量、第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含んでいる。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

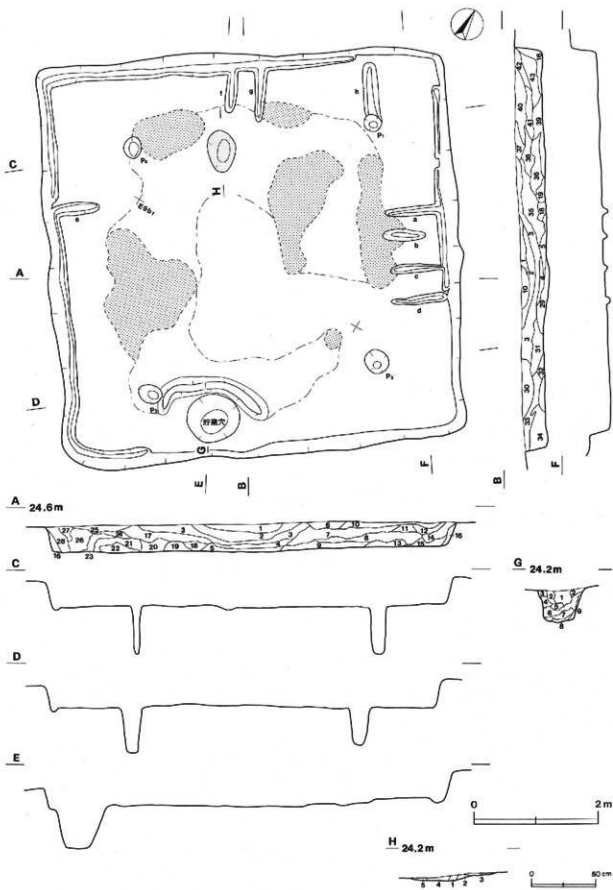
貯蔵穴 南コーナー寄りの南西壁際に付設されている。径84cmの円形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は9層からなり、各層から焼土粒子及び炭化粒子が多量に確認されている。第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子を少量と炭化物を微量に含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化物を中量含む褐色土、第4層はローム粒子中量含む褐色土、第5層は焼土小ブロックを中量と炭化物を少量含むにふい赤褐色土、第6層は焼土小ブロック及び炭化物を少量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を中量と炭化物を微量に含む褐色土、第8層はローム粒子及び炭化物を中量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を中量、炭化物を微量に含む黄褐色土である。

覆土 43層からなり、壁際からローム粒子及びローム小ブロック混じりの褐色土、暗褐色土で人為的に埋め戻されている。覆土中央部(第1~4層)については、自然に堆積したものと考えられる。床面近くの下層には、焼土塊や炭化材が多量に含まれている。

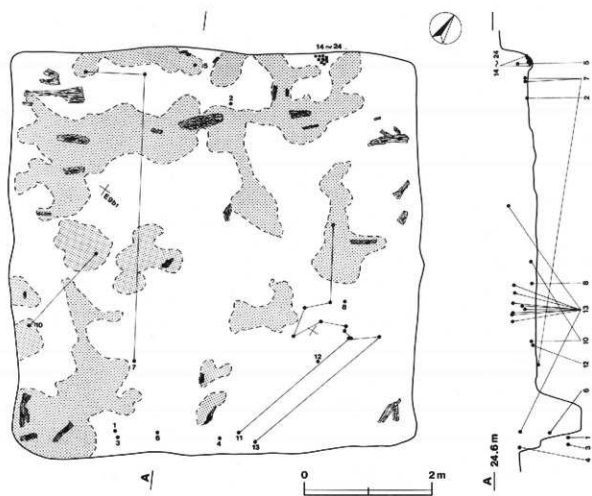
遺物 覆土上層から自然に流れ込んだと思われる土師器片が多量に出土している。第58図I2の土師器趾は東



第55図 第11号住居跡出土遺物実測図



第56図 第12号住居跡実測図



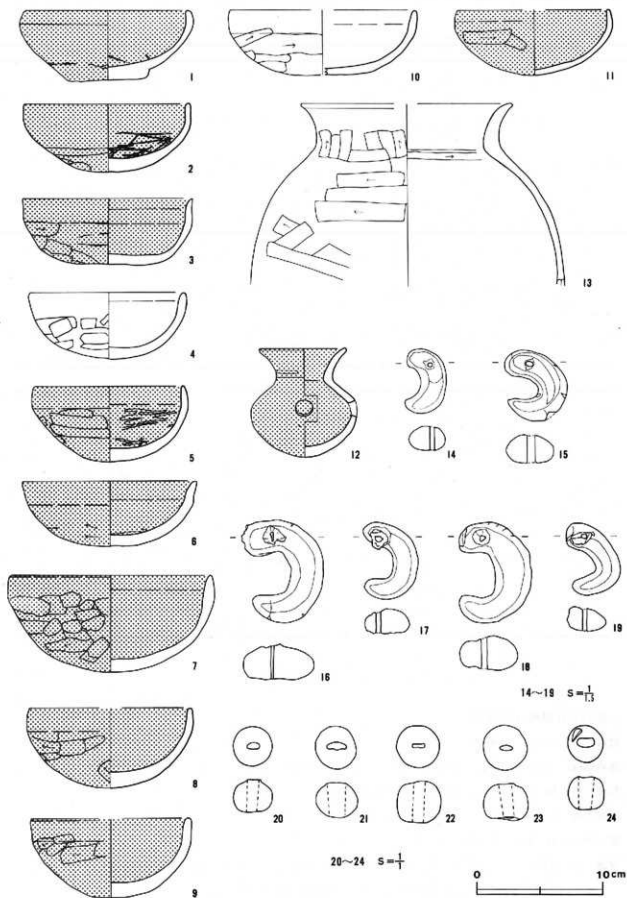
第57図 第12号住居跡出土遺物位置図

コーナー覆土下層から正位の状態で出土している。14~24の土製勾玉と小玉は北コーナーの床面からまよまって出土している。

所見 床面及び覆土下層から焼土塊及び炭化材が多量に確認されていることから、焼失住居と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	土師器 環	A 12.9	底面は突出する。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒に多い黄褐色	P66 P.L43 100% 床面
		B 5.7				
		C 6.4				
2	土師器 環	A 13.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P67 P.L43 95% 床面
		B 5.5				
3	土師器 環	A 13.6	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は肥厚して直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P68 P.L44 95% 床面
		B 5.3				
		C 7.7				
4	土師器 環	A 12.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒に多い褐色 普通	P69 P.L44 96% 覆土上層
		B 5.3				
5	土師器 環	A 11.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P70 P.L44 85% 覆土中層
		B 6.1				



第58图 第12号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A 13.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外直する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P71 P L 44 80% 野成穴覆土上層
		B 5.2				
7	坏土師器	A 15.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は肥厚し直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 72 P L 43 75% 覆土下層
		B 7.7				
8	坏土師器	A [12.8]	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P73 P L 45 65% 普通下層
		B 6.4				
9	坏土師器	A [12.4]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P74 P L 45 60% 覆土上層
		B 6.3				
10	坏土師器	A [14.8]	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 に白い橙色 普通	P75 P L 43 50% 覆土下層
		B 5.3				
		C [7.4]				
11	坏土師器	A [12.0]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P76 45% 覆土上層
		B 5.3				
12	瓦土師器	A 6.9	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、中心に円孔を穿つ。口縁部は反折する。	口縁部内・外面横ナデ。腹部外面一部へラ削り。体部外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 に白い赤褐色 普通	P78 P L 44 100% 覆土上層
		B 8.8				
13	瓦土師器	A [17.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は反折する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び頸部内面ト位へラ削り。体部内面へラナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P77 P L 44 30% 覆土上層
		B (14.0)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	勾玉	1.8	1.1	0.7	1.0	床面 孔径 1.0mm D P6 100% 土製	P L 69
15	勾玉	1.9	1.6	0.8	1.7	床面 孔径 2.0mm D P7 95% 土製	P L 69
16	勾玉	2.8	2.1	0.9	3.6	床面 孔径 2.0mm D P8 100% 土製	P L 69
17	勾玉	2.0	1.4	0.7	1.4	床面 孔径 2.0mm D P9 100% 土製	P L 69
18	勾玉	2.7	1.9	1.0	3.6	床面 孔径 2.0mm D P10 100% 土製	P L 69
19	勾玉	1.9	1.4	0.7	1.1	床面 孔径 1.0mm D P11 100% 土製	P L 69
20	小玉	0.9	1.1	0.9	0.9	床面 孔径 3.0mm D P14 100% 土製	P L 68
21	小玉	1.0	1.2	1.0	0.9	床面 孔径 5.0mm D P15 100% 土製	P L 68
22	小玉	1.1	1.2	1.1	1.4	床面 孔径 3.0mm D P16 100% 土製	P L 68
23	小玉	1.0	1.2	1.0	1.1	床面 孔径 3.5mm D P17 100% 土製	P L 68
24	小玉	0.9	1.0	0.9	0.7	床面 孔径 4.5mm D P18 100% 土製	P L 68

第13号住居跡 (第59図)

位置 2区中央部、D9h₁区。

重複関係 本跡の北東部の一部は第8号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.82m、短軸6.70mの方形である。

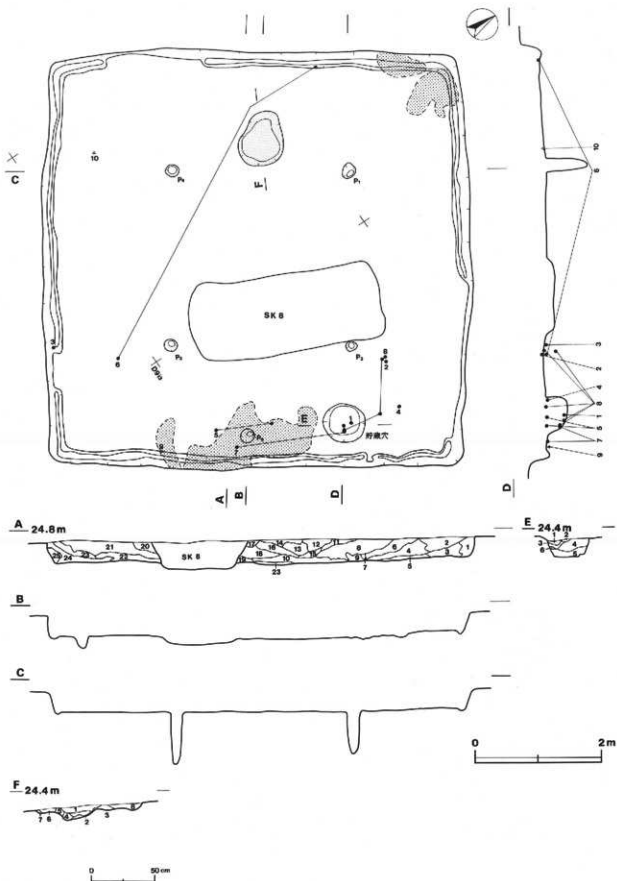
主軸方向 N-53'-W。

壁 壁高は34~44cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 ほぼ全周している。東コーナー寄りの北東壁下及び西コーナー寄りの北西壁下からは確認されていない。

土幅 7~18cm、下幅 6~13cm、深さ 3~7cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

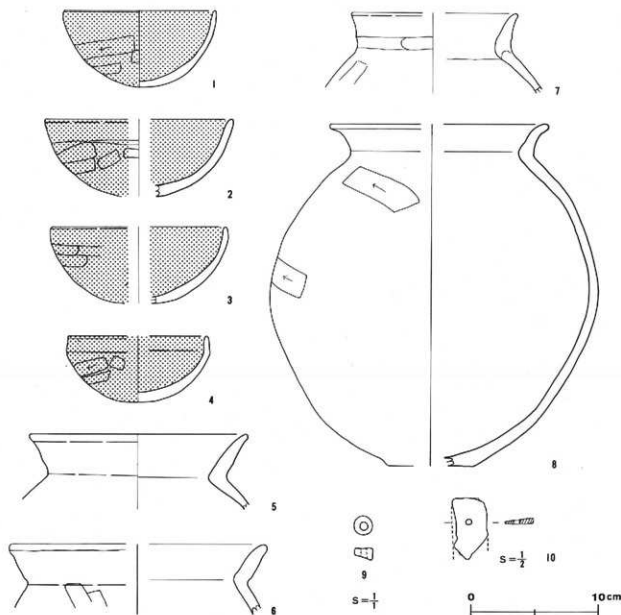


第59图 第13号住居跡実測图

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径18~24cm、深さ68~84cmで支柱穴、P₅は、径24cm、深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径96cm、短径70cmの楕円形で、床面を4~10cm程掘り窪めている。覆土は8層からなり、第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量に含む赤褐色土、第2層は同じく赤褐色土で、第1層に比べ焼土粒子を多量に含む。第3層も赤褐色土であるが、焼土ブロックは含まれない。第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含むにふい赤褐色土、第5層は焼土粒子を多量と炭化粒子を少量含む赤褐色土、第6層は焼土粒子及び焼土中ブロックを少量含むにふい赤褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及び焼土粒子と焼土小ブロックを少量含む褐色土である。炉床は、凸凹でブロック状に赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁からやや中央寄りに付設されている。径68cmの円形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は北西側はほぼ垂直に、南東側は外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり、すべて褐色土である。



第60図 第13号住居跡出土遺物実測図

第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量，第2層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量，第3層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量，第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量，第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量，第6層はローム粒子及び炭化粒子を微量を含む層である。

覆土 25層からなり，人為堆積である。壁際からローム粒子，ロームブロック混じりの褐色土及び暗褐色土で埋められている。南東及び北西壁際の床面には，厚さ5cm前後に堆積した焼土が確認されている。

遺物 覆土下層から床面にかけて，投棄されたと思われる土師器片が多量に出土している。第62図2・4の土師器環は東コーナー付近の床面から潰れた状態で，3の土師器環は南コーナー寄りの南西壁際の床面から正位の状態出土している。5の土師器環は南東壁中央の壁際床面から潰れた状態で出土している。9の白玉は南コーナー付近の床面から，1の土師器環は貯蔵穴底面から正位の状態，10の小札は西コーナー付近の床面から出土している。

所見 遺物は破砕されたと思われる細片が多い。壁際に焼土塊がみられることから，焼失した住居と考えられる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	土師器 環	A 12.0	口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P79 90% 床面
		B 6.2				
2	土師器 環	A 14.9	底面及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P80 75% 床面
		B (6.2)				
3	土師器 環	A [14.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P81 30% 床面
		B (5.2)				
4	土師器 環	A [11.0]	底面から口縁部の破片。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P82 30% 床面
		B 5.2				
5	土師器 環	A 17.0	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 によい褐色 普通	P83 15% 床面
		B (6.0)				
6	土師器 環	A [20.0]	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 によい褐色 普通	P84 10% 床面
		B (5.7)				
7	土師器 環	A [13.1]	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 によい黄褐色 普通	P85 15% 床面
		B (6.5)				
8	土師器 環	A [17.2]	底面から口縁部の一部欠損。平底で，体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P86 80% 床面
		B 27.3				
		C 6.6				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	F4 玉	0.3	0.7	0.3	0.1	床面 孔径 2.0mm	Q19 100% 滑石 P L71
10	小 札	(3.3)	1.8	0.3	(1.7)	床面 孔径 2.0mm	M4 欵製 P L71

第14号住居跡 (第61図)

位置 2区北西部, D8f.区。

重複関係 本跡の南西部は第9号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.00m, 短軸6.90mの方形である。

主軸方向 N-15°-W。

壁 壁高は12~28cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 北壁下の大半及び西壁下から南壁下の一部にかけて確認されている。上幅8~18cm, 下幅3~14cm, 深さ3~6cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。南東コーナーから中央寄りには、貯蔵穴を囲むように、長さ約1.50m, 幅38cmで、高さ4cm程の弧状の高まりが確認されている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径30~45cm, 深さ49~76cmで主柱穴, P₅は径24~44cm, 深さ10cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。いずれも中央から北寄りに確認されている。炉Aに比べて炉Bの使用頻度は低い。

炉Aは、長径64cm, 短径55cmの楕円形で、床面を6cm程掘り窪めている。覆土は6層からなり、第4層がにぶい赤褐色土のほかは、すべて赤褐色土である。第1層は焼土粒子を少量, 第2層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを中量, 第3層は焼土粒子を中量, 第4層は焼土粒子を少量, 第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含んでいる。第6層は第5層とほぼ同様であるが焼土ブロックは含まない。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。炉Bは、長径72cm, 短径62cmの楕円形で、床面を8cm程掘り窪めている。覆土は6層からなり、第1層は焼土粒子を微量に含む褐色土, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土, 第3層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量に含む赤褐色土, 第4層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを中量含む明褐色土, 第5層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量に含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

貯蔵穴 南東コーナーに付設されている。長径80cm, 短径70cmの楕円形で、深さは54cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量含む黄褐色土である。

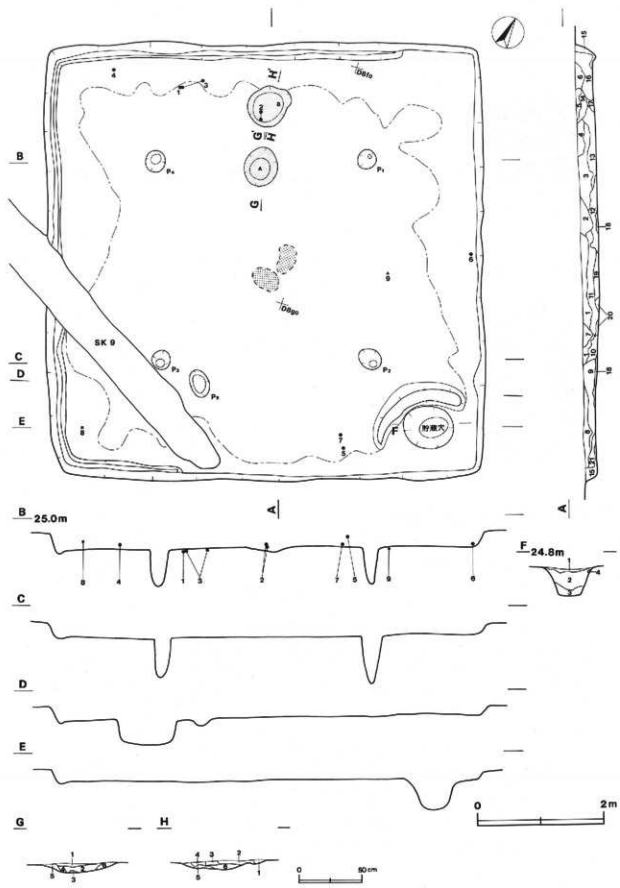
覆土 21層からなり、人為地積である。

遺物 中央部の覆土上層及び壁際の覆土下層から床面にかけて少量出土している。第62図1・3の土師器坏は西コーナー寄りの北西壁際の床面から、4の土師器坏は北西コーナーの覆土下層からそれぞれ潰れた状態で、5の土師器坏と7の土師器壺は南東壁中央の壁際床面から、それぞれ正位、横位の状態で、6の土師器坏は北東壁中央の壁下から正位の状態で出土している。9の磁石は東寄りの床面から出土している。

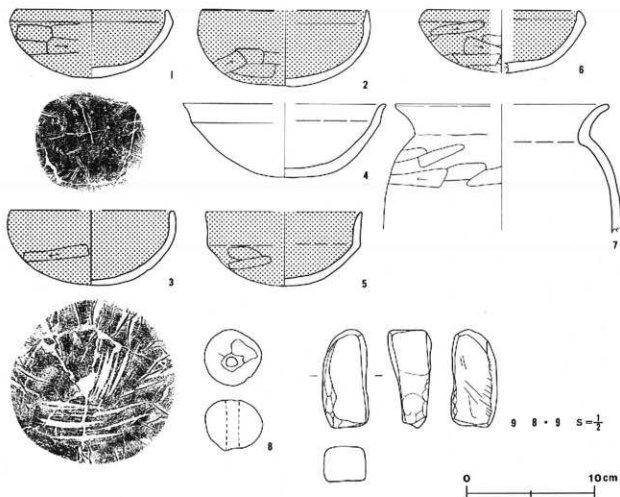
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師壺	A 12.1	体部の一部欠損。丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。底部にヘラ記号。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P87 P.L44 90% 床面
		B 5.5				
2	坏 土師壺	A [13.0]	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は突出。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P88 P.L44 80% 覆土下層
		B 6.2				



第61图 第14号住居跡実測图



第62図 第14号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏 土師器	A [13.0] B 6.0	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 89 P L 44 80% 砥石に砥用 床面
4	坏 土師器	A [16.0] B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 90 P L 44 70% 覆土下層
5	坏 土師器	A [12.3] B 6.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に鋭い稜をもつ。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 91 P L 44 50% 覆土上層
6	坏 土師器	A [12.2] B (5.1)	底部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 92 45% 覆土下層
7	罐 土師器	A [16.9] B (10.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P 93 P L 44 20% 床面

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	球状土錘	2.7	3.0	2.7	18.2	覆土中層 孔径 7.0mm D P 19 100%	P L 68
9	砥石	(5.2)	3.4	1.9	(37.0)	床 面 Q 20 砂岩	P L 70

第15号住居跡 (第63図)

位置 2区北西部, D8e, 区。

規模と平面形 長軸2.40m, 短軸2.34mの
方形である。

主軸方向 (N-122°-E)。

壁 壁高は14~18cmで, 外傾して立ち上
がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部は硬く踏み固めら
れている。

炉 中央から南東寄りにあり, 長径62cm,
短径50cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り
窪めている。覆土は4層からなり, 第1
層は焼土粒子を少量含む褐色土, 第2層
は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少
量含む赤褐色土, 第3・4層は焼土粒子
を中量含む暗赤褐色土である。炉床は火
熱を受け, ブロック状に赤変硬化してい
る。

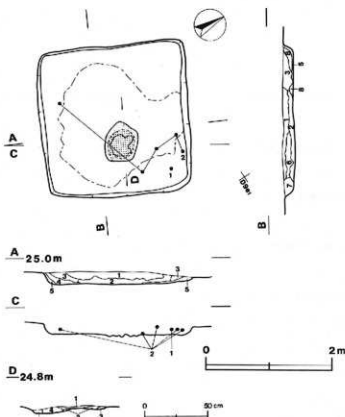
覆土 8層からなり, 自然堆積である。第

1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び

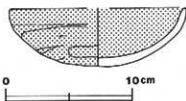
炭化粒子を極微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む褐色土, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を多量に含む粘性の強い明褐色土, 第6層はローム粒子を中量含む褐色土, 第7層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量に含む褐色土である。

遺物 土師器片が少量出土している。第64図1の土師器坏は, 第2層東コーナー付近から潰れた状態で, 2の土師器甕は, 同じく東コーナー付近から出土した破片と西コーナー付近から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は, 床面の硬化具合から頻繁に出入りがあった建物と考えられるが, 規模が小さいため住居跡とは考えにくい。使用頻度が高かったと思われる炉が確認されていることから, 火の使用を主目的とした建物跡と考えられる。本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第63図 第15号住居跡実測図



第64図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64回 1	坏土師器	A [14.0] B 4.6	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 青透	P94 75% 覆土中層
2	甕土師器	A [18.2] B (5.8)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい黄褐色 青透	P95 10% 覆土上層

第16号住居跡 (第65図)

位置 2区北西部, D8d区。

重複関係 本跡の北東部は、第6号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.60m, 短軸2.42mの方形である。

長軸方向 (N-122°-E)。

壁 壁高は21~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

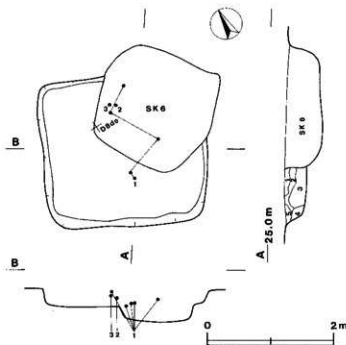
床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

覆土 5層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子少量とローム小ブロック及び炭化粒子を極微量に含む褐色土、第2層はローム粒子少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色

土、第3層はローム粒子を微量と炭化物を極微量に含む暗褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子を微量に含む総まりのある褐色土、第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量に含む暗褐色土である。

遺物 下層から床面にかけて土師器の坏・甕片等が少量出土している。第66図1~3の土師器甕は、北壁際覆土下層から1と2は逆位、3は正位の状態出土している。

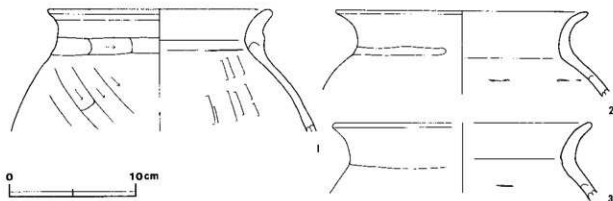
所見 住居の約3分の1が、第6号土坑に掘り込まれているため、炉等の内部施設は確認できないが、規模及び主軸方向等、第15号住居跡とほぼ同様であることから、本跡にも中央から南西寄りに炉が存在していた可能性が高い。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第65図 第16号住居跡実測図

第16号住居跡出土物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66回 1	甕土師器	A 17.8 B (9.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面へタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい黄褐色 青透	P96 25% 覆土下層
2	甕土師器	A 20.0 B (6.8)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部最下位へタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい黄色 青透	P97 P1.45 20% 覆土下層
3	甕土師器	A 20.2 B (5.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へタ削り。	長石・砂粒 褐色 青透	P98 10% 覆土下層



第66図 第16号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡 (第67図)

位置 2区北東部, C9区, 区。

重複関係 本跡の中央から北東寄りには第47号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.80m, 短軸7.66mの方形である。

主軸方向 N-37°-W。

壁 照高は38~52cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 南コーナーの壁下を除き, 壁道を全周している。上幅7~20cm, 下幅5~16cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状をしている。

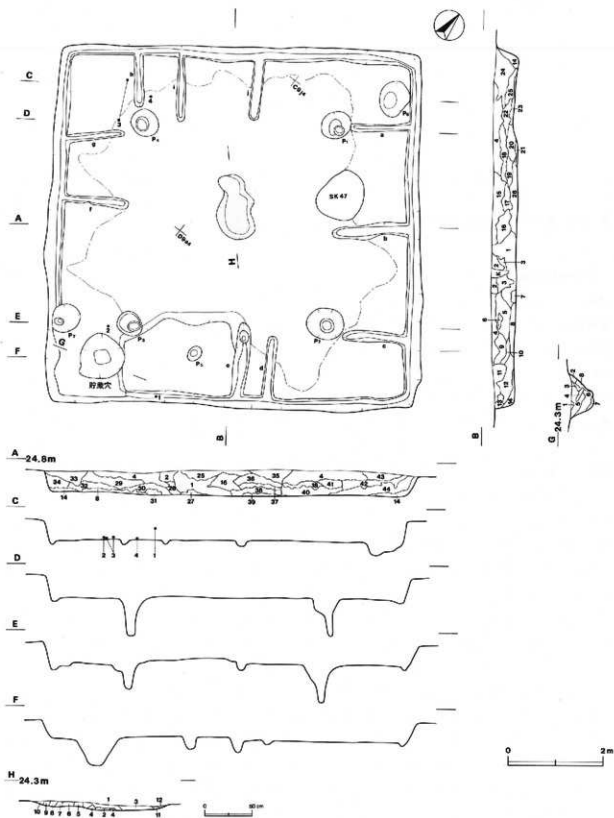
間仕切り溝 10条(a~j)。北東壁側に3条(a~c), 南東壁側に2条(d・e), 南西壁側に2条(f・g), 北西壁側に3条(h~j)確認され, 長さ1.10~1.60m, 上幅12~32cm, 下幅6~16cm, 深さ7~28cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 長軸2.80m, 短軸1.70m, 高さ10cm程の不定形の高まりがみられ, 出入口施設と考えられる。

ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁~P₆は, 径56~80cm, 深さ56~82cmで主柱穴, P₇は, 径34cm, 深さ28cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P₄・P₅は, 径70~78cm, 深さ8~30cmで性格は不明である。

炉 ほぼ中央にあり, 長軸1.40m, 短軸0.42mの不定形で, 床面を4cm厚掘り穿めている。覆土は12層からなり, 第1層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む褐色土, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む暗褐色土, 第3層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第4層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土, 第5層は焼土粒子を多量に含む暗赤褐色土, 第6層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む暗赤褐色土, 第7層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを微量に含む暗赤褐色土, 第8層は焼土粒子を少量含む暗赤褐色土, 第9層は焼土粒子を多量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量に含む暗赤褐色土, 第10層は焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第11層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量に含む暗褐色土, 第12層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土である。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。径96cmのほぼ円形で, 深さは54cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり, 第1層はローム粒子を少量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む黄褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小ブロックを微量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と炭化粒子



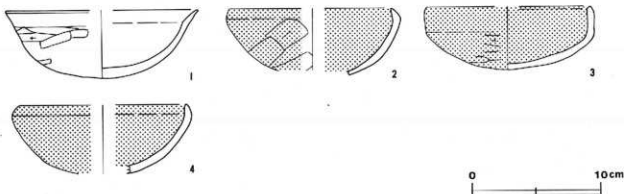
第67图 第17号住居跡実测图

を極微量に含む褐色土、第6層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを微量に含む黄褐色土、第7層はローム粒子を多量に含む黄褐色土、第8層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量に含む黄褐色土である。

覆土 44層からなり、人為堆積である。主に褐色土及び暗褐色土がブロック状に堆積している。

遺物 覆土中層から上層にかけての埋め戻された土の中から、土師器片が少量出土している。第68図1の土師器環は南コーナー寄りの南東壁際の覆土上層から逆位の状態で、4の土師器環は西コーナー付近の床面から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、当遺跡から確認された住居跡の中で、最大規模を有する住居跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第68図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	土師器 環	A [15.0] B 5.5	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P99 P L45 70% 覆土上層
2	土師器 牙土節	A [12.8] B (5.4)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P100 P L45 70% 床面
3	土師器 環	A [12.8] B 5.0	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P101 40% 床面
4	土師器 環	A [13.0] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P102 30% 床面

第18号住居跡 (第69図)

位置 2区北東部、C9c区。

規模と平面形 長軸3.00m、短軸2.80mの方形である。

主軸方向 (N-140°-W)。

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部は僅かに盛り上がっている。壁際を除いて、硬く踏み固められている。

炉 中央から南西寄りにある。径40cmのほぼ円形で、床面を僅かに掘り窪めている。覆土は1層からなり、焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土である。床面は火熱を受け赤変している。

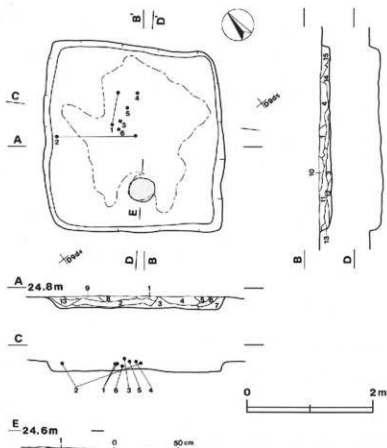
覆土 15層からなり、人為堆積である。

第1層はローム粒子を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第7層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量含む褐色土、第9層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第12層はローム粒

子及び炭化粒子を微量と焼土粒子及び焼土小ブロックを中量含む明褐色土、第13層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第14層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第15層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 中央からやや北西寄りの覆土下層から上層にまとも土師器片が出土している。第70図5の土師器壺は中央寄りの覆土上層、6は中央部覆土下層から、1・2の土師器片は中央から北西寄りの覆土上層から、それぞれ潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

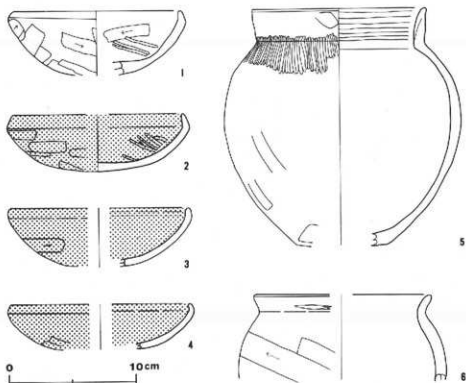


第69図 第18号住居跡実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A 13.2 B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ削り後、磨き。	長石・スコリア・砂粒にふい煙色普通	P103 40% 覆土上層
2	坏 土師器	A [13.4] B 4.6	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤色普通	P104 50% 覆土上層
3	坏 土師器	A [14.0] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒明赤褐色普通	P105 30% 覆土上層

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手次の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏 土 鉢 器	A [14.2] B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は内傾 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘタ削り。内面ナデ。内・外面赤 彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P106 20% 覆土上層
5	甕 土 師 器	A 13.8 B (19.1) C [7.2]	底部及び体部の一部欠損。体部は 内湾して立ち上がり、最大径を上 位にもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面及 び頸部下位から体部上位にかけて ヘタ削り。外面下位ヘタ削り。	長石・砂粒 にふい橙色 普通	P107 P L45 80% 覆土上層
6	甕 土 師 器	A [13.8] B (7.0)	体部から口縁部の破片。体部は内 湾して立ち上がり、頸部から口縁 部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び 体部外面ヘタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P108 30% 覆土下層



第70図 第18号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡 (第71図)

位置 2区北東部, D9c区。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸3.14mの方形である。

主軸方向 (N-36°-E)。

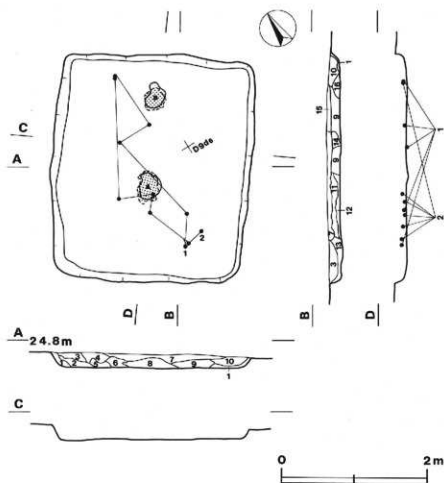
壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

炉 2か所(炉A・B)。炉Aは中央から南西寄りにあり、長軸38cm, 短軸30cmである。炉Bは中央から北東寄りにあり、長軸36cm, 短軸22cmである。いずれも不整形で、炉床は掘り窪められておらず、床面が赤変している程度で、使用頻度の低いものである。

覆土 16層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第2層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含

む褐色土、第5層はローム粒子を微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む褐色土、第7層はローム粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量含む褐色土、第12層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む黄褐色土、第14層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第15層はローム粒子を少量含む褐色土、第16層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土小ブロックを微量含む褐色土である。



第71図 第19号住居跡実測図

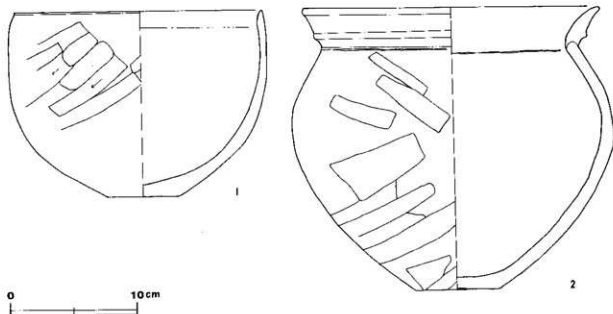
第13層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第14層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土、第15層はローム粒子を少量含む褐色土、第16層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 炉周辺の覆土下層及び床面から土師器片が少量出土している。第72図1の土師器鉢は炉Aと炉Bの間の覆土最下層から潰れた状態で出土したものと南コーナー付近の覆土最下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器壺は、炉A周辺の覆土最下層から出土した破片と北及び南コーナー付近の覆土最下層から出土した破片が接合したものである。遺物は掲載したもののほかに、土師器片が127点出土したがすべて壺片である。

所見 炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡である。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	鉢 土師器	A 19.8	体部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P109 P.L45 90% 覆土下層
		B 14.9				
		C 5.8				
2	壺 土師器	A 23.4	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘタ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P110 P.L45 85% 覆土下層
		B 22.6				
		C 6.4				



第72図 第19号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡 (第73図)

位置 2区北東部, D9e区。

重複関係 本跡の中央から南東寄りの床面は第45号土坑に, 北東壁中央部付近は第46号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.32m, 短軸7.12mの方形である。

主軸方向 N-26°-W。

壁 壁高は20~36cmで, 北西壁はほぼ垂直に, その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 全周している。上幅10~18cm, 下幅5~14cm, 深さは6~10cmで, 断面形は皿状をしている。東コーナー寄りの北東壁側は壁から20cm程内側に確認されている。

間仕切り溝 2か所(a・b)。南西壁側に1か所(a), 北西壁側に1か所(b)確認され, 長さ1.20~1.24m, 上幅13~27cm, 下幅4~16cm, 深さ7~9cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 南東及び南西部の一部には, 火熱を受けた硬化面がみられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径26~40cm, 深さ63~80cmで主柱穴と考えられる。P₅・P₆は, 径20~42cm, 深さ12cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径48cm, 短径40cmの楕円形で, 炉床は掘り穿められておらず, 床面が僅かに凸変している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸1.10m, 短軸1.08mの方形で, 深さは51cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量に含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量含む明褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む褐色土である。

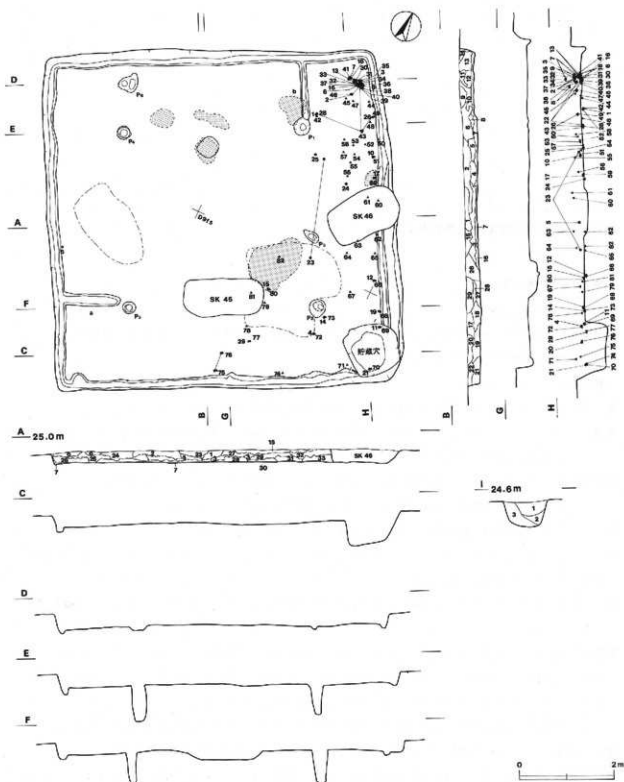
覆土 33層からなり, 人為堆積である。中層から下層にかけては, 炭化材や焼土塊がみられる。

遺物 東側の床面及び覆土下層から, 土師器の坏を主体に多量に出土している。第74~76図2・3・6~9・13・16・18・22の土師器坏は, 北コーナー床面から10点が正位に重なった状態で, 26の土師器鬚は北コーナー付近の床面から正位の状態, 28の土師器鬚は北コーナー付近の床面から潰れた状態で出土している。32~82

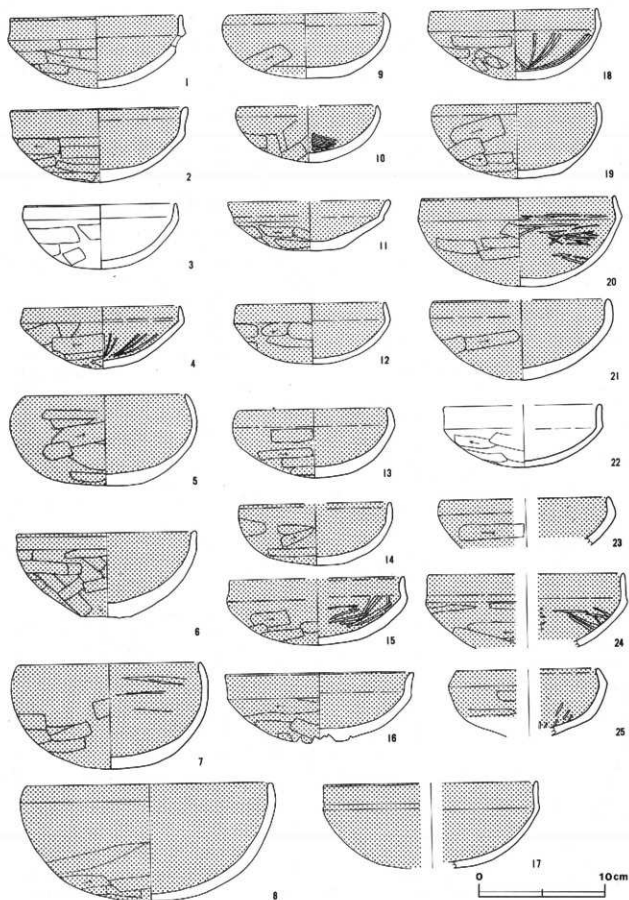
の白玉は南東壁中央の壁下の床下から出土している。

所見 焼土塊や炭化材がみられ、床面の一部が火熱を受けて赤変硬化していることから焼失住居と考えられる。

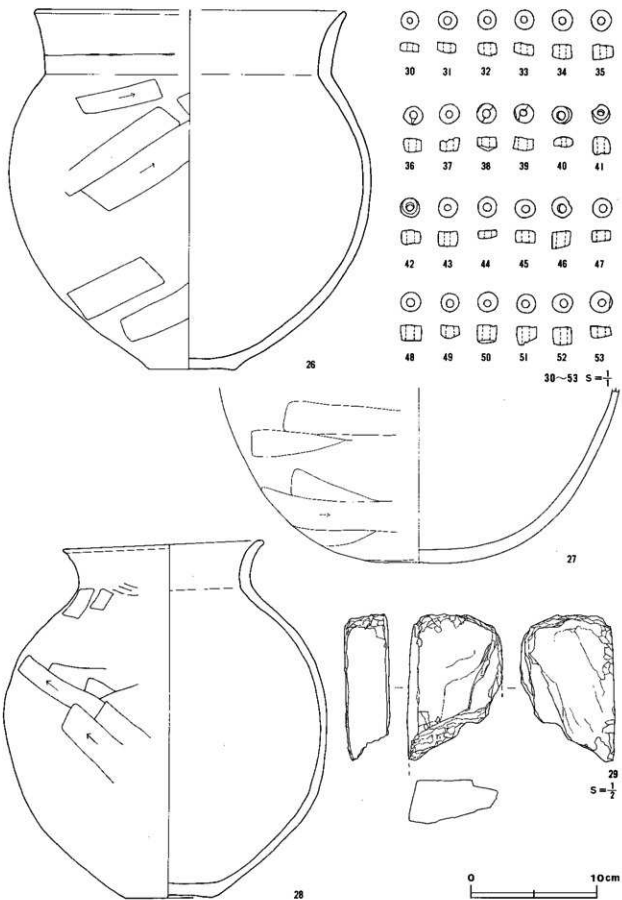
本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



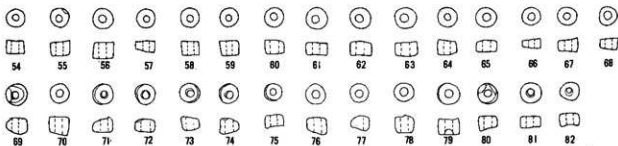
第73図 第20号住居跡実測図



第74图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第75图 第20号住居跡出土遺物実測図(2)



54~81 s=1

第76図 第20号住居跡出土遺物実測図(3)

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	形状の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74~76図 1	土師器	A 13.6 B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内・外面赤彩。口縁部直下に焼成後の穿孔をもつ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P111 P L45 100% 床面
	土師器	A 14.0 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り後、ナダ。体部内面へう削き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P112 P L45 95% 床面
3	土師器	A 12.2 B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。	長石・スコリア・ 砂粒 明褐色 普通	P113 P L45 95% 床面
	土師器	A 12.5 B 7.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。体部内面ナダ後、削き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P114 P L45 90% 床面
5	土師器	A 12.8 B 7.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部は尖る。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P115 P L46 90% 覆土
	土師器	A 14.2 B 6.7 C 4.0	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。体部内面ナダ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P116 P L46 95% 床面
7	土師器	A 14.6 B 8.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。体部内面へう削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P117 P L46 85% 床面
	土師器	A 19.4 B 9.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。体部内面ナダ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P118 P L46 80% 床面
9	土師器	A 12.5 B 5.3	口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P119 P L46 95% 床面
	土師器	A [11.2] B 4.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ後、削き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P120 P L46 80% 覆土
11	土師器	A [12.7] B 4.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 暗褐色 普通	P121 50% 床面
	土師器	A 12.0 B 4.9	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P122 P L46 60% 覆土
13	土師器	A 12.0 B 5.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P123 P L46 70% 床面
	土師器	A 12.1 B 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P124 60% 床面
15	土師器	A [14.0] B 5.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へう削り。内面ナダ後、削き。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P125 P L46 60% 床面

図版番号	器 種	寸法値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
16	坏 土 胎 器	A 15.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 に濃い赤褐色 普通	P126 P L46 80% 紅石(転用 床面)
		B 5.6				
17	坏 土 胎 器	A [16.8]	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P127 P L46 65% 床面
		B (6.8)				
18	坏 土 胎 器	A 13.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P128 P L47 85% 床面
		B 5.7				
19	坏 土 胎 器	A 12.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は内湾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P129 P L46 80% 床面
		B 6.0				
20	坏 土 胎 器	A 15.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P130 P L47 80% 覆土下層
		B 7.2				
21	坏 土 胎 器	A 11.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P131 80% 覆土
		B 6.4				
22	坏 土 胎 器	A [12.3]	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 褐色 普通	P132 60% 床面
		B 5.0				
23	坏 土 胎 器	A 13.5	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P133 P L47 15% 覆土下層
		B (4.0)				
24	坏 土 胎 器	A [15.7]	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P134 80% 床面
		B (5.9)				
25	坏 土 胎 器	A [11.1]	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。体部下位を除き、内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P135 20% 覆土
		B (5.4)				
26	甕 土 胎 器	A [24.4]	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P136 P L47 85% 床面
		B 29.0				
		C 7.0				
27	甕 土 胎 器	B (11.1)	底部の破片。平底で、体部は内湾して立ち上がる。	底部へラ削り後、ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P137 20% 貯蔵穴
		C 7.0				
		A 16.0				
28	甕 土 胎 器	B 28.3	体部の一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P138 P L47 75% 床面
		C 7.0				
		A 16.0				

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
29	砥 石	(7.8)	5.0	2.4	123.5	床 面	Q21 砂岩 P L70
30	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.2	覆 土 下 層	孔径 1.5mm Q22 100% 滑石 P L71
31	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q23 100% 滑石 P L71
32	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q24 100% 滑石 P L71
33	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 上 層	孔径 2.0mm Q25 100% 滑石 P L71
34	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q26 100% 滑石 P L71
35	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q27 100% 滑石 P L71
36	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q28 100% 滑石 P L71
37	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q29 100% 滑石 P L71
38	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm Q30 100% 滑石 P L71

試取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
39	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	貯蔵穴	孔径 2.0mm Q31 100% 滑石 P.L71
40	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q32 100% 滑石 P.L71
41	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.5mm Q33 100% 滑石 P.L71
42	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q34 100% 滑石 P.L71
43	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q35 100% 滑石 P.L71
44	白玉	0.2	0.6	0.2	0.2	床面	孔径 2.0mm Q36 100% 滑石 P.L71
45	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q37 100% 滑石 P.L71
46	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q38 100% 滑石 P.L71
47	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q39 100% 滑石 P.L71
48	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q40 100% 滑石 P.L71
49	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q41 100% 滑石 P.L71
50	白玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q42 100% 滑石 P.L71
51	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q43 100% 滑石 P.L71
52	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q44 100% 滑石 P.L71
53	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q45 100% 滑石 P.L71
54	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q46 100% 滑石 P.L71
55	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q47 100% 滑石 P.L71
56	白玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q48 100% 滑石 P.L71
57	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土上層	孔径 2.0mm Q49 100% 滑石 P.L71
58	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q50 100% 滑石 P.L71
59	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q51 100% 滑石 P.L71
60	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土上層	孔径 2.0mm Q52 100% 滑石 P.L71
61	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土上層	孔径 2.0mm Q53 100% 滑石 P.L71
62	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q54 100% 滑石 P.L71
63	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q55 100% 滑石 P.L71
64	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土上層	孔径 2.0mm Q56 100% 滑石 P.L71
65	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q57 100% 滑石 P.L71
66	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q58 100% 滑石 P.L71
67	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q59 100% 滑石 P.L71
68	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q60 100% 滑石 P.L71
69	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q61 100% 滑石 P.L71
70	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q62 100% 滑石 P.L71
71	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q63 100% 滑石 P.L71
72	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.5mm Q64 100% 滑石 P.L71
73	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.5mm Q65 100% 滑石 P.L71
74	白玉	0.4	0.5	0.4	0.3	床面	孔径 2.0mm Q66 100% 滑石 P.L71
75	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q67 100% 滑石 P.L71
76	白玉	0.5	0.6	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q68 100% 滑石 P.L71
77	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q69 100% 滑石 P.L71
78	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q70 100% 滑石 P.L71
79	白玉	0.5	0.6	0.5	0.3	覆土下層	孔径 2.0mm Q71 100% 滑石 P.L71
80	白玉	0.1	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q72 100% 滑石 P.L71
81	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q73 100% 滑石 P.L71
82	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q74 100% 滑石 P.L71

第21号住居跡（第77図）

位置 2区中央部、F9a区。

規模と平面形 長軸7.02m、短軸6.74mの方形である。

主軸方向 N-40°-E。

壁 壁高は20~62cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 南東・南西壁下と北東・北西壁下の一部から確認されている。上幅7~19cm、下幅2~12cm、深さ4~6cmで、断面形は血状をしている。

間仕切り溝 5条(a~e)。北東壁側から2条(a・b)、南東壁側から1条(c)、南西壁側から1条(d)、北西壁側から1条(e)確認され、長さ1.06~1.74m、上幅17~24cm、下幅5~12cm、深さ8~10cmで、断面形は血状をしている。bはP₂と連結されている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、長さ2.10m、幅30~54cm、高さ4cmの土手状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径32~72cm、深さ62~76cmで支柱穴、P₅は、径40cm、深さ8cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径80cm、短径24cmの楕円形で、床面を4cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり、第1層は焼土小ブロックを少量と炭化粒子を極微量含む明褐色土、第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含むふいふ赤褐色土、第3層は焼土小ブロックを多量に含む明赤褐色土、第4層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む黄褐色土、第5層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

覆土 37層からなり、人為堆積である。ローム粒子、ローム小ブロック混じりの褐色土及び暗褐色土が入り乱れて堆積している。南コーナー付近の中層から下層にかけて粘土塊がみられる。

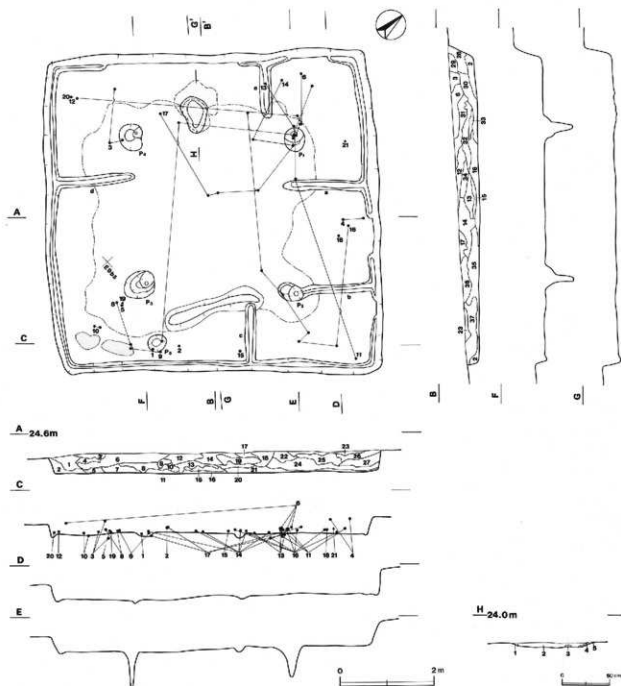
遺物 東・南・西コーナーの覆土上層から土師器片が少量、南・北コーナーの覆土下層から土師器片が多量に出土している。第78・79図1の土師器環及び19の双孔門板は南コーナー付近の床面から、正位の状態出土している。15の土師器甕は南東壁際の覆土下層から、18の土師器甕は北東壁際の覆土下層から、それぞれ斜位、横位の状態出土している。12のミニチュア土器及び20の白玉は西コーナーの床面から正位の状態出土している。

所見 遺物は細片が多いが、接合率が非常に高く、住居廃絶時に意図的に破碎して投棄したものと考えられる。

本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

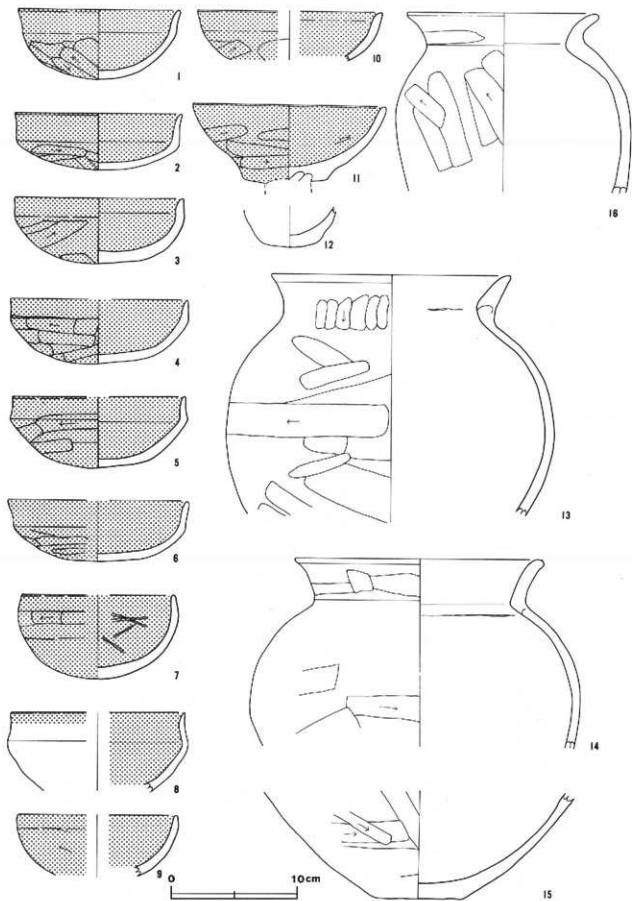
第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78・79図 1	土師器 環	A 12.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外側横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒にふいふ赤褐色普通	P139 P L47 85% 床面
		B 5.7				
2	土師器 上飾器	A 13.2	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒にふいふ赤褐色普通	P140 P L47 70% 覆土中層
		B 4.5				
3	土師器 環	A 13.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立し、内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外側横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒にふいふ赤褐色普通	P141 P L47 70% 覆土下層
		B 5.3				
4	土師器 環	A [14.0]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部は尖る。	口縁部内・外側横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒にふいふ赤褐色普通	P142 P L47 50% 覆土上層
		B 5.2				

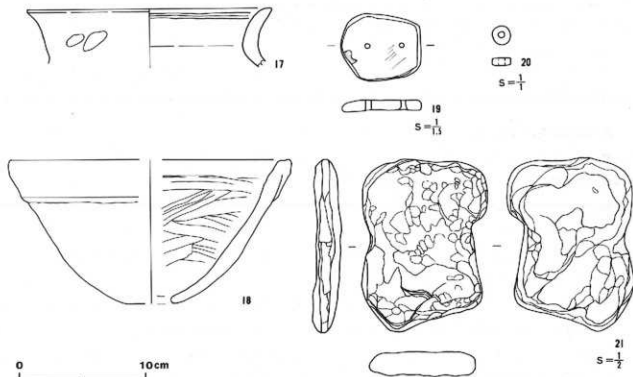


第77図 第21号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏土器	A [13.6] B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P143 60% 覆土下層
6	坏土器	A [14.0] B 4.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P144 45% 覆土上層
7	坏土器	A [12.0] B 6.7	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P145 30% 覆土
8	坏土器	A [13.6] R (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤い赤褐色 普通	P146 25% 覆土上層



第78图 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第79図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [12.6] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P147 25% 覆上下層
10	坏土師器	A [14.6] B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P148 PL47 30% 覆上下層
11	高坏土師器	A 15.2 B (6.4)	頸部欠損。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナゲ後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P149 PL47 60% 覆上下層
12	ヒコア土師器	B (3.3) C 4.2	底部の破片。	底部及び体部内・外面ナデ。	スコリア・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P150 40% 床面
13	壺土師器	A 18.9 B (19.3)	底部及び体部の一部欠損。体部は球形状で、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P151 PL48 85% 壺土下層
14	壺土師器	A 19.6 B (15.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 黄褐色 普通	P152 PL48 25% 床面
15	壺土師器	B (8.7) C 7.2	頸部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P153 15% 壺土下層
16	壺土師器	A 14.9 B (14.4)	底部及び体部の一部欠損。体部は球形状で立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P154 PL48 70% 壺土下層
17	壺土師器	A [19.3] B (4.8)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に指痕。内面ヘラナゲ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P155 10% 床面
18	甕土師器	A [22.0] B 11.6	底部から口縁部の破片。単孔式。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部は折り返される。	口縁部及び体部外面ナデ。内面ヘラナゲ。	長石・砂粒 褐色 普通	P156 PL47 33% 壺土下層

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
19	双孔門板	3.2	2.7	0.5	5.8	床面	孔径 2.0mm	Q75 90%	滑石 PL70
20	F ₁ 土	0.2	0.3	0.2	0.1	床面	孔径 1.5mm	Q76 100%	滑石 PL71
21	不明石製品	14.0	10.0	2.5	352.8	覆土下層	Q77	燧石	PL70

第22号住居跡(第80図)

位置 2区北東部, D9f₁区。

規模と平面形 長軸5.68m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-42°-W。

壁 壁高は30~58cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 南西壁下と南東壁下の大半及び北東・北西壁下の一部から確認されている。上幅8~24cm, 下幅4~16cm, 深さ4~8cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。北東壁側に1条(a), 南東壁側に1条(b), 南西壁側に1条(c)確認され, 長さ0.90~1.24m, 上幅14~20cm, 下幅3~8cm, 深さ6~9cmで, 断面形は皿状をしている。

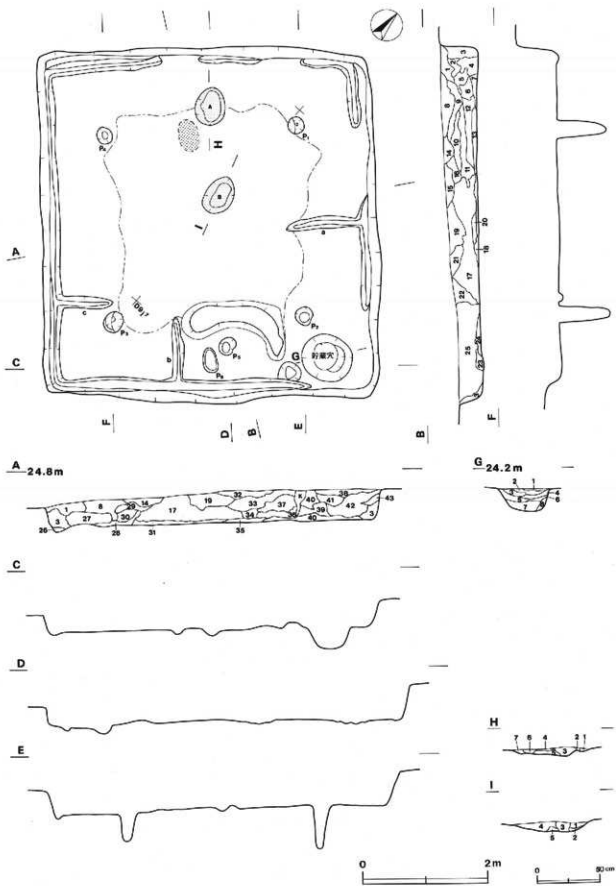
床 ほぼ平坦で, P₁~P₄の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, P₂・P₃を囲むように, 幅約50cm, 高さ4cm程の鈎の手状の高まりがみられ, 出入り口施設と考えられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径26~34cm, 深さ44~83cmで主柱穴, P₅・P₆は, 径20~42cm, 深さ14~16cmで, 位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所(炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり, 長径60cm, 短径44cmの楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。覆土は7層からなり, 第1層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土, 第2層はローム中ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む赤褐色土, 第3層は焼土小ブロックを中量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土, 第4層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量と炭化粒子を極微量含む褐色土, 第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量と炭化粒子を微量含む赤褐色土, 第7層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり, 長径62cm, 短径38cmの楕円形で, 床面を7cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む極暗赤褐色土, 第2層は焼土粒子を少量と炭化粒子を極微量含むにぶい赤褐色土, 第3層は焼土粒子を中量と焼土小・中ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む極赤褐色土, 第4層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化物を微量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む明赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

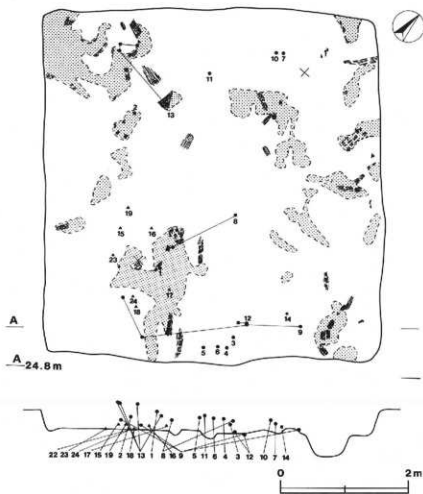
貯蔵穴 東コーナーに付設されている。径80cmの円形で, 深さ38cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり, 第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量及び炭化粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量及び炭化粒子を極微量含む明褐色土, 第3層はローム粒子少量と焼土粒子を極微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を極微量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量含む褐色土, 第6層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第7層はローム粒子を中量含む明褐色土, 第8層はローム粒子を多量とローム中ブロックを微量含む明褐色土である。

覆土 43層からなり, 人為堆積である。下層から床面にかけて多量の焼土塊及び炭化材がみられる。



第80图 第22号住居跡実測图

遺物 覆土下層から床面にかけたの焼土塊及び炭化材の上から多量に出土している。第82図1～10は土師器の坏で、覆土上層から下層にかけて出土している。4～6は南東壁中央の壁下から正位に並んだ状態で、3は同じく斜位の状態で、1は中央から西寄りに斜位の状態で、2は中央から北寄りに正位の状態で出土している。12の土師器蓋は南西壁から中央寄りの床面から、13の須恵器蓋は西コーナー付近の覆土上層から出土している。14の球状土鍾は東コーナー付近の覆土下層から、15～19、22～24の白玉は南コーナー付近の床面及び覆土下層から出土している。

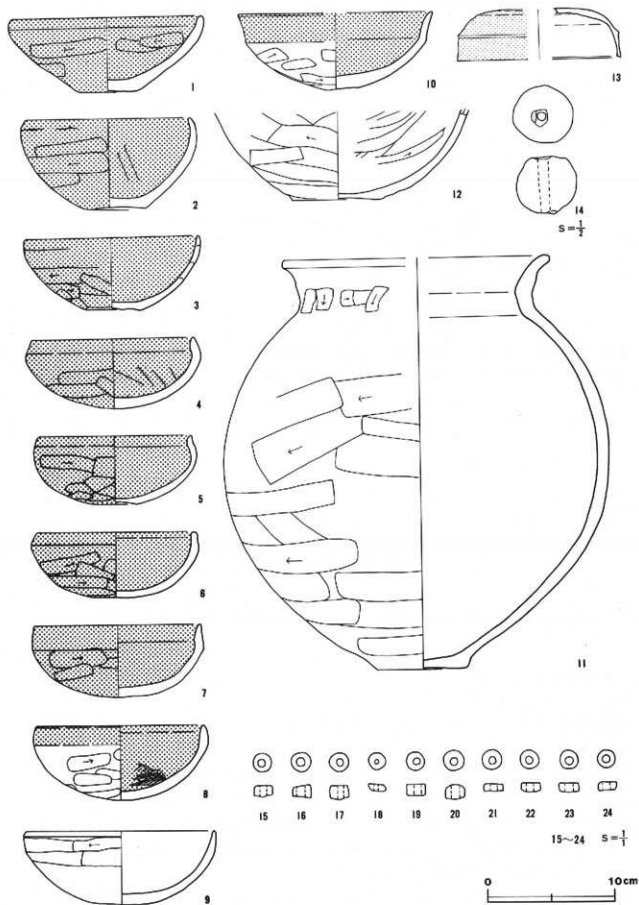


第81図 第22号住居跡出土遺物位置図

所見 本跡は焼失住居で、遺物の大半は住居が焼失した直後に、南東壁側を中心に投棄されたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計量値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色割・焼成	備考
第82図 1	土師器 坏	A 15.3 B 6.0 C 4.7	平底。体部は内燻気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外側ヘラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P157 P L48 100% 覆土上層
2	土師器 坏	A 13.0 B 7.3 C 4.8	平底。体部から口縁部は内燻して立ち上がる。口縁部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外側ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P158 P L48 100% 覆土上層
3	土師器 坏	A 13.9 B 5.9 C 4.3	平底。体部から口縁部は内燻して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外側ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P159 P L48 100% 覆土下層
4	土師器 坏	A 13.0 B 5.6	丸底。体部は内燻して立ち上がり、口縁部は内燻する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P160 P L48 100% 覆土上層
5	土師器 坏	A 12.2 B 5.5	上げ底。体部は内燻して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P161 P L48 100% 覆土上層
6	土師器 坏	A 12.5 B 3.2	底部の一部欠損。体部は内燻して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P162 P L48 95% 覆土上層



第82图 第22号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特長	胎土・色調・焼成	備考
7	坏土師器	A 13.2 B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に割れをもち、	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒にぶい赤褐色普通	P163 P L 48 90% 覆七下層
8	坏土師器	A 13.3 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	スコリア・砂粒赤褐色普通	P164 P L 48 80% 覆上下層
9	坏土師器	A 15.0 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒にぶい黄褐色普通	P165 P L 48 75% 覆土下層
10	坏土師器	A [15.2] B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は失る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P166 P L 48 85% 覆土下層
11	塞土師器	A [20.8], B 32.8 C 7.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にちつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒明赤褐色普通	P167 P L 49 63% 覆土上層
12	塞土師器	B (7.0) C 7.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面へラ削り。	長石・砂粒にぶい黄色普通	P168 40% 床面
13	坏土師器	A 12.9 B 4.0	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎し、口縁部との境に稜をもち、口縁部は僅かに外離し、端部には沈線が通る。	天井部口縁へラ削り。	長石・砂粒灰色普通	P169 P L 49 35% 自然釉付普通覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	球状土師	3.1	3.1	3.1	26.1	覆土下層 孔径 10.0mm DP20 100%	P L 68
15	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土下層 孔径 2.0mm Q78 100% 滑石	P L 71
16	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層 孔径 2.0mm Q79 100% 滑石	P L 71
17	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層 孔径 1.5mm Q80 100% 滑石	P L 71
18	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面 孔径 1.0mm Q81 100% 滑石	P L 71
19	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土下層 孔径 2.0mm Q82 100% 滑石	P L 71
20	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土 孔径 2.0mm Q83A100% 滑石	P L 71
21	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土 孔径 2.0mm Q83B100% 滑石	P L 71
22	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面 孔径 2.0mm Q84 100% 滑石	P L 71
23	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面 孔径 2.0mm Q85 100% 滑石	P L 71
24	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面 孔径 2.0mm Q86 100% 滑石	P L 71

第23号住居跡 (第83図)

位置 2区北東部, D9h3区。

規模と平面形 長軸2.72m, 短軸(2.48m)の長方形をしていたものと考えられる。

主軸方向 N-54°-E。

壁 壁高は0~9cmで、外傾して立ち上がっている。南東側からは確認されていない。

床 ほぼ平坦で、中央の一部分は非常に硬く踏み固められているが、それ以外の部分は軟質の床である。

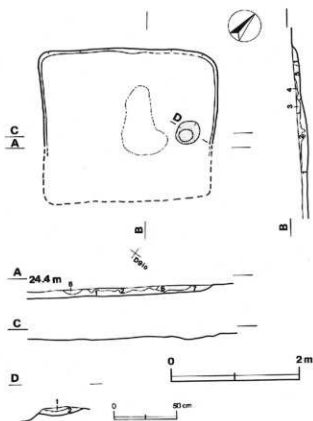
炉 中央から北東寄りにあり、長径40cm, 短径34cmの楕円形で、床面を5cm程掘り穿めている。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含むぶい赤褐色土、第2層は焼土粒子を微量含む褐色土である。炉床はあまり火熱を受けていない。

覆土 8層からなり、自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を多量に含む黄褐色土、第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第3層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第4層はロー

ム粒子を少量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量と炭化物を微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量及び焼土小ブロックを微量含む赤褐色土、第8層はローム粒子を少量及び炭化粒子を極微量含む褐色土である。

遺物 中央から北東側に土師器片が少量出土している。

所見 南東側は削平されているため確認できなかったが、当遺跡で確認例のある炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第33図 第23号住居跡実測図

第24号住居跡 (第84図)

位置 2区北東部、D9₁区。

規模と平面形 長軸3.24m、短軸3.04mの方形である。

主軸方向 (N-34°-W)。

壁 壁高は8~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。

炉 中央から北西寄りにあり、長軸68cm、短軸52cmの不定形で、床面を8cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土、第3層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

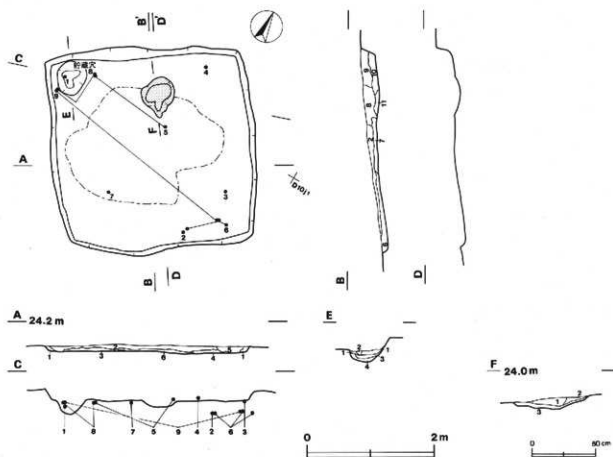
貯蔵穴 西コーナーに付設されている。長径56cm、短径45cmの楕円形で、深さは23cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量含む褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量及び炭化粒子を極微量含む黄褐色土、第4層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量含む褐色土である。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第1層から第6層及び第8層は褐色土、第7層は暗褐色土である。第1層はローム粒子及び炭化粒子を微量、第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量、第3層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量、第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量、第6層はローム粒子及び炭化粒子を少量、第7層はローム粒子及びローム小ブロックを微量と焼土粒子及び炭化物を少量、第8層はローム粒

子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含んでいる。

遺物 東・西コーナー及び中央部付近の覆土下層から床面にかけてまとも出土している。第85図1～3は土師器環で、2は南東壁際の床面から正位の状態で、3は東コーナー付近の床面から逆位の状態で、4の塊は北コーナー付近の床面から逆位の状態で、1の土師器環は貯蔵穴内覆土中層から斜位の状態です出土している。出土した遺物の大半は土師器の破片で占められている。

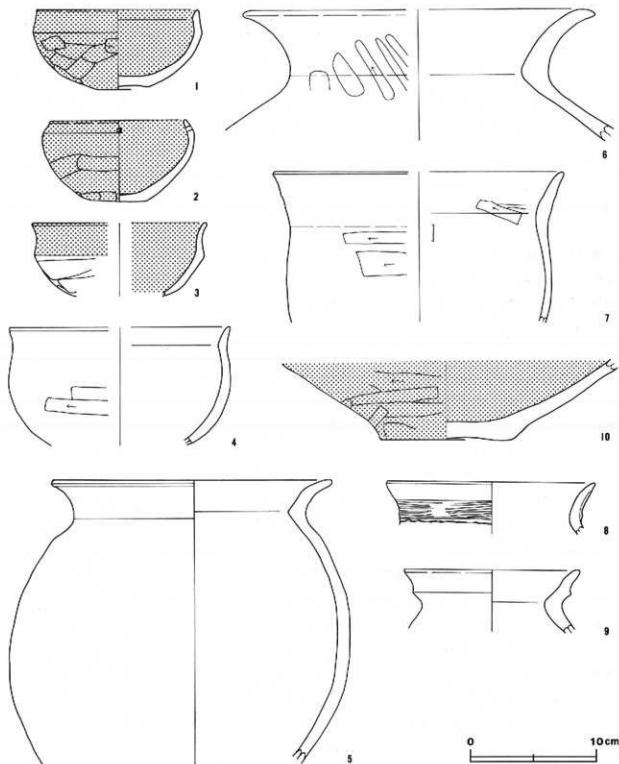
所見 本跡は竈と貯蔵穴をもつ小形の建物跡である。貯蔵穴を西コーナー部に付設する例は、当遺跡では少ない。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡、または居住以外の目的をもつ建物跡と考えられる。



第84図 第24号住居跡実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色画・装成	備考
第85図 1	土師器 環	A 12.8 B 6.5 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P170 P L49 100% 貯蔵穴覆土中層
2	土師器 環	A 10.6 B 6.6 C 4.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。口縁部下に焼成後の穿孔をもつ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P171 P L49 100% 床面
3	土師器 環	A [13.8] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P172 30% 床面
4	土師器 塊	A [17.6] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P173 P L49 40% 焼土



第85図 第24号住居跡出土遺物実測図

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	壺 土師器	A [22.0] B (22.7)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P174 PL49 50% 外面煤付着 床面
6	壺 土師器	A [33.5] B (8.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘク削り。内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P175 15% 床面

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	土師器	A [22.8] R (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面及び体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	長石・スコリア・砂粒 にふい橙褐色 良好	P176 10% 床面
8	土師器	A 16.6 R (4.2)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にふい赤褐色 普通	P177 10% 床面
9	土師器	A 14.0 B (5.0)	頸部から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、突出する稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にふい黄褐色 普通	P178 10% 床面
10	土師器	D (5.8) C 10.5	底部から体部の破片。平底で、体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部外面及び底部外面へラ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にふい橙褐色 普通	P179 15% 覆土

第25号住居跡 (第86図)

位置 2区南東部, E9d,区。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸2.46mの長方形である。

主軸方向 (N-0°)。

壁 南壁は壁高約4cm, その他の壁高は32~34cmで、外傾して立ち上がっている。

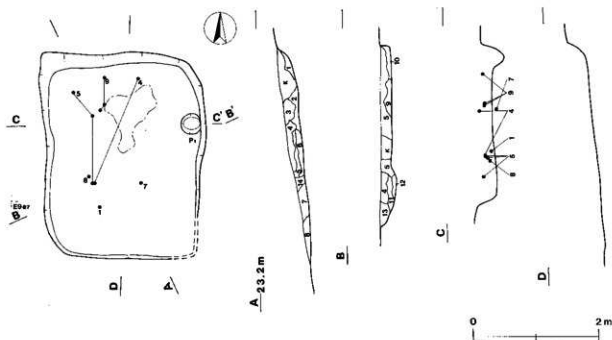
床 ほぼ平坦で、北側から南側にかけて緩やかに傾斜している。中央からやや北寄りに一部硬化面がみられる。

ピット 1か所 (P)。径34cm, 深さ16cmで性格は不明である。

覆土 14層からなり、人為堆積である。ローム粒子混じりの暗褐色土を主体に、傾斜に沿って北側から埋め戻されている。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む黒褐色土, 第3層はローム粒子を微量含む黒褐色土, 第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第6層はローム粒子及び炭化粒子と炭化物を微量含む黒褐色土, 第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土, 第8層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第10層はローム粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第11層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第12層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第13層はローム粒子及び炭化物を微量含む暗褐色土, 第14層はローム粒子を少量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土上層から下層にかけて、埋め戻された土とともに投棄されたと思われる土師器片が少量出土している。第87図1の土師器坏は南西寄りの床面から逆位の状態で、7の土師器壺は南寄りの床面から出土している。4の土師器壺は南西寄りの覆土上層から出土した破片と北寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。

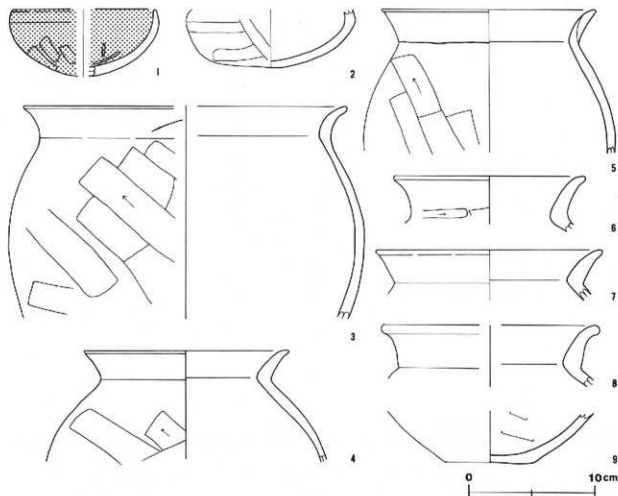
所見 本跡は斜面部に確認された小形の建物跡である。床面から出土した遺物はみられないが、古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第86図 第25号住居跡実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87回 1	坏土師器	A [11.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向ヘラ削り。内面ナデ後、廻き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P180 33% 床面
		B (5.4)				
2	坏土師器	B (4.7)	底部から体部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外向ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P181 45% 覆土
3	産土師器	A [25.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向ヘラ削り。内面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P182 P.L49 45% 床面
		B (17.0)				
4	産土師器	A 15.2	体部から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P183 P.L49 20% 覆土上層
		B (8.9)				
5	産土師器	A 17.0	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P184 P.L49 20% 覆土上層
		B (11.6)				
6	産土師器	A 15.2	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外向ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P185 20% 覆土
		B (4.4)				
7	産土師器	A 14.0	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P186 15% 床面
		B (4.1)				
8	産土師器	A [17.0]	頸部から口縁部の破片。頸部は外傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P187 10% 覆土下層
		B (5.0)				
9	産土師器	A [7.0]	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外向ナデ。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P188 15% 覆土
		B (3.1)				
		C 7.0				



第87図 第25号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡 (第88図)

位置 2区南東部, E9f.区。

規模と平面形 長軸(3.50)m, 短軸3.26mの台形である。

主軸方向 (N-81°-E)。

壁 北壁の一部と東壁は削平されて残存していない。壁高は12~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で, 北側から南側にかけて傾斜している。中央部と南壁際の一部は攪乱されている。床面はあまり硬く踏み固められていない。

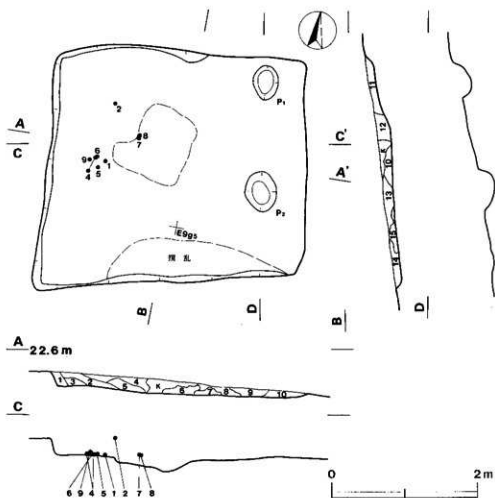
ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は, 径34~54cm, 深さ16~18cmで性格は不明である。

覆土 15層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第6層はローム粒子及びローム中ブロックと焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第10層はローム粒子を中量含む褐色土, 第11層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第12層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第13層はローム粒子を中量

とローム小ブロックを少量含む褐色土、第14層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む黒褐色土、第15層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 中央から西寄りの覆土上層から下層にかけてまとまって土師器片が少量出土している。第89図1・2・4・5の土師器環及び9の手裡土器は中央から西寄りの覆土上層から床面にかけて、1・2・4は正位、5は横位の状態で出土している。

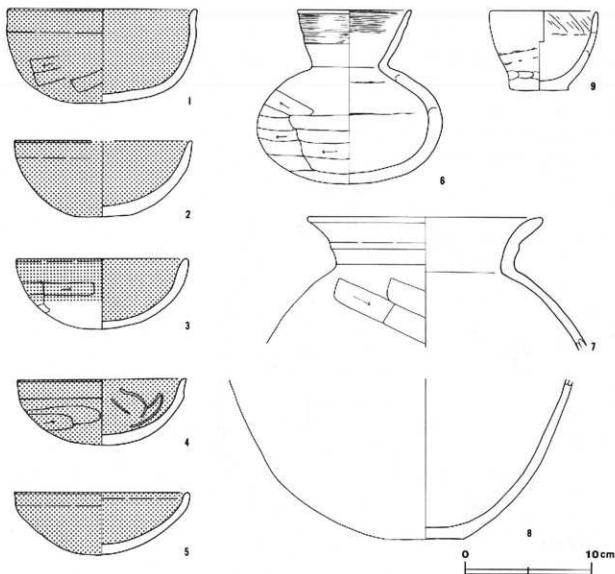
所見 斜面部に確認された小形の建物跡で、床面は約10度の傾斜をもって構築されている。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第88図 第26号住居跡実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	環 土師器	A 13.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外両面ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P189 P L50 60% 床面
		B 7.6				
2	環 土師器	A [14.2]	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P190 P L50 60% 覆土上層
		B 7.1				
		C 3.8				
3	環 土師器	A 13.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。体部外面上位及び内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P191 P L50 70% 覆土
		B 5.6				



第89図 第26号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏土部器	A 13.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P192 70% 床面
		B 5.3				
5	坏土部器	A 14.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面厚剥。内・外面赤彩。	長石・砂粒 褐色 普通	P193 P L50 65% 床面
		B 5.1				
6	壺土部器	A 9.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。頸部が口縁部は外反する。頸部に紐をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。	長石・砂粒 褐色 普通	P194 P L50 75% 床面
		B 14.0				
7	甕土部器	A 18.4	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する紐をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P195 P L50 30% 覆土下層
		B [10.6]				
8	甕土部器	B (12.9)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	内・外面厚剥。	砂粒 黄褐色 普通	P196 20% 覆土下層
		C 5.8				
9	手捏土器 土部器	A [8.5]	口縁部の一部欠損。平底で、体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内面へツナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P197 70% 覆土下層
		B 6.5				
		C 4.6				

第27号住居跡 (第90図)

位置 2区南西部, E8₁区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-60°-E。

壁 壁高は16~30cmで, 外傾して立ち上がっている。南コーナー付近は削平されて確認されていない。

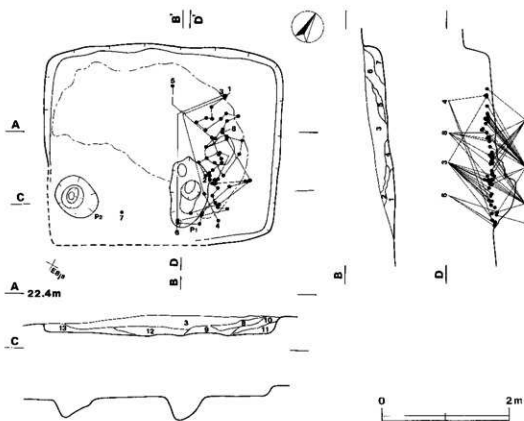
床 ほほ平坦で, 中央部は硬く踏み固められている。北東側から南東側にかけて緩やかに傾斜している。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は, 径58~70cm, 深さ30~38cmである。

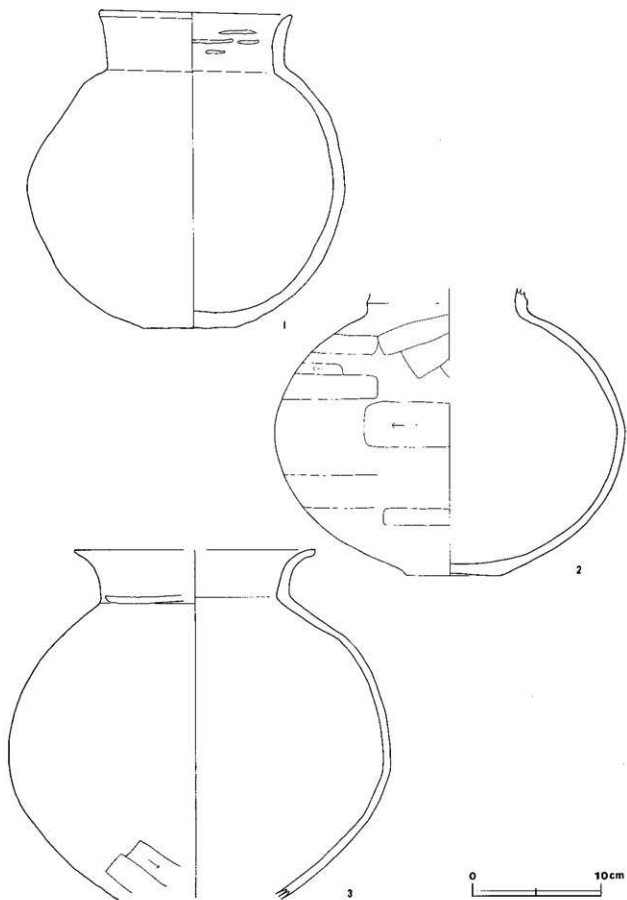
炉 中央から北東寄りにあり, 長径48cm, 短径38cmの楕円形である。炉床はほとんど掘り窪められておらず, 僅かに赤変している程度である。

覆土 13層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を微量含む褐色土, 第3層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第4層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第6層はローム粒子を微量と炭化粒子及び炭化物を極微量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量と炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第8層は焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第9層は焼土粒子及び炭化粒子と炭化物を微量含む黒褐色土, 第10層はローム粒子を少量含む褐色土, 第11層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第12層は炭化物を少量含む黒褐色土, 第13層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

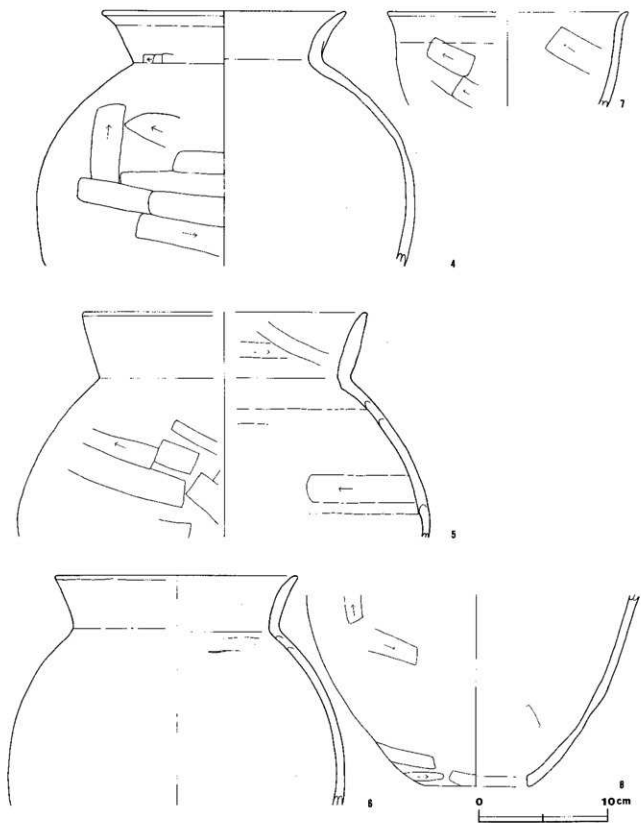
遺物 北東壁側の覆土下層から床面にかけて, 意図的に破砕したうえで北西壁側から投棄されたと考えられる土師器の細片が多数出土している。器種は土師器の壺・甕類が大半を占め, 坏・塊類の出土は極僅かであ



第90図 第27号住居跡実測図



第91图 第27号住居跡出土遺物実測図(1)



第92图 第27号住居跡出土遺物実測図(2)

る。第91・92図2～6・8の土師器壺・甔は北東壁側から出土した破片が接合したものである。7の土師器壺は中央から南寄りのほぼ床面から出土している。

所見 2か所のピットの位置及び形状は、当遺跡から確認された建物跡の類例から、P₁が出入り口施設に伴うピット、P₂が貯蔵穴という可能性も考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産成	備考
第91・92図 1	壺 土師器	A 15.2	体形の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P198 P L49 80% 覆上下層
		B 25.5				
		C 7.4				
2	壺 土師器	B (24.0)	口縁部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P199 P L49 75% 覆上下層
		C 7.6				
3	壺 土師器	A [19.0]	頸部及び口縁部の一部欠損。体部は内斂して立ち上がり、衆人逐を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 件通	P200 P L50 70% 覆土層
		B (27.7)				
4	壺 土師器	A 19.0	体部から口縁部の破片。体部は内斂して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P201 P L50 45% 覆上下層
		B (20.5)				
5	壺 土師器	A [22.3]	体部から口縁部の破片。体部は内斂して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面及び体部内・外面ヘラ削り強、ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P202 P L50 30% 覆上下層
		B (18.1)				
6	壺 土師器	A [19.0]	体部から口縁部の破片。体部は内斂して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。内面ナデ。	長石・スコリア・砂粒 褐色 普通	P203 P L49 30% 床面
		B (18.3)				
7	壺 土師器	A [19.0]	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P204 10% 床面
		B (7.7)				
8	甔 土師器	B (15.3)	底部から体部の破片。無底式。体部は内斂気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P205 P L49 50% 覆上下層
		C 8.2				

第28号住居跡 (第93図)

位置 2区北東部、D9d区。

規模と平面形 長軸3.00m、短軸2.06mの長方形である。

主軸方向 (N-57°-W)。

壁 壁高は52～58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

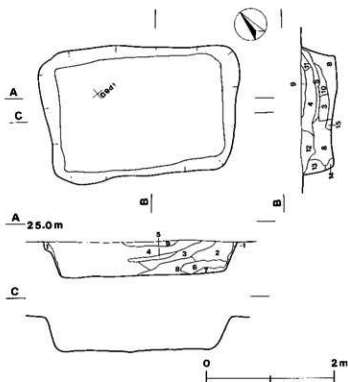
覆土 15層からなり、人為堆積である。北西側はロームブロック混じりの褐色土で、一度に埋め戻されている。

第1層はローム小ブロックを微量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む暗褐色土、第4層はローム小・中ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム小・中ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第6層は炭化物を微量含む褐色土、第7層はローム小から大ブロックを微量含む褐色土、第8層はローム小・中ブロックを中量とローム大ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第9層はローム小ブロック及び焼土粒子と炭化物を微量含む暗褐色土、第10層はローム小・中ブロックを微量含む褐色土、第11層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第12層はローム小ブロックを微量含む褐色土、第13層はローム小ブロック及び炭化物

を微量含む褐色土、第14層はローム小ブロックを微量と炭化粒子を極微量含む褐色土、第15層はローム小ブロックを微量含む暗褐色土である。

遺物 中央から南西寄りの覆土上層から下層にかけて、少量の土師器片がまとまって出土している。第94図1の土師器甕は南西壁際の覆土中層から出土している。

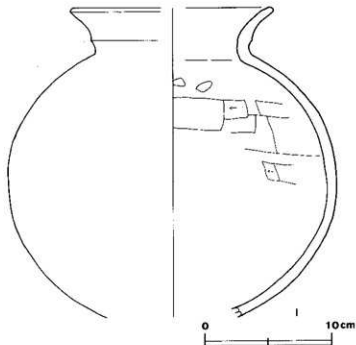
所見 形状及び内部施設、遺物の出土状況が、第45号住居跡等と類似していることから、居住以外の目的をもつ建物跡と考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第93図 第28号住居跡実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種類	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	甕 土師器	A [15.4] B (24.9)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外両面ナデ。体部外面摩耗。内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P206 35% 覆土中層



第94図 第28号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡 (第95図)

位置 2区南西部, F8a3区。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸(2.10)mの長方形と考えられる。

主軸方向 (N-28°-W)。

壁 壁高は14~24cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。南東壁は削平され残存していない。

床 ほぼ平坦で, 北西から南西側にかけて緩やかに傾斜している。床面はあまり踏み固められていない。

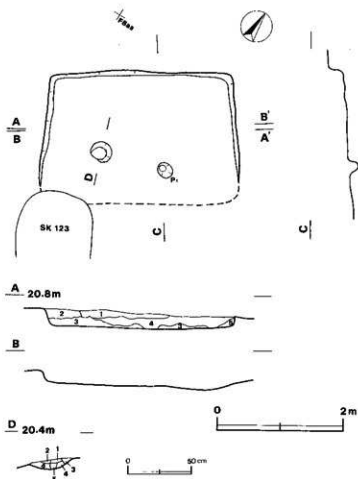
炉 中央から南西寄りにあり, 長径36cm, 短径28cmの楕円形で, 床面を8cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり, 第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む赤褐色土, 第2層はローム粒子を微量と焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

第1層はローム粒子を微量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む極暗褐色土, 第2層はローム粒子中量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第3層は第2層に褐色土ブロックを少量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む極暗褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を極微量含む暗褐色土である。

遺物 覆土中層から下層にかけて98点の土師器片が出土している。

所見 本跡は, 斜面部の暗褐色土中から確認された小形の建物跡で, 時期は, 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



第95図 第30号住居跡実測図

第31号住居跡 (第96図)

位置 1区北東部, Alle区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.24mの長方形である。

主軸方向 N-60°-W。

壁 壁高は14~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 西コーナー付近の壁下を除いて全周している。上幅5~16cm, 下幅2~9cm, 深さ2~6cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 中央部と炉の周辺は硬く踏み固められている。

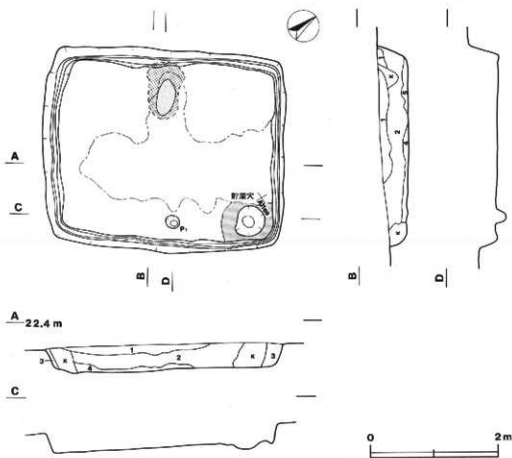
ピット 1か所 (P.)。径22cm, 深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径58cm, 短径38cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径50cm, 短径44cmの楕円形で, 深さ26cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。周囲には白色粘土が1.5~2.0cm程積まれている。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を多量に含む褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子を中量と炭化物を微量含む極暗赤褐色土である。壁際の一部は木根によって攪乱されている。

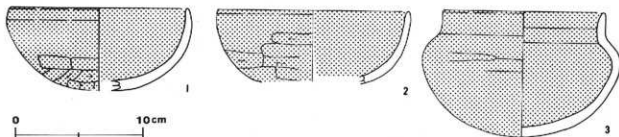
遺物 壁際の覆土上層から下層にかけて, 土師器片が少量出土している。第97図1・2は土師器の坏で, 1は



第96図 第31号住居跡実測図

第1層から、2は第4層から出土している。3は土師器塚で、第4層から出土している。

所見 1区最北東部に位置し、他の住居跡群から50m以上離れて確認されている。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡と考えられる。



第97図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	坏 土 蒔 器	A 14.0 B (5.6)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P207 P L50 60% 覆土上層
2	坏 土 蒔 器	A 14.0 B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面割離。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P208 P L51 30% 覆土下層
3	埴 土 器	A 12.8 B 10.1	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P209 P L51 60% 覆土下層

第32号住居跡 (第98図)

位置 1区中央部, B11i区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.84mの方形である。

主軸方向 N-71°-W。

壁 壁高は20~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬く踏み固められている。東壁から中央寄りには東壁と平行するように、長さ1.50m, 幅約36cm, 高さ4cm程の土手状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

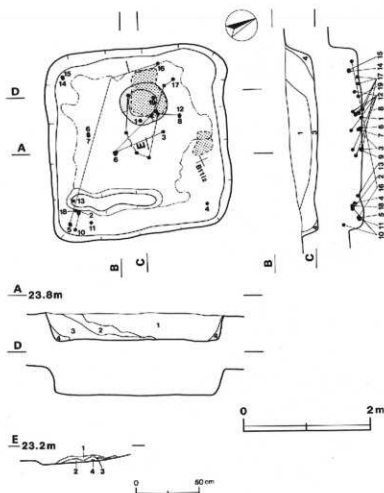
炉 中央から西寄りにあり、長径74cm, 短径66cmの楕円形で、床面を3cm掘り窪めている。覆土は4層からなり、第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量と炭化物を少量含む極暗赤褐色土、第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量と炭化粒子を中量及び炭化物を少量含む赤褐色土、第3層は炭化物及び灰を多量に含む極暗赤褐色土、第4層は焼土小ブロックを多量に含む明赤褐色土である。炉床はブロック状に赤変硬化している。

覆土 4層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小から大ブロックを少量、焼土粒子及び焼土小ブロックと炭化物を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小から大ブロックを中量含む明褐色土、第3層はローム粒子及び焼土小ブロックと炭化物を少量含む暗褐色土で、下層には炭化材がみられる。第4層はローム粒子を多量と炭化粒子を少量含むにぶい褐色土である。

遺物 覆土下層から床面にかけて、土師器塚を中心に多数出土している。1の土師器塚は北西寄りの床面から逆位の状態で、19の須恵器塚は同じく北西寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。4~17は土師器

壁で、5は南コーナー部壁際の覆土下層から横位の状態で、4と14の土師器甕はそれぞれ東コーナー部床面、南西寄りの覆土下層から斜位の状態で出土している。18の土師器甕は10と接するように覆土最下層から正位の状態で出土している。

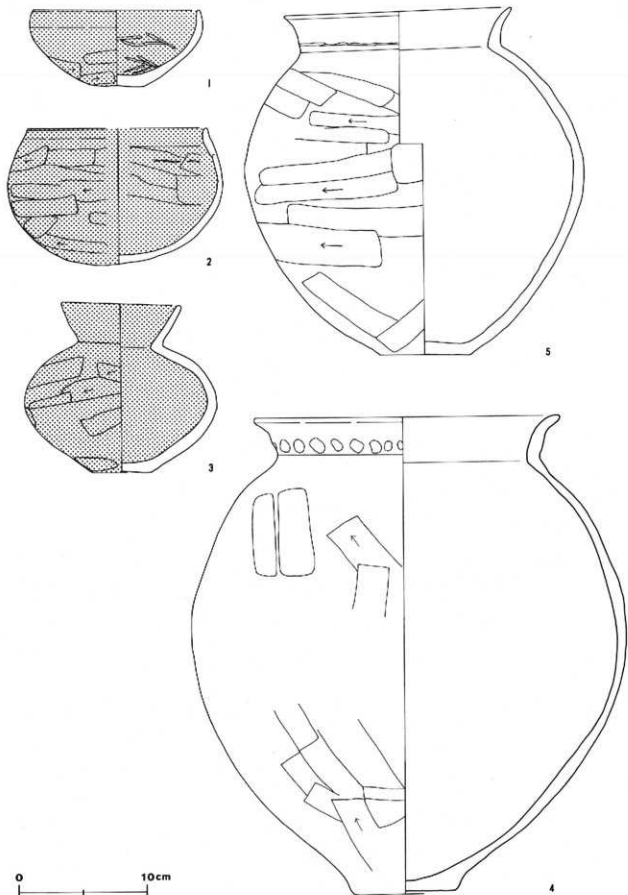
所見 遺物は残存率の高い土師器の甕がほとんどで坏類の出土が少なく、小形の建物跡であることから、当遺跡から確認されている居住目的以外の建物跡と考えられる。また、下層から床面にかけて焼土塊及び炭化材が確認されていることから、当建物は焼失したものと思われるが、出土した遺物には二次焼成の痕跡が見られないことから、焼失後、間もなく投棄され、埋め戻しが行われたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



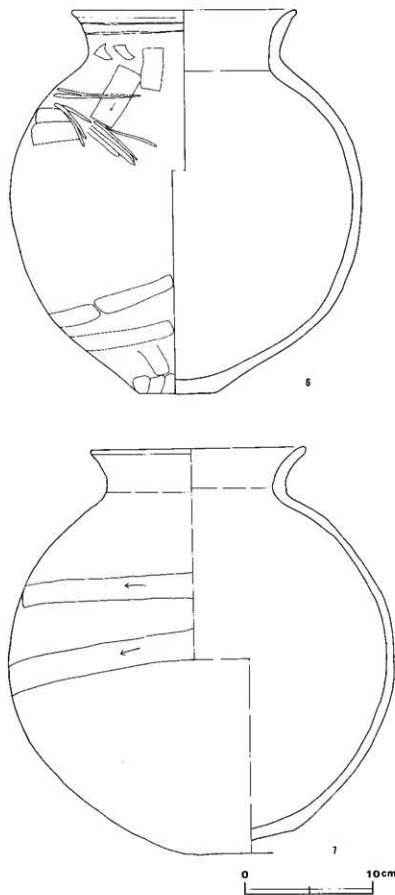
第32号住居跡実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

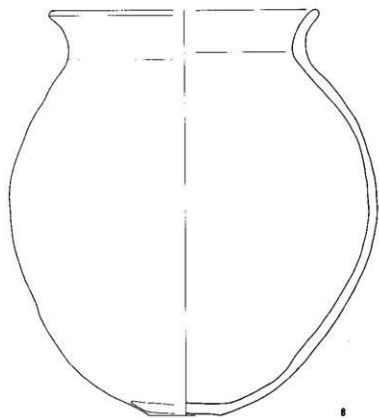
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9-14頁	1 土師器	A 13.2	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P210 P L51 90% 床面
		B 6.1				
		C 4.4				
2	土師器	A [14.1]	体部及び口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P211 P L51 70% 覆土下層
		B 6.1				
3	土師器	A 9.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P212 P L51 95% 床面
		B 13.4				
		C 4.6				
4	土師器	A 24.0	底部は平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に指頭痕。内面ナデ。体部外面へラ削り。	長石・砂粒 よい褐色 普通	P213 P L51 100% 床面
		B 38.5				
		C 8.2				
5	土師器	A 17.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黄褐色 普通	P214 P L51 95% 覆土下層
		B 25.8				
		C 7.0				
6	土師器	A 17.6	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、上位は磨き。	長石・砂粒 よい黄褐色 普通	P215 P L51 90% 床面
		B 31.0				
		C 6.0				



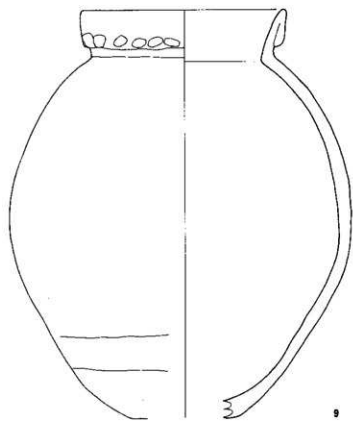
第99图 第32号住居跡出土遺物実測図(1)



第100图 第32号住居跡出土遺物実測図(2)



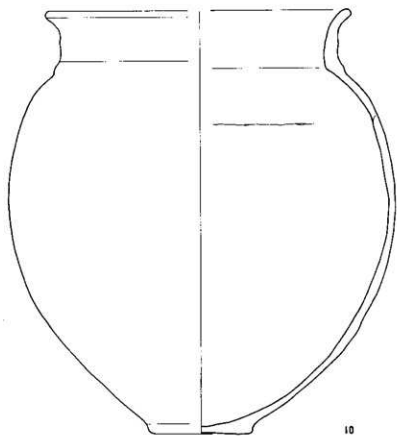
8



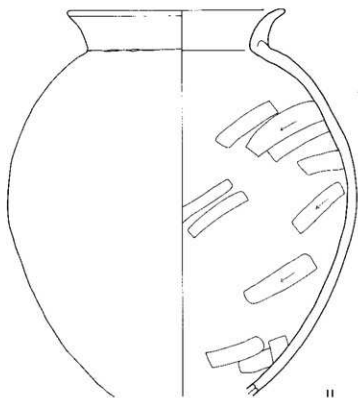
9



第101图 第32号住居跡出土遺物実測図(3)



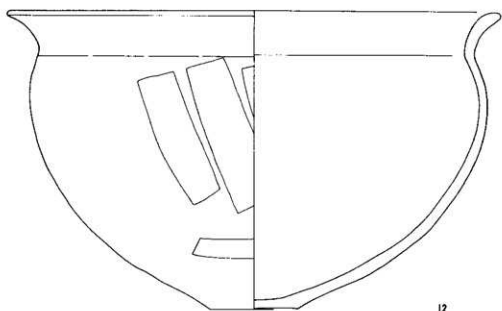
10



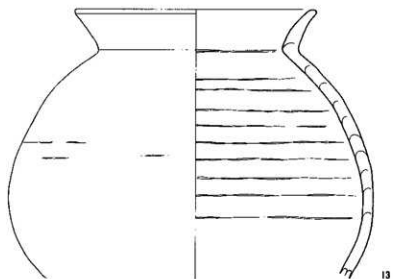
11

0 10cm

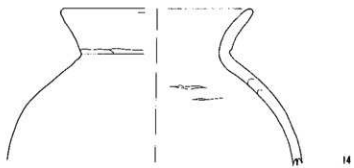
第102图 第32号住居跡出土遺物実測図(4)



12



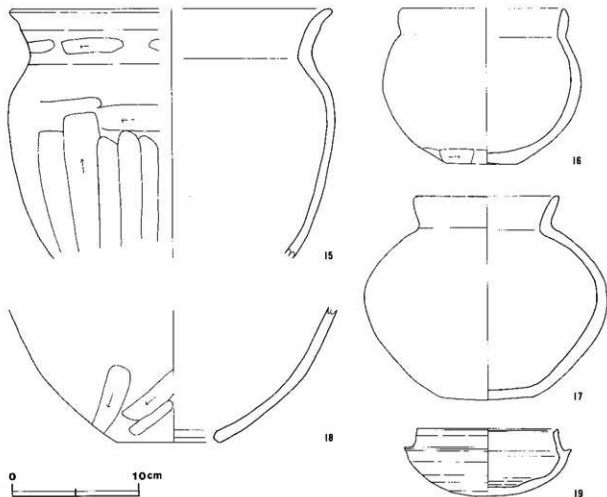
13



14



第103图 第32号住居跡出土遺物実測図(5)



第104図 第32号住居跡出土遺物実測図(6)

図版番号	器名	計測値(cm)	器形の特徴	下法の特徴	胎土・色調・原成	備考
7	壺 土師器	A 17.8 B 32.6 C 6.5	体部の一形欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P216 PL51 80% 床面
8	甕 土師器	A [15.6] B 32.7 C 3.8	体部及び口縁部の一形欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P217 PL52 75% 覆土下層
9	壺 土師器	A 15.2 B (32.6)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部外傾し、口縁部は折り返される。	口縁部外面下位に凹溝状。体部内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P218 PL52 75% 床面
10	壺 土師器	A [23.2] B 34.1 C 8.0	体部及び口縁部の一部欠損。突出する底部で、体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P219 PL52 70% 覆土上層
11	壺 土師器	A 17.0 B (31.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。内面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P220 PL52 65% 覆土下層
12	甕 土師器	A 38.6 B 23.9 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P221 PL53 50% 覆土中層
13	壺 土師器	A 19.0 B (21.7)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P222 PL52 50% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	埴土師器	A 14.8	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位へ削り。体部外面横ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒にふい黄褐色普通	P 223 P L 52 45% 覆土下層
		B (12.4)				
15	埴土師器	A [25.0]	底部から口縁部の一部欠損。体部は内湾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P 224 P L 52 60% 覆土下層
		B (20.0)				
16	埴土師器	A [12.6]	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P 225 P L 51 85% 覆土下層
		B 12.5				
		C 5.6				
17	埴土師器	A 11.0	平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒にふい黄褐色普通	P 226 P L 53 95% 床面
		B 16.4				
		C 7.2				
18	埴土師器	B (10.9)	底部から体部の破片。無底式。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面へ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P 227 P L 52 50% 覆土中層
		C 8.0				
19	埴土師器	A 11.0	丸底。体部は内湾して立ち上がる。受部は外上方にのび、受部縁部は丸味をおびる。口縁部は内傾し、頸部に沈線が通る。	体部外面へ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P 228 P L 53 100% 覆土下層
		B 5.4				

第33号住居跡 (第105図)

位置 1区中央部、B10₃区。

規模と平面形 長軸7.52m, 短軸7.44mの方形である。

主軸方向 N-52°-W。

壁 壁高は32~52cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅7~19cm, 下幅6~15cm, 深さ48cmで、断面形は凹状をしている。

間仕切り溝 6条(a~f)。北東側に2条(a・b), 南西側に3条(c~e), 北西側に1条(f)確認され、長さ1.24~1.50m, 上幅15~32cm, 下幅6~22cm, 深さ4~18cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、貯蔵穴Aを囲むように、幅約40cm, 高さ4cm程の縁状の高まりがみられる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径42~82cm, 深さ66~75cmで主柱穴、P₅は、径44cm, 深さ65cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所(炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり、長径1.60m, 短径0.82mの楕円形で、炉床は掘り窪められていない。覆土は2層からなり、第1層は焼土小ブロックを中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土、第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを多量及び炭化物を少量含むにふい赤褐色土である。炉床は赤変している。炉Bは中央から南東寄りにあり、長径0.96m, 短径0.72mの楕円形で、炉床は掘り窪められていない。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土、第2層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土、第3層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む極暗赤褐色土、第4層はローム粒子及び焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含むにふい赤褐色土である。炉床は炉Aに比べて焼けていない。

貯蔵穴 2か所(貯蔵穴A・B)。貯蔵穴Aは南東壁中央の壁下に付設されている。長径0.72m, 短径0.54mの楕円形で、深さは33cmである。底面は凹状で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴Bは南コーナーに付設されている。径64cmの円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土はA・Bともに3層からなり、第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、

第2層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

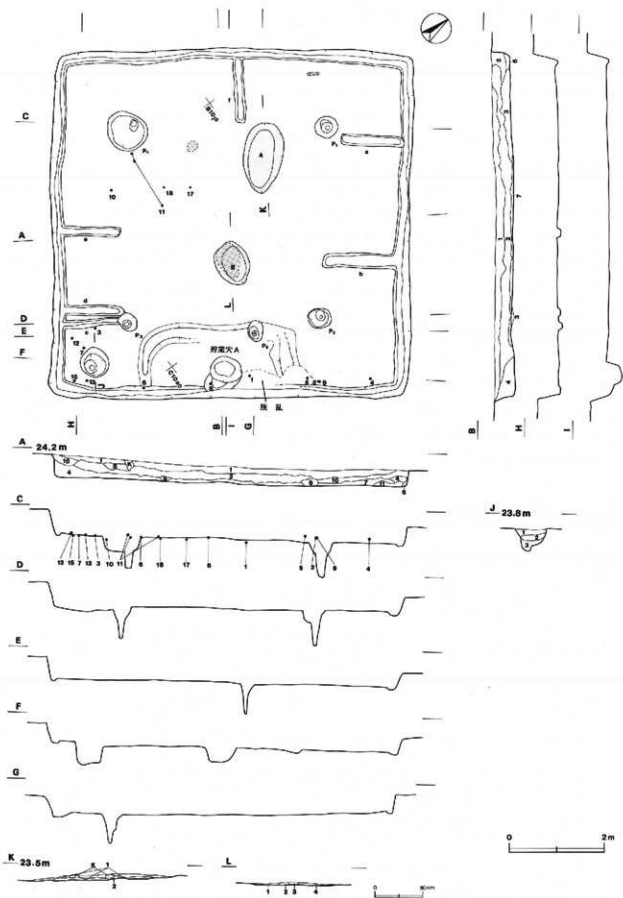
覆土 11層からなる。壁際及び下層にはローム粒子が多量にみられるが自然堆積である。第1層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む黒褐色土、第2層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第3層はローム粒子多量と焼土粒子及び焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量、炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量に含む褐色土、第7層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及び炭化粒子を微量と焼土粒子を多量に含む暗褐色土、第9層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土である。

遺物 南側の覆土下層から床面を中心に、土師器の坏を主体に多量に出土している。第106図15の土師器蓋は南コーナー部床面（第4層）から潰れた状態で出土している。1～12は土師器坏、13は土師器碗で、1・2・4～6・8・9は南東壁際の床面から出土している。3と7は南コーナー部床面から正位の状態に出土している。14の須恵器達は北寄りの覆土中から出土したものと、別の遺構（第34・35・38・43・46号住居跡）及び遺構外から出土した破片が接合したものである。

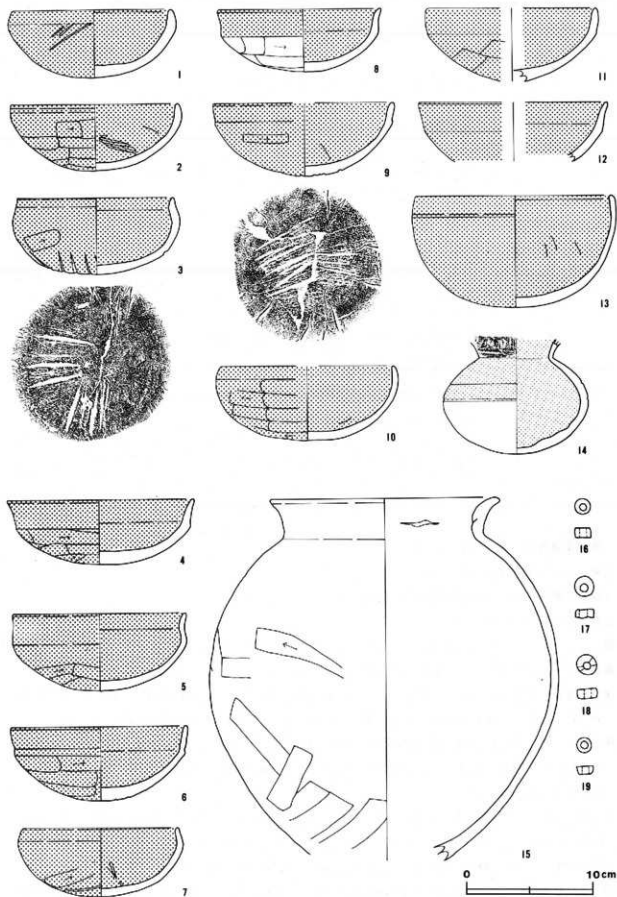
所見 出土した遺物の中で、土師器坏の占める割合が非常に高く、甕等の大形の遺物は極僅かである。出土状況をみると、南コーナーから南東壁にかけての壁際に土師器の坏・碗が9点、意図的に並べたように置かれており、住居廃絶時に伴う何らかの祭祀行為のひとつということも考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 土師器	A 12.6	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P229 P L53 100% 床面
		B 5.5				
2	坏 土師器	A 13.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り。内面ヘラナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P230 P L53 90% 床面
		B 5.4				
3	坏 土師器	A 12.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P231 P L53 90% 底下に転用 床面
		B 6.1				
4	坏 土師器	A 14.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P232 P L53 90% 床面
		B 5.1				
5	坏 土師器	A 13.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤色 普通	P233 P L53 85% 床面
		B 6.2				
6	坏 土師器	A 14.0	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外横する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P234 P L53 80% 床面
		B 6.0				
7	坏 土師器	A 12.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内横する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P235 P L53 80% 床面
		B 5.5				
8	坏 土師器	A 13.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外向へタ削り。内面ナデ。口縁部外向及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P236 P L53 75% 床面
		B 5.1				



第105图 第33号住居跡実測图



第106图 第33号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [14.5] B 5.9	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部との境に段をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色 青土	P237 P L54 75% 磁石に転用床面
10	坏土師器	A [14.0] B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色	P L51 60% 床面
11	坏土師器	A [13.4] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 青土	P239 P L54 40% 床面
12	坏土師器	A [15.0] B (5.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 青土	P240 10% 覆土下層
13	坏土師器	A 15.7 B 9.0	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に沈線が強い。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 青土	P241 P L54 95% 床面
14	須恵器	B (9.2)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、體中位に2条の沈線を通らせ、間に轡歯による刺突が施される。頸部には彫線状文が施される。	体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 灰オリーブ色 青土	P242 75%自然釉付器 覆土
15	塞土師器	A 17.9 B (29.0)	底面欠損。体部は内彎して立ち上がり、體中位を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 灰い褐色 青土	P243 P L54 80% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
16	口	玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土	孔径 2.0mm Q88 100% 滑石 P L71
17	白	玉	0.3	0.5	0.3	0.1	床面	孔径 2.0mm Q89 100% 滑石 P L71
18	白	玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q90 100% 滑石 P L71
19	白	玉	0.2	0.4	0.2	0.1	覆土	孔径 1.5mm Q91 100% 滑石 P L71

第34号住居跡 (第107図)

位置 1区北西部, B10g,区。

規模と平面形 長軸7.28m, 短軸7.28mの方形である。

主軸方向 N-52°-W。

壁 壁高は32~52cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅10~19cm, 下幅6~14cm, 深さ6~14cmで、断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 9条(a~i)。北東側に4条(a~d), 南東側に1条(e), 南西側に4条(f~i)確認され、長さ0.94~1.68m, 上幅10~28cm, 下幅4~22cm, 深さ4~6cmで、断面形は凹状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りにはP₂を囲むように、幅36~60cm, 高さ約5cmの馬蹄形の高まりが、北西壁から中央寄りには貯蔵穴を囲むように、幅20~30cm, 高さ2~3cmの錠状の高まりがみられる。

ピット 8か所(P₁~P₈)。P₁~P₄は、径46~70cm, 深さ0.94~2.08mで主柱穴。P₅は、径30cm, 深さ36cmで配置から主柱穴の一部と考えられる。P₅・P₇は、径44~54cm, 深さ40~42cmで配置から、いずれも出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₆は、径36cm, 深さ32cmで性格は不明である。

炉 2か所(伊A・B)。伊Aは中央から北西寄りにあり、長軸1.32m, 短軸0.94mの不整形で、床面を僅かに掘り深めている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む赤褐色土、第2層は

ローム粒子を少量、焼土粒子を多量、焼土小ブロックを少量含む赤褐色土。第3層はローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む明赤褐色土。第4層は焼土粒子を中量、炭化粒子を微量含む赤褐色土。第5層はローム粒子を多量、炭化粒子を中量含む明赤褐色土。第6層はローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む明赤褐色土。第7層はローム粒子及び焼土粒子を多量に含む褐色土である。炉床は火熱を受け、ブロック状に変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり、長径56cm、短径52cmの楕円形で、床面を3cm程掘り穿れている。覆土は1層で焼土粒子を中量、焼土小ブロックと炭化粒子を少量含む赤褐色土である。炉床は凸凹で火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー寄りの北西壁下に付設されている。長軸1.00m、短軸0.72mの長方形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり、第1層はローム粒子を少量とローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む褐色土。第2層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む褐色土。第3層はローム粒子を中量と炭化粒子を多量に含む暗褐色土。第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土。第5層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含むにぶい褐色土である。

覆土 33層からなり、下層から中層にかけては人為堆積である。

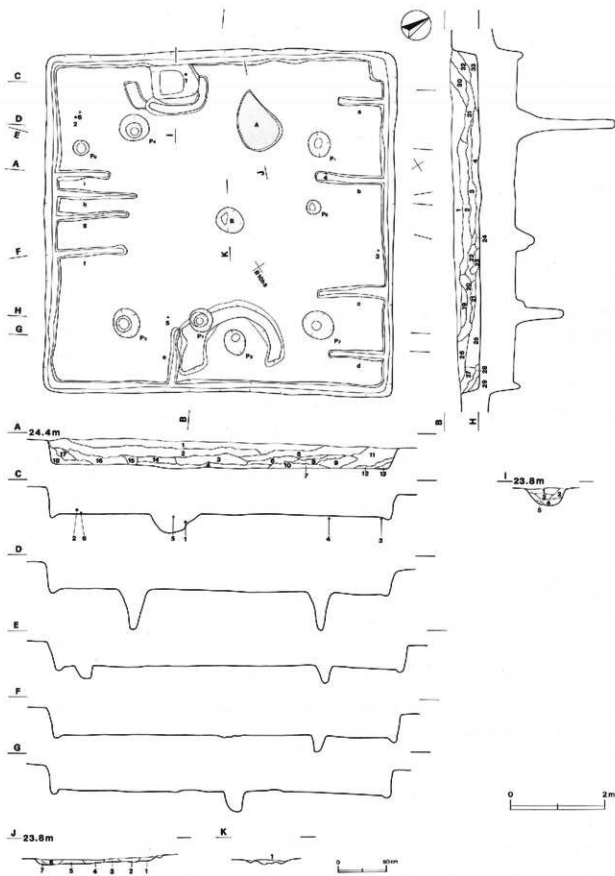
遺物 覆土上層から土師器片が少量出土している。第108図1は土師器甕で貯蔵穴の覆土上層から潰れた状態で出土している。3の砥石は北東壁際から、4の勾玉は北東寄りの床面から出土している。5と6は白玉で、5は南東寄りに、6は西コーナーからそれぞれ出土している。

所見 本跡の貯蔵穴は、出入り口方向と反対側の壁際に、馬の背状の高まりに囲まれるように確認されている。当遺跡から確認された住居跡にみられる貯蔵穴には、馬の背状の高まりによって囲まれるものも多くみられるが、位置はほとんどが出入り口施設をもつ壁際のものばかりであり、本跡例はみられない。間仕切り溝のうち、北東側に確認された4条については、規模及び形状、位置関係から、a・dとb・cまたはa・bとc・dがそれぞれ対になり、同じ機能を果たしていたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

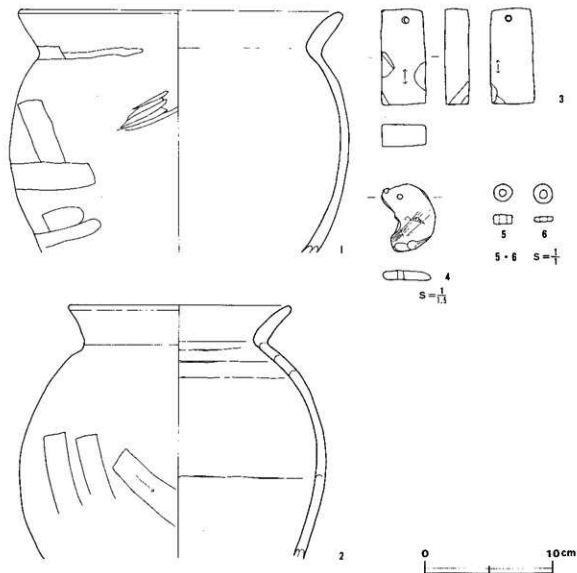
第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図1	土師器	A 25.1 B (19.3)	底部から体部の一部欠損。体部は内傾して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい黄褐色普通	P244 P L54 70% 貯蔵穴覆土上層
2	土師器	A 15.0 B (20.2)	高部から体部の一部欠損。体部は内傾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 暗赤褐色普通	P245 P L54 60% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		床面	孔径	Q%	備考
3	砥石	5.1	2.3	1.2	27.8	面	孔径 2.0mm	Q92 90%	砂岩 P L70	
4	勾玉	2.7	2.1	0.4	4.0	床面	孔径 2.0mm	Q93 100%	滑石 P L70	
5	砥石	0.2	0.5	0.2	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q94 100%	滑石 P L71	
6	白玉	0.1	0.5	0.1	0.1	床面	孔径 1.0mm	Q95 100%	滑石 P L71	



第107图 第34号住居跡実測图



第108図 第34号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡 (第109図)

位置 1区南西部, C10c区。

重複関係 本跡の西コーナー付近は, 第37号住居跡の東コーナー付近を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸7.26m, 短軸7.24mの方形である。

主軸方向 N-69°-W。

壁 壁高は26~70cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナー寄りの北西壁下を除き全周している。上幅6~17cm, 下幅2~10cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。北東壁側に2条(a・b), 南西壁側に1条(c)確認され, 長さ1.02~1.20m, 上幅13~26cm, 下幅3~8cm, 深さ6~14cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 幅24~76cm, 高さ約4cmのL字状の高まりがみられ, 出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径30~54cm、深さ86~98cmで主柱穴、P₅は、径22cm、深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りであり、長径1.37m、短径0.34mの楕円形で、床面を8cm程掘り窪めている。覆土は8層からなり、第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼上小ブロック、炭化粒子を少量含む明褐色土、第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土、第3層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を中量含む暗赤褐色土、第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量及び小石を僅かに含む赤褐色土、第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含む赤褐色土、第6層はローム粒子を微量と焼土を中量及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土、第7層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む赤褐色土、第8層は焼土粒子及び炭化粒子を少量と炭化物を微量含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径1.06m、短径0.96mの楕円形で、深さは46cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり、第1層はローム粒子を多量と炭化粒子を少量含む明褐色土、第2層は第1層に焼土粒子を少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を多量に含む暗褐色土、第4層はローム粒子を多量に含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

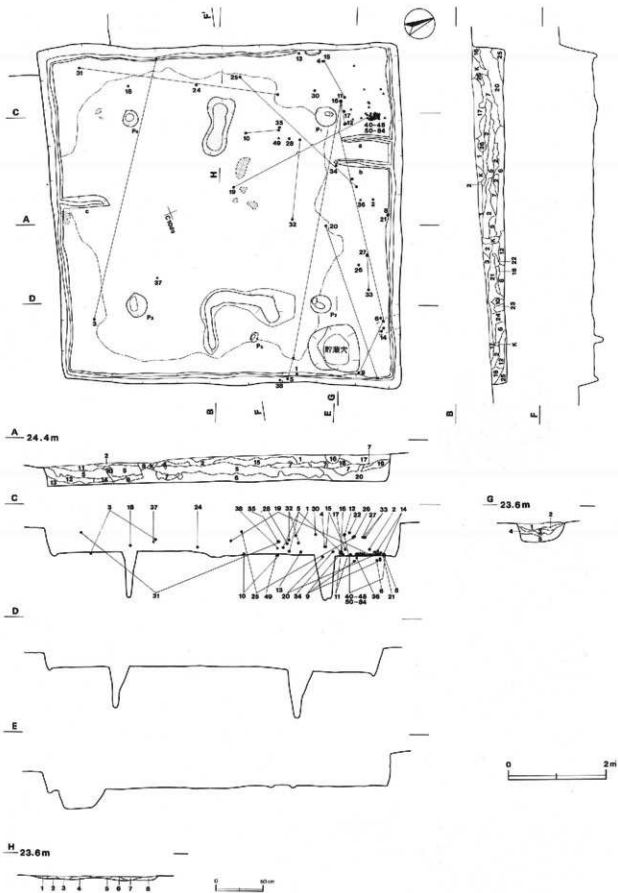
覆土 26層からなり、人為堆積である。焼土粒子、炭化粒子混じりの褐色土及び暗褐色土がブロック状に堆積している。

遺物 北側の覆土上層から床面を中心に、土師器の坏・甕等が多量に出土している。第110・111図1~17は土師器坏で、3は西コーナー寄りの覆土下層から出土した破片と南コーナーの床面から出土した破片が接合したものである。6は東コーナー寄りの南東壁際の床面から逆位の状態で出土している。20の土師器高坏は東コーナー部の床面から逆位の状態で、40~48、50~84の白玉は北コーナーの床面からまとめて出土している。22の須恵器の把子付埴は北東寄りの覆土上層から出土した破片と、第39・51号住居跡から出土した破片が接合したものである。

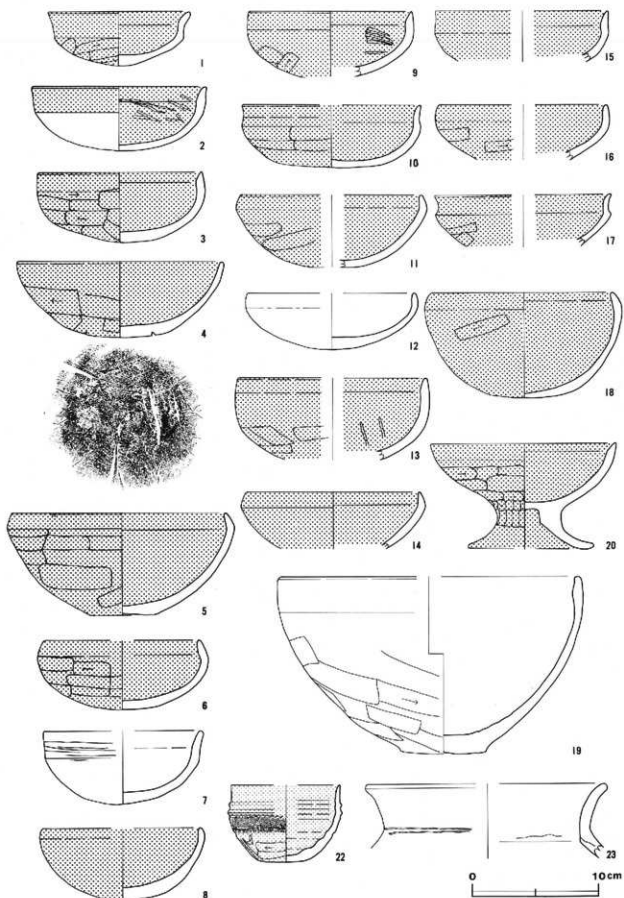
所見 本跡の規模は、第34号住居跡とほぼ同様である。壁際から炭化材及び焼土塊がみられることから焼失住居で、南西壁中央の壁下からは、屋根材と思われる炭化材が出土している。本跡は、出土遺物から占墳時代中期後半の住居跡である。

第35号住居跡出土遺物観察表

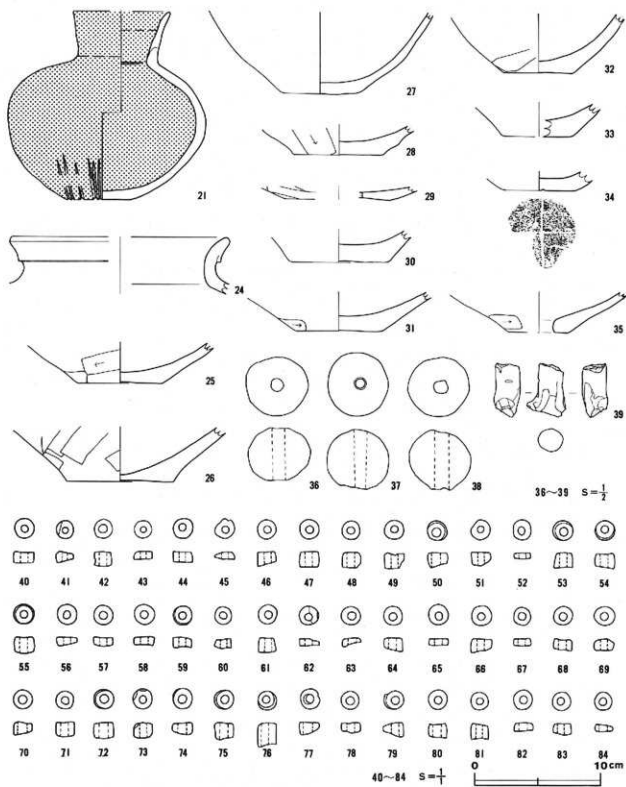
図数番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10・111図 1	坏 土師器	A 11.2	丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面内湾。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P246 P.L54 100% 覆土中層
		B 4.4				
2	坏 土師器	A 13.6	丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P247 P.L54 100% 覆土下層
		B 5.2				
3	坏 土師器	A 13.0	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P248 P.L54 95% 覆土下層
		B 5.7				
4	坏 土師器	A 16.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P249 P.L54 90% 磁石に転用 覆土下層
		B 6.1				
5	坏 土師器	A 17.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P250 P.L55 80% 覆土下層
		B 8.2				
		C 5.0				



第109图 第35号住居跡実測図



第110图 第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第111图 第35号住居跡出土遺物実測図(2)

河原番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	環土師器	A [14.0]	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P251 P L.55 75% 床面
		B 5.6				
7	環土師器	A 11.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 橙褐色 普通	P252 P L.55 76% 灰土
		B 5.9				
8	環土師器	A 12.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨耗。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P253 60% 床面
		B 5.7				
9	環土師器	A 13.0	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨る。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P254 50% 灰土下層
		B (5.4)				
10	環土師器	A [14.0]	底面から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線をもち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P255 P L.55 40% 床面
		B 5.0				
11	環土師器	A [14.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P256 P L.55 40% 覆土上層
		B 5.8				
12	環土師器	A [13.4]	底面から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨耗。	砂粒 赤色 普通	P257 35% 覆土上層
		B 4.6				
13	環土師器	A [14.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨る。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P258 30% 灰土下層
		B 6.6				
14	環土師器	A 14.0	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P259 20% 覆土上層
		B (4.6)				
15	環土師器	A [13.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P260 20% 覆土下層
		B (4.2)				
16	環土師器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P261 20% 覆土上層
		B (4.5)				
17	環土師器	A [14.0]	体部から口縁部の破片。体部と口縁部との境に線をもち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P262 16% 床面
		B (4.2)				
18	環土師器	A 14.5	体部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り後、ナデ。内面磨る。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P263 P L.55 80% 覆土下層
		B 8.3				
19	鉢土師器	A [23.6]	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面磨る。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P264 P L.55 70% 覆土下層
		B 14.2				
20	高土師器	A 14.8	胴部及び口縁部の一部欠損。胴部は短頸で、ラッパ状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び胴部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P265 P L.55 80% 床面
		D 8.4				
21	鉢土師器	A [7.8]	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内面横ナデ。体部外面磨る。内・外面赤彩。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P266 P L.55 既石に転用 床面
		B 15.2				
22	把持付短頸土師器	A [8.4]	体部、口縁部の一部及び把持部。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線をもち、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内・外面ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 良好	P267 P L.55 60% 自然焼付着 覆土上層
		B 6.3				
23	環土師器	A [18.8]	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P268 30% 覆土
		B 6.0				

図版番号	器 名	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色別・焼成	備 考
24	斐土師器	A [17.2]	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部及び頸部内・外面横ナダ。	長石・砂粒 褐色 普通	P269 10% 覆土下層
		B (4.6)				
25	斐土師器	B (3.3)	底部から体部の破片。平底。	底部外面へうすり後、ナダ。体部外面へうすり。内面摩耗。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P270 20% 覆土上層
		C 6.6				
26	土師器	B (4.0)	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	底部及び体部外面へうすり。内面ナダ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P271 20% 覆土中層
		C [8.6]				
27	斐土師器	B (6.6)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面摩耗。内面剝離。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P272 20% 覆土中層
		C 6.0				
28	斐土師器	B (2.6)	底部から体部の破片。平底。	底部及び体部外面へうすり。内面摩耗。	長石・砂粒 にぶい褐色 10%	P273 10% 覆土下層
		C 7.2				
29	斐土師器	B (1.1)	底部の破片。平底。	体部外面へうすり。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P274 10% 覆土
		C [8.5]				
30	斐土師器	B (3.6)	底部の破片。平底。	底部内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P275 10% 覆土中層
		C 8.0				
31	斐土師器	B (3.0)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へうすり。内面ナダ。	長石・砂粒 暗褐色 普通	P276 10% 覆土上層
		C 7.0				
32	斐土師器	B (4.8)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	底部外面へうすり後、ナダ。体部外面へうすり。内面剝離。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P277 20% 覆土下層
		C [5.6]				
33	土師器	B (2.8)	底部の破片。平底。	底部内・外面ナダ。	長石・砂粒 褐色 普通	P278 10% 覆土中層
		C [5.6]				
34	斐土師器	B (1.6)	底部の破片。平底。	底部内・外面ナダ。底部内・外面にへうすり×1。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P279 10% 覆土下層
		C 5.6				
35	土師器	B (3.2)	底部から体部の破片。単孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へうすり。内面ナダ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P280 10% 覆土下層
		C [4.8]				

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
36	球状土鏝	3.3	3.3	3.3	27.4	床 面	孔径 7.0mm	D P21 100% P L68
37	球状土鏝	3.2	3.4	3.2	32.7	覆 土	孔径 7.0mm	D P22 100% P L68
38	球状土鏝	3.2	3.3	3.2	28.2	覆 土	孔径 8.0mm	D P23 100% P L68
39	不明土製品	(2.9)	(2.1)	1.2	5.8	覆 土		D P24 P L69
40	F1 玉	0.5	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q96 100% 滑石 P L71
41	F1 玉	0.4	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 1.5mm	Q97 100% 滑石 P L71
42	F1 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q98 100% 滑石 P L71
43	F1 玉	0.3	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 1.5mm	Q99 100% 滑石 P L71
44	F1 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q100 100% 滑石 P L71
45	F1 玉	0.2	0.6	0.2	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q101 100% 滑石 P L71
46	F1 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q102 100% 滑石 P L71
47	F1 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q103 100% 滑石 P L71
48	F1 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q104 100% 滑石 P L71
49	F1 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q105 100% 滑石 P L71
50	F1 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.5mm	Q106 100% 滑石 P L71
51	F1 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 1.5mm	Q107 100% 滑石 P L71

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
52	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q108 100% 滑石 P L 71
53	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q109 100% 滑石 P L 71
54	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q110 100% 滑石 P L 71
55	白玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q111 100% 滑石 P L 71
56	白玉	0.2	0.6	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q112 100% 滑石 P L 71
57	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	床面	孔径 2.0mm Q113 100% 滑石 P L 71
58	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q114 100% 滑石 P L 71
59	白玉	0.3	0.6	0.3	0.1	床面	孔径 2.0mm Q115 100% 滑石 P L 71
60	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q116 100% 滑石 P L 71
61	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q117 100% 滑石 P L 71
62	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q118 100% 滑石 P L 71
63	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q119 100% 滑石 P L 71
64	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q120 100% 滑石 P L 71
65	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q121 100% 滑石 P L 71
66	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q122 100% 滑石 P L 71
67	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q123 100% 滑石 P L 71
68	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q124 100% 滑石 P L 71
69	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q125 100% 滑石 P L 71
70	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q126 100% 滑石 P L 71
71	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q127 100% 滑石 P L 71
72	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q128 100% 滑石 P L 71
73	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q129 100% 滑石 P L 71
74	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q130 100% 滑石 P L 71
75	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床面	孔径 2.0mm Q131 100% 滑石 P L 71
76	白玉	0.7	0.5	0.7	0.2	床面	孔径 2.0mm Q132 100% 滑石 P L 71
77	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.5mm Q133 100% 滑石 P L 71
78	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q134 100% 滑石 P L 71
79	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 2.5mm Q135 100% 滑石 P L 71
80	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q136 100% 滑石 P L 71
81	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm Q137 100% 滑石 P L 71
82	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q138 100% 滑石 P L 71
83	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm Q139 100% 滑石 P L 71
84	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q140 100% 滑石 P L 71

第36号住居跡 (第112図)

位置 1区南西部, C10b区。

規模と平面形 長軸3.14m, 短軸2.06mの長方形である。

主軸方向 N-39°-E。

壁 壁高は16~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

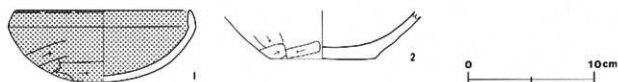
床 ほは平土で, 全体的に硬く踏み固められている。西コーナー付近は木根によって攪乱されている。

炉 中央から北東寄りにあり, 径68cmの円形で, 床面を3cm程掘り穿れている。覆土は2層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土, 第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を多量に含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

覆土 7層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第4層はローム粒子を多量を含む明褐色土、第5層はローム粒子を多量と褐色土ブロックを少量含む明褐色土、第6層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。

遺物 東コーナー及び炉周辺の覆土上層から下層にかけて、少量の土師器破片等がまとめて出土している。第113図2の土師器甕は東コーナーの覆土上層（第1層）から斜位の状態で出土している。1の土師器環は南東部覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

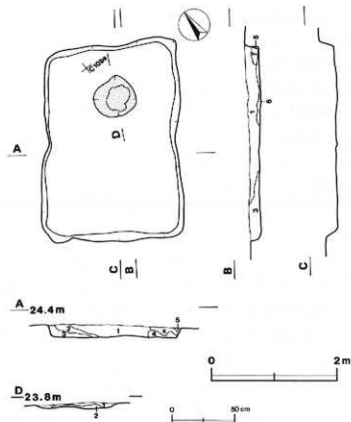
所見 遺物は意図的に破壊されたと思われる細片がほとんどである。本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第113図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土土・色調・産成	備考
第113図 1	環 土師器	A 14.0 B 5.7	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面縞ナデ。体部外面ヘラ刮り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P281 PL55 90% 覆土上層
2	甕 土師器	A (13.0) B 8.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	底部及び体部外面ヘラ刮り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 におい黄褐色 普通	P282 20% 覆土上層



第112図 第36号住居跡実測図

第37号住居跡 (第114図)

位置 1区南西部, C10d区。

重複関係 本跡の東コーナー付近は, 第35号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸2.56mの長方形である。

主軸方向 (N-20°-E)。

壁 壁高は42~58cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

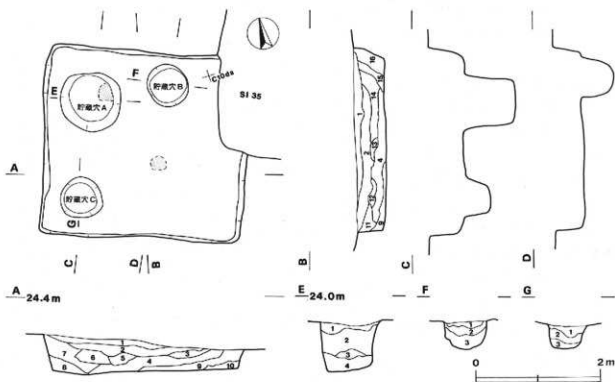
床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。

貯蔵穴 3か所 (貯蔵穴A~C)。貯蔵穴Aは, 北コーナーに付設されている。径約1mの円形で, 深さは84cmである。底面は平坦で, 壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層からなり, 第1層はローム粒子とローム小・中ブロックを少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を中量とローム大ブロックを微量含む褐色土, 第4層はローム大ブロックと焼土中ブロックを少量含む褐色土である。底面には焼土と焼土ブロックが少量みられる。貯蔵穴Bは, 中央から北東寄りに付設されている。径68cmの円形で, 深さは50cmである。底面は皿状で, 壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。貯蔵穴Cは, 西コーナーに付設されている。径66cmの円形で, 深さは42cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム小ブロックを少量含むにぶい褐色土, 第2層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土中ブロックを少量と焼土粒子を中量含む赤褐色土である。

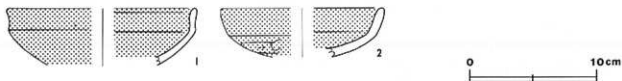
覆土 16層からなり, 人為地積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小から大ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小・大ブロックを少量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小・中ブロックを中量含む褐色土, 第5層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む黒褐色土, 第6層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中・大ブロックを少量含む褐色土, 第7層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む褐色土, 第8層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子を少量含むにぶい褐色土, 第9層はローム粒子及びローム中ブロックを少量と焼土小ブロックを多量に含む暗褐色土, 第10層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む明褐色土, 第11層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む褐色土, 第12層はローム粒子及びローム小ブロックと焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第13層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む褐色土, 第14層はローム粒子及びローム小・大ブロックを少量含む褐色土, 第15層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第16層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及びローム中ブロックを中量含むにぶい褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が38点出土しているだけである。第115図1と2は土師器環で, 1は西コーナー寄りの覆土中層から, 2は北西寄りの覆土上層から出土している。

所見 本跡は, 貯蔵穴を3か所所有するほかは内部施設を何もたない小形の建物跡で, 第64・71号住居跡と類似している。本跡は, 遺構の形態及び出土遺物等から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第114図 第37号住居跡実測図



第115図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器型	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土 磨 器	A [14.6] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内 斡して立ち上がり、口縁部は直立 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P283 20% 覆土中層
2	坏 土 磨 器	A [12.6] B (3.9)	体部から口縁部の破片。体部は内 斡気味に立ち上がり、口縁部は外 斡する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り。内面ナデ。内・外面赤 彩。	長石・雲母・砂粒 暗赤褐色 普通	P284 20% 覆土上層

第38号住居跡 (第116図)

位置 1区西南部, C10d区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.26mの方形である。

主軸方向 (N-30°-E)。

壁 壁高は4~22cmで、外傾して立ち上がっている。

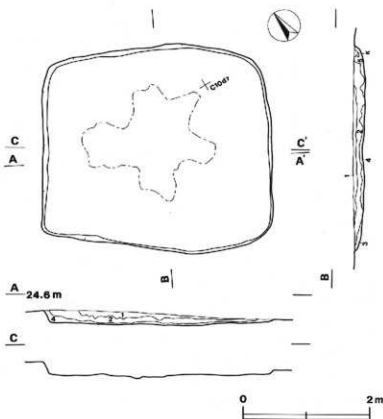
床 凸凹で、中央部は硬く踏み固められている。

覆土 5層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を微量と焼土小ブロックを極微量含む黒褐色土、

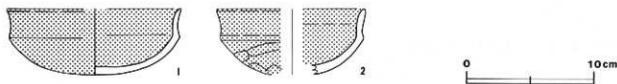
第2層はローム粒子を微量とローム小ブロック及び焼土粒子を極微量含む褐色土、第3層はローム粒子及び

ローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子を極微量含む褐色土、第5層はローム粒子を微量とローム中ブロックを極微量含む褐色土である。

遺物 覆土第1・2層から、土師器の坏・甕片等が僅かに出土している。第117図1・2は土師器坏で、いずれも中央部から出土している。
所見 本跡は内部施設を何もたない小形の建物跡である。遺物はすべて流れ込んだものであるが、出土遺物及び遺構の形態から、古墳時代中期後半のものと考えられる。



第116図 第38号住居跡実測図



第117図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	坏 土師器	A [13.8] B 5.2	底部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部上の境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P285 30% 覆土上層
2	坏 土師器	A [11.8] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P286 20% 覆土上層

第39号住居跡 (第118図)

位置 1区南西部、C10b区。

規模と平面形 長軸5.34m、短軸4.50mの長方形である。

主軸方向 N-26°-E。

壁 壁高は46~60cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅10~18cm、下幅4~12cm、深さ7~10cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南西壁から中央寄りには、長軸1.70m、短軸1.24mの方形状の高まりがみられる。床面との比高は約4cmで、出入り口施設と考えられる。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は、径34~56cm、深さ18~24cmで土柱穴、P₄は、径18cm、深さ26cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から南東寄りにあり、長軸82cm、短軸53cmの楕円形で、床面を4cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり、すべて明赤褐色土である。第1層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を中量、第2層は第1層に比べ焼土粒子を多量に含んでいる。第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量、第4層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含んでいる。

貯蔵穴 北コーナーに付設されている。径1.10mの円形で、深さ48cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を中量と黒色土を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第4層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含むにぶい褐色土である。

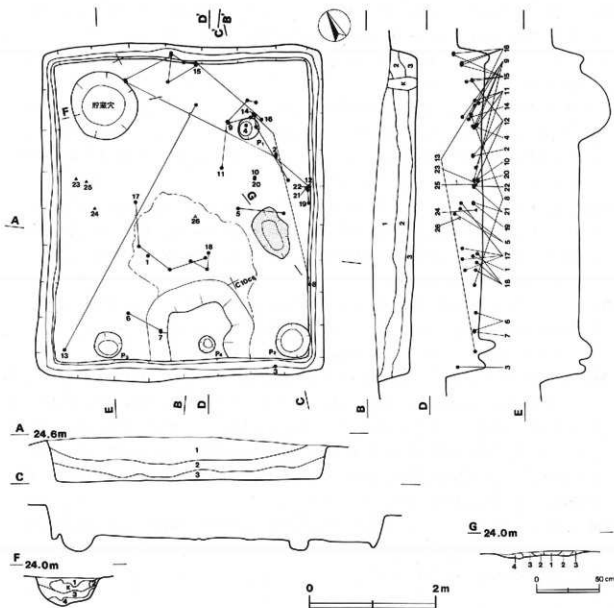
覆土 3層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを多量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む明褐色土である。

遺物 覆土の第2・3層にかけて、土師器の坏・變片を主体に多量に出土している。第119~121図1・2・4・6~8の土師器坏は、いずれも覆土第3層から出土したもので、1は中央から南西寄りに正位、2は同じく東寄りに斜位、6は西コーナーに正位の状態出土している。3は南コーナー覆土第2層から斜位の状態出土している。10~22の土師器變は、10が東寄りの覆上下層から逆位の状態、14が北東寄りの覆土下層から潰れた状態で、21が南東壁際の覆土第3層から潰れた状態で出土している。23~25の白玉は北西寄りの覆土第3層から、26の小札は覆土第2層から出土している。

所見 本跡の貯蔵穴は北コーナーに、炉は出入り口付近に位置し、当遺跡から確認された他の住居跡とは異なる場所に付設されている。出入り口施設の高まりは、ロームを掘り残してつくられている。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

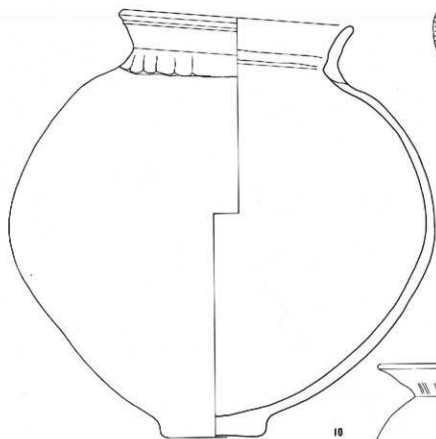
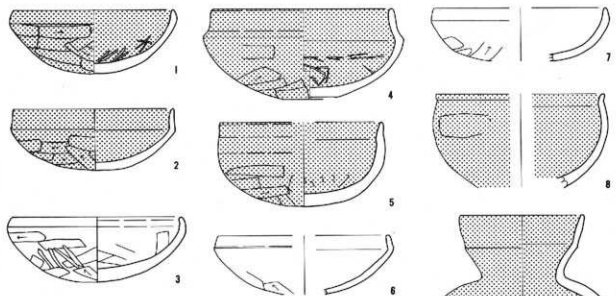
第39号住居跡出土遺物観察表

図収番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39号 1	坏 土師器	A 12.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P287 P L56 100% 覆上下層
		B 5.1				
2	坏 土師器	A 12.8	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は突る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤色 普通	P288 P L56 95% 覆土下層
		B 5.0				
3	坏 土師器	A 13.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P289 P L56 95% 覆土上層
		B 5.3				
4	坏 土師器	A 14.4	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P290 90% 覆土下層
		B 7.2				
		C 4.4				
5	坏 土師器	A [13.1]	口縁部 一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は突る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P291 90% 覆土上層
		B 6.8				
6	坏 土師器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P292 25% 覆土下層
		B (4.7)				

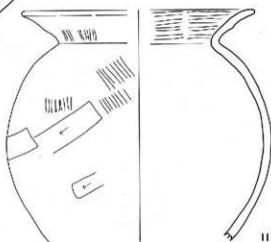


第118図 第39号住居跡実測図

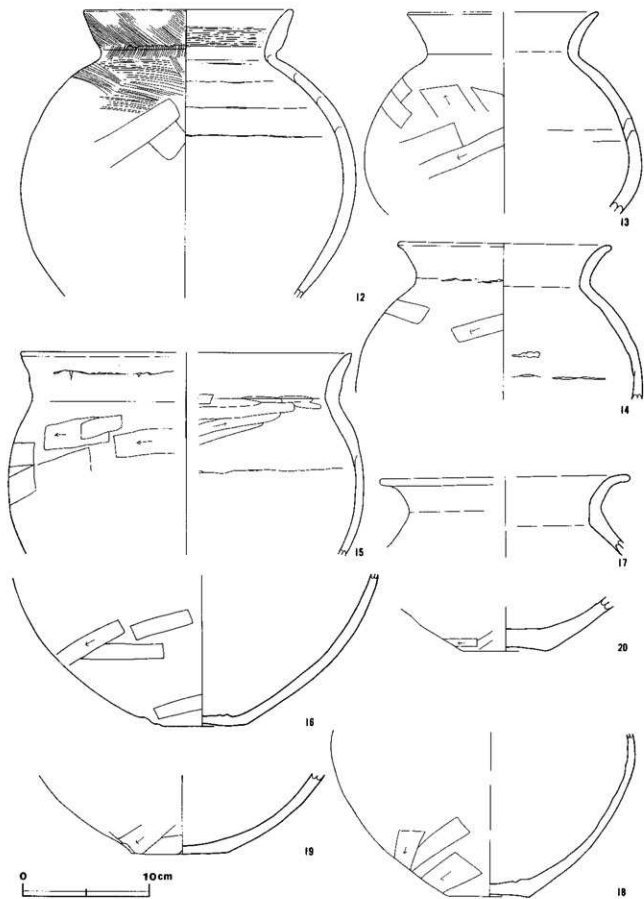
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	坏土師器	A [13.8] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘナデ。内面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P293 20% 覆土下層
8	坏土師器	A [13.2] B (7.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P294 30% 覆土下層
9	壺土師器	A 10.0 B (14.3)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾し、中位に稜をもつ。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘナデ。ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P308 P L57 75% 覆土下層
10	壺土師器	A 18.2 B 34.4 C 8.4	体部の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内面横ナデ。頸部外面下位ヘナデ。体部外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄褐色 普通	P295 P L57 90% 覆土下層
11	壺土師器	A [18.4] B (18.5)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は大きく外反する。頸部に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ハケ目調整。体部外面ヘナデ。ナデ。ハケ目調整。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P296 P L56 75% 覆土下層



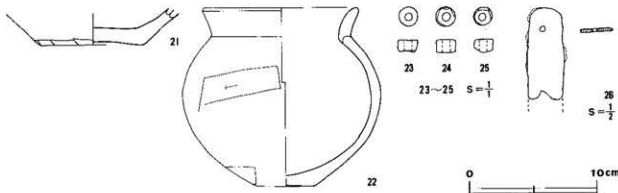
10



第119図 第39号住居跡出土遺物実測図(1)



第120图 第39号住居跡出土遺物実測図(2)



第121図 第39号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	壺 十 胎器	A 16.8	底部欠損。体形は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部は肥厚し、口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面ハケ目調整。体部外面へテ削り後、ハケ目調整。内面ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P 297 P L 57 55% 覆土下層
		B (23.2)				
13	甕 土 胎器	A (15.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へテ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 に多い黄褐色 普通	P 298 P L 56 35% 覆土下層
		B (16.3)				
14	壺 土 胎器	A 16.5	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へテ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P 299 P L 56 20% 覆土下層
		B (12.2)				
15	甕 土 胎器	A (26.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へテ削り後、ナデ。	長石・砂粒 に多い黄褐色 普通	P 300 P L 55 30% 覆土上層
		B (16.3)				
16	壺 土 胎器	B (12.0)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へテ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 に多い褐色 普通	P 301 15% 覆土上層
		C 6.7				
17	甕 土 胎器	A (20.0)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 に多い黄褐色 普通	P 302 P L 57 5% 覆土上層
		B (6.5)				
18	甕 土 胎器	B (13.2)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へテ削り。内面横削。体部外面へテ削り後、ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 303 P L 57 20% 覆土下層
		C 6.5				
19	壺 土 胎器	B (6.4)	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へテ削り。内面及び体部外面ナデ。	長石・砂粒 に多い黄褐色 普通	P 304 10% 覆土下層
		C 7.8				
20	甕 土 胎器	B (3.5)	底部の破片。平底。	底部外面へテ削り後、ナデ。内面割離。	長石・砂粒 褐色 普通	P 305 5% 覆土下層
		C 6.9				
21	壺 土 胎器	B (2.9)	底部の破片。平底。	底部内・外面へテ削り後、ナデ。	長石・砂粒 に多い赤褐色 普通	P 306 5% 覆土下層
		C 8.2				
22	甕 土 胎器	A 12.2	体部の 形欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へテ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 307 P L 57 75% 覆土下層
		B 14.4				
		C 4.4				

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考				
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	径	割合	備 考	
23	臼	玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q141 100%	滑石	P L 71
24	臼	玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q142 100%	滑石	P L 71
25	臼	玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q143 100%	滑石	P L 71
26	小	札	(4.9)	1.9	0.2	(4.2)	覆土上層	孔径 2.5mm	M8	鉄製	P L 71

第40号住居跡 (第122図)

位置 1区北東部, B10i区。

重複関係 本跡の北コーナー寄りの北東壁は第129号土坑に、西コーナー寄りの南西壁は第128号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.36m, 短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-71°-W。

壁 壁高は36~60cmで、北西壁は外傾して、その他の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。東コーナー寄りの南東壁は攪乱され壊されている。

壁溝 壁下を全周している。上幅12~20cm, 下幅8~16cm, 深さ7~12cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、P₁-P₁の内側は硬く踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁-P₅)。P₁-P₄は、径56~76cm, 深さ70~82cmで主柱穴, P₅は、径37cm, 深さ52cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

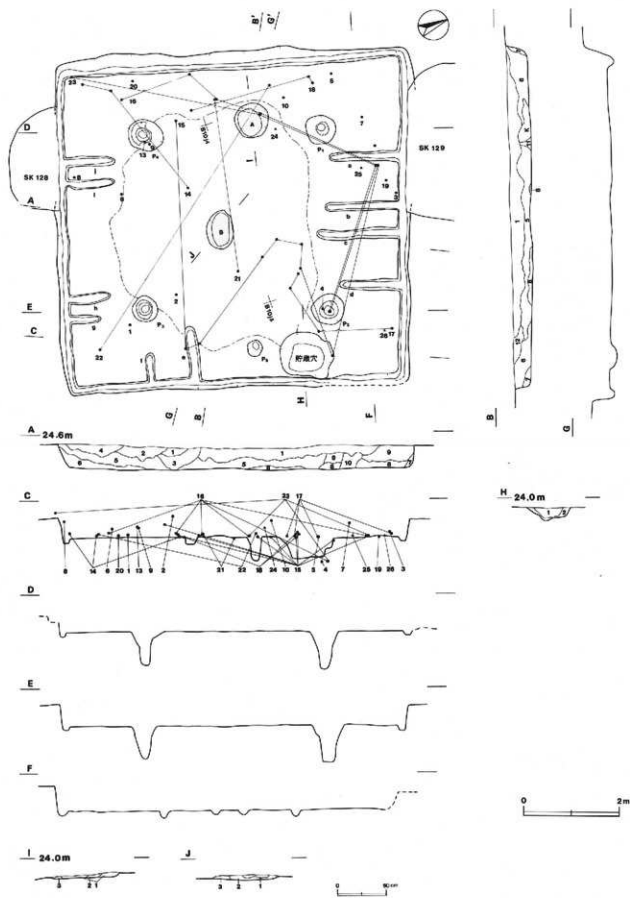
炉 2か所 (炉A・B)。炉床の状態から炉Aに比べ炉Bの方が使用頻度が高いことがわかる。炉Aは、中央から北西寄りに付設されている。径74cmの円形で、炉床はほとんど掘り窪められておらず、床面が僅かに赤変している程度である。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む赤褐色土、第3層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含むむい赤褐色土である。炉Bは、ほぼ中央部に付設されている。長径84cm, 短径56cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土、第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含むむい赤褐色土、第3層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量、焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー寄りの南東隈下に付設されている。長径1.16m, 短径0.96mの楕円形で、深さは43cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子を多量を含む明褐色土である。

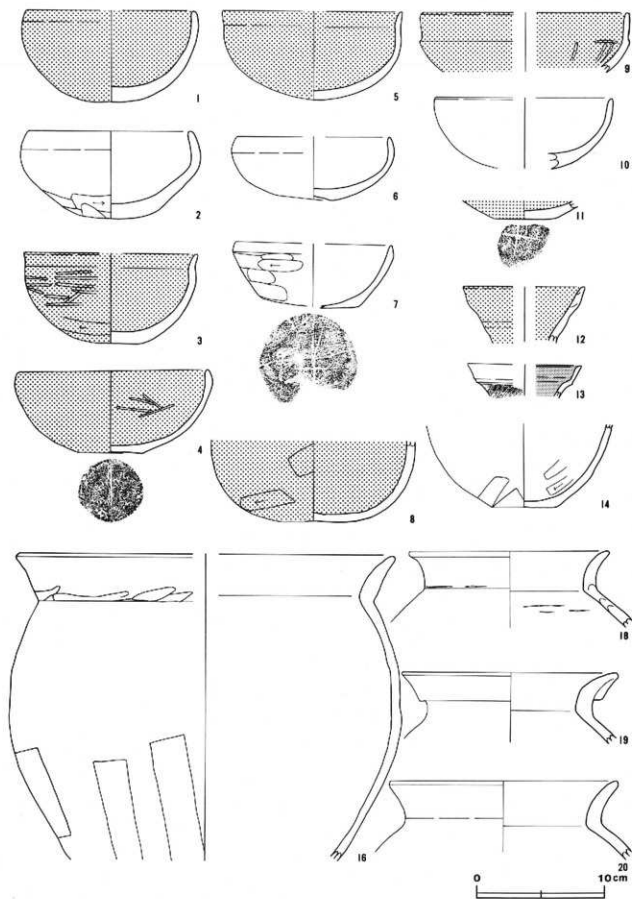
覆土 12層からなり、下層は人為堆積、上層は自然堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む黒褐色土、第3層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土、第4層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第7層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第8層はローム粒子を多量とローム大ブロックを微量含む褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第11層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第12層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。

遺物 ほとんどが覆土上層から下層にかけて出土したもので、床面からの出土は少量である。第123図4の土師器環はP₁内覆土下層から斜位の状態、14の土師器環と20の土師器壺は南西コーナー付近の覆土下層及び床面から正位の状態出土している。第125図17・21・22の土師器壺は東側の床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。第123図13の須恵器壺は南西寄りの覆土下層から出土している。

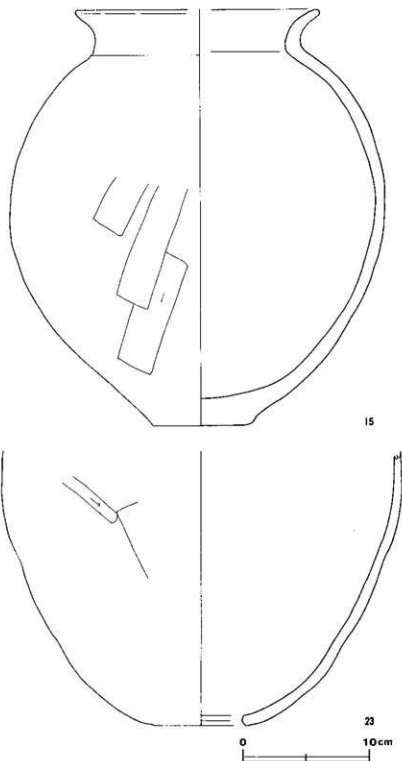
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第122图 第40号住居跡实测图



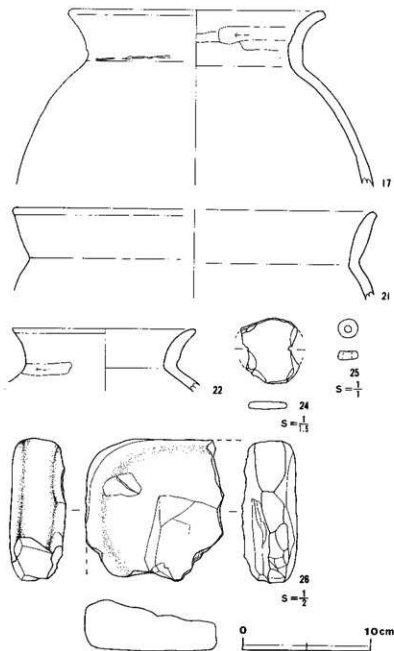
第123图 第40号住居跡出土遺物実測図(1)



第124図 第40号住居跡出土遺物実測図(2)

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122-123図 1	坏 土器	A 13.2 B 7.4	丸底。体部は内斡して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外向横ナデ。体部内・外向厚削。内・外面赤彩。	長石・砂粒 100% 赤褐色 普通	P 309 P L 56 100% 覆土下層
2	坏 土器	A 13.0 B 7.1	丸底で、体部は内斡して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P 310 P L 56 100% 覆土上層



第125図 第40号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏 土 器	A 13.7	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面刺離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P311 P L56 80% 覆土下層
		B 7.3				
		C 5.0				
4	坏 土 器	A 14.9	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P312 P L56 80% P ₂ 覆土下層
		B 6.8				
		C 5.0				
5	坏 土 器	A [14.2]	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P313 P L56 70% 床面
6	坏 土 器	A [12.2]	底部から口縁部の一部欠損。上げ部で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面刺離。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P314 P L56 70% 覆土下層
		B 5.1				
		C 3.8				
7	坏 土 器	A [12.4]	底部から口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り。内面ナデ。底面にヘラ記号「X」。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P315 P L56 60% 覆土上層
		B 5.2				
		C [7.6]				

図表番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・検出	備考
8	坏土胎器	B (6.5)	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面、ヘラ削り後、ナデ。内面割磨。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P316 P L56 60% 覆土上層
9	坏土胎器	A [16.4] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部と口縁部との間に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P317 P L56 10% 覆土下層
10	坏土胎器	A [13.8] B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	内・外面磨純。	砂粒 ぶい・橙色 普通	P318 30% 覆土上層
11	坏土胎器	B (1.5) C 5.6	底部の破片。平底。	底部外面ヘラ削り後、ナデ。ヘラ記号「×」。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P319 P L55 10% 覆土
12	壺土胎器	A [9.6] B (4.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P320 10% 覆土
13	壺須器	A [9.0] B (2.5)	頸部から口縁部の破片。頸部とは頸部の境に稜をもち、口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部に櫛節波状文が施される。	長石・砂粒 黄灰色 普通	P321 P L57 5% 自然釉付管 覆土下層
14	壺土胎器	B (6.6) C 5.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P322 20% 覆土下層
15	壺土胎器	A [19.0] B 33.6 C 7.8	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 ぶい・橙色 普通	P323 P L57 70% 覆土下層
16	壺土胎器	A [29.6] B (24.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	石英・砂粒 ぶい・褐色 普通	P324 P L56 30% 床面
17	壺土胎器	A 19.8 B (14.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 橙褐色 普通	P325 P L57 40% 床面
18	壺土胎器	A 15.8 B (6.2)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P326 P L56 30% 覆土下層
19	壺土胎器	A 17.2 B (5.7)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 ぶい・黄褐色 普通	P327 P L56 30% 床面
20	壺土胎器	A [18.0] B (6.3)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 ぶい・橙色 普通	P328 P L56 20% 床面
21	壺土胎器	A [28.2] B (7.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 ぶい・橙褐色 普通	P329 10% 床面
22	壺土胎器	A 14.4 B (5.0)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部外面下位ヘラ削り。	長石・砂粒 ぶい・橙褐色 普通	P330 P L56 10% 覆土下層
23	壺土胎器	B (22.0) C 7.0	底部から体部の破片。平底式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい・橙褐色 普通	P331 P L57 30% 覆土下層

図表番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
24	双孔円板	(2.3)	(2.6)	0.3	2.0	覆土下層	孔径 [2.0mm] Q144 75% 滑石 P L70
25	円玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q145 100% 滑石 P L71
26	小明石製品	(7.5)	(7.2)	(2.9)	131.0	床面	Q146 安山岩 P L70

第41号住居跡 (第126図)

位置 1区西部, C10a.区。

規模と平面形 長軸2.52m, 短軸2.34mの不定形である。

主軸方向 N-155°-E。

壁 壁高は8~22cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で, 中央部分は僅かに盛り上がり, 硬く踏み固められている。

竈 竈状の遺構で, 中央から南東寄りに付設されている。幅14~27cm, 高さ約18cm, 径約90cmで山砂混じりの粘土でリング状に構築されている。火床部は床面を12cm掘り込み, 皿状をしている。内壁及び火床は火熱を受け, 赤変硬化している。火床部内から完形の土師器境が逆位の状態で出土している。覆土は9層からなり, 第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量含む暗赤褐色土, 第2層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む暗赤褐色土, 第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量及び砂を少量含む暗赤褐色土, 第4層は焼土粒子を少量と焼土中ブロックを中量含む明赤褐色土, 第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び粘土小ブロックを少量含む褐色土, 第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む濃い赤褐色土, 第7層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含む濃い赤褐色土, 第8層は焼土粒子を多量含む褐色土, 第9層はローム粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む明褐色土である。

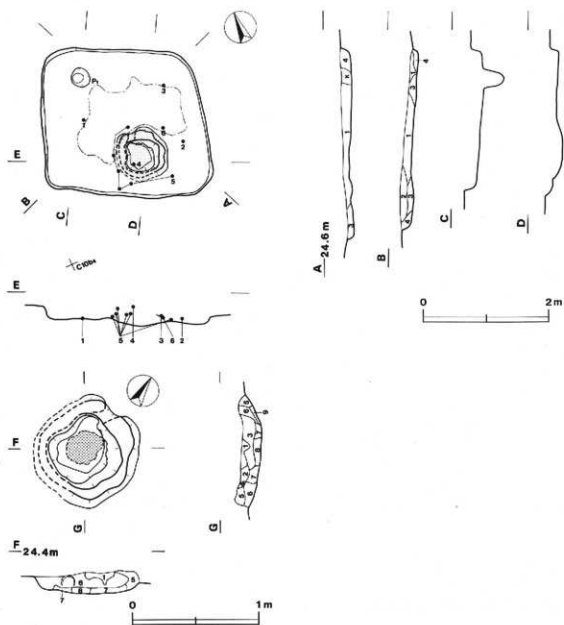
覆土 4層からなり, 人為地堆である。第1層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化物を微量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム中ブロックを中量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第4層はローム粒子を多量を含む明褐色土である。

遺物 竈の周辺から, 土師器片が極少量出土している。第127図1と2の土師器環は, 1が北西寄りの床面から正位の状態, 2が南東寄りの床面から逆位の状態出土している。4の土師器境は竈内から逆位の状態出土している。

所見 本跡は, 小形の建物跡で炉の代わりに竈状の遺構を有している。壁外に掘り込んで構築する竈以前のもので, 粘土をリング状に積み上げて構築しただけで, 天井部はなかったものと考えられる。火床部から出土した塊は出土状況から支脚の役割を果たしていた可能性が考えられる。本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。

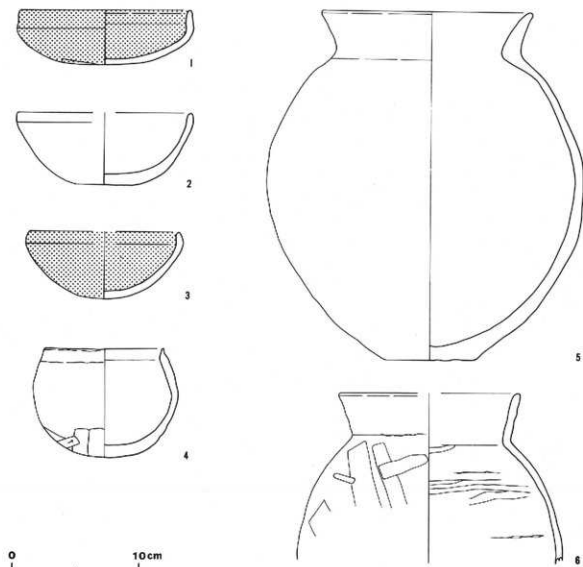
第41号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	環 土師器	A 13.5	体部の一部欠損。丸底で, 体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ丸り後, ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P332 P.L.58 70% 床面
		B 4.3				
2	環 土師器	A 13.8	口縁部の一部欠損。平底で, 体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P333 65% 床面
		B 5.8				
		C 5.0				
3	環 土師器	A 12.0	底面から口縁部の破片。丸底で, 体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P334 30% 復土土層
		B 5.4				
4	塊 土師器	A 9.4	丸底で, 体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は直立する。口唇部は突出する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ丸り後, ナデ。内側ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P335 P.L.58 100% 竈
		B 8.8				
5	甕 土師器	A 16.1	体部の一部欠損。体部は球形状で, 最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒 濃い褐色 普通	P336 P.L.59 65% 復土土層
		B 28.2				
		C 6.9				



第126図 第41号住居跡実測図

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産成	備考
6	薬土師器	A [14.0] B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面へラナデ後、ナデ。	砂粒に多い黄褐色普通	P337 P L57 30% 覆土上層



第127図 第41号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡 (第128図)

位置 1区西部, C10a区。

規模と平面形 長軸3.98m, 短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N-43°-E。

壁 壁高は26~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

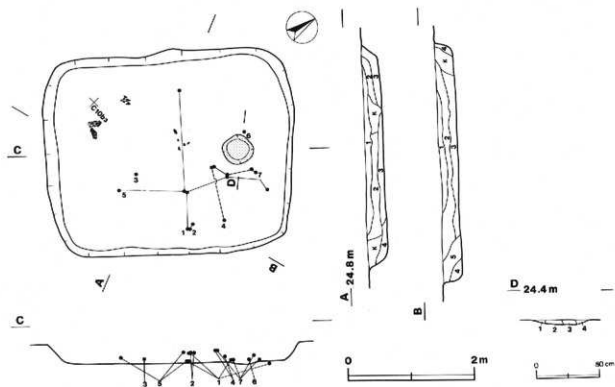
床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。

炉 中央から北東寄りにあり, 径46cmの円形で, 床面を6cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり, すべてに赤褐色土である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量, 第2層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量, 第3層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含む。覆土5層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む褐色土, 第4層はローム粒子を多量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土

である。

遺物 北東側を中心に、土師器の破片等が大量に出土している。第129図4の土師器甕は第1層と第3層から出土したものが接合したものである。1の土師器甕及び第130図7の土師器甕は北東寄りの覆土下層（第3層）から出土している。

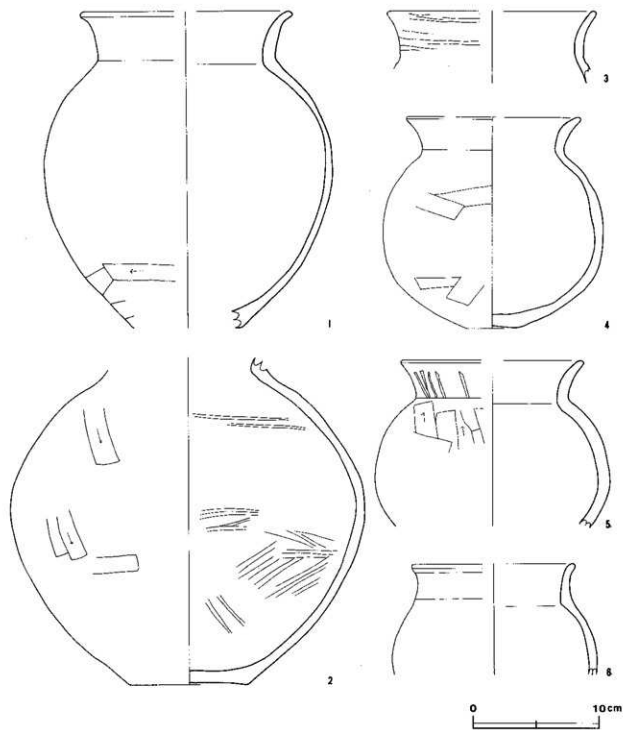
所見 本跡は、床面及び覆土下層に、炭化材が確認されていることから、焼失したと思われる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第128図 第42号住居跡実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器部の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 1	甕	A [16.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P338 P.L60 50% 覆土下層
	土師器	B [25.5]				
2	甕	B (26.1)	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P339 P.L60 40% 覆土上層
	土師器	C 9.4				
3	甕	A [16.0]	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P340 5% 覆土下層
	土師器	B 5.7				
4	甕	A 13.6	底部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい褐色 普通	P341 P.L57 30% 覆土上層
	土師器	B 17.0				
	土師器	C 4.2				
5	甕	A [13.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P342 P.L57 30% 覆土下層
	土師器	B [13.3]				
6	甕	A [12.9]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 ぶい褐色 普通	P343 P.L58 30% 覆土下層
	土師器	B [8.9]				



第129図 第42号住居跡出土遺物実測図(1)

図表番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	瓶 土師器	A 25.2 B 28.6 C 7.4	底部及び体部の一部欠損。無底式。 体部は内側気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸徑から1/3部は外積する。	口縁部及び頸部内・外側横ナデ。 体部外向ヘラ削り。	長石・砂粒 による褐色 普通	P344 P L58 80% 覆上下段

第43号住居跡 (第131図)

位置 1区南西部, C10e3区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.24mの方形である。

主軸方向 N-27°-E。

壁 壁高は42~64cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~24cm, 下幅3~16cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 4条(a~d)。北東壁側に1条(a), 南東壁側に1条(b), 南西壁側に2条(c・d)確認され, 長さ0.62~1.08m, 上幅14~22cm, 下幅4~10cm, 深さ8cmで, 断面形は皿状をしている。

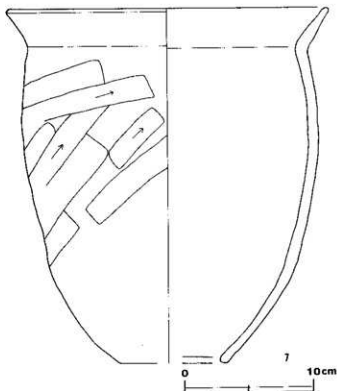
床 ほぼ平坦で, 出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南西壁から中央寄りには幅約40cm, 高さ6cm程の馬の背状の高まりが艇状にみられ, 出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径32~42cm, 深さ48~64cmで主柱穴, P₅は, 径12cm, 深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北東寄りにあり, 長軸84cm, 短軸54cmの不整形で, 床面を4cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を多量を含む明赤褐色土, 第2層は焼土粒子を多量を含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。径72cmの円形で, 深さは42cmである。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり, 第1層はローム粒子及びローム中ブロックと炭化物を中量及び焼土小ブロックを少量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子及び炭化物を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を中量含む灰褐色土, 第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を中量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を多量, 焼土小ブロック及び炭化物を中量含む濃い赤褐色土, 第6層は焼土粒子を多量を含む赤褐色土である。

覆土 14層からなり, 照原は人為堆積, 中央部付近は自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を少量とローム中ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量及び炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第8層はローム粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗褐色土,



第130図 第42号住居跡出土遺物実測図(2)

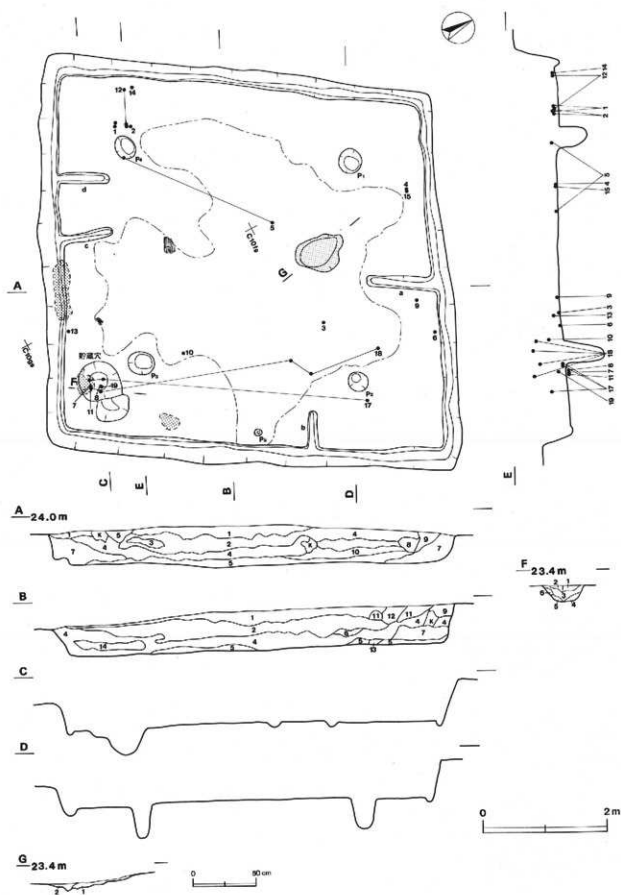
第9層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土、第10層はローム粒子を多量とローム小・大ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量、第11層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含む暗褐色土、第12層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量、焼土中ブロックを微量と炭化粒子を少量含む暗褐色土、第13層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土、第14層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化物を微量、炭化粒子を少量含む褐色土である。

遺物 各コーナー付近の床面及び覆土下層から、土師器の坏・壺片等が多数出土している。第132図1・2の土師器坏と12・14の土師器壺は西コーナー付近の覆土下層から、3・6・9の土師器坏は東コーナー付近の床面から、7・8・11の土師器坏は貯蔵穴の覆土から斜位の状態で出土している。4の土師器坏及び15の土師器壺は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。20～22の球状土師は東コーナー付近の覆土中から出土している。

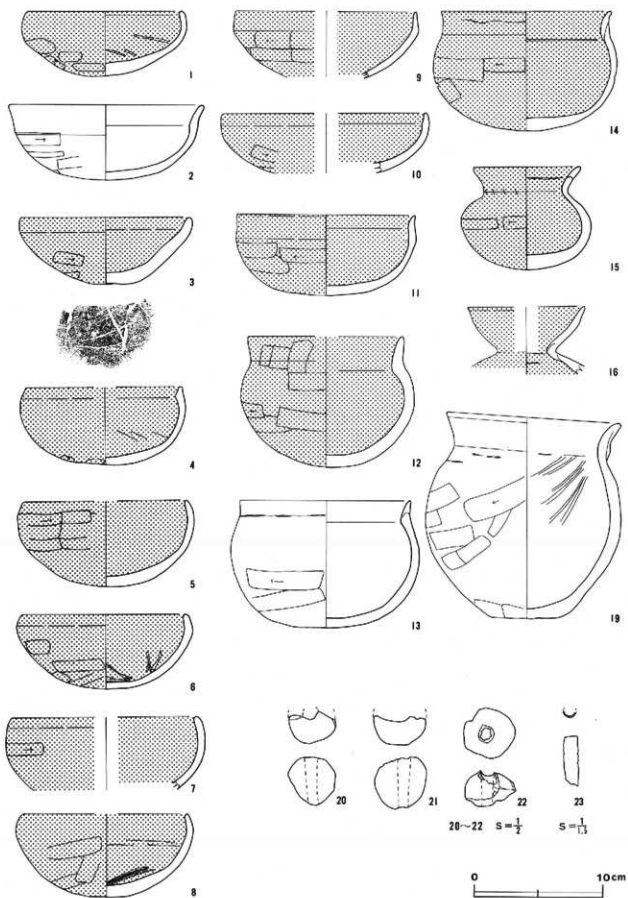
所見 本跡は、床面及び覆土下層から焼土、炭化材が確認されていることから、焼失したものと考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

第43号住居跡出土遺物観察表

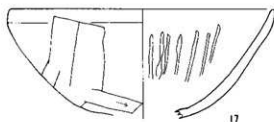
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器	A 12.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P345 P L58 95% 覆土下層
		B 5.3				
2	土師器	A 15.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P346 P L59 95% 覆土下層
		B 6.1				
3	土師器	A 13.6	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 褐色 普通	P347 P L58 70% 床面
		B 5.4				
		C 2.5				
4	土師器	A [12.0]	底面から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P348 P L58 70% 覆土下層
		B 6.3				
5	土師器	A [13.0]	口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部に内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P349 P L58 70% 覆土下層
		B 6.8				
6	土師器	A 12.8	底面から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P350 P L58 55% 床面
		B 5.9				
7	土師器	A [14.7]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P351 30% 覆土下層
		B (5.9)				
8	土師器	A 12.8	丸底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P352 P L58 100% 貯蔵穴
		B 6.7				
9	土師器	A [14.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は突る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P353 10% 床面
		B (5.4)				
10	土師器	A [16.1]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部内面に凹線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P354 20% 覆土中層
		B (4.8)				
11	土師器	A [14.0]	底面から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P355 P L58 70% 床面
		B 7.5				
12	土師器	A 12.2	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内面横ナデ。口縁部外面及び体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P356 P L58 95% 覆土下層
		B 10.6				



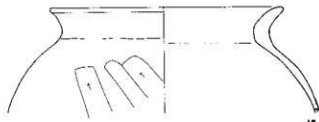
第131图 第43号住居跡実測图



第132图 第43号住居跡出土遺物実測図(1)



17



18



第133図 第43号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
13	埴土師器	A 13.4	口縁部の部欠損。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P 357 P L 58 覆土下層
		B 10.2				
14	埴土師器	A 13.3	体部から口縁部の部欠損。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	石灰・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P 358 P L 59 70% 覆土下層
		B 9.7				
15	赤土師器	A 8.4	口縁部の部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 359 P L 59 95% 覆土下層
		B 8.3				
16	埴土師器	A [9.2]	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。	内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 褐色 普通	P 360 10% 覆土
		B (5.6)				
17	埴土師器	A 20.7	底部欠損。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内面ナデ。赤彩。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P 361 P L 55 80% 覆土中層
		B (8.8)				
18	埴土師器	A 18.6	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P 362 P L 58 15% 覆土上層
		B (8.5)				
19	埴土師器	A 13.6	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反し、口縁部は折り返される。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へ外湾ナデ。内面へ外湾ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 363 P L 58 60% 覆土下層
		H 16.6				
		C 5.6				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
20	球状土師	(2.6)	(2.5)	(2.6)	6.2	覆土 孔径 7.0mm DP25 50% P L 69
21	球状土師	(2.7)	(2.8)	(2.7)	8.3	覆土 孔径 7.0mm DP26 50% P L 69
22	球状土師	2.0	2.7	2.0	8.0	覆土 孔径 8.0mm DP27 50% P L 69
23	管玉	(2.0)	(0.6)	-	0.1	覆土 孔径 4.0mm Q149 50% 滑石 P L 69

第44号住居跡 (第134図)

位置 1区南西部, C10f区。

重複関係 本跡の北西コーナーから北壁にかけては、第58号住居跡の南コーナーから南西壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.08m, 短軸2.56mの長方形である。

主軸方向 N-64°-W。

壁 壁高は30~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。南東コーナー部には半径90cm, 高さ18cm程の扇形状の高まりがみられる。

覆土 4層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む極暗褐色土, 第2層はローム粒子

及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第4層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量及び炭化物を微量含む褐色土で、レンズ状に堆積している。

遺物 覆土中から、土師器の坏・甕片が75点出土している。

所見 覆土下層から、焼土塊が確認されていることから、本跡は焼失後、自然に埋もれたものと思われる。本跡の南東コーナー部から確認された高まりは、他の住居跡等にみられる出入口施設と考えられる高まりとは、位置的に異なることから、別の目的をもつものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期頃の建物跡と考えられる。

第45号住居跡 (第135図)

位置 1区南西部, C10e区。

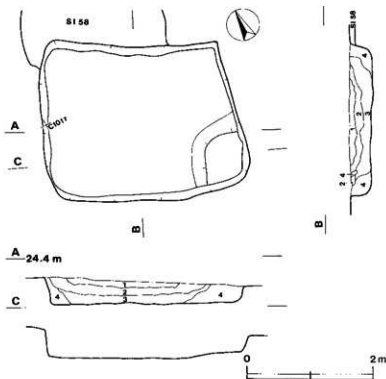
規模と平面形 長軸4.02m, 短軸2.30mの長方形である。

主軸方向 (N-26°-E)。

壁 壁高は46~56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

覆土 7層からなり、人為堆積である。ロームブロック混じりの褐色土及び暗褐色土で埋め戻されている。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム大ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子とローム小・中ブロックを中量, 焼土粒子及び炭化粒子を多量に含む暗褐色土, 第4層は第

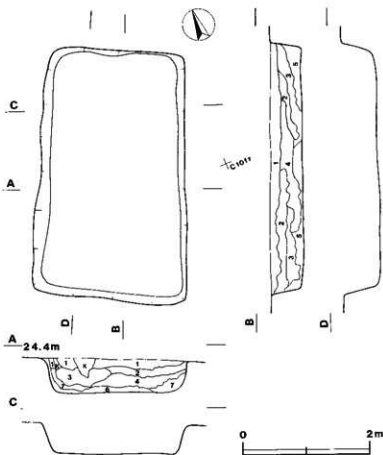


第134図 第44号住居跡実測図

3層にローム大ブロックを微量に含む暗褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土中層から下層にかけて、土師器の坏・甕片等が極少量出土している。第136図1の土師器甕は北東寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡は、内部施設を何も持たない長方形の建物跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半と考えられる。



第135図 第45号住居跡実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	系群	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	甕 土師器	B (9.5) C [5.4]	底部から体部の破片。無蓋式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面摩耗。内面へり削り後、ヘラナデ。	長石・砂粒 土質黄褐色 青濁	P564 10% 覆土

第46号住居跡 (第137図)

位置 1区南西部、C10g区。

規模と平面形 長軸6.90m、短軸5.80mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W。

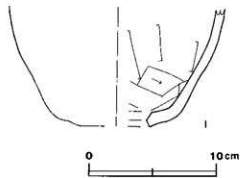
壁 壁高は38~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅12~18cm、下幅6~16cm、深さ6~13cmで、断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 2か所(a・b)。北東壁側に1条(a)、南西壁側に1条(b)確認され、長さ88~92cm、上幅14~22cm、下幅9~17cm、深さ6~12cmで、断面形はコの字状をしている。

bの先端部は径30cmの円形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、P₂を囲むように幅34~58cm、高さ6cm程の馬の背状の高まりが鏡状にみられ、出入り口施設と考えられる。



第136図 第45号住居跡出土遺物実測図

ビット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、径28cm、深さ35cmで出入り口施設に伴うビットと考えられる。P₂は、24cm、深さ19cmで性格は不明である。

炉 3か所 (炉A～C)。炉A・Bは、ともに中央から北西寄りにつ設されている。炉Aは長径81cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含むいぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは長径90cm、短径69cmの楕円形で、床面を2cm程掘り窪めている。覆土は1層で、炉Aの第2層と同様である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Cは、中央から南コーナー寄りに付設されており、長径58cm、短径42cmの楕円形で、炉床はほとんど掘り窪められておらず、火熱を受け、赤変している程度である。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径58cm、短径40cm、深さ44cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量含む明褐色土、第2層はローム粒子を多量に含むいぶい赤褐色土である。

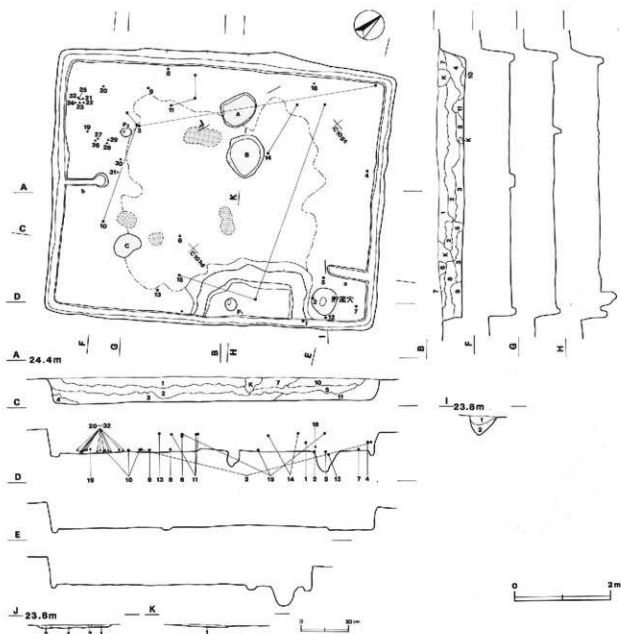
覆土 11層からなり、上層を除き人為堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子を多量に含む褐色土、第8層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土上層から床面にかけて、土師器の坏・甕片等が多量に出土している。第138岡2・7の土師器坏及び12の土師器坏は東コーナーの床面から正位の状態で、8・9の土師器坏は西コーナー寄りの北西壁際床面から正位の状態で出土している。15の須恵器坏蓋は南東電際線の覆土中から、16の須恵器坏は南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。14のミニチュア土器は北寄りの覆土上層から、20～32のF玉及び19の双孔円板は南西寄りの床面及び覆土下層から出土している。

所見 本跡は、床面及び覆土下層から焼七塊が確認されていることから焼失住居で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

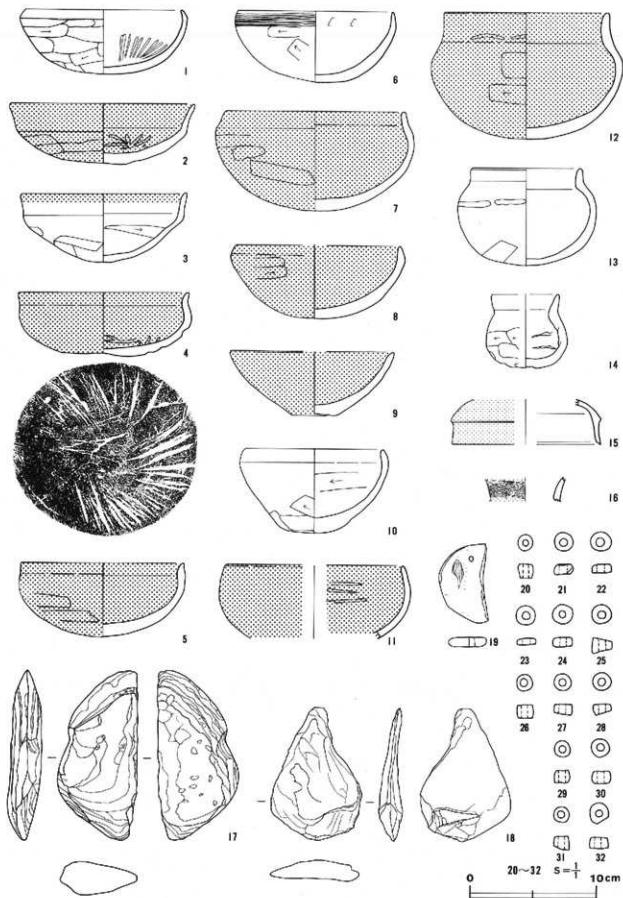
第46号住居跡出土遺物観察表

項数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・発色	備考
第138岡1	土師器	A 12.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。	長石・砂粒 褐色 良好	P365 P L59 95% 覆土下層
		B 5.2				
2	土師器	A 12.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P366 P L59 95% 床面
		B 5.2				
3	土師器	A 12.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は薄かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P367 P L59 95% 覆土下層
		B 5.6				
4	土師器	A 13.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内傾して立ち上がり、口縁部は薄かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P368 P L59 95% 覆土下層
		B 5.1				
5	土師器	A 12.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内傾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P369 P L59 95% 甕石に転用床面
		B 6.0				



第137図 第46号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土器 土器	A 12.4 B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P370 P L.59 90% 覆土上層
7	坏土器	A 13.8 B 8.1	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P371 P L.59 80% 床面
8	坏土器	A [13.0] B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 ぶい赤褐色 普通	P372 P L.59 85% 床面
9	坏土器	A [13.4] B 5.1 C 3.6	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P373 P L.59 70% 床面
10	坏土器	A 10.8 B 6.7 C 3.2	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P374 P L.59 65% 覆土下層



第138图 第46号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
11	坏土師器	A (14.0) B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内灣して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 375 P L 59 45% 覆土上層
12	坏土師器	A 12.9 B 10.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内灣して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 376 P L 61 85% 内面
13	坏土師器	A (8.6) B 7.8	体部の一部欠損。体部は内灣して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 に白い黄褐色 普通	P 377 P L 60 75% 覆土上層
14	坏土師器	A (5.2) B 5.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内灣気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 に白い黄褐色 普通	P 378 P L 59 43% 覆土上層
15	坏土師器	A (11.8) B (3.6)	天井部から口縁部の破片。天井部と口縁部との境に明瞭な線をもち、口縁部は僅かに外傾し、底部に凹面をもつ。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 黄灰色 良好	P 379 P L 59 20% 自然釉付着 覆土上層
16	坏土師器	B (1.9)	頸部の破片。頸部は外傾して立ち上がり、縞線状状況が光消されている。	内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黄灰色 良好	P 380 10% 自然釉付着 覆土

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	不明石製品	13.6	6.3	2.7	252.4	覆 土	Q151 蓝青石 P L 70
18	不明石製品	10.7	7.2	1.9	96.6	床 面	Q162 蓝青石 P L 70
19	双孔円板	(2.0)	3.1	0.3	(3.7)	覆土下層	孔径 2.0mm Q150 50% 滑石 P L 70
20	白 玉	0.4	0.5	0.1	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q153 100% 滑石 P L 71
21	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q154 100% 滑石 P L 71
22	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q155 100% 滑石 P L 71
23	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q156 100% 滑石 P L 71
24	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 1.5mm Q157 100% 滑石 P L 71
25	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q158 100% 滑石 P L 71
26	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q159 100% 滑石 P L 71
27	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q160 100% 滑石 P L 71
28	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q161 100% 滑石 P L 71
29	白 玉	0.4	0.4	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q162 100% 滑石 P L 71
30	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q163 100% 滑石 P L 71
31	白 玉	0.4	0.4	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q164 100% 滑石 P L 71
32	白 玉	0.3	0.3	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q165 100% 滑石 P L 71

第47号住居跡 (第139図)

位置 1区南西部, C10j, 区。

規模と平面形 長軸7.06m, 短軸7.00mの方形である。

主軸方向 N-40°-W。

壁 壁高は38~56cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北西壁下の一部を除き全周している。上幅7~20cm, 下幅4~15cm, 深さ4~8cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 貯蔵穴を囲むように, 幅48~90cm, 高さ約7cmの馬蹄形状の高まりがみられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径36~44cm, 深さ62~72cmで主柱穴, P₅は, 径22cm, 深さ22cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり, 長軸66cm, 短軸40cmの不整形で, 床面を4cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり, 第1層は焼土大ブロック及び炭化粒子を少量含む赤褐色土, 第2層は焼土粒子及び炭化物を中量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

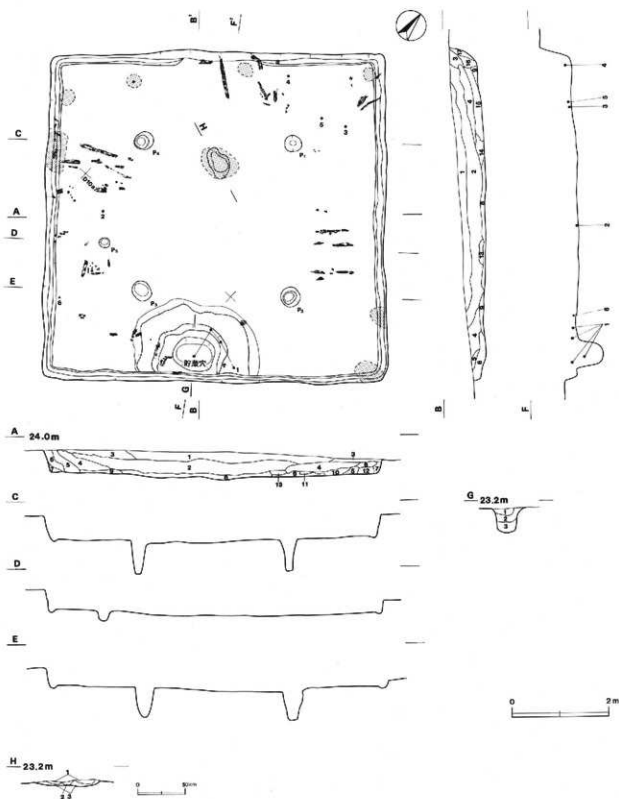
貯蔵穴 南東壁中央寄りに付設されている。長径88cm, 短径70cmの楕円形で, 深さは56cmである。底面は皿状で, 壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックと焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

覆土 17層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量, 炭化物を微量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を中量, 炭化物を微量含む褐色土, 第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土, 第7層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子, 炭化物を中量含む褐色土, 第8層はローム粒子及び炭化粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化物を中量含む褐色土, 第9層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土, 第10層はローム粒子及び炭化粒子と炭化物を中量及び焼土粒子を多量に含む暗褐色土, 第11層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を中量, 焼土小ブロックを微量含む暗褐色土, 第12層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量, 焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第13層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第14層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を中量及び炭化物を少量含む暗褐色土, 第15層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土, 第16層はローム粒子及び焼土粒子を多量と炭化物を少量及び炭化材を中量含むにぶい赤褐色土, 第17層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む褐色土である。

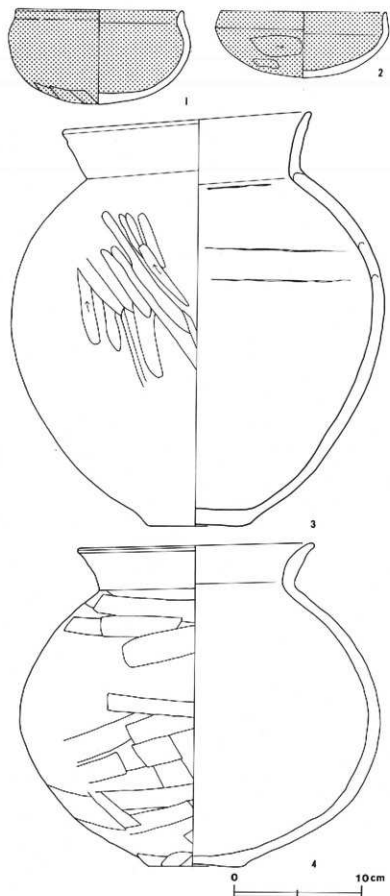
遺物 土師器の坏・甕片等が少量出土している。第140図1の土師器坏は貯蔵穴付近の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は南西寄りの床面から正位の状態でも出土している。3及び第141図4・5の土師器甕は北コーナー覆土下層から, 3は横位, 4と5は正位の状態でも, 第141図6の砥石は南コーナー寄りの南西壁際覆土下層から正位の状態でも出土している。

所見 本跡は, 壁際の床面及び覆土下層に, 焼土及び炭化材が確認されていることから焼土住居である。炭化

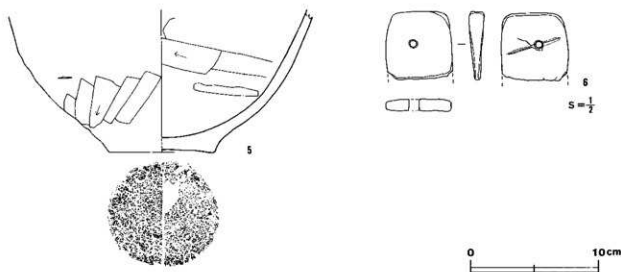
材の一部には、焼失前、木材の周囲に貼ってあったと思われる粘土が火熱を受け、そのまま付着した状態で出土しているものもあり、部材の補強に粘土を使用していたことが考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第139図 第47号住居跡実測図



第140图 第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第141図 第47号住居跡出土遺物実測図(2)

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	丁法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40-44面 1	坏 土師器	A 13.1	丸底。体部は内側して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り後、ナデ。内面ナデ。内・ 外面赤彩。	長石・砂粒 褐色 普通	P381 P L60 100% 床面
		B 7.6				
2	坏 土師器	A 13.0	口縁部の 帯欠損。丸底で、体部 は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外側 へう削り後、ナデ。内面刺摩。内・ 外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P382 P L60 90% 床面
		B 5.5				
3	堝 土師器	A 19.6	体部の一部欠損。平底。体部は内 彎して立ち上がり、最大径を上位 にもつ。頸部から口縁部は外傾す る。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部外向へう削り。	長石・石英・砂粒 にふい青褐色 普通	P383 P L61 95% 覆上下層
		B 33.3				
		C 7.8				
4	堝 土師器	A 18.7	体部の一部欠損。平底。体部は球 形状で、最大径を中位にもつ。頸 部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部外面へう削り。	砂粒 にふい褐色 普通	P384 P L61 90% 覆土下層
		B 26.1				
		C 7.7				
5	堝 土師器	B (11.5)	底部から体部の破片。底部は平底 で、突出する。体部は内彎気味に 立ち上がる。	体部内・外面へう削り後、ナデ。 底部外面に木炭灰。	長石・砂粒 褐色 普通	P385 30% 覆土下層
		C 8.4				

図取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	磁石	(3.7)	3.5	0.8	(13.8)	覆土下層	Q166 砂岩

第48号住居跡(第142図)

位置 1区南西部, D10b区。

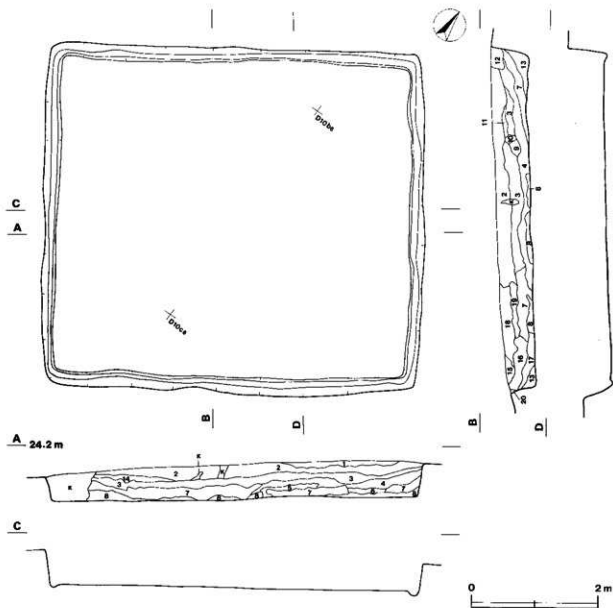
規模と平面形 長軸6.00m, 短軸5.78mの方形である。

主軸方向(N-33°-W)。

壁 壁高は44~56cmで, 南東壁は外傾して, その他の壁は垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。

覆土 20層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第5層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を微量含む黒

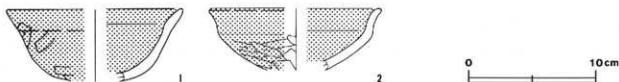


第142図 第48号住居跡実測図

褐色土、第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第7層はローム粒子を多量及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含む褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量を含む褐色土、第11層はローム粒子を中量含む褐色土、第12層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第14層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を微量含む褐色土、第15層はローム粒子を多量を含む褐色土、第16層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第17層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第18層はローム粒子を中量含む暗褐色土、第19層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第20層はローム粒子を多量含む褐色土である。

遺物 覆土中及び床面から、土師器の坏・壺片が極少量出土している。第143図1と2の土師器坏は南コーナー寄りの南東壁際覆土中層から出土している。

所見 当遺跡から確認されている内部施設を何もたない建物跡は、規模が一辺3m前後の小形のもので、本例のように大規模のものはみられないことから、ここでは住居跡と考えておきたい。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第143図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	坏 土師器	A [13.8] B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P386 30% 覆土中層
2	坏 土師器	A [13.0] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P387 15% 覆土中層

第50号住居跡 (第144図)

位置 1区南西部、C10j区。

重複関係 本跡の東コーナー付近は、第49号住居跡の南西コーナー部に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.70m、短軸5.94mの長方形である。

主軸方向 N-49°-W。

壁 壁高は26~34cmで、南東壁はほぼ垂直に、それ以外の壁は外傾して立ち上がっている。

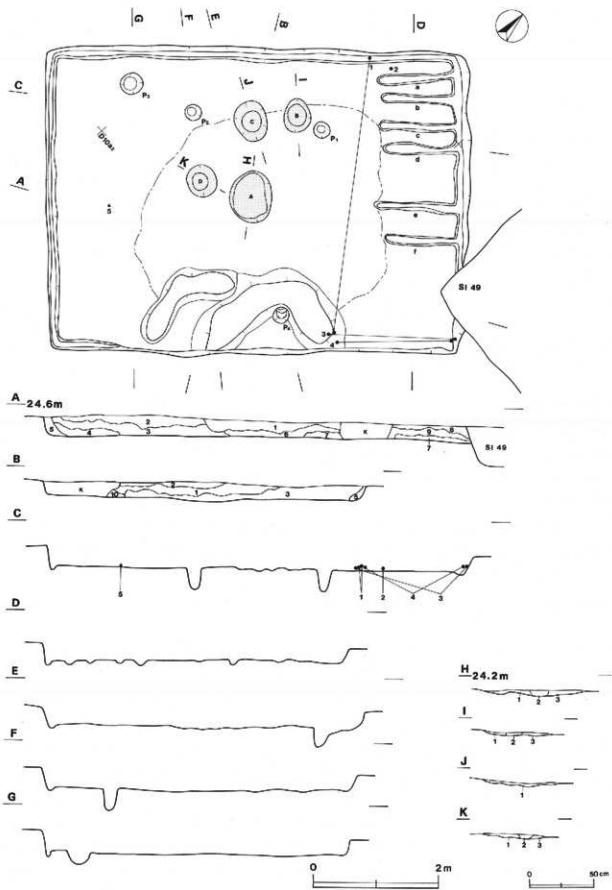
壁溝 東コーナーから南東壁下の大半を除き周回している。上幅8~16cm、下幅5~12cm、深さ4~8cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 6条(a~f)。すべて北東壁側から確認され、長さ1.16~1.34m、上幅10~19cm、下幅4~13cm、深さ4~10cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入口口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅36~80cm、高さ7cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入口施設と考えられる。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₃は、径28~38cm、深さ22~35cmで主柱穴、P₄は、径26cm、深さ34cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 4か所(炉A~D)。炉Aは床面ほぼ中央にあり、長径83cm、短径66cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を少量と炭化物を微量含むにぶい赤褐色土、第3層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは中央から北西寄りにあり、長径54cm、短径42cmの楕円形で、床面を3cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土、第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む赤褐色土、第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量と炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Cは炉Bの南西約30cmに位置し、



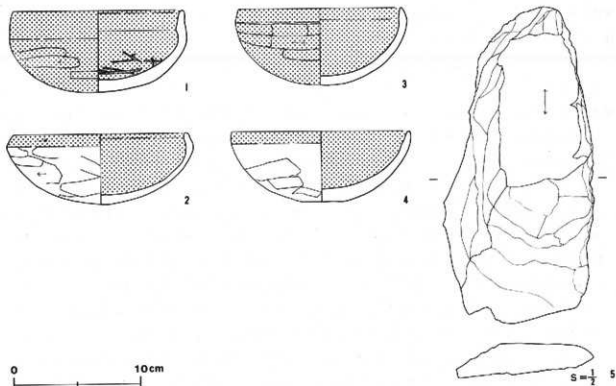
第144图 第50号住居跡実測図

長径66cm、短径52cmの楕円形で、床面を6cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量含む暗赤褐色土である。炉床は凸凹で火熱を受け、赤変硬化している。炉Dは中央から南西寄りにあり、径約52cmの円形で、床面を2cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量含むにふい暗赤褐色土、第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗赤褐色土、第3層は第2層にローム粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

覆土 10層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を中量とローム中・大ブロックを少量含む明褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロックを少量含む明褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む橙色土、第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む橙色土、第7層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土、第8層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む褐色土、第9層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

遺物 床面からの出土は第145図5の砥石のみで、南西寄りの床面から出土している。1～4は土師器片で、1は東コーナー部及び北コーナー寄りの北西壁際から出土した破片が、3・4は東コーナー寄りの南東壁際覆土下層から出土した破片が接合したものである。2は北コーナー寄りの北西壁際覆土中層から下層にかけて流れ込んだ状態で出土している。

所見 炉同様、間仕切溝は何回かつくりかえられたものと考えられるが、詳細は不明である。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第145図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	土師器 環土師器	A 13.5	I 縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に横をもつ。	I 縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P391 P L60 90% 覆土下層
		B 6.5				
2	土師器 環土師器	A 13.7	I 縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内彎する。	I 縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・岩屑・砂粒 暗褐色 普通	P392 P L60 90% 覆土下層
		B 5.6				
3	土師器 環土師器	A 13.0	体部からI 縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。I 縁部は直立し、口唇部は失る。	I 縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P393 P L60 70% 覆土下層
		B 6.1				
4	土師器 環土師器	A 14.1	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部からI 縁部は内彎気味に立ち上がる。	I 縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P394 P L60 70% 覆土下層
		B 5.7				

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	磁石	16.7	7.9	1.8	292.5	床 面	Q167 砂岩

第51号住居跡 (第146図)

位置 1区南西部, C10h区。

規模と平面形 長軸6.80m, 短軸6.70mの方形である。

主軸方向 (N-42°-W)。

壁 壁高は46~56cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅8~20cm, 下幅4~14cm, 深さ4~7cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

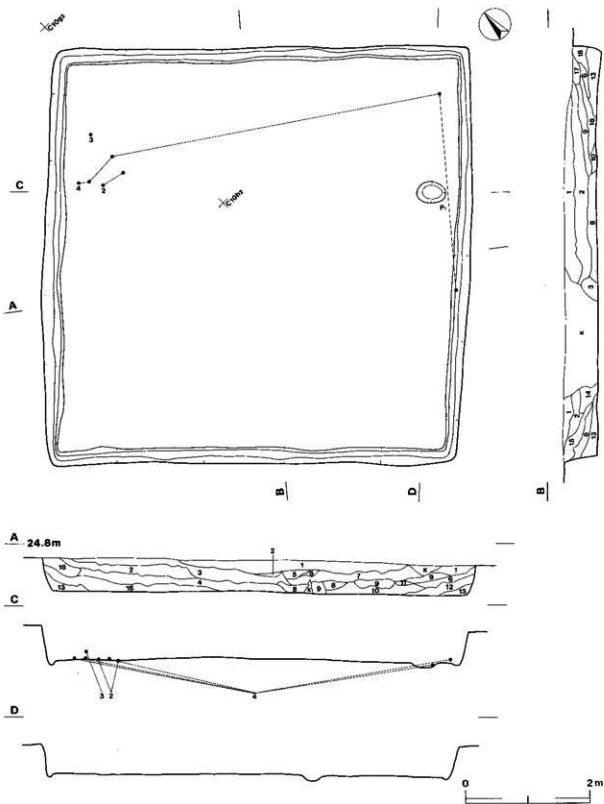
ピット 1か所 (P)。径46cm, 深さ10cmで位置的に出入り口施設に伴うピットとも考えられるが、断定することはできない。

覆土 18層からなり、上層を除き、褐色土と暗褐色土が交互に入る人為堆積である。第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む暗褐色土。第2層はローム粒子を多量に含む褐色土。第3層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を少量含む暗褐色土。第4層はローム粒子を極めて多量に含む褐色土。第5層はローム粒子を中量含む暗褐色土。第6層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土。第7層はローム粒子を多量に含む褐色土。第8層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量含む褐色土。第9層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを微量含む褐色土。第10層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土。第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土。第12層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土。第13層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土。第14層はローム粒子を中量とローム小ブロックを微量含む褐色土。第15層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量、焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土。第16層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土。第17層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土。第18層はローム粒子及び焼土粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む暗褐色土である。

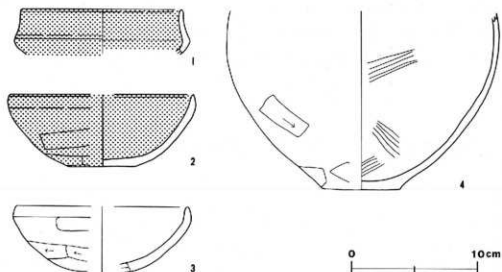
遺物 北及び東コーナーの覆土を中心に、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第147図2・3は土師器坏で、北コーナー付近の床面及び覆土下層から出土している。4の土師器甕は北コーナー、東コーナー及び南

東側際の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 木跡は、第48号住居跡と同様に一辺が6m 位の住居跡と考えられるが、出入り口施設に伴うようなピットが確認されている点で異なる。木跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第146図 第51号住居跡実測図



第147図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 1	坏 土 削 器	A 12.9 B (3.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 395 P L 60 45% 覆土
2	坏 土 削 器	A [14.6] B (5.8) C 4.9	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P 396 P L 60 40% 床面
3	坏 土 削 器	A [13.8] B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 よい褐色 普通	P 397 P L 60 35% 覆土下層
4	壺 土 削 器	B (14.4) C 6.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。体部内面ヘラナデ。	長石・砂粒 よい黄褐色 普通	P 398 25% 床面

第52号住居跡 (第148図)

位置 1区西部, C10b₂区。

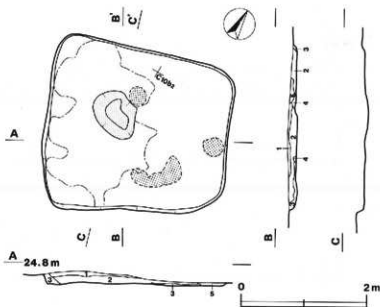
規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.58mの台形である。

主軸方向 N-25°-W。

壁 壁高は7~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、炉の周辺は硬く踏み固められている。

炉 中央からやや南西寄りにあり、長径84cm, 短径62cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。



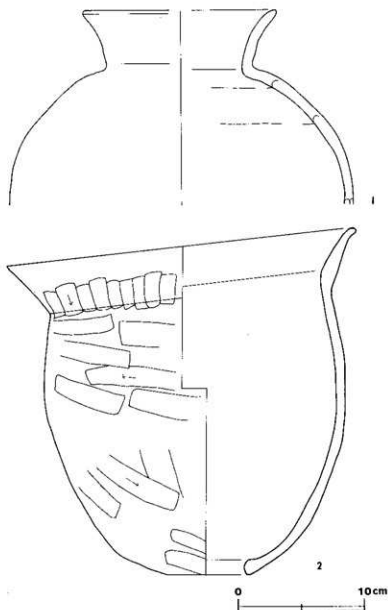
第148図 第52号住居跡実測図

が床は火熱を受け、赤変している。

覆土 5層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び炭化物を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と焼土粒子を多量及び焼土小ブロックを中量含む極暗赤褐色土、第5層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土である。

遺物 覆土中から、土師器壺類の破片を主体に少量出土している。第149図1の土師器壺は東コーナー付近の覆土下層から、2の土師器壺は炉付近の覆土下層から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半と考えられる。



第149図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図	土師器	A 15.5 B (15.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒にふい赤褐色普通	P399 15% 覆土下層
2	瓶 土師器	A 27.6 B 27.9 C 6.8	体部の一部欠損。無底式。体部は内筒気味に立ち上がり、最大径を中央にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へテ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黒褐色 普通	P400 P L61 85% 覆土下層

第53号住居跡 (第150図)

位置 1区南西部, C10c区。

規模と平面形 長軸2.04m, 短軸2.00mの方形である。

主軸方向 N-17°-W。

壁 壁高は4~8cmで, 外傾して立ち上がっている。

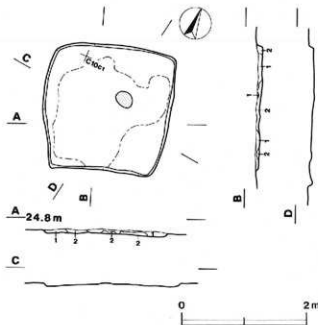
床 凸凹で, 壁際を除き硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには僅かに高まり, 出入口部と考えられる。

炉 中央から北東寄りにあり, 長径28cm, 短径22cmの楕円形で, 炉床はほとんど掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

覆土 2層からなり, 人為地積である。第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量含む褐色土である。

遺物 覆土下層から, 土師器の坏・壺片が25点出土している。

所見 木跡は, 当遺跡から確認された住居跡及び建物跡の中では最小規模のもので, 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から古墳時代中期と考えられる。



第150図 第53号住居跡実測図

第54号住居跡 (第152図)

位置 1区南西部, C9d区。

規模と平面形 長軸5.36m, 短軸5.30mの方形である。

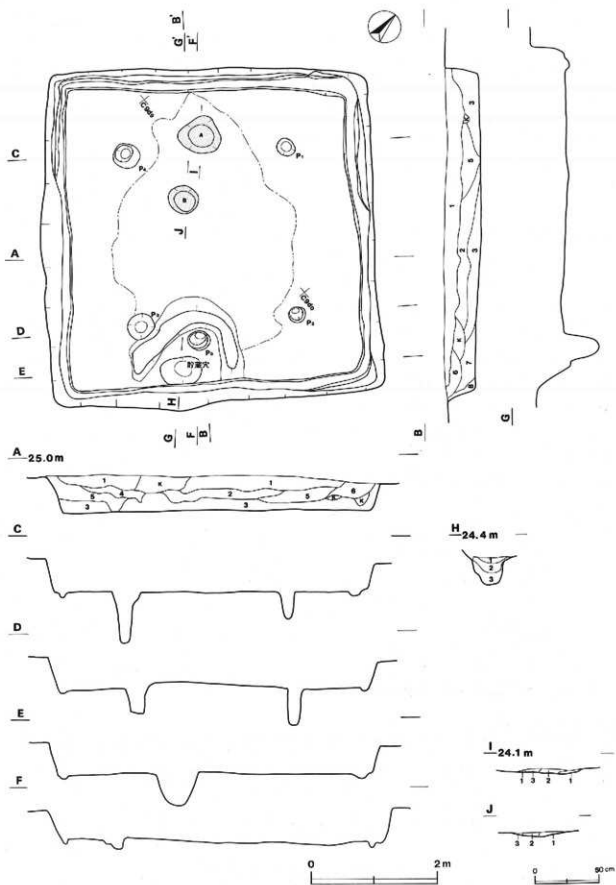
主軸方向 N-50°-W。

壁 壁高は42~56cmで, 北西壁はほぼ垂直に, その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅14~28cm, 下幅8~18cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 出入口から主柱穴の内側にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 貯蔵穴及びP₅を囲むように, 幅32~52cm, 高さ6cm程の馬の背状の高まりが馬蹄形状にみられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径28~43cm, 深さ43~82cmで主柱穴, P₅は, 径38cm, 深さ20cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。



第151图 第54号住居跡実測図

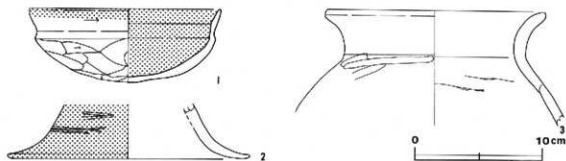
炉 2か所(炉A～B)。炉Aは中央から北西寄りにあり、長径70cm、短径63cmの楕円形で、床面を3cm程掘り込んでいる。覆土は3層からなり、すべて明赤褐色土である。第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量、第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量、第3層は第2層に焼土小ブロックを少量含む。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは炉Aの南東約50cmの位置にあり、径50cmのほぼ円形で、床面を4cm程掘り込んでいる。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第2層は焼土小ブロック及び焼土大ブロックを少量含む明赤褐色土、第3層は焼土粒子を少量含む明赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁から中央寄りに付設されている。長径68cm、短径42cm、深さは55cmである。底面は皿状で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土である。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子を多量に含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム小・中ブロックを微量含む褐色土、第6層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む褐色土、第7層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 壁際を中心に、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第152図1の土師器坏は貯蔵穴底面から正位の状態で、2の土師器高坏は同じく貯蔵穴の覆土から出土している。3の土師器甕は東コーナー寄りの北東壁際から流れ込んだ状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第152図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第152図 1	坏 土師器	A 15.1 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P401 P.L61 90% 貯蔵穴底面
2	高坏 土師器	D (4.3) E [19.1]	脚部の破片。頸部はラッパ状に開く。	頸部外面ナデ後、磨き。内面ナデ。外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P402 10% 貯蔵穴覆土
3	甕 土師器	A 17.0 B (9.3)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P403 P.L59 15% 覆土

第55号住居跡 (第153図)

位置 1区南西部, C9f.区。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸2.76mの長方形である。

主軸方向 N-35°-E。

壁 壁高は8~14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, あまり硬く踏み固められていない。

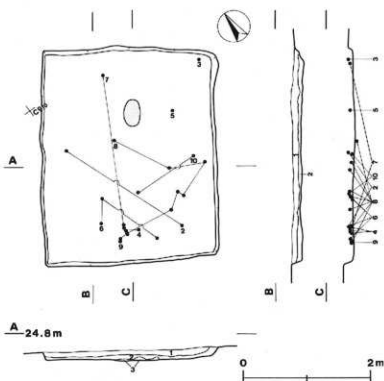
炉 中央から北東寄りにあり, 長径44cm, 短径26cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

覆土 3層からなり, 自然堆積である。第1層は焼土粒子を微量と炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第2層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色

土である。第1・2層には破砕された土師器片が大量に含まれている。

遺物 土師器の残片を中心に, 覆土中から多量に出土している。第154図1の土師器坏は東コーナー付近の覆土中から, 2の土師器鉢は北西及び南コーナー寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。3~10は土師器甕で, 3は東コーナー部覆土第2層から逆位の状態で, 5は北東寄りの覆土第3層から正位の状態出土している。

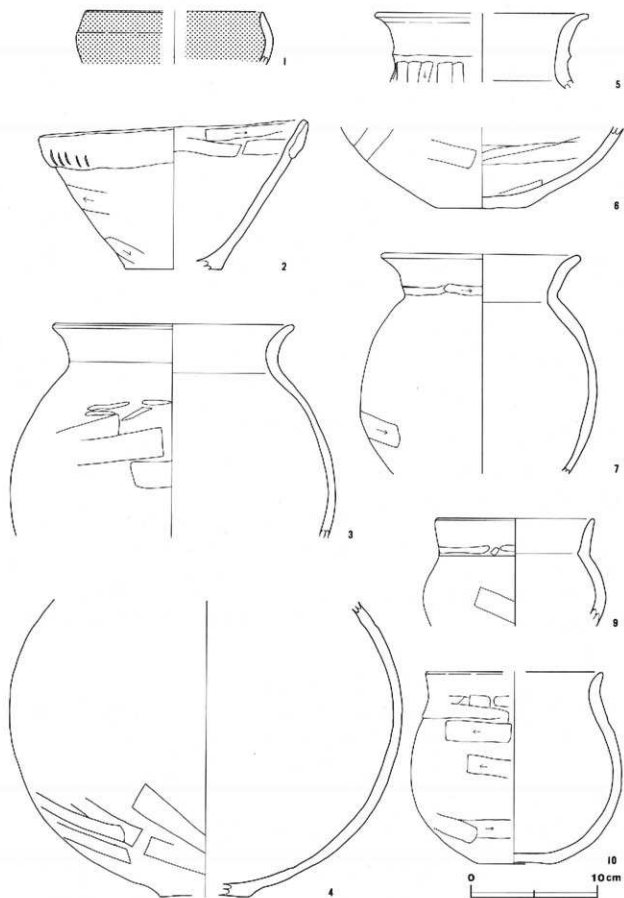
所見 出土した遺物の大半は細片で, 床面より僅かに浮いた位置から出土していることから, 本跡焼絶後, 間もなく破砕して投棄したものと思われる。本跡は, 出土遺物及び遺構の形態から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第153図 第55号住居跡実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154-155E 1	坏 土師器	A [15.1] B (4.3)	体部から口縁部の破片。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 404 20% 覆土
2	鉢 土師器	A 20.6 B 12.1 C 7.6	底部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は折り返される。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 よい褐色 普通	P 405 P L 61 75% 覆土下層
3	甕 土師器	A 18.8 B (17.1)	底部欠損。体部は内傾して立ち上がり, 頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 よい褐色 普通	P 406 P L 62 65% 覆土上層
4	甕 土師器	B (23.7) C [7.0]	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で, 最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	砂粒 暗褐色 普通	P 407 P L 61 30% 覆土下層



第154图 第55号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	壺 土師器	A 16.6 B (6.0)	胴部から口縁部の破片。頸部と口縁部の境に突出する稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 10% 濃い棕色 普通	P408 10% 覆土下層
6	壺 土師器	B (6.5) C 7.1	底部から体部の破片。平底で、体部は内湾凹縁に立ち上がる。	底部外面へラ削り後、ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 異褐色 普通	P409 10% 覆土下層
7	壺 土師器	A 15.2 B (17.7)	底部欠損。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ト位及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P410 P.L62 70% 覆土下層
8	壺 土師器	A (16.6) B (20.5)	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 に濃い棕色 普通	P411 P.L61 45% 覆土下層
9	壺 土師器	A 12.2 B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ト位及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 に濃い棕色 普通	P412 P.L61 30% 覆土下層
10	壺 土師器	A (13.9) B 15.0	体部及び口縁部の 部欠損。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 に濃い黄褐色 普通	P413 P.L63 50% 覆土下層

第56号住居跡 (第156図)

位置 1区南西部, C9g5区。

規模と平面形 長軸5.62m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-38°-W。

壁 壁高は46~56cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナーから北東壁下を除き壁下を周回している。幅7~14cm, 下幅5~10cm, 深さ3~6cmで、断面形は逆台形状をしている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。

東コーナー部には厚さ5cm程の粘土塊がみられる。

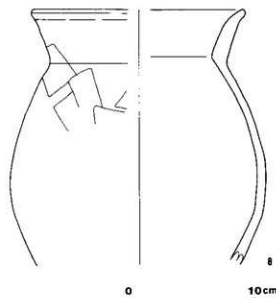
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径22~46cm, 深さ35~51cmで主柱穴。P₅は、径32cm, 深さ15cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りであり、長径51cm, 短径44cmの楕円形で、床面を4cm程掘り深めている。覆土は3層からなり、すべて暗赤褐色土である。第1層は焼土粒子

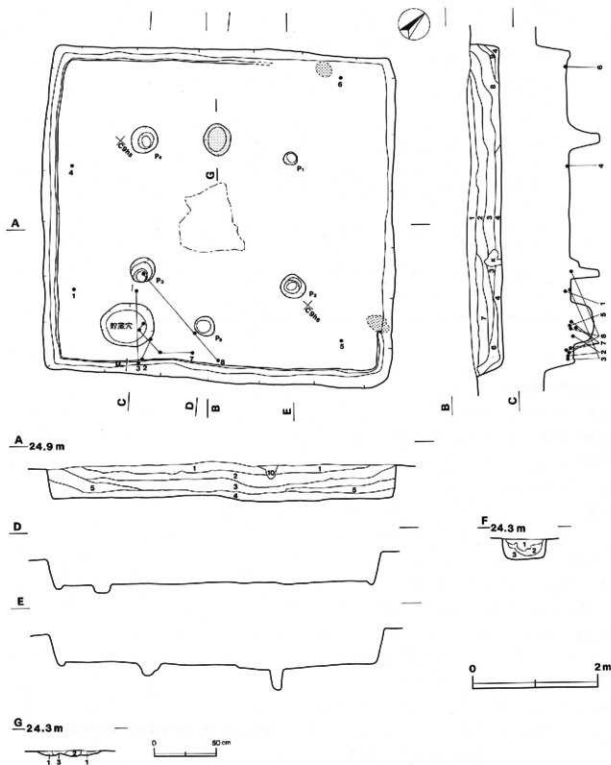
を中量と焼土小ブロックを少量、第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量、第3層は焼土粒了を中量と炭化粒子を微量含んでいる。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナーからやや北東寄りに付設されている。長径84cm, 短径68cmの楕円形で、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量に含む褐色土、第3層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量含む褐色土である。

覆土 10層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を少量含む黒褐色土、第2層はローム粒子を微量



第155図 第55号住居跡出土遺物実測図(2)



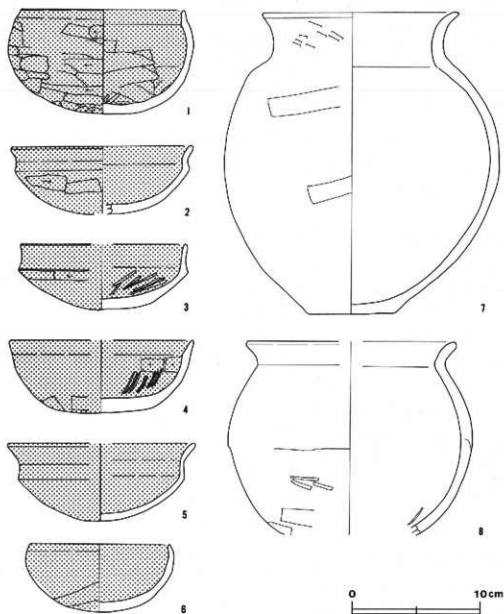
第156図 第56号住居跡実測図

含む極暗褐色土、第3層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第4層はローム粒子を極めて多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第5層はローム粒子及び炭化粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む褐色土、第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第8層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を中量と炭化粒子を微

量含む暗褐色土である。

遺物 主に、覆土第3～5・8層から、土師器の坏・甕片等が出土している。第157図1～6は土師器坏で、1は南コーナー寄りの南西壁際（第8層）から斜位の状態で、2と3は貯蔵穴付近（第4層）から、4は南西壁中央付近の壁際（第4層）から逆位の状態で、5は東コーナー部床面から潰れた状態で、6は北コーナー付近の床面から正位の状態で出土している。7と8は土師器甕で、7は南コーナー付近の床面から、8は南東壁中央の壁際床面から出土している。

所見 北・東コーナー付近の壁際から焼土が確認されているが、東コーナー部から同レベルに確認された白色粘土が焼けていないことから、流れ込んだ焼土と思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第157図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157区 1	坏 土師器	A 12.8 B 8.4	体部の一部欠損。丸底で、体部は内内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。口縁部内面に線をもち。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。底部内面磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 ぶい赤褐色 普通	P414 P L61 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.9 B 5.6	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤色 普通	P415 P L62 85% 覆土下層
3	坏 土師器	A [13.2] B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内内彎して立ち上がり、口縁部との境に線をもち。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 良好	P416 P L62 75% 覆土下層
4	坏 土師器	A [14.6] B 5.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P417 P L62 60% 覆土下層
5	坏 土師器	A [14.8] B 6.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部との境に線をもち。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P418 P L62 60% 床面
6	坏 土師器	A [11.0] B 5.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P419 P L62 70% 床面
7	甕 土師器	A 15.4 B 21.4 C 6.6	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラナデ。体部外面へラ削り。	砂粒 ぶい橙色 普通	P420 P L63 85% 床面
8	甕 土師器	A [16.5] B (15.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 ぶい赤褐色 普通	P421 P L62 40% 床面

第57号住居跡 (第158区)

位置 1区南西部, D10d.区。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸3.10mの方形である。

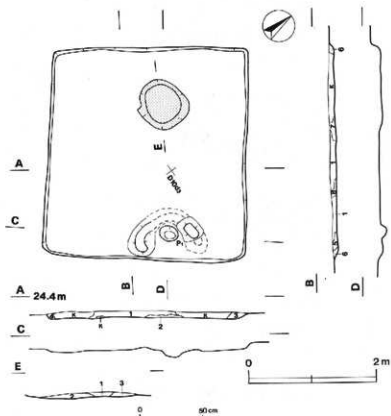
主軸方向 N-53°-W。

壁 壁高は6~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅30~46cm, 高さ5cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 1か所(P₁)。径30cm, 深さ11cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、径約80cmのほぼ円形で、床面を6cm程掘り深めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土小ブロックを



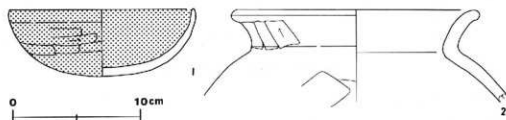
第158図 第57号住居跡実測図

少量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土、第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を少量と焼土中ブロックを微量含む明赤褐色土、第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

覆土 北東・南西・北西壁際は、攪乱されているが、8層からなり人為堆積と思われる。第1層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子及びローム大ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む明褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第6層はローム粒子を多量に含む橙褐色土、第7層は焼土粒子を少量含む褐色土、第8層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む褐色土である。

遺物 土師器の甕片を主体に、少量出土している。第159図1の土師器坏は北コーナー覆土下層から斜位の状態で、2の土師器甕は南東寄りの床面から正位の状態です出土している。

所見 本跡の出入り口部の高まりは、当遺跡から確認された建物跡及び住居跡の例から、本来はP₁を囲んでいたものと考えられる。本跡は、炉及び出入り口施設の高まりをもつ小形の建物跡で、第32号住居跡と同じ様相を示している。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第159図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装成	備考
第159図 1	坏 土師器	A 14.6 B 5.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ磨り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P422 P L62 80% 覆土下層
2	甕 土師器	A 18.6 B (7.5)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へツ磨り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙褐色 普通	P423 P L63 20% 床面

第58号住居跡 (第160図)

位置 1区南西部、C10e区。

重複関係 本跡の南コーナーから南西壁は、第44号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.30m、短軸2.10mの長方形である。

主軸方向 (N-26°-E)。

壁 壁高は7~20cmで、外傾して立ち上がっている。

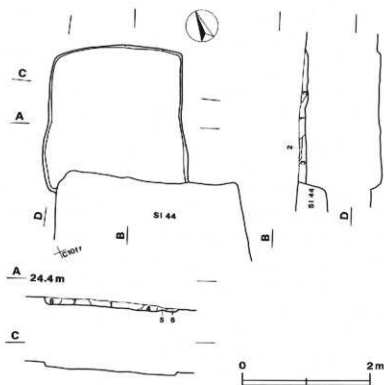
床 凸凹で、あまり踏み固められていない。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第1層はローム小ブロックと焼土粒子及び炭化粒子を少量含む明赤褐色土、第2層はローム粒子を中量含む明赤褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明赤褐色土、第4層はローム粒子を中量と焼土小ブロックを微量含む明赤褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む橙褐色土、第6層はローム粒子を中量含む明褐色土、第7層は炭化物を微量含むにぶい褐色土、第

8層はローム粒子を中量含む明褐色土である。

遺物 覆土下層から、土師器片が10点出土している。

所見 出土した遺物は破片で、時期を決定することは難しいが、本跡は、古墳時代中期頃の建物跡と考えられる。



第160図 第58号住居跡実測図

第59号住居跡 (第161図)

位置 3区北東部, E7g区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸2.92mの長方形である。

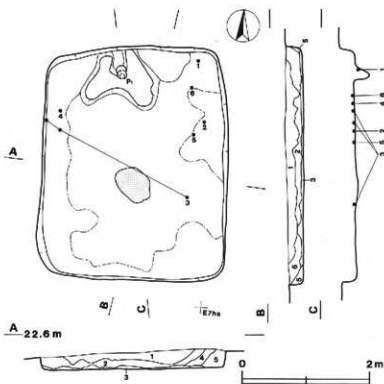
主軸方向 N-179°-E。

壁 壁高は20~36cmで, 垂直に立ち上がっている。

床 凸凹で, 壁際を除き硬く踏み固められている。北壁から中央寄りには, 高さ4cm程の不整形の高まりがみられ出入り口施設と考えられる。

ピット 1か所(P.)。径16cm, 深さ24cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から南寄りにあり, 長径64cm, 短径48cmの楕円形で, 床面を3cm程掘り窪めている。覆土は1層で, 焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は凸凹で僅かに赤変している。



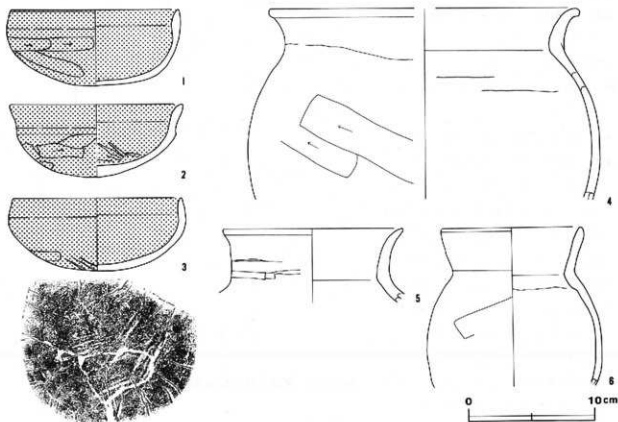
第161図 第59号住居跡実測図

覆土 6層からなり, 人為堆積である。第1層はローム大ブロックを多量に含む褐色土, 第2層はローム粒子

及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第3層はローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む暗褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む極暗褐色土、第5層はローム中ブロックを多量に含む黄褐色土、第6層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む極暗褐色土である。

遺物 壁際を中心に、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第162図1～3は土師器坏で、1は北東コーナー部床面から逆位の状態で、2は東寄りの床面から正位の状態で出土している。3は南東寄りの床面から出土したものと北西コーナー寄りの西壁際床面から出土したものが接合したものである。4～6は土師器甕で、4は北西コーナー寄りの床面から、5と6は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見 本跡は、当遺跡から確認された住居跡及び建物跡とは、著しく主軸方向が異なる建物跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第162図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	土師器 坏	A 13.4	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に筋い襷をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 424 95% 床面
		B 6.1				
2	土師器 坏	A 13.6	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 425 85% 床面
		B 5.8				
3	土師器 坏	A 13.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 426 80% 床面
		B 5.8				

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 土師器	A 24.7 B (15.4)	体部から口縁部の破片。体部は内 窟気味に立ち上がり、頸部から口 縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 20% 褐色 普通	P 427 20% 床面
5	甕 土師器	A 14.2 B (5.8)	頸部から口縁部の破片。頸部から 口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 頸部外面へラ削り。	砂粒 褐色 普通	P 428 10% 床面
6	甕 土師器	A 11.0 B (12.7)	体部から口縁部の破片。体部は内 窟気味に立ち上がり、頸部から口 縁部は外傾する。	体部外面へラ削り。内・外面横ナデ。	砂粒 褐色 普通	P 429 40% 床面

第60号住居跡 (第163図)

位置 3区北東部, E7j.区。

規模と平面形 長軸3.34m, 短軸2.10mの

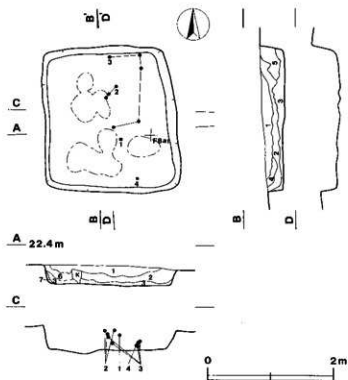
長方形である。

主軸方向 (N-4°-W)。

壁 壁高は25~40cmで、外傾して立ち上
がっている。

床 凸凹で、部分的に硬化面がみられる。

覆土 7層からなり、人為堆積である。第
1層はローム大ブロックを多量、第2層
はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含
む極暗褐色土、第3層はローム粒子を少
量とローム中ブロックを多量に含む暗褐
色土、第4層はローム小ブロックを中量
含む暗褐色土、第5層はローム粒子及び
ローム中ブロックを中量含む褐色土、第
6層はローム粒子及びローム小ブロック
を中量含む暗褐色土、第7層はローム中
ブロックを多量に含む褐色土である。



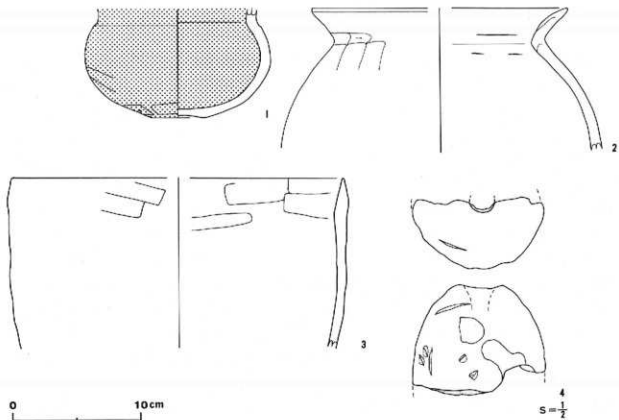
第163図 第60号住居跡実測図

遺物 北壁側から投棄された状態で、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第164図1の土師器境と4の
管状土甕は南寄りの覆土上層及び下層から、2の土師器甕及び3の土師器鉢は北寄りの覆土上層及び下層か
ら出土している。

所見 本跡は、内部施設を何も持たない、居住以外の目的をもつ小形の建物跡と考えられる。時期は、出土遺
物及び遺構の形態から古墳時代中期後半である。

第60号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	埴 土師器	B (8.8) C 3.2	底部から体部の破片。平底で、体 部は内内して立ち上がる。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面 ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 430 P 164 50% 覆土上層
2	甕 土師器	A [20.2] B (11.5)	体部から口縁部の破片。頸部から 口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 頸部外面下位から体部外面上位へ ラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P 431 15% 覆土上層



第164図 第60号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
3	鉢 土 器 器	A [26.0] B (13.6)	体部から口縁部の破片。体部は僅かに内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	スコリア・砂粒にふい褐色普通	P432 20% 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	管 状 土 鉢	(5.8)	(3.9)	—	115.9	覆土下層	孔径 [17.0]mm DP28 20% PL69

第61号住居跡 (第165図)

位置 3区北東部, F7a₉区。

重複関係 本跡の南西コーナー寄りの南壁は、第230号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.64m, 短軸2.86mの長方形である。

主軸方向 N-20°-W。

壁 壁高は14~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東・南西コーナー付近の壁下を除き周回している。上幅7~14cm, 下幅4~10cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入口から中央部にかけて硬く踏み固められている。ピットの周辺は僅かに盛り上がっている。

ピット 1か所 (P₁)。径28cm, 深さ18cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から南西寄りにあり、長径60cm, 短径36cmの楕円形で、炉床は掘り窪め

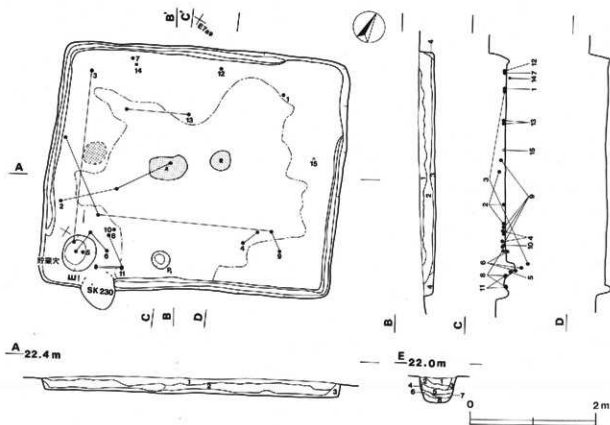
られておらず、床面が火熱を受け赤変硬化している。炉Bは炉Aの北東36cmに位置し、径35cmの円形で、炉床は炉Aと同様である。

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。長径60cm、短径52cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム中ブロックを多量に含む褐色土、第4層はローム粒子を少量含む褐色土、第5層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第6層はローム中ブロックを少量含む褐色土、第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量とローム中ブロックを中量含む黄褐色土である。

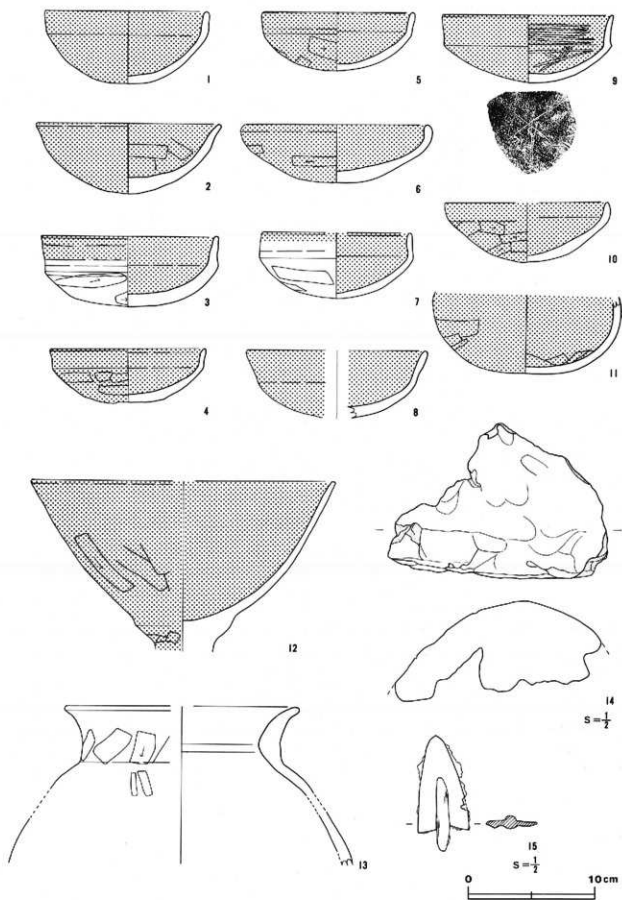
覆土 4層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを多量とローム中ブロックを中量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を少量含む褐色土、第3層はローム大ブロックを多量に含む濃い褐色土、第4層はローム中ブロックを多量に含む褐色土である。

遺物 土師器の破片を主体に、南西壁側から投棄された状態で、多量に出土している。第166図1～4の土師器破片は、1が北コーナー付近の覆土下層から正位の状態、2が南西側の覆土下層から出土している。3は西コーナー付近の床面から出土した破片と貯蔵穴の覆土から出土した破片が接合したものである。4は東コーナー付近の覆土下層から出土している。15の鉄鏝は北東壁中央付近の床面から出土している。中央から北西及び南東寄りの覆土下層からは炭化した種子が出土している。

所見 壁際から、焼土塊及び炭化材が確認されていることから、焼失住居と思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第165図 第61号住居跡実測図



第166図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168回 1	坏土師器	A 12.7	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P433 P L63 95% 覆土下層
		B 5.9				
2	坏土師器	A 14.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P434 P L63 90% 覆土下層
		B 5.8				
3	坏土師器	A 14.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P435 P L63 90% 床面・貯蔵穴
		B 5.8				
4	坏土師器	A 12.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P436 P L62 90% 覆土下層
		B 4.4				
5	坏土師器	A 12.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P437 P L62 85% 貯蔵穴覆土
		B 4.8				
6	坏土師器	A 14.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は丸い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P438 P L62 70% 床面・貯蔵穴
		B 4.7				
7	坏土師器	A [11.8]	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P439 P L62 80% 覆土下層
		B 5.3				
8	坏土師器	A [14.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P440 85% 床面
		B (5.4)				
9	坏土師器	A 13.6	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ナデ。口縁部及び体部内面に磨き。内・外面赤彩。底部外面にヘラ定方×。	長石・砂粒 赤褐色 良好	P441 P L63 60% 覆土下層
		B 5.5				
10	坏土師器	A [13.0]	体部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナ削り。内面割離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P442 P L63 85% 床面
		B 4.8				
11	坏土師器	B (6.4)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面へナ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 褐色 普通	P443 70% 覆土下層
12	高坏土師器	A [23.8]	胴部から口縁部の破片。胴部と坏形部の境に稜をもつ。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び口縁部上位へナ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P444 P L64 45% 覆土下層
		B (13.6)				
13	墨土師器	A [18.3]	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へナ削り。内・外面磨料。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P445 P L64 20% 覆土下層
		B (12.6)				

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	支脚	(8.3)	(11.5)	5.6	286.8	床面	DP29 30% P L69
15	鉄鏝	6.2	2.7	0.7	7.1	床面	M10 95% P L71

第62号住居跡 (第167図)

位置 3区北東部, F7c区。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸4.84mの方形である。

主軸方向 N-18°-W。

壁 壁高は34~48cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~20cm, 下幅3~12cm, 深さ4~8cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。東壁側に2条(a・b), 西壁側に1条(c)確認され, 長さ0.64~1.00m, 上幅18~36cm, 下幅8~13cm, 深さ10~12cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₃は, 径28~38cm, 深さ56~60cmで主柱穴, P₄は, 径17cm, 深さ25cmで出入り口施設に伴うピット, P₅は, 径24cm, 深さ15cmで補助柱穴と考えられる。P₆の周囲には, 柱材の補強に使われたと思われる粘土が確認されている。

炉 中央から北寄りであり, 長径45cm, 短径28cmの楕円形で, 床は僅かに掘り窪められ, ブロック状に赤変硬化している。

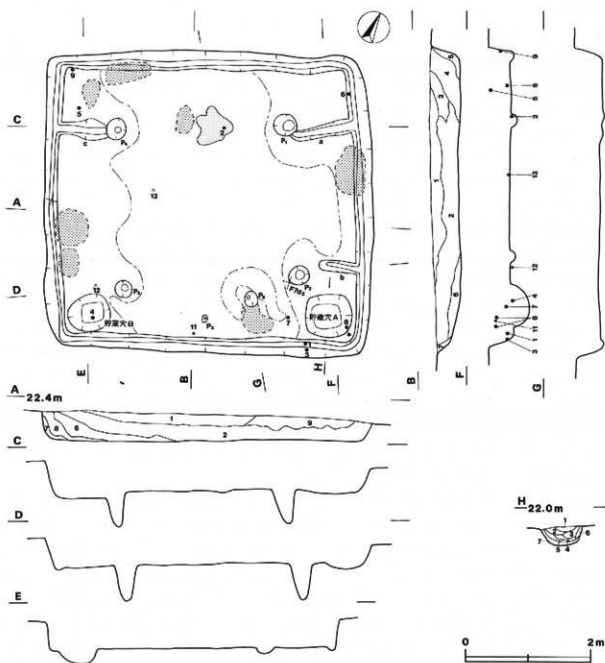
貯蔵穴 2か所(貯蔵穴A・B)。貯蔵穴Aは南東コーナーに付設されている。長軸74cm, 短軸68cmの隅丸長方形で, 深さは30cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は7層からなり, 第1層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び粘土粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム大ブロック及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む明褐色土, 第4層はローム小ブロックを少量と焼土中ブロックを多量及び炭化物を中量含む赤褐色土, 第5層はローム中ブロックを少量と焼土粒子及び炭化物を中量含む明褐色土, 第6層はローム中ブロックを多量に含む黄褐色土, 第7層は焼土粒子を微量含む黄褐色土である。貯蔵穴Bは南西コーナーに付設されている。長径66cm, 短径56cmの楕円形で, 深さは26cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は貯蔵穴Aとほぼ同じような堆積状況を示している。

覆土 9層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム小ブロックを少量とローム大ブロックを多量に含む黄褐色土, 第4層はローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を少量含む褐色土, 第5層はローム小・中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量, ローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む明褐色土, 第7層はローム小ブロックを多量に含む褐色土, 第8層はローム小ブロックを中量と焼土小・中ブロックを少量含む暗赤褐色土, 第9層はローム粒子及び炭化粒子を多量とローム小ブロックを少量及び炭化物を中量含む褐色土である。

遺物 南壁側を中心に, 土師器の坏・甕等が少量出土している。第168図1~6は土師器坏で, 1は東コーナー付近の覆土下層から逆位の状態で, 2は北寄りの覆土下層から正位の状態で, 3は1の下の床面から逆位の状態で, 4は貯蔵穴の覆土上層から, 5は西コーナーの覆土上層から, 6は北コーナーの覆土下層から逆位の状態で出土している。7は土師器坏で, 東コーナーの覆土下層から正位の状態で出土している。8と9は土師器甕で, 8は東コーナーの覆土上層から, 9は西コーナーの覆土中層から出土している。12の鉄鏝は南コーナーの床面から出土している。

所見 2か所の貯蔵穴は覆土の状況から, 同時期に使用され同時期に埋もれたものと思われる。本跡は, 壁際

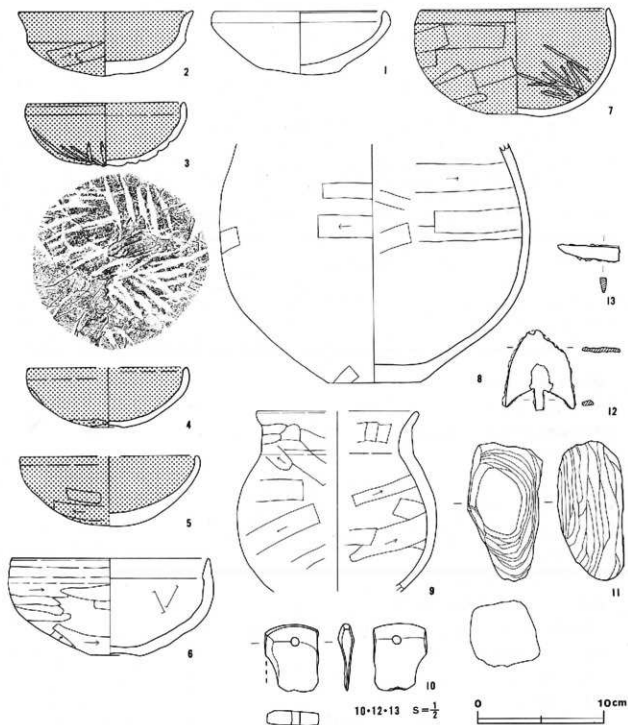
の覆土下層から床面にかけて焼土塊がみられることから焼失住居である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第167図 第62号住居跡実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・完成	備考
第167図 1	坏土 罽器	A 13.6	口縁部の一部欠損。平底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 にふい褐色 普通	P446 P L63 95% 覆土下層
		B 6.2				
		C 6.4				
2	坏土 罽器	A 13.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタすり。内面ナデ。内・外面赤彫。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P447 P L63 95% 覆土下層
		B 5.2				



第168図 第62号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土 土器	A 12.5 B 5.1	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外筋ナデ。内・外面赤彩。	石英・砂粒に ぶい橙色 普通	P448 PL63 90% 磁石に転用 床面
4	坏土 土器	A [12.4] B 4.8 C [2.2]	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面刺障。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P449 PL62 45% 野黨穴層土上層
5	坏土 土器	A [14.0] B 5.5	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P450 40% 版土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏 土師器	A 15.7 B 7.6 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に横をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面へつナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P 431 P L 64 100% 覆土下層
7	埴 土師器	A 15.8 B 8.7 C 3.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	石英・砂粒赤色普通	P 432 P L 64 100% 覆土下層
8	塚 土師器	B (19.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。	体部外面へつ削り。内面へつナデ。	長石・砂粒灰褐色普通	P 453 30% 覆土上層
9	甕 土師器	A (12.9) B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	内・外面へつ削り。	長石・スコリア・砂粒にふい褐色普通	P 454 30% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	砥石	(3.6)	(2.9)	0.8	7.9	覆土下層 孔径 4.3mm Q169 砂岩	P L 70
11	不明石製品	11.2	6.0	5.4	471.0	覆土上層 Q168 崖面石	P L 70
12	鉄鏝	4.3	3.8	0.9	7.5	床面 M11 80%	P L 71
13	刀子	(3.3)	0.8	0.3	1.5	床面 M12 10% 鉄製	P L 71

第63号住居跡 (第169図)

位置 3区南東部, F7h区。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.20mの方形をしていたものと考えられる。

主軸方向 (N-38°-W)。

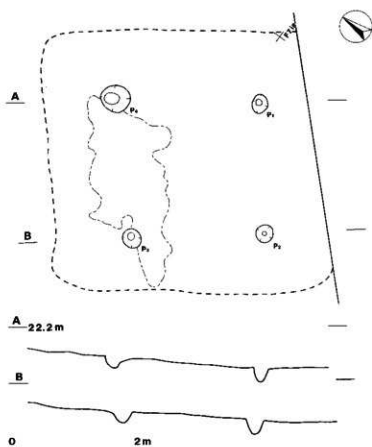
壁 削平されて残存していない。南東壁は調査区外にのびている。

床 北側から南側に向けて緩やかに傾斜している。P₁とP₂の間に硬化面が僅かにみられる程度で、その他については削平されているためとらえられない。

ピット 4か所(P₁~P₂)。P₁~P₁は、径26~50cm, 深さ17~24cmで主柱穴と考えられる。

遺物 土師器の坏・甕片が40点, 縄文土器が1点出土しているだけである。

所見 本跡の大半は削平されているため、規模や形状等、推定の部分が多い。時期については、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



第169図 第63号住居跡実測図

第64号住居跡 (第171図)

位置 3区北西部, F7d区。

規模と平面形 長軸2.94m, 短軸2.88mの方形である。

主軸方向 (N-40°-W)。

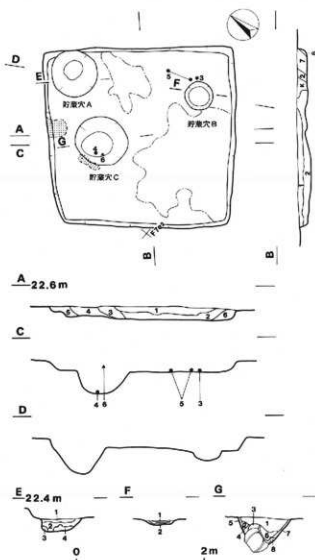
壁 壁高は14~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、特に南東部は硬く踏み固められている。貯蔵穴Bの周辺には粘土塊が僅かにみられる。

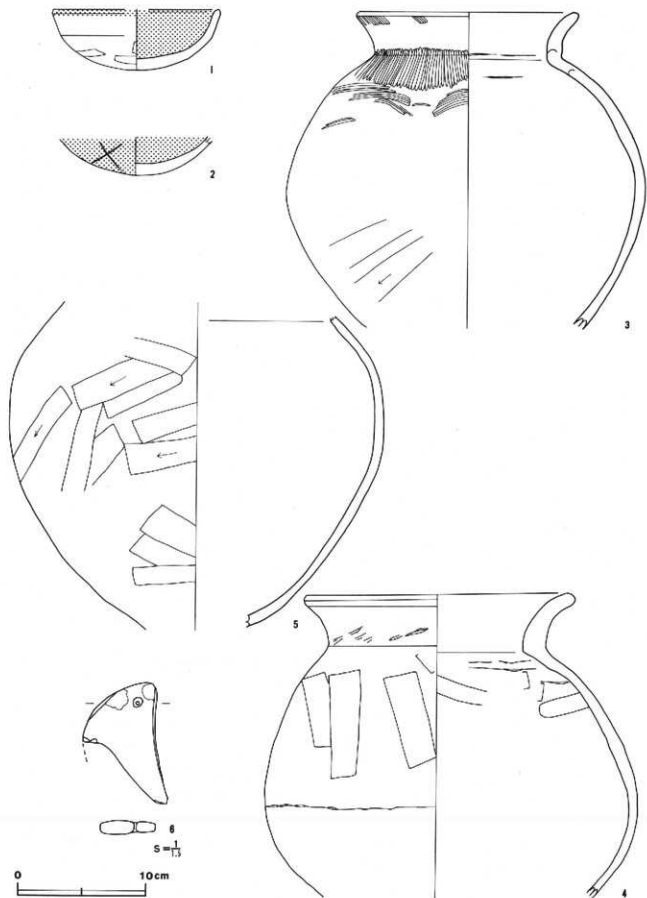
貯蔵穴 3か所 (貯蔵穴A~C)。貯蔵穴Aは北コーナーに付設されている。径72cmの円形で、深さは42cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土である。貯蔵穴Bは東コーナー付近に付設されている。径46cmの円形で、深さは15cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を微量含む明褐色土、第2層はローム小ブロックを中量含む明褐色土である。貯蔵穴Cは中央から北西寄りに付設されている。径82cmのほぼ円形で、深さは37cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層から第4層は褐色土で、ローム粒子及びローム小ブロックと焼土粒子を含んでいる。第5層はハードブロック混じりの黄褐色土である。第6層から第8層は褐色土で、ローム粒子を主体に、焼土粒子と炭化粒子を僅かに含んでいる。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム小ブロックを中量とローム中ブロックを少量含む明褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第4層はローム粒子を少量含む褐色土、第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む明褐色土、第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第7層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量及びローム中ブロックを中量含む明褐色土、第8層はローム粒子を極めて多量に含む橙褐色土である。

遺物 東コーナー付近からまとめて、土師器の破片等が少量出土している。第171図1の土師器杯は覆土中から出土した破片が接合したものである。3~5は土師器臺で、3は東コーナーの床面から横位の状態で、5



第170図 第64号住居跡実測図



第171图 第64号住居跡出土遺物実測図

は同じく潰れた状態で、4は貯蔵穴のほぼ底面から横位の状態で出土している。6の勾玉は西寄りの覆土下層から出土している。

所見 北西壁側に焼土塊が確認されているが、覆土の上層付近に位置し下層まで達していないこと、貯蔵穴B周辺に確認された粘土が焼けていないことから、本跡に関連するものではない。本跡は、第37・71号住居跡と同じ内部施設に貯蔵穴を3か所有する小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第171回 1	坏土師器	A [12.0]	底部から口縁部の破片。体部は内聲気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	1) 縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 455 40% 覆土
		B 4.9				
2	坏土師器	B (3.3)	底部の破片。丸底。	内・外面赤彩。底面外面にへラ記号「X」。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 456 30% 覆土
3	土師器	A 15.2	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部から体部上位はへラ磨き。口縁部内面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P 457 P L 64 80% 床面
		B (25.4)				
4	土師器	A 20.7	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	1) 縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 458 P L 65 60% 貯蔵穴底面
		B (24.5)				
5	土師器	A 20.7	底部及び口縁部欠損。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙褐色 普通	P 459 P L 65 80% 床面
		B (26.2)				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
第171回 6	勾玉	(4.8)	3.3	0.6	11.3	覆土下層 孔径 2.0mm Q170 磨石 P L 70

第65号住居跡 (第172回)

位置 3区北東部, F7g区。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸5.06mの方形である。

主軸方向 N-26°-W。

壁 壁高は36~58cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅8~18cm, 下幅4~10cm, 深さ3~6cmで、断面形は皿状をしている。

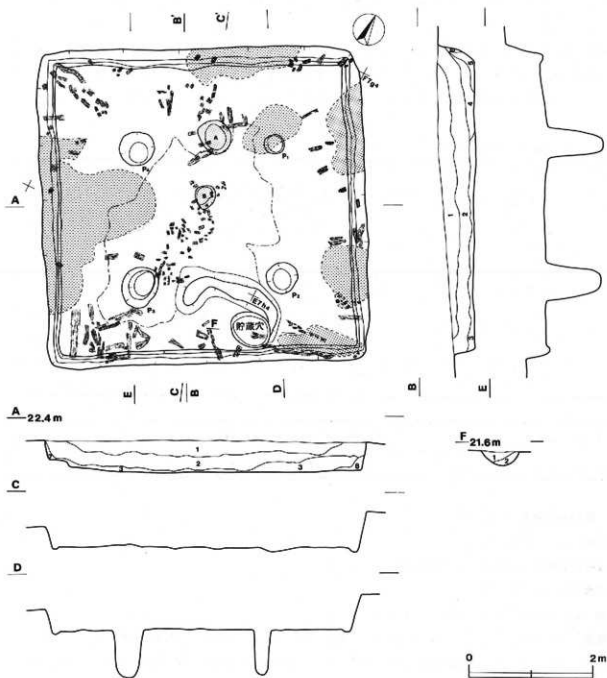
床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅40~60cm, 高さ4cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は、径34~70cm, 深さ74~94cmで主柱穴と考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり、長径56cm, 短径48cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり、長径40cm, 短径34cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け、赤変している。

貯蔵穴 東コーナー寄りの南東壁下に付設されている。長径68cm, 短径54cmの楕円形で、深さは21cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第2層は焼土粒子と焼土小ブロックを少量及び炭化物を中量含む暗褐色土である。いずれも、本跡が焼失した際に入り込んだものと思われる。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第2層以下には、焼土粒子及び炭化物が多く含まれており、本跡が焼



第172図 第65号住居跡実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

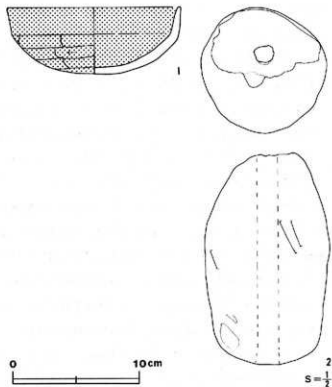
図版番号	種類	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	環状土器	A 13.8 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内側気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ欄り。内面ナデ。内・外面赤形。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P460 P L64 90% 床面

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
2	管状土器	11.1	6.7	-	396.2	覆土 孔径 13.0mm DP30 80% P L69

失した際に埋め戻されたものと考えられる。第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む黒褐色土、第2層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土、第3層はローム小ブロックを少量と焼土粒子を多量及び炭化物を中量含む明褐色土、第4層はローム中ブロックを多量と炭化物を少量含む褐色土、第5層は焼土粒子を中量と焼土大ブロックを少量及び炭化物を多量を含む褐色土、第6層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土、第7層はローム小ブロックと焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含むにぶい褐色土、第8層はローム大ブロックを多量と炭化物を微量含む明褐色土である。

遺物 床面及び覆土下層から、土師器の坏・甕片等が520点出土している。第173図1の土師器坏は炉A付近の床面から出土している。

所見 本跡は焼失住居である。遺物は焼失後、意図的に破砕し投棄されたものと思われる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第173図 第65号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡 (第174図)

位置 3区北西部, F6区。

重複関係 本跡の北コーナー付近は、第223号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.34m, 短軸4.04mの長方形である。

主軸方向 N-46°-W。

壁 壁高は17~24cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナー付近を除き、壁下を周回している。上幅5~20cm, 下幅3~14cm, 深さ3~8cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 2条(a・b)。北東壁側に1条(a), 南西壁側に1条(b)確認され、長さ0.62~1.32m, 上幅14~41cm, 下幅6~14cm, 深さ6~20cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅約30cm, 高さ3cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₃は、径26~38cm, 深さ18~49cmで支柱穴及び主柱穴に関連するピット、P₄は、径34cm, 深さ30cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長軸51cm, 短軸41cmの不整形で、床面を2cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を少量と焼土小ブロックを微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変酸化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸96cm、短軸66cmの長方形で、深さは23cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第2層は焼土粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

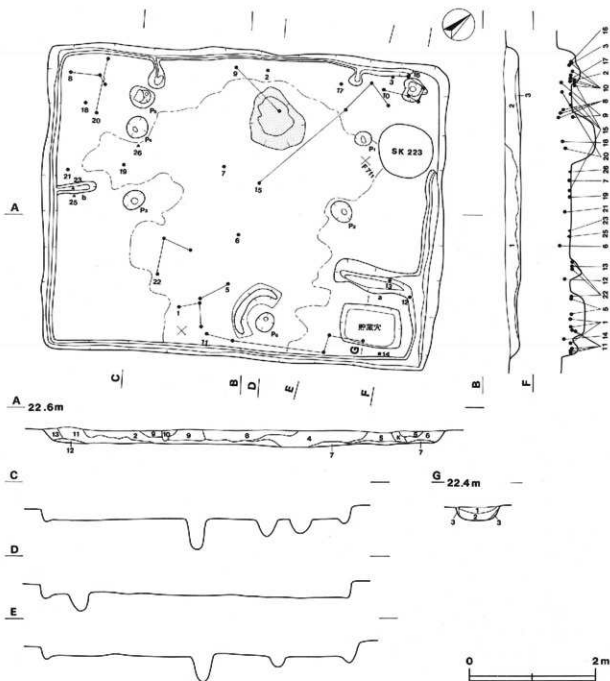
覆土 13層からなり、人為堆積である。第1層はローム中ブロックを中量含む明褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム中ブロックを少量含む暗褐色土、第4層はローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第5層はローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第6層はローム大ブロックを多量に含む褐色土、第7層はローム大ブロックを中量含む明褐色土、第8層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第9層はローム粒子を少量とローム大ブロックを多量に含む褐色土、第10層は焼土粒子を微量含む暗褐色土、第11層はローム大ブロックを中量含む明褐色土、第12層はローム大ブロックを極めて多量に含む明褐色土、第13層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

遺物 壁際の覆土下層を中心に、土師器の坏・甕片等が多量に出土している。第175～177図1～6は土師器坏で、1・5は南東寄りの床面から、2は北西壁際の床面から、3は北コーナーの覆土下層から出土している。7は土師器境で中央部床面から、8は土師器鉢で西コーナーの覆土上層から出土している。9～21は土師器甕で、9は北西寄りの床面から、11は南東壁際の床面から、12～14は東コーナーの覆土上層から床面にかけて、10・16・17は北コーナー付近の床面から、18・20は南西寄りの覆土下層から出土している。22の土師器甕は南西寄りの床面から出土している。23の勾玉の模造品と25・26の白玉は南西寄りの床面から覆土下層にかけて出土している。

所見 遺物は出土状況から、本跡陥絶後、間もなく投棄されたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

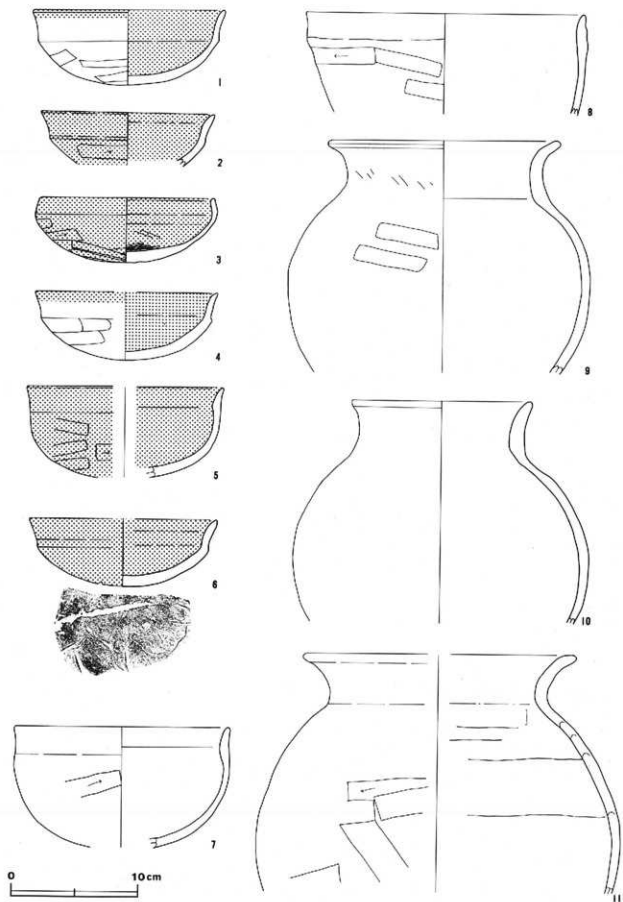
第66号住居跡出土遺物観察表

図号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
175-177 1	坏 土師器	A 15.0 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	石英・砂粒 暗赤色 普通	P461 80% 床面
	2	A 13.8 H (4.3)	底面欠損。体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P462 65% 床面
3	坏 土師器	A 13.5 B 5.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へつ削り。内面ヘラナゲ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P463 70% 覆土下層
4	坏 土師器	A [14.4] B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P464 60% 覆土上層
5	坏 土師器	A [15.5] B (7.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P465 45% 床面
6	坏 土師器	A [14.8] B 5.4	底面から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P466 40% 磁石に転用 覆土上層
7	坏 土師器	A 16.5 B (9.7)	底面及び体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 に白い褐色 普通	P467 55% 床面
8	鉢 土師器	A 22.0 B (8.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P468 20% 覆土上層
9	甕 土師器	A 17.7 B (18.7) C 5.6	底面欠損。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へつ削り。体部外面へつ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・砂粒 褐色 普通	P469 55% 床面

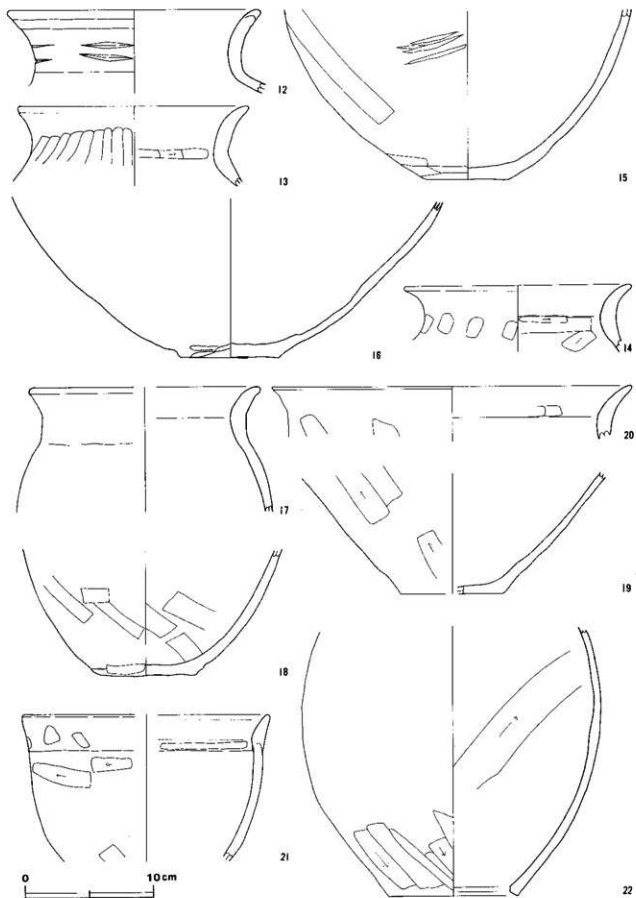


第174図 第66号住居跡実測図

図原番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	甕土師器	A 14.0 B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P 470 P L 66 50% 床面
11	甕土師器	A [21.3] B (20.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り。内面へつナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 471 P L 65 25% 床面
12	甕土師器	A 19.5 B (6.7)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 472 P L 63 15% 乱石に転用 産土層
13	甕土師器	A 18.0 B (6.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へつ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 473 P L 63 20% 床面



第175图 第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第176图 第66号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	新土・色割・焼成	備考
14	甕 土師器	A 17.7 B (5.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面へラ削り。	長石・砂粒 褐色 普通	P474 P L.63 10% 覆土上層
15	甕 土師器	B (13.6) C 6.8	底部から体部の破片。平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P475 P L.65 40% 床面
16	甕 土師器	B (12.8) C 7.6	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。外面下位へラ削り。	砂粒 暗赤褐色 普通	P476 40% 床面
17	甕 土師器	A [17.8] B (10.0)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P477 5% 床面
18	甕 土師器	B (10.1) C 8.0	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P478 20% 覆土下層
19	甕 土師器	B (9.6) C [8.2]	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 褐色 普通	P479 20% 覆土下層
20	甕 土師器	A 28.4 B (4.4)	頸部から口縁部の破片。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面へラ削り。	普通 長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P480 5% 覆土下層
21	甕 土師器	A [19.5] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部は折り返される。	口縁部外面に指磨痕。内面下位及び体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P481 15% 覆土下層
22	甕 土師器	B (21.4) C 10.2	頸部から口縁部欠損。無底式。体部は内湾して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P482 P L.66 60% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第177図23	勾玉	3.3	2.1	0.5	5.8	床面	孔径 2.0mm Q171 100%	滑石 P L.70
24	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土	孔径 1.5mm Q172 100%	滑石 P L.71
25	白土	0.5	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q173 100%	滑石 P L.71
26	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 1.3mm Q174 100%	滑石 P L.71
27	不明石製品	8.8	7.2	2.6	176.1	覆土	七 Q175 崖背石	P L.70

第67号住居跡(第178図)

位置 3区中央部、F7j区。

規模と平面形 長軸5.50m、短軸5.40mの方形である。

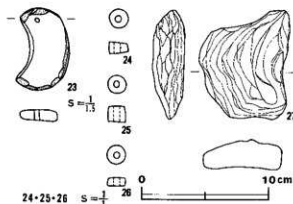
主軸方向 N-25°-W。

壁 壁高は38~64cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅7~16cm、下幅4~14cm、深さ3~9cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅約20cm、高さ2cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P~P₅)。P₁~P₄は、径26~36cm、深さ46~60cmで主柱穴、P₅は、径24cm、深さ28cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第177図 第66号住居跡出土遺物実測図(3)

炉 中央から北西寄りにあり、長径74cm、短径60cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸58cm、短軸56cmの隅丸方形で、深さは28cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を微量含む褐色土、第4層はローム小・中ブロックを少量含む明褐色土である。

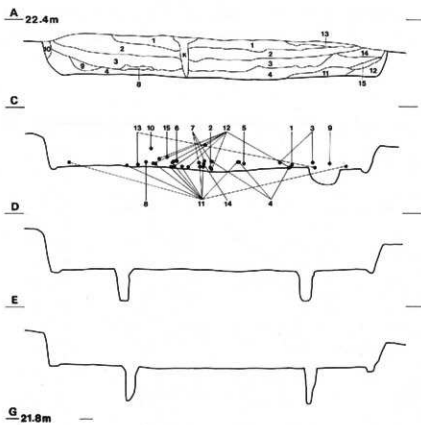
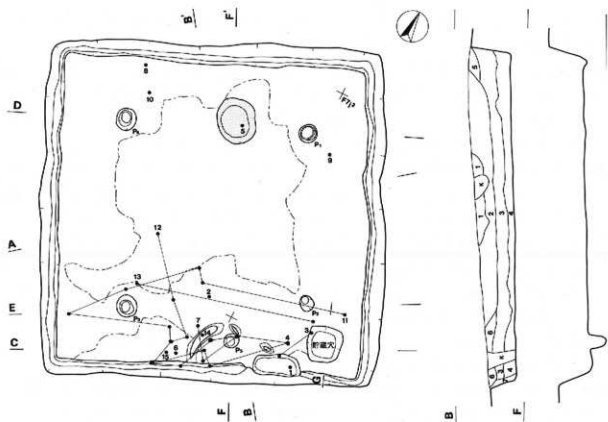
覆土 15層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を微量含む褐色土、第4層はローム小ブロックを中量含むふい褐色土、第5層はローム粒子を少量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む褐色土、第7層はローム大ブロックを多量に含む明褐色土、第8層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第9層はローム中ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む黄褐色土、第10層はローム中ブロックを中量含む褐色土、第11層はローム中ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む褐色土、第12層はローム小ブロックを中量とローム大ブロックを多量に含む黄褐色土、第13層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第14層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第15層はローム中ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 南東壁際の覆土下層を中心に、土師器・須恵器片が少量出土している。11の土師器は南寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。15の須恵器は南東壁際の覆土下層から出土している。

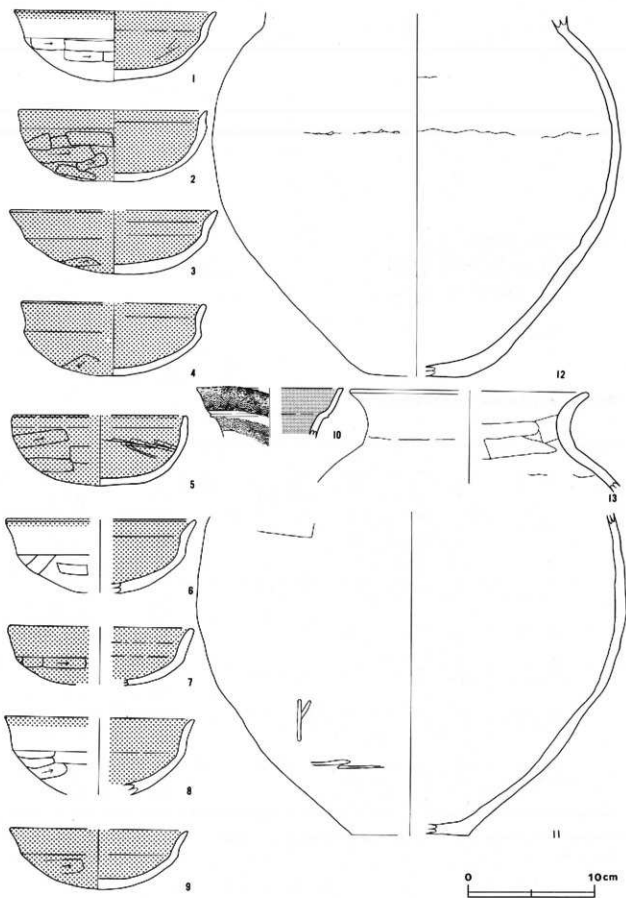
所見 当遺跡から確認された住居跡及び建物跡の例から、出入口施設と考えられる馬の背状の高まりは、本来、P₃を取り囲むように弧状に存在していたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第67号住居跡出土遺物観察表

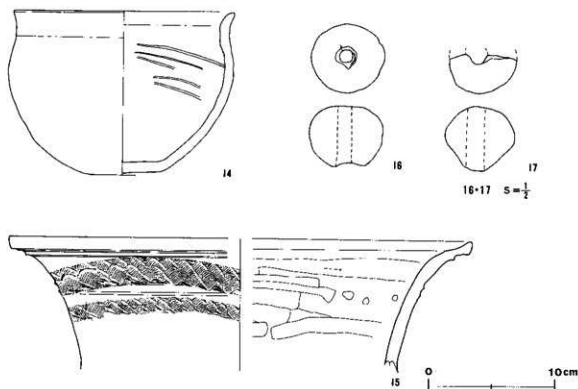
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器	A 16.0	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ヘラナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P483 P L64 100% 覆土下層
		B 5.7				
2	土師器	A 14.7	体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P484 P L64 95% 覆土下層
		B 5.7				
3	土師器	A [16.2]	口縁部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P485 P L65 55% 覆土下層
		B 3.2				
4	土師器	A [14.0]	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P486 P L65 75% 覆土下層
		B 5.9				
5	土師器	A [13.6]	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に横をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P487 P L65 55% 覆土下層
		B 5.7				
6	土師器	A [14.8]	器部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	石英・砂粒 赤色 普通	P488 P L65 35% 覆土下層
		B (6.9)				
7	土師器	A [14.6]	体部から口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P489 45% 覆土下層
		B (4.7)				
8	土師器	A [15.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P490 40% 覆土下層
		B (6.2)				



第178图 第67号住居跡実測图



第179图 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第180図 第67号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [14.0] B 4.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、1線部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外向横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外向及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P491 20% 覆土下層
10	須恵器	A [11.6] R (4.0)	頸部から口縁部の破片。頸部と口縁部の境にシャープな稜をもつ。1線部は外彎し、頸部に凹面をもつ。頸部には9条、口縁部には3条の櫛歯状文が施されている。	1線部及び頸部外面横ナデ。	長石・砂粒 褐灰色 良好	P492 P L66 5% 自然軸付着 覆土中層
11	甕土師器	B (26.0) C [9.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面上位へラ削り。下位は磨き。内面ナデ。	長石・砂粒 褐灰色 普通	P493 P L66 45% 覆土下層
12	甕土師器	B (29.2) C [7.6]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。	体部内・外面ナデ。	砂粒 褐色 普通	P494 P L67 45% 覆土
13	甕土師器	A [18.8] R (7.5)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面へラ削り。	砂粒 黒褐色 普通	P495 10% 普通面
14	甕土師器	A 17.5 B 13.2 C 5.5	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨耗。内面へラナデ。	長石・砂粒 明灰褐色 普通	P496 P L66 85% 覆土下層
15	須恵器	A [36.8] B (10.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。頸部と口縁部の境に2本、1線部下に1本の稜をもち、櫛歯状文が施される。	内・外面へラナデ。	長石・砂粒 緑灰色 普通	P497 P L66 5% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	球状土師	3.3	3.9	3.3	36.1	覆土 孔径 9.0mm D P31 100%	P L68
17	球状土師	3.4	3.1	3.4	17.5	覆土 孔径 10.0mm D P32 100%	P L69

第68号住居跡 (第181図)

位置 3区北西部, F6ha区。

重複関係 本跡の北西コーナー付近の壁の一部は, 第69号住居跡の竪に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.26m, 短軸3.76mの長方形である。

主軸方向 N-4°-W。

壁 壁高は14~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~12cm, 下幅3~8cm, 深さ3~6cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は, 径27cm, 深さ18cm, P₂は, 径26cm, 深さ28cmである。P₂は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり, 長径54cm, 短径48cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。炉Bは中央から南西寄りにあり, 長径74cm, 短径44cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は凸門で赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。長径52cm, 短径40cmの楕円形で, 深さは18cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり, 第1層はローム小ブロックを中量含む褐色土, 第2層はローム中ブロックを中量含む黄褐色土, 第3層はローム小ブロックを微量含む褐色土, 第4層はローム小・中ブロックを中量含む黄褐色土, 第5層はローム小ブロックを中量含む黄褐色土である。

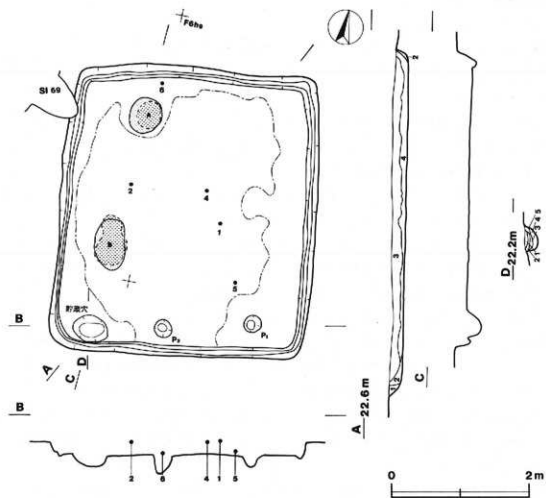
覆土 4層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム中ブロックを中量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む暗褐色土, 第4層はローム中ブロックを中量含む褐色土である。

遺物 覆土上層及び覆土下層から, 土師器片が少量出土している。第182図1~3は土師器片で, 東及び西寄りの覆土上層から, 4は土師器鉢で, 中央部覆土上層から, 5・6は土師器甕で, 5が南東コーナー, 6が北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

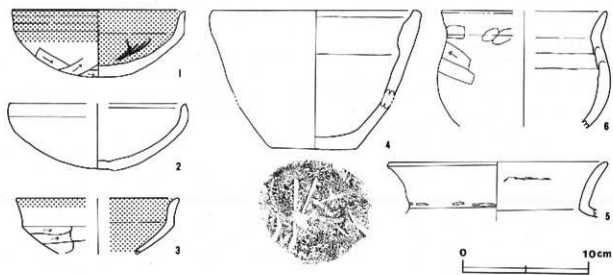
所見 本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土師器	A 13.8	丸式。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P498 P L65 100% 覆土上層
		B 5.4				
2	坏 土師器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。	砂粒 にぶい橙色 普通	P499 45% 覆土上層
		B 3.4				
3	坏 土師器	A [13.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 良好	P500 20% 覆土上層
		B (4.5)				
4	鉢 土師器	A 16.6	体部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は肥厚して外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P501 P L67 70% 覆土上層
		[11.3]				
		C 6.8				
5	甕 土師器	A 14.2	腹部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P502 P L67 10% 覆土下層
		B (4.4)				
6	甕 土師器	A [13.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 腹部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位から体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい 橙色 普通	P503 P L66 25% 覆土下層
		B (9.3)				



第181图 第68号住居跡実測図



第182图 第68号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡 (第183図)

位置 3区南西部, G6d区。

規模と平面形 長軸7.44m, 短軸7.06mの方形である。

主軸方向 N-34°-W。

壁 壁高は12~54cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周していたと考えられる。上幅8~18cm, 下幅3~13cm, 深さ2~5cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 4条(a~d)。北東壁側に2条(a・b), 南西壁側に2条(c・d)確認され, 長さ1.08~1.84m, 上幅16~22cm, 下幅6~11cm, 深さ4~6cmで, 断面形は皿状をしている。

床 凸凹で, 出入り口付近及び炉の北東側に一部硬化面がみられる程度である。

ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁~P₄は, 径30~42cm, 深さ40~54cmで主柱穴, P₅・P₆は, 径44~46cm, 深さ12~14cmで主柱穴に関連するピットと考えられる。P₇は, 径66cm, 深さ32cmで性格は不明である。

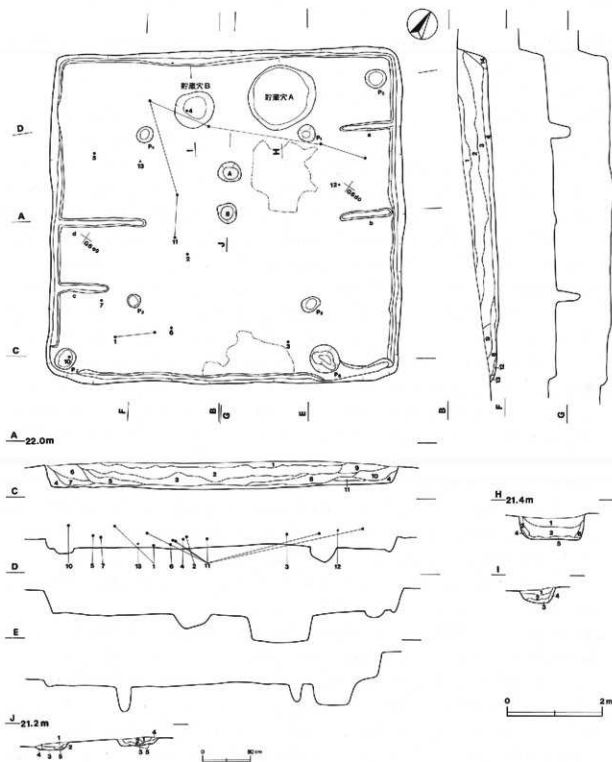
炉 2か所(炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり, 長径50cm, 短径42cmの楕円形で, 床面を9cm程掘り穿めている。覆土は5層からなり, 第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量含む褐色土, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土粒子と焼土小ブロックを少量含む明赤色土, 第4層は焼土粒子を少量含むいり褐色土, 第5層は焼土粒子を微量含む明褐色土である。炉床は北西から南東に向けて緩やかに傾斜し, 火熱を受け赤変硬化している。炉Bはほぼ中央部にあり, 長径42cm, 短径38cmの楕円形で, 床面を7cm程掘り穿めている。覆土は5層からなり, 第1層は焼土粒子及び焼土小・中ブロックを中量含む明褐色土, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土, 第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明褐色土, 第4層は焼土粒子を少量含む明褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子を少量含む褐色土である。炉床は凸凹で, 火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所(貯蔵穴A・B)。貯蔵穴Aは北西壁中央から北コーナー寄りに付設されている。径1.46mのほぼ円形で, 深さは58cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり, 第1層はローム粒子を中量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を少量含むいり褐色土, 第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第4層はローム粒子を極めて多量に含む明褐色土, 第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土, 第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土である。貯蔵穴Bは貯蔵穴Aの南西約70cmにあり, 長径86cm, 短径72cmの楕円形で, 深さは28cmである。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり, 第1層はローム粒子を中量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含むいり褐色土である。

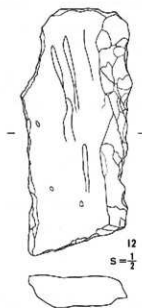
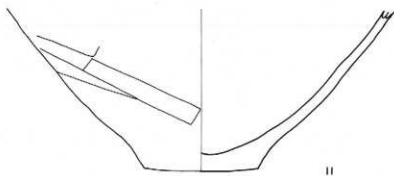
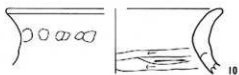
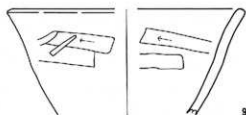
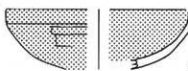
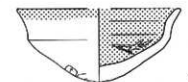
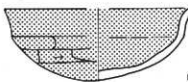
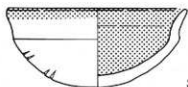
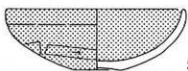
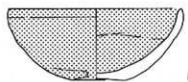
覆土 14層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土, 第2層はローム粒子を微量含む黒褐色土, 第3層はローム粒子を微量含む褐色土, 第4層はローム大ブロックを多量と黒色土ブロックを少量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム中ブロックを中量含む極暗褐色土, 第6層はローム粒子を中量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む褐色土, 第8層はローム粒子及びローム大ブロックを中量含む褐色土, 第9層はローム粒子を少量含む褐色土, 第10層はローム粒子を微量含む褐色土, 第11層はローム中ブロックを多量に含む明褐色土, 第12層はローム中ブロックを中量含む黄褐色土, 第13層はローム小ブロックを少量含む褐色土, 第14層はローム中ブロックを中量含む褐色土で

ある。

遺物 覆土中層から下層にかけて、土師器片が少量出土している。第184図1と6の土師器環は南コーナー付近の覆土下層から、10の土師器甕は南コーナー覆土上層から、13の白玉は西寄りの覆土下層から出土している。
所見 出入口部の反対側に貯蔵穴を有する住居跡は僅かにみられるが、2か所確認されたのは本跡だけである。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第183図 第70号住居跡実測図



13 S=1/2

12 S=1/2

0 10cm

第184图 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184回 1	土師器 土師器	A 13.7	口縁部の一部欠損。平底で、 体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面斜離。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P507 P.L66 80% 覆土下層
		B 5.8				
		C 4.3				
2	土師器	A 14.3	底部から口縁部の破片。平底で、 体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面ナデ。内・外面赤 彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P508 P.L66 95% 覆土上層
		B 4.9 C 3.7				
3	土師器	A 14.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、 体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面斜離。口縁部外面及び体部内 面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P509 P.L65 60% 磁石に紙用 覆土上層
		B 6.3				
4	土師器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。丸底で、 体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面ナデ後、磨き。内・ 外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P510 P.L66 50% 覆土上層
		B 5.0				
5	土師器	A [14.1]	底部から口縁部の破片。平底で、 体部は外傾して立ち上がり、口縁部 は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 よひ褐色 普通	P511 P.L66 40% 覆土上層
		B 5.5				
6	土師器	A [14.8]	底部から口縁部の破片。丸底で、 体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面ナデ。内・外面赤 彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P512 P.L66 30% 覆土下層
		B 5.7				
7	土師器	A [12.6]	底部から口縁部の破片。丸底で、 体部は外傾して立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面ナデ後、磨き。口 縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 暗赤色 普通	P513 P.L66 30% 覆土上層
		B 5.9				
8	土師器	A [14.8]	底部から口縁部の破片。体部は内 彎気味に立ち上がり、口縁部は立 立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へタ削り。内面斜離。内・外面赤 彩。	石灰・砂粒 赤褐色 普通	P514 P.L66 30% 貯蔵穴覆土
		B (4.8)				
9	土師器	A [18.0]	体部から口縁部の破片。体部は内 彎して口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面へタ削り。	長石・砂粒 褐色 普通	P517 5% 貯蔵穴覆土
		B (8.6)				
10	土師器	A [17.0]	頸部から口縁部の破片。頸部から 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面 に拍網痕。内面へタ削り。	長石・砂粒 よひ褐色 普通	P515 10% 覆土上層
		B (5.2)				
11	土師器	A (13.0)	底部から口縁部の破片。平底で、 体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へタ削り。内面ナデ。	砂粒 赤褐色 普通	P516 30% 覆土上層
		B 9.0				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	砥石	(13.1)	(5.9)	1.7	210.4	覆土上層	Q178 砂岩
13	F1	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q179 100% 滑石 P.L71

第71号住居跡 (第185回)

位置 3区南西部, G6c区。

重複関係 本跡の南コーナー付近は第222号土坑及び第233号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-24°-W。

壁 壁高は7~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。貯蔵穴Bと第222号土坑との間に、上幅14~36cm, 下幅4~18cm, 深さ10cm程の溝状の掘り込みがみられる。

貯蔵穴 3か所(貯蔵穴A~C)。貯蔵穴Aは北コーナーに付設されている。径約1.10mの円形で、深さは60cmである。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム小・中ブロックを中量と炭化粒子を少量含む褐色土、第2層はローム中ブロックを中量と焼土小ブロックを少量含む

暗褐色土、第3層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第4層はローム大ブロックを極めて多量に含む黄褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明褐色土、第6層はローム粒子及びローム大ブロックを中量含む明褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む黒褐色土、第8層はローム大ブロックを極めて多量に含む褐色土である。貯蔵穴Bは東コーナーに付設されている。径約1.10mの円形で、深さは54cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム小ブロックを中量含む明褐色土、第4層はローム小ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む褐色土、第5層はローム粒子を微量含むにぶい褐色土、第6層はローム小ブロックを中量とローム大ブロックを多量及び焼土粒子を少量含む褐色土である。貯蔵穴Cは西コーナーに付設されている。径約90cmの円形で、深さは60cmである。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む暗褐色土、第2層はローム中ブロックと焼土粒子及び焼土中ブロックを少量、炭化粒子を中量含む暗褐色土、第3層は炭化粒子を中量含む暗褐色土、第4層はローム大ブロックを多量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を中量含む明褐色土、第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む極暗褐色土、第6層はローム大ブロックを極めて多量に含む明褐色土、第7層はローム中ブロックを少量含む褐色土である。

覆土 14層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量とローム小・中ブロックを少量含む明褐色土、第11層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第12層はローム粒子を多量含む明褐色土、第13層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子を中量含む暗褐色土、第14層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土、第15層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土である。

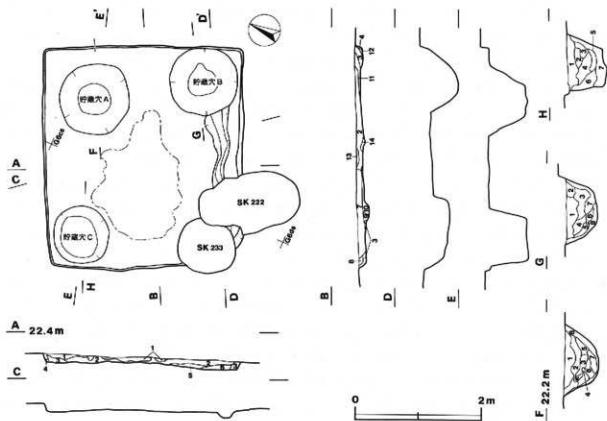
遺物 床面及び貯蔵穴内から、土師器片等が少量出土している。第186図1・2の土師器環は、1が貯蔵穴Aの底面から正位の状態で、2が貯蔵穴Cのほぼ底面から出土している。3の土師器環はP₀の覆土中から、4の鉄線は貯蔵穴Cの覆土下層から出土している。

所見 本跡は第37・64号住居跡同様、貯蔵穴を3か所有する建物跡で、時期は出土遺物から古墳時代中期後半である。

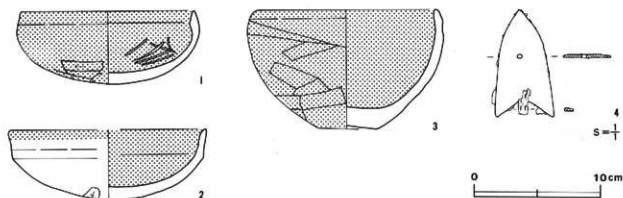
第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	土師器 環	A 13.8	丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P518 P.L66 100% 貯蔵穴A底面
		B 5.8				
2	土師器 環	A [15.7]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P519 P.L66 50% 貯蔵穴C真面
		B 5.6				
3	土師器 環	A 14.2	平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P520 P.L67 100% P ₀ 覆土
		B 9.6				
		C 4.5				

図表番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄 鍔	5.7	3.1	0.2	7.2	貯蔵穴 M13 90%	PL71



第185図 第71号住居跡実測図



第186図 第71号住居跡出土遺物実測図

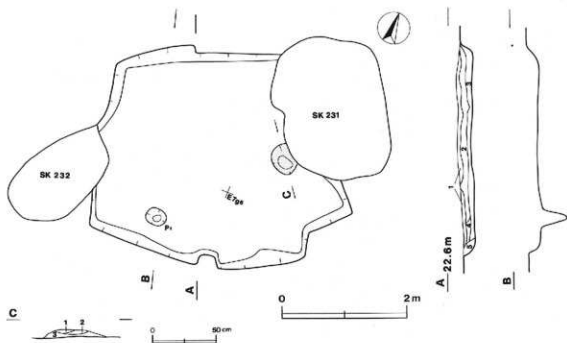
第72号住居跡 (第187図)

位置 3区北東部, E7g区。

重複関係 本跡の北東壁の大半は第231号土坑に, 南西壁のほぼ中央部は第232号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.06m, 短軸3.46mの不定形である。

主軸方向 (N-65°-E)。



第187図 第72号住居跡実測図

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、あまり踏み固められていない。

ピット 1か所 (P.)。径24cm、深さ38cmで性格は不明である。

炉 中央から北東寄りにあり、長径50cm、短径42cmの楕円形で、炉床は掘り窪められておらず、床面が赤変硬化している程度である。

覆土 5層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

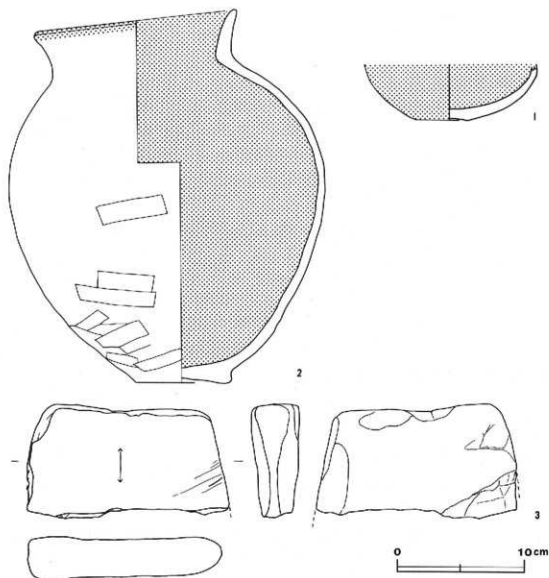
遺物 覆土中から土師器の坏・壺片が極少量出土している。第188図1の土師器坏と2の土師器壺は南東壁から東コーナー寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期頃の住居跡と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表図版番号

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図 1	坏 土師器	B (4.5) C 4.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面掬利。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P521 20% 覆土中層
2	壺 土師器	A [15.7] B 5.6	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナズ。体部外面へう削り後、ナズ。内面ナズ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P519 P L67 50% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	甌 石	(6.1)	10.6	2.6	210.1	覆土	Q180 砂岩 P L70



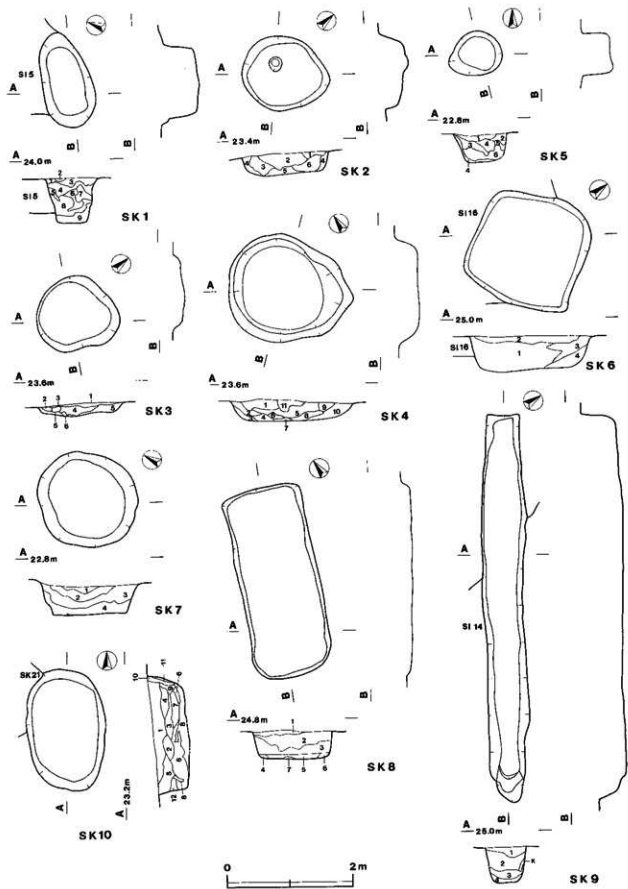
第188図 第72号住居跡出土遺物実測図

(2) 土 坑

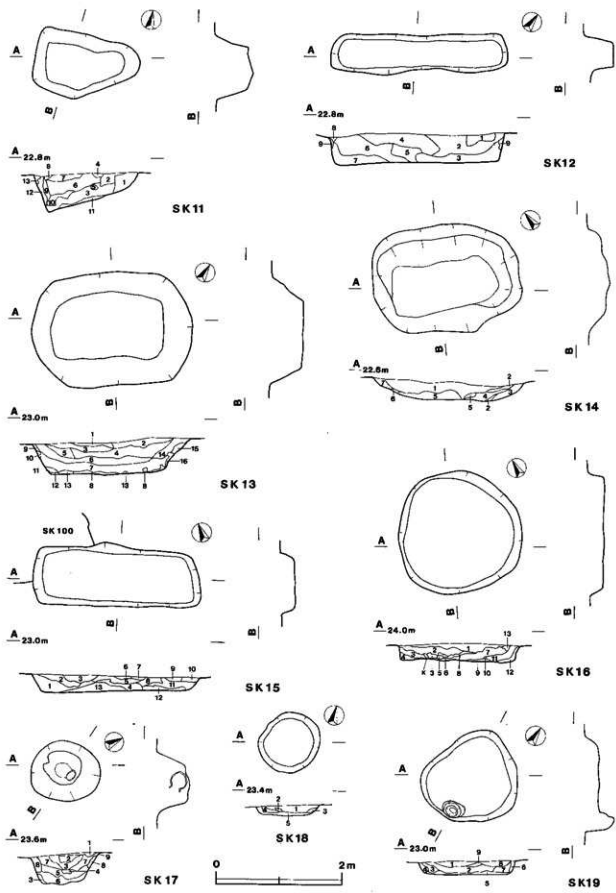
当遺跡で確認した土坑は、第1～249号までの230基である。その内、第138, 155, 162, 234～239, 241～248号については、調査及び整理の過程で、半穴等の近・現代に属する掘り込みや木根痕と判断したため欠番とした。第80, 102, 155号については、縄文時代の陥し穴と考えられ、第3章第3節1の(2)に掲載した。

土坑の大半は、出土遺物に大きな差異が認められないが、古墳時代のほぼ同時期に構築されたものと考えられ、性格は不明である。

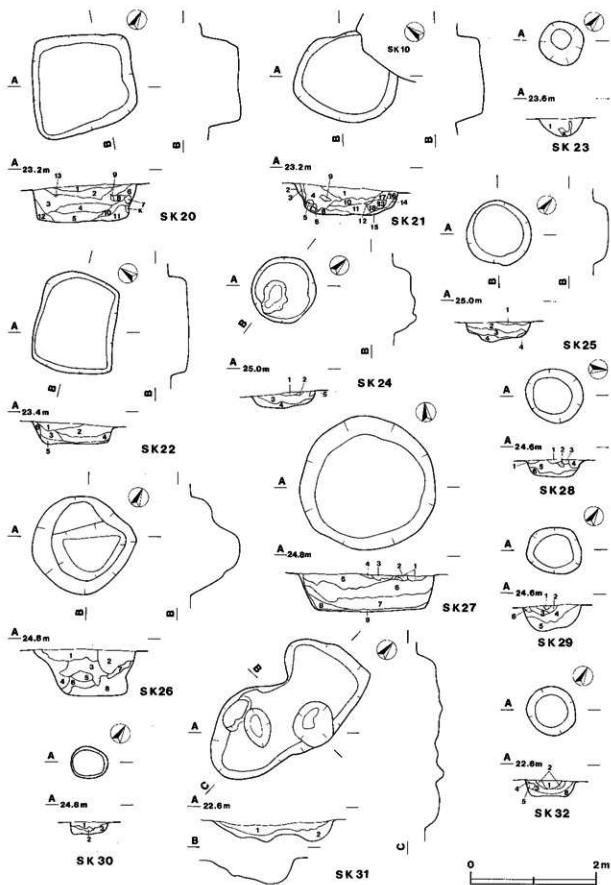
なお、出土遺物がなく時期や性格が不明のもの及び平安時代の住居跡を掘り込んでいる第156・157号土坑についても、一覧表に記載し報告する。



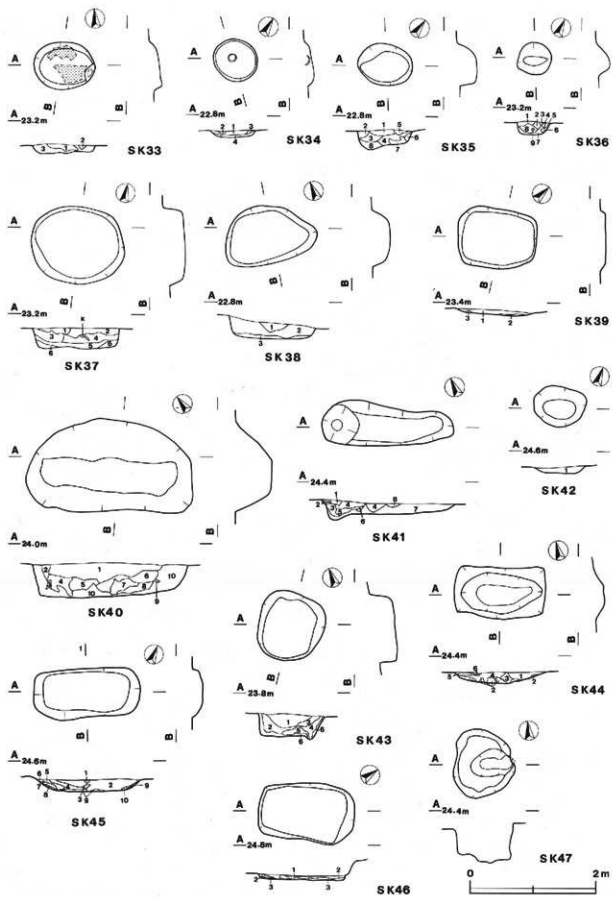
第189图 土坑实测图(1)



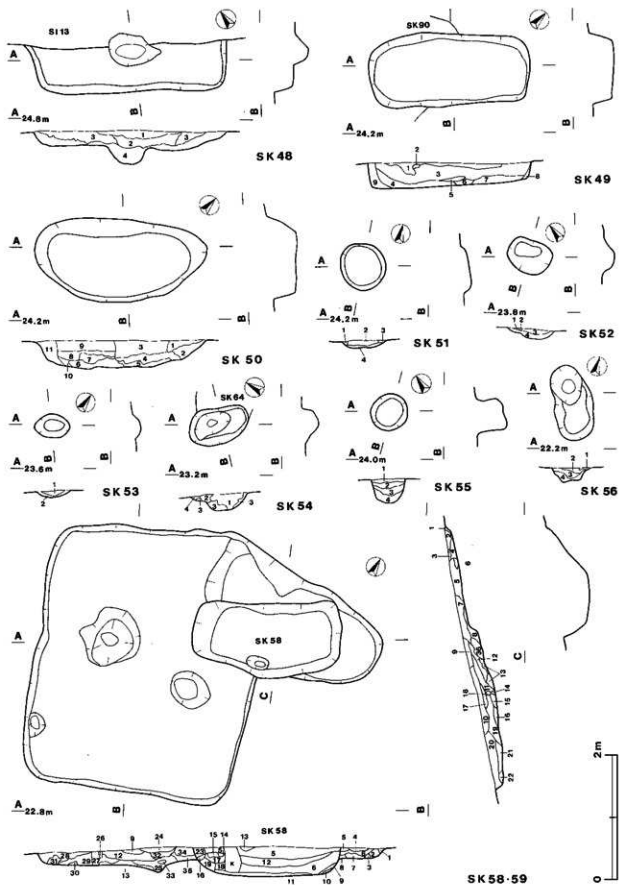
第190图 土坑突测图(2)



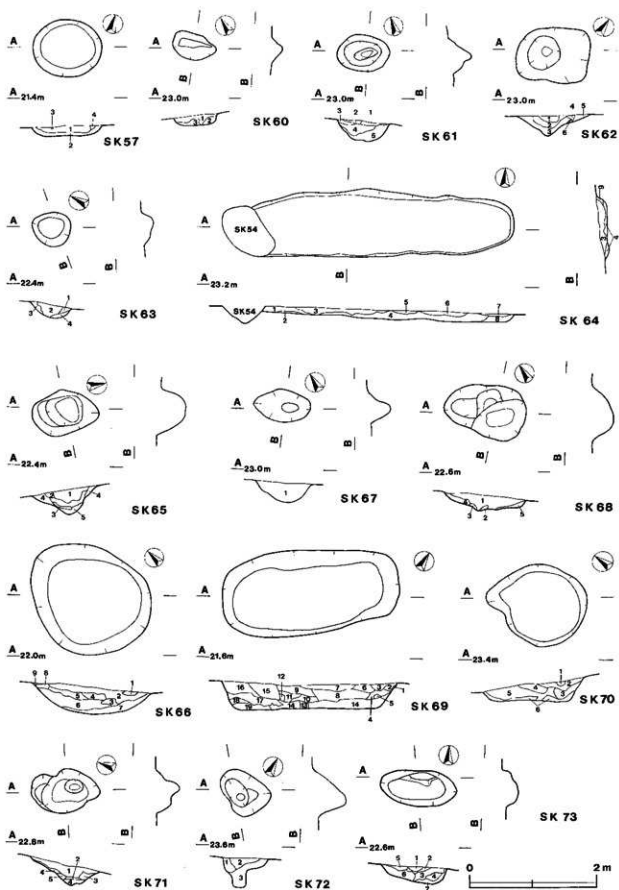
第191图 土坑实测图(3)



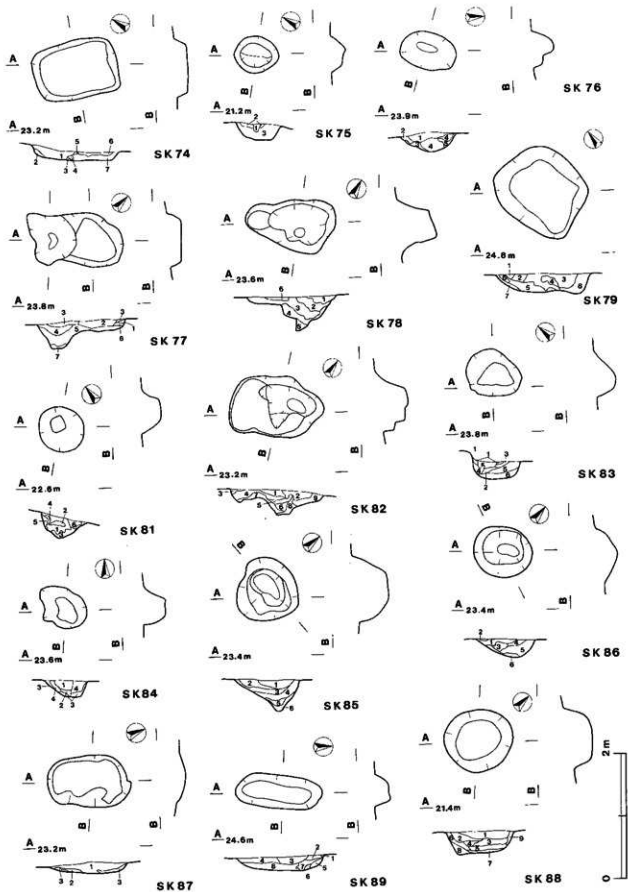
第192图 土坑实测图(4)



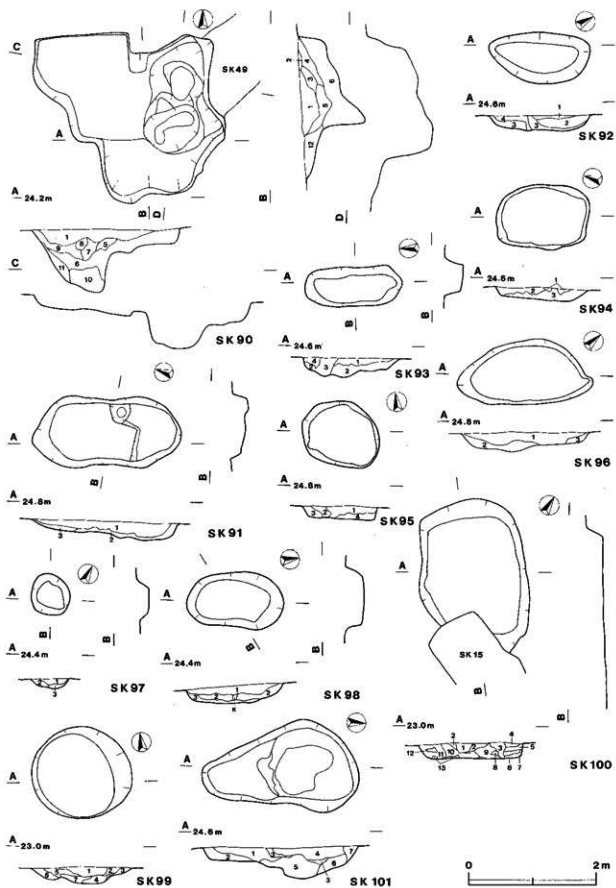
第193图 土坑实测图(5)



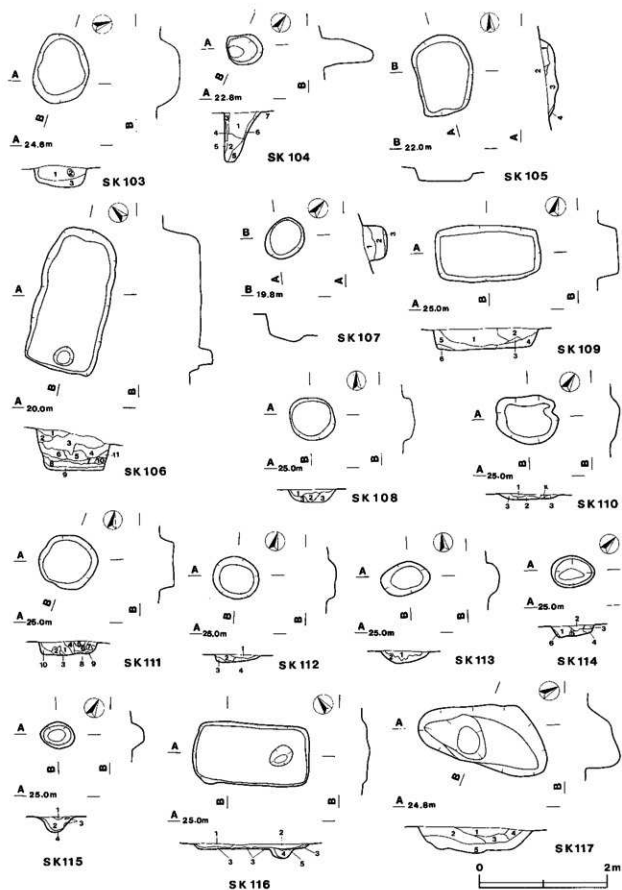
第194图 土坑实测图(6)



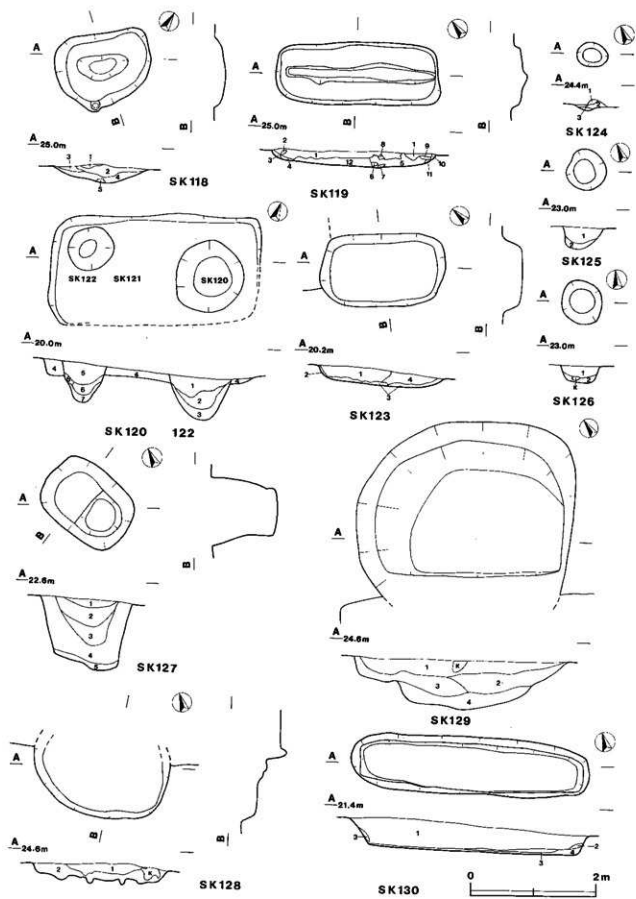
第195图 土坑实测图(7)



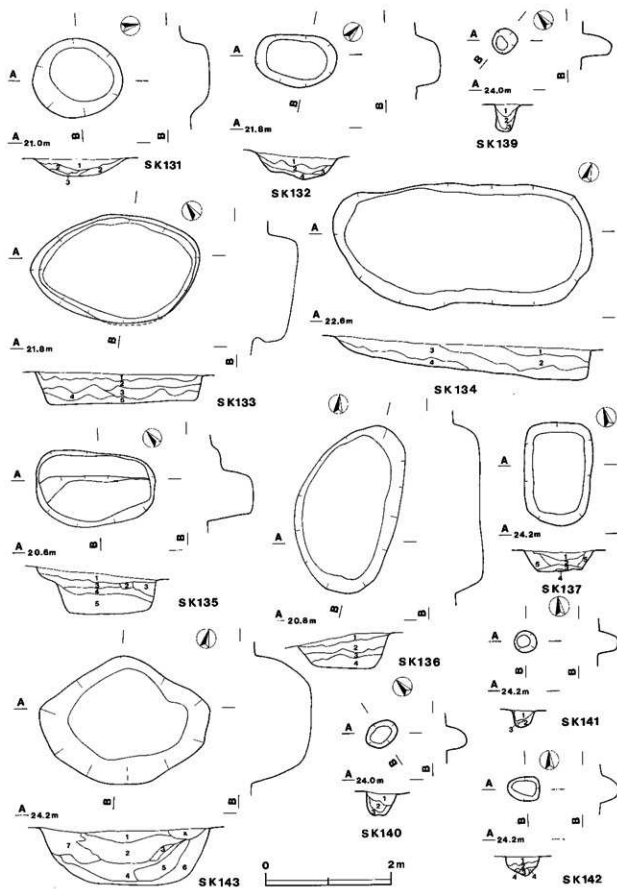
第196图 土坑实测图(8)



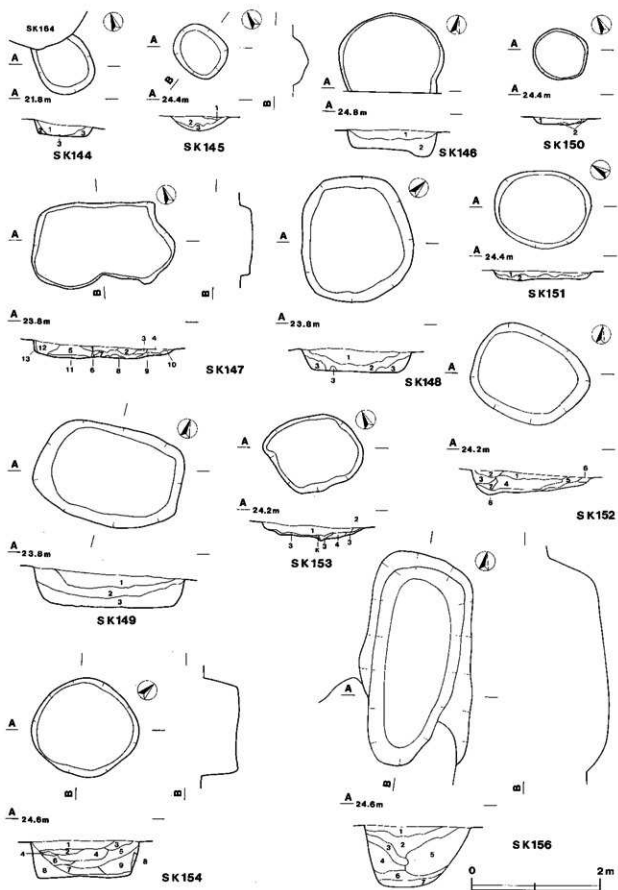
第197图 土坑实测图(9)



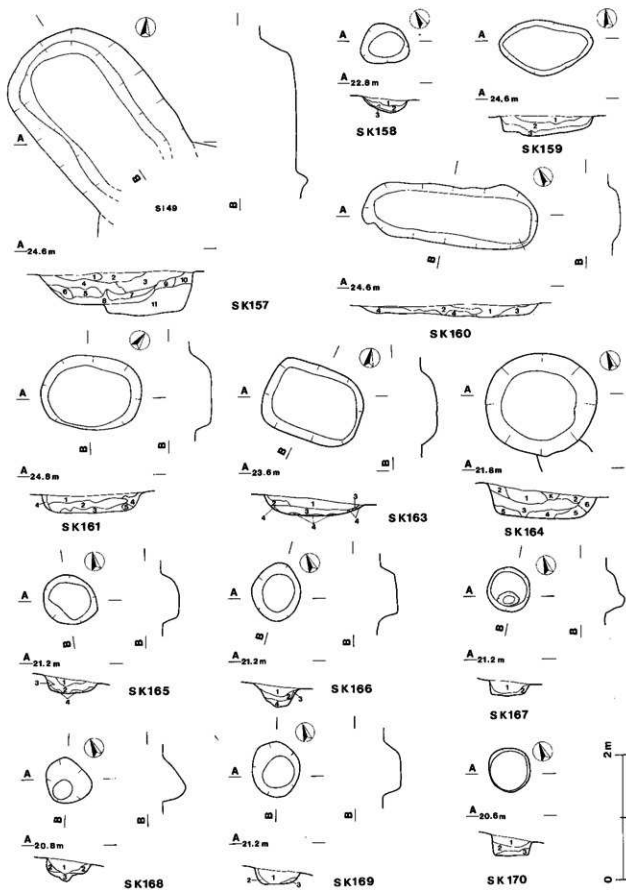
第198图 土坑实测图(10)



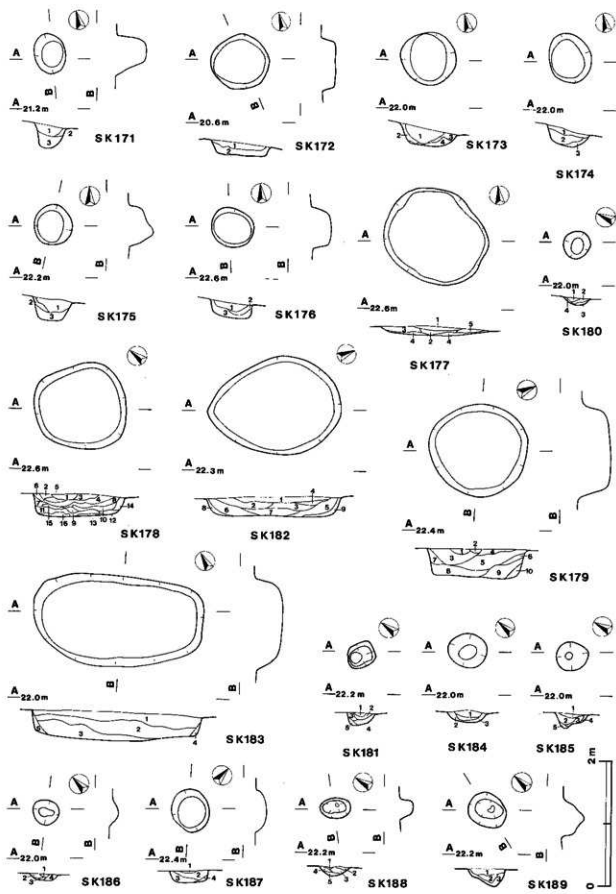
第199图 土坑实测图(II)



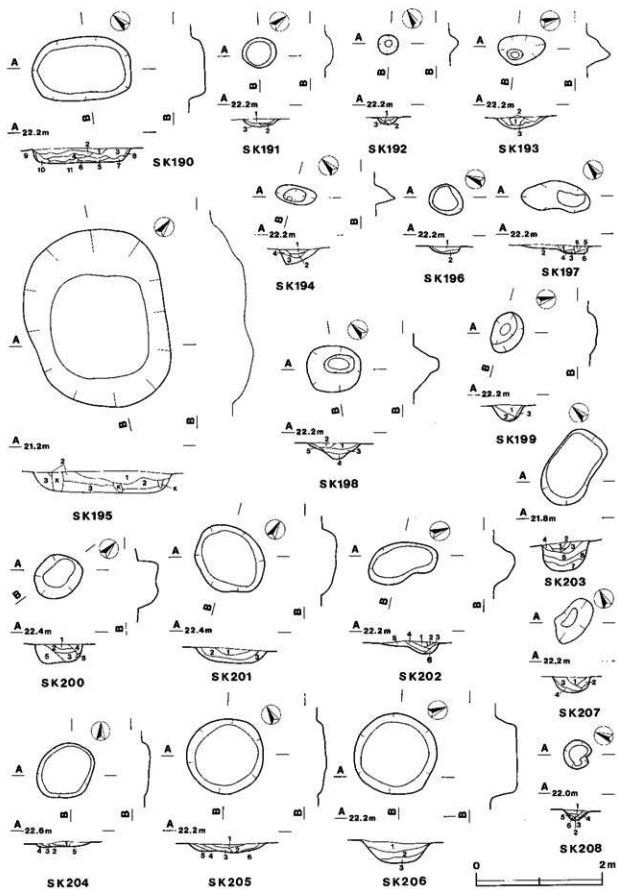
第200图 土坑实测图(12)



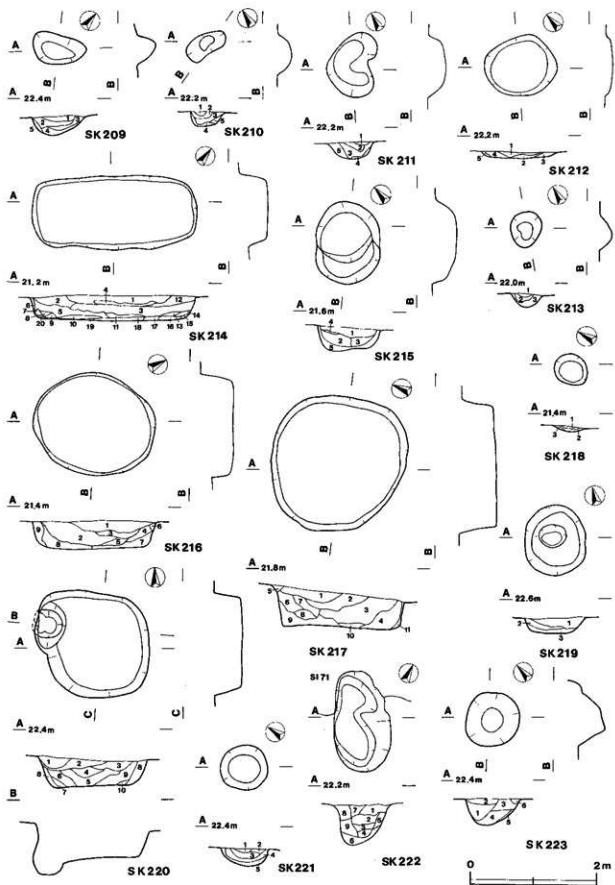
第201图 土坑实测图(13)



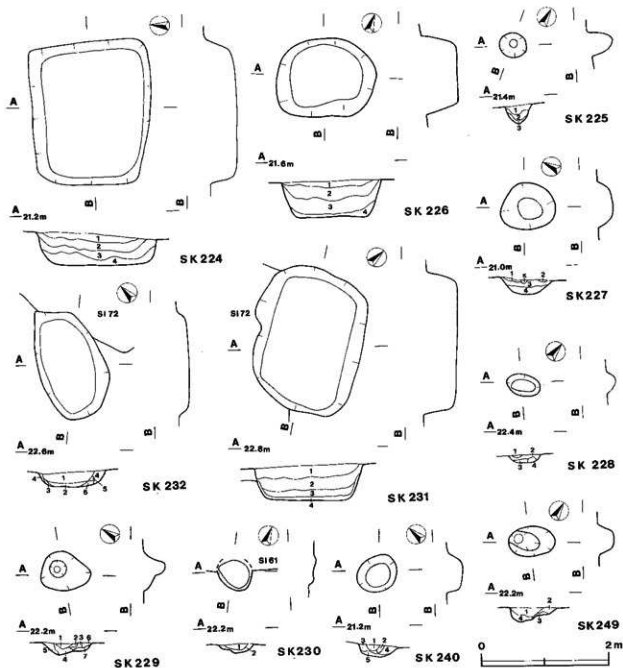
第202图 土坑实测图(14)



第203图 土坑实测图(15)



第204图 土坑实测图(16)



第205図 土坑実測図(17)

土坑土層解説

- 第1号土坑土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒を微量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒少量
 - 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 - 5 暗褐色 ローム粒子微量
 - 6 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物微量
 - 7 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
 - 8 褐色 ローム粒子中量
 - 9 褐色 ローム粒中量、炭化粒微量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 第3号土坑土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 - 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
 - 5 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒微量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第74号土坑土層解説

- 1 紅 色 ローム粒子少量
- 2 黄 褐色 ローム粒下多量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化した少量
- 6 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子多量
- 7 黒 色 炭化物少量

第75号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第76号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 黄 褐色 ローム粒下少量

第77号土坑土層解説

- 1 黄 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量、炭土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子少量

第78号土坑土層解説

- 1 黄 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化した少量
- 6 暗 褐色 ローム粒下少量

第79号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化物少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化した少量
- 7 黄 褐色 ローム粒下中量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

第80号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒下少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒下少量

第81号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化した少量
- 2 褐色 ローム粒下少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒下少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 暗 褐色 炭化した少量
- 8 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒下少量

第82号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化した少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下少量、炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒下・炭化した少量

6 褐色 ローム粒子少量、炭化した少量

第84号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第85号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭土粒子・炭化した少量
- 2 暗 褐色 ローム粒下・炭土粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒下少量

第86号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 黄 褐色 ローム粒下・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第87号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒下・炭化粒子・炭化物少量
- 2 褐色 炭化粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、炭化物少量

第88号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒下少量、炭土粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒下少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒下少量
- 9 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

第89号土坑土層解説

- 1 黄 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 7 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 8 黄 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第90号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 2 黄 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下少量
- 4 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 10 暗 褐色 ローム粒下・炭化した少量
- 11 黄 褐色 ローム粒子少量

第91号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量、ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量

第92号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒下少量

- 2 黄 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量

第93号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 2 黄 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量

第94号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 3 黄 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭土小ブロック少量

第95号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 黄 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量

第96号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量

第97号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒下少量

第98号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化した少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒下少量

第99号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック・炭土小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒下中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒下・炭化した少量
- 6 褐色 ローム粒下少量
- 7 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

第100号土坑土層解説

- 1 黄 褐色 ローム粒子少量
- 2 黄 褐色 ローム粒下少量、炭土粒子・炭化した少量
- 3 暗 褐色 ローム粒下・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 6 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 8 黄 褐色 ローム粒下少量
- 9 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 10 暗 褐色 ローム粒下少量、ローム小ブロック少量
- 11 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化した少量
- 12 黄 褐色 ローム粒下少量
- 13 褐色 ローム粒子少量

第101号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒下・ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中・大ブロック少量

- 4 褐色 ローム小ブロック多量
5 黄褐色 ローム中ブロック中量、粘土粒子微量
6 黄褐色 ローム中ブロック多量

第191号土状土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子・焼土粒少量
2 褐色 ローム中ブロック・焼土粒少量
3 褐色 ローム中ブロック多量
4 暗褐色 ローム粒少量
5 褐色 ローム小・中ブロック少量、粘土粒子微量

第192号土状土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中量
2 褐色 ローム大ブロック多量
3 褐色 ローム中ブロック中量

第193号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ローム粒・ローム中ブロック・焼土粒子少量
3 灰褐色 ローム粒・ローム中ブロック少量
4 黄褐色 ローム粒子少量
5 褐色 ローム粒子多量

第194号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量、焼土粒子少量
2 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック多量

第195号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック多量
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量
5 褐色 ローム粒子少量
6 褐色 ローム中ブロック多量

第196号土状土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量
2 褐色 ローム小ブロック少量
3 黄褐色 ローム中ブロック中量
4 黄褐色 ローム中ブロック多量
5 褐色 ローム中ブロック少量
6 暗褐色 ローム中ブロック・焼土粒少量
7 暗褐色 ローム粒子少量

第197号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量、粘土粒子微量
2 赤褐色 ローム中ブロック中量
3 褐色 ローム小ブロック中量
4 暗褐色 ローム中ブロック多量
5 紅褐色 ローム大ブロック中量

第198号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム大ブロック少量
3 褐色 ローム小・中ブロック少量
4 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量
5 褐色 ローム小ブロック少量
6 黄褐色 ローム大ブロック多量

第199号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量
2 暗褐色 ローム小・中ブロック少量
3 褐色 ローム小・大ブロック少量

第200号土状土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック多量
2 褐色 ローム中ブロック中量
3 暗褐色 ローム大ブロック中量
4 黄褐色 ローム中ブロック多量

第201号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒・焼土粒子中量

- 2 褐色 ローム粒・焼土粒中量、ローム小ブロック少量
3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、焼土粒子少量

第202号土状土層解説

- 4 褐色 ローム中ブロック多量
5 褐色 ローム中ブロック中量
6 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子微量

第203号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒・ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
3 褐色 ローム粒・ローム中ブロック少量
4 黄褐色 ローム大ブロック多量
5 黄褐色 ローム粒子微量

第204号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
2 暗褐色 ローム粒・ローム中ブロック中量
3 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量
4 褐色 ローム中ブロック多量
5 褐色 ローム粒子中量

第205号土状土層解説

- 1 黄褐色 ローム中ブロック中量
2 暗褐色 ローム粒・ローム中ブロック中量
3 褐色 ローム中ブロック少量、粘土粒子微量
4 黄褐色 ローム中ブロック多量
5 黄褐色 ローム粒少量

第206号土状土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量
3 褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量
4 褐色 炭化物少量

第207号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
2 褐色 ローム中ブロック多量、焼土粒子少量
3 黄褐色 ローム中ブロック多量

第208号土状土層解説

- 1 褐色 炭化物中量
2 褐色 ローム中ブロック・炭化物少量、炭化物少量
3 褐色 ローム粒子少量、炭化物少量、炭化物微量
4 暗褐色 ローム粒子・炭化物中量
5 暗褐色 炭化物中量
6 暗褐色 炭化物少量
7 暗褐色 炭化物少量
8 暗褐色 炭化物少量
9 暗褐色 炭化物中量
10 暗褐色 炭化物多量
11 暗褐色 炭化物多量
12 暗褐色 炭化物多量
13 暗褐色 炭化物少量
14 褐色 焼土粒少量、炭化物中量
15 赤褐色 焼土粒少量
16 褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、炭化物多量

第209号土状土層解説

- 17 褐色 炭化物中量
18 褐色 炭化物中量
19 褐色 炭化物少量、炭化物多量
20 暗褐色 炭化物中量

第210号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭二粒子微量
2 紅褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒少量、炭二粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭二粒子微量

- 4 暗褐色 ローム粒子少量
5 暗褐色 ローム粒少量、ローム小・中ブロック少量

第211号土状土層解説

- 1 紅褐色 ローム粒・ローム中ブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒少量
3 褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量
4 褐色 ローム粒中量、ローム小・中ブロック少量

第212号土状土層解説

- 5 褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量
6 暗褐色 ローム粒少量
7 褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量
8 紅褐色 ローム粒少量、ローム大ブロック少量、炭化物少量
9 暗褐色 ローム粒少量

第213号土状土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量
2 暗褐色 ローム粒少量、ローム大ブロック・焼土粒少量
3 暗褐色 ローム粒・ローム中ブロック中量、ローム小・大ブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

第214号土状土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒少量
6 褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量
7 紅褐色 ローム粒少量、焼土粒少量
8 暗褐色 ローム粒少量
9 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量
10 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒少量、ローム小ブロック少量
11 暗褐色 ローム粒少量

第215号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
2 暗褐色 ローム粒少量
3 暗褐色 ローム粒少量
4 暗褐色 ローム粒少量

第216号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
2 暗褐色 ローム粒少量
3 暗褐色 ローム粒少量
4 暗褐色 ローム粒少量

第217号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、ローム大ブロック少量
2 暗褐色 ローム中ブロック中量
3 暗褐色 ローム小・大ブロック少量
4 暗褐色 ローム大ブロック多量

第218号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒子少量、炭二粒子少量
2 暗褐色 ローム粒少量
3 暗褐色 ローム粒少量
4 暗褐色 ローム小ブロック少量
5 暗褐色 ローム粒少量
6 暗褐色 ローム粒少量
7 暗褐色 ローム粒少量

第219号土状土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量
2 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック中量
3 褐色 ローム小ブロック・焼土粒少量
4 褐色 ローム大ブロック多量
5 褐色 ローム小ブロック少量
6 褐色 ローム粒少量
7 褐色 ローム中ブロック微量

- 5 褐色 ローム小ブロック散見
9 褐色 ローム小・中ブロック少量

第223号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック中量
2 褐色 ローム小・中ブロック少量
3 褐色 白ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
5 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
6 褐色 ローム粒子中量

第224号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子多量
2 褐色 ローム粒子多量
3 褐色 ローム粒子中量
4 黄褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

第225号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子散見
2 褐色 ローム粒子多量
3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

第226号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量
2 褐色 ローム中ブロック中量
3 黄褐色 ローム粒子多量

- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

第227号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子散見
2 褐色 焼土粒子散見
3 褐色 ローム粒子多量
4 黄褐色 ローム粒子多量

第228号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中量
2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック散見
3 褐色 ローム大ブロック少量
4 褐色 ローム小・中ブロック中量

第229号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐色 ローム中ブロック中量
3 褐色 ローム粒子中量
4 黄褐色 ローム中ブロック中量
5 黄褐色 ローム中ブロック多量
6 黄褐色 ローム中ブロック中量
7 褐色 ローム中ブロック多量

第230号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

第231号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
4 黄褐色 ローム粒子多量

第232号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
2 におい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
3 におい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
4 黄褐色 ローム粒子中量
5 黄褐色 ローム粒子中量
6 におい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第233号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量
2 褐色 ローム大ブロック多量、焼土粒子少量
3 黄褐色 ローム粒子多量
4 褐色 ローム中ブロック中量
5 褐色 ローム大ブロック多量

第234号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック中量
3 黄褐色 ローム中ブロック多量
4 褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子少量

第7号土坑出土遺物観察表

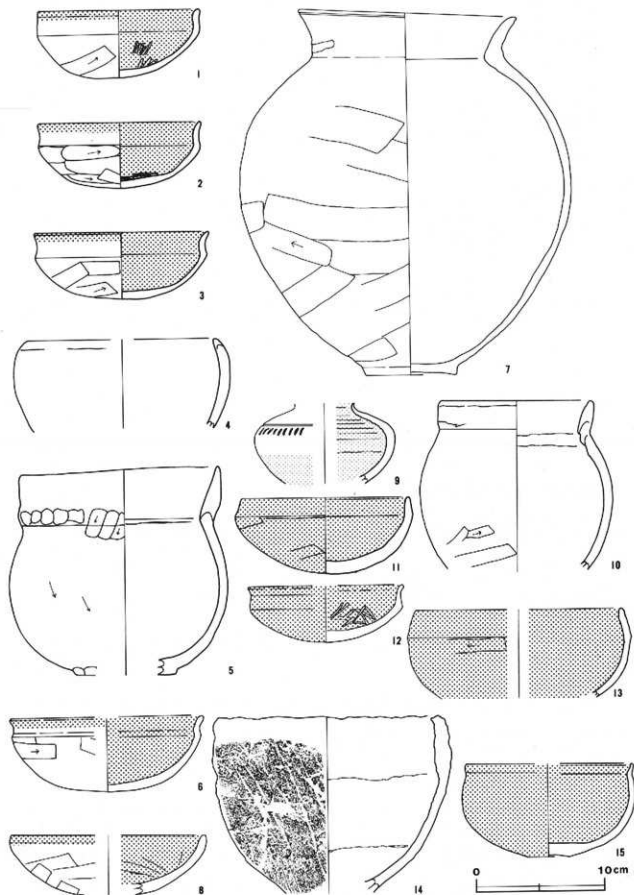
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96-107A	土師器	A 12.6	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P523 90% 覆土下層
		B 5.5				
2	土師器	A 12.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底部内面磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P524 80% 覆土下層
		B 5.6				
3	土師器	A 13.6	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ口縁部はラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P525 70% 覆土下層
		B 5.4				
4	土師器	A [14.7]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎する。	内・外面磨耗。	長石・砂粒 に多い黄褐色 普通	P526 20% 覆土下層
		B (7.2)				
5	土師器	A 15.4	底部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ。頸部外面下位へラ削り。体部外面ナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P527 P L67 70% 覆土下層
		B [15.6] C [7.8]				

第17号土坑出土遺物観察表

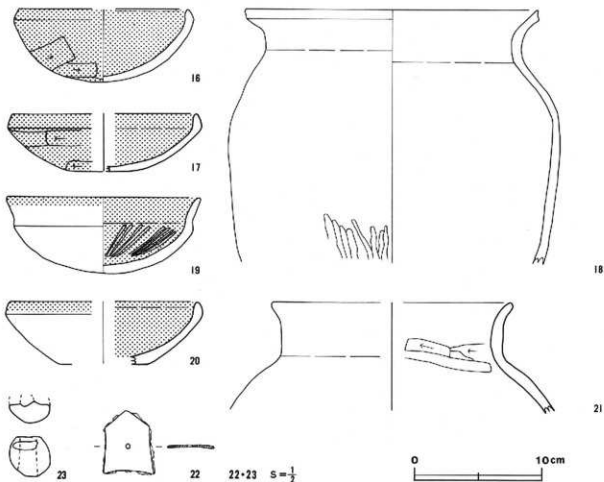
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	土師器	A [15.2]	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P528 60% 覆土上層
		B 6.0				
7	土師器	A 17.0	底部は平底で、突出する。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石灰・砂粒 黒褐色 普通	P529 P L67 100% 床面
		B 29.3 C 7.1				

第21号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	土師器	A [15.0] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P530 30% 覆土上層



第206图 土坑出土遺物実測図(1)



第207図 土坑出土遺物実測図(2)

第31号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	須恵器	B (6.4)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、上位に沈線が通る。沈線下に膠面による刻突が残される。	内・外割横ナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P 531 P L.67 20%自然輪付着 覆土

第32号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	壺 土師器	A 11.7 B (13.5)	体部から口縁部の破片。外部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体は部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P 532 20% 覆土

第34号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	坏 土師器	A 13.0 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外割横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 533 100% 覆上下層

第35号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	坏 土師器	A [12.0] B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は反戻する。	口縁部内・外割横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 534 40% 覆土下層

第112号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
13	埴土師器	A [16.0] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P535 15% 覆土

第124号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	鉢土師器	A 17.2 B (14.1)	底面欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	内・外面単純。	長石・砂粒 によい赤褐色 普通	P536 80% 覆土下層

第146号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
15	埴土師器	A [12.8] B 7.4	体部及び口縁部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 良好	P537 65% 覆土下層

第149号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
16	埴土師器	A [13.7] B 5.9	底面から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P538 40% 覆土
17	埴土師器	A [14.4] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 によい赤褐色 普通	P539 20% 覆土

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	埴土師器	A 12.9 B (20.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、口唇部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位から下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P540 40% 覆土下層

第174号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
19	埴土師器	A 15.2 B 6.1	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P541 100% 覆土下層

第195号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
20	埴土師器	A [11.8] B (5.0) C [6.9]	底面から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P542 30% 覆土

第217号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
21	埴土師器	A [18.4] B (8.8)	体部から口縁部の破片。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面へラ削り。	長石・砂粒 明褐色 普通	P543 10% 覆土

第125号土坑出土遺物観察表

図号番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	鉄 鏃	(3.4)	(2.6)	0.2	3.0	覆土下層 凡孔 2.0cm M14 90%	PL71

第156号土坑出土遺物観察表

図号番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
23	球状土鏃	(2.2)	(2.1)	(2.2)	3.1	覆土 凡孔 11.0cm DP34 50%	PL69

表2 土坑一覧表 第189図~205図

番付	位置	長短方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(m)	断面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	E7c	N-55°-E	長楕円形	1.56 × 0.76	58	垂直	凸凹	人為	土師器片(坏・甕)	
2	E7c	N-50°-E	楕円形	1.40 × 1.20	42	外傾	凸凹	人為	土師器片(坏・甕)	
3	E8d	N-46°-E	不定形	1.30 × 1.18	18	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	
4	E8c	N-47°-W	楕円形	2.02 × 1.70	33	外傾	凸凹	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
5	E7d	N-68°-E	楕円形	0.86 × 0.72	50	垂直	凸凹	人為	土師器片(甕)	SI-4より新しい
6	D8d	N-35°-W	方形	1.80 × 1.78	26	外傾	凹状	人為	土師器片(坏・甕)	SI-16より新しい
7	E7f	N-15°-E	円形	1.62 × 1.44	56	外傾	平坦	自然	土師器(坏・甕・壺)	SI-3より新しい
8	D9h	N-29°-E	長方形	3.10 × 1.26	14	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	SI-13より新しい
9	D8g	N-37°-W	長方形	6.20 × 0.64	62	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	SI-14より新しい
10	E8g	N-12°-W	楕円形	1.96 × 1.26	56	垂直	平坦	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	SK-21より新しい
11	E7f	N-75°-E	不定形	1.70 × 1.10	60	外傾	凸凹	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	
12	E7g	N-50°-E	長楕円形	2.78 × 0.54	48	外傾	平坦	人為	土師器片(坏)	
13	E6g	N-53°-E	楕円形	2.56 × 1.86	52	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
14	E7h	N-35°-W	楕円形	2.30 × 1.70	32	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
15	E7e	N-64°-W	長方形	2.66 × 0.98	24	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	SK-10より新しい
16	E8c	N-19°-W	円形	2.08 × 1.98	30	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
17	E8e	N-14°-E	楕円形	1.12 × 0.96	54	外傾	凸凹	人為	土師器片(坏・甕)	
18	E8e	N-37°-E	円形	1.00 × 0.90	12	緩斜	凹状	自然		
19	E8g	N-5°-W	不定形	1.56 × 1.46	48	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	ピット有り
20	E8g	N 8°-E	台形	2.06 × 1.84	60	外傾	凸凹	人為	土師器片(坏・甕)	
21	E8g	N-43°-W	楕円形	(1.70) × 1.40	46	外傾	凸凹	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	SK-10より古い
22	E8f	N-65°-E	長方形	1.62 × 1.24	32	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
23	E8c	N-43°-E	円形	0.72 × 0.68	32	外傾	凹状	自然		
24	D8g	N-23°-W	円形	1.10 × 1.02	36	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
25	D8g	N 45°-W	円形	1.06 × 1.00	23	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
26	D8g	N-65°-E	円形	1.64 × 1.58	78	緩斜	凹状	人為		
27	D8h	N 3°-E	円形	2.14 × 2.14	56	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・壺・甕)	
28	D8i	N-3°-E	楕円形	0.94 × 0.84	30	外傾	凹状	人為		
29	D8i	N-67°-E	楕円形	0.88 × 0.76	41	外傾	凸凹	自然		
30	D8i	N-55°-E	楕円形	0.60 × 0.52	18	外傾	凸凹	自然		
31	E8h	N-22°-E	不定形	2.88 × 1.18	42	外傾	凸凹	自然	須恵器片(甕)	
32	E8h	N 42°-W	円形	0.80 × 0.78	26	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
33	E8g	N-83°-W	楕円形	1.00 × 0.78	14	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	地上構有り
34	E8h	N-72°-E	円形	0.72 × 0.68	12	緩斜	凹状	自然	土師器片(坏・甕)	
35	E8g	N 60°-E	楕円形	0.88 × 0.68	28	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	

番号	位置	方位	平面形	長径×短径(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
36	E8gr	N-48° E	楕円形	0.58 × 0.52	22	緩斜	皿状	人為		
37	E8gr	N-86° W	楕円形	1.50 × 1.26	31	外傾	平垣	人為	土師器片(環・壺)	
38	E8gr	N-63° W	不定形	1.42 × 0.90	33	外傾	皿状	自然	土師器片(壺)	
39	E8ca	N-33° E	楕円形	1.28 × 0.96	8	外傾	平垣	自然	土師器片(環・壺)	
40	E8da	N-50° W	不定形	2.62 × 1.46	38	外傾	平垣	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	
41	E8ba	N 61° W	長楕円形	2.10 × 0.60	40	外傾	皿状	人為	土師器片(壺)	
42	E8ba	N-68° E	楕円形	0.84 × 0.66	12	緩斜	皿状	自然		
43	E8da	N 35° E	円形	1.10 × 1.02	40	垂直	平垣	人為	土師器片(環・壺) 縄文式土器片	
44	E8ba	N-73° W	長方形	1.48 × 0.82	13	緩斜	皿状	人為		
45	D9a	N-62° E	長方形	1.62 × 0.76	22	緩斜	皿状	人為	土師器片(壺)	SI-20より新しい
46	D9ca	N-33° E	長方形	1.40 × 0.84	9	外傾	平垣	自然	土師器片(環・壺) 縄文式土器片	SI 20より新しい
47	C9j	N-2° E	不定形	1.10 × 0.96	54	垂直	凸凹	人為		
48	D8a	N-32° W	(長方形)	3.06 × [0.76]	52	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺) 縄文式土器片	SI 13より新しい
49	E8ca	N-46° E	長方形	2.56 × 1.14	40	外傾	平垣	人為	土師器片(環・壺)	SK-90より新しい
50	E9ca	N-50° E	不定形	2.74 × 1.34	46	外傾	平垣	人為		
51	E9da	N 40° W	楕円形	0.78 × 0.70	12	外傾	平垣	自然		
52	E9ca	N 52° W	不定形	0.72 × 0.54	16	緩斜	皿状	自然		
53	E8fa	N-53° E	楕円形	0.51 × 0.35	10	緩斜	皿状	自然		
54	E9f	N-50° W	楕円形	1.00 × 0.58	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺)	SK-64より新しい
55	E9d	N-56° E	円形	0.60 × 0.56	48	垂直	凸凹	自然		
56	E9ba	N-20° W	不定形	0.22 × 0.62	46	緩斜	凸凹	自然	土師器片(環・壺)	
57	E8e	N 78° E	楕円形	1.08 × 0.94	18	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺) 縄文式土器片	
58	E8g	N-60° E	不定形	2.32 × 1.20	34	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺)	SK-39より新しい
59	E9ga	N 21° W	長方形	4.20 × 2.50	40	緩斜	凸凹	人為	土師器片(環・壺・鏝)	SK-58より古い
60	E9ca	N-35° W	楕円形	0.70 × 0.42	17	緩斜	皿状	人為	土師器片(環・壺)	
61	E9ba	N-69° W	楕円形	0.84 × 0.58	34	緩斜	皿状	自然		
62	E9ca	N-62° E	不定形	1.14 × 0.86	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	
63	E9f	N-17° W	楕円形	0.62 × 0.56	20	緩斜	皿状	人為	土師器片(壺)	
64	E9f	N 86° E	長楕円形	4.50 × 1.10	30	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺)	SK 54より古い
65	E9ca	N 2° E	楕円形	1.06 × 0.72	42	外傾	皿状	自然		
66	E9f	N-0°	楕円形	2.06 × 1.64	42	外傾	平垣	人為	土師器片(環・壺)	
67	E9f	N-55° W	楕円形	0.90 × 0.52	36	緩斜	皿状	自然		
68	E9da	N-44° W	不定形	1.30 × 0.84	34	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺)	
69	E9ca	N 38° E	長楕円形	2.84 × 1.36	44	外傾	平垣	人為	土師器片(環・壺)	
70	E9ca	N-29° W	不定形	0.60 × 1.32	24	外傾	平垣	人為	土師器片(環・壺) 縄文式土器片	
71	E9ca	N 20° W	不定形	1.08 × 0.90	36	外傾	皿状	人為	土師器片(壺)	
72	E9ba	N 70° W	不定形	0.80 × 0.58	48	緩斜	皿状	自然	土師器片(環・壺・鏝) 縄文式土器片	
73	E9ga	N-79° W	長楕円形	1.22 × 0.56	22	外傾	皿状	人為	土師器片(環・壺)	
74	E9ba	N-45° W	長方形	1.36 × 0.94	18	外傾	平垣	人為		
75	E9f	N-28° W	楕円形	0.70 × 0.58	22	緩斜	皿状	人為	土師器片(環・壺)	
76	E9ca	N 40° E	楕円形	0.86 × 0.58	36	外傾	皿状	人為	土師器片(壺)	
77	E9ca	N 50° E	不定形	1.50 × 0.80	48	外傾	皿状	自然	土師器片(環・壺)	
78	E9ca	N-58° E	不定形	1.44 × 0.83	54	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
79	D9ca	N-22° E	不定形	1.58 × 1.34	28	緩斜	皿状	人為		
81	E10ca	N-7° W	円形	0.76 × 0.70	31	緩斜	皿状	人為		
82	D10a	N-62° E	不定形	1.50 × 0.96	60	外傾	皿状	人為		
83	D10ca	N 19° W	不定形	0.90 × 0.72	32	緩斜	皿状	人為	土師器片(壺)	
84	D10ca	N-52° W	不定形	0.84 × 0.56	34	外傾	平垣	人為		

番号	位置	長短方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
85	D10b	N-16°W	不定形	1.10 × 0.98	56	外傾	平坦	自然		
86	D10a	N-49°E	楕円形	0.94 × 0.82	28	緩斜	凹状	人為		
87	D10g	N-20°E	楕円形	1.32 × 0.82	12	緩斜	凹状	自然		
88	D10f	N-27°E	楕円形	1.08 × 0.98	38	外傾	平坦	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	
89	D9d	N-8°E	長楕円形	1.40 × 0.52	25	緩斜	皿状	人為		
90	F9c	N-67°W	不定形	3.24 × 2.90	108	外傾	凹状	人為	土師器片(壺)	SK-49より古い
91	D9e	N-27°W	長楕円形	2.38 × 1.10	24	外傾	皿状	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
92	D9c	N-36°E	楕円形	1.60 × 0.82	26	緩斜	皿状	人為		
93	D9b	N-1°W	長楕円形	1.56 × 0.62	30	外傾	凸凹	人為		
94	D9e	N-18°W	楕円形	1.44 × 1.10	20	外傾	凸凹	自然	土師器片(壺)	
95	D9e	N-42°W	楕円形	1.26 × 1.06	21	外傾	平坦	人為		
96	D9g	N-32°E	不定形	2.14 × 1.02	24	外傾	凸凹	自然		
97	D9f	N-49°W	楕円形	0.70 × 0.60	18	外傾	平坦	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
98	D9f	N-10°E	長楕円形	1.54 × 0.70	32	外傾	平坦	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
99	E7e	N-51°W	円形	1.58 × 1.50	34	外傾	皿状	人為	土師器片(壺)	
100	E7e	N-27°W	楕円形	2.50 × 1.66	24	緩斜	平坦	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	SK-15より古い
101	D9e	N-0°	不定形	2.50 × 1.26	56	外傾	凸凹	人為	土師器片(壺)	
103	D9f	N-55°W	不定形	1.10 × 0.88	56	外傾	皿状	自然	土師器片(壺)	
104	E8a	N-52°E	楕円形	0.56 × 0.48	82	垂直	皿状	人為	土師器片(壺)	
105	E8f	N-9°E	不定形	1.34 × 0.92	20	外傾	平坦	人為	土師器片(壺)	
106	F8c	N-60°E	長方形	2.32 × 1.14	58	外傾	平坦	人為	土師器片(壺)	ビッド有り
107	F8c	N-0°	楕円形	0.66 × 0.56	40	外傾	凹状	自然	土師器片(壺)	
108	D8b	N-10°W	楕円形	0.80 × 0.70	17	外傾	凸凹	自然	土師器片(壺)	
109	D8c	N-75°E	長方形	1.66 × 0.90	34	外傾	平坦	人為	土師器片(壺)	
110	D8f	N-45°E	不定形	0.94 × 0.78	15	緩斜	皿状	自然		
111	D9d	N-60°W	円形	0.86 × 0.86	24	外傾	平坦	人為	土師器片(壺)	
112	D9d	N-65°W	楕円形	0.74 × 0.66	12	緩斜	皿状	人為	土師器片(壺)	
113	D9d	N-87°W	楕円形	0.78 × 0.54	20	外傾	皿状	自然		
114	D9d	N-63°E	楕円形	0.79 × 0.52	16	緩斜	皿状	人為		
115	D9d	N-69°E	楕円形	0.56 × 0.40	21	外傾	皿状	自然		
116	D9f	N-50°W	長方形	1.84 × 0.98	23	緩斜	凸凹	自然	土師器片(壺)	ビッド有り
117	E8a	N-45°E	不定形	2.10 × 0.96	56	外傾	皿状	自然		
118	D9e	N-24°E	不定形	1.56 × 1.20	18	緩斜	皿状	人為		
119	D9f	N-49°W	長方形	2.54 × 1.00	22	外傾	皿状	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	
120	E9j	N-17°W	円形	1.16 × 1.08	60	外傾	皿状	自然	土師器片(壺)	SK-121より新しい
121	E9j	N-73°E	長方形	2.32 × (1.80)	18	外傾	凸凹	自然	土師器片(壺)	SK-120-122より古い
122	E9j	N-68°E	円形	0.74 × 0.68	44	外傾	皿状	自然		SK-121より新しい
123	F8b	N-24°W	楕円形	1.94 × 1.18	34	外傾	平坦	人為	土師器片(壺)	SI-30より新しい
124	D9b	N-32°W	楕円形	0.48 × 0.40	6	緩斜	皿状	自然	土師器片(鉢)	
125	A11c	N-0°	円形	0.68 × 0.64	37	外傾	凸凹	自然	土師器片(壺) 鉄製品(不明)	
126	A11c	N-23°W	円形	0.74 × 0.68	27	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	
127	A11c	N-32°W	楕円形	1.54 × 1.10	112	外傾	皿状	人為		
128	B10j	N-67°W	(楕円形)	2.16 × (1.64)	21	緩斜	凸凹	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	SI-40より新しい
129	B10h	N-60°E	(楕円形)	(3.80) × 3.50	84	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	SI-40より新しい
130	A11g	N-75°W	長楕円形	3.80 × 0.92	44	外傾	平坦	自然		
131	B11a	N-3°E	楕円形	1.44 × 1.26	38	外傾	平坦	自然		
132	A11j	N-32°E	楕円形	1.30 × 0.84	40	外傾	皿状	自然		
133	A11i	N-62°W	不定形	2.68 × 1.78	54	垂直	平坦	自然		

番号	位置	方位方向	平面形	長×幅×高さ(m)	高さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
134	B11j	N-72° E	長楕円形	4.06 × 1.80	42	外傾	平垣	自然		
135	B11ga	N-51° W	不定形	1.88 × 1.20	70	外傾	皿状	自然		
136	B11hs	N-15° E	不定形	2.78 × 1.62	42	外傾	平垣	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
137	B10da	N-20° E	長方形	1.66 × 1.08	32	緩斜	平坦	自然		
139	B10fa	N-43° E	円形	0.42 × 0.40	48	垂直	皿状	自然	土師器片(坏)	
140	B10ha	N-77° W	楕円形	0.52 × 0.40	34	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・壺)	
141	B10ha	N 38° W	円形	0.36 × 0.34	34	外傾	皿状	人為		
142	B10ha	N 77° W	楕円形	0.52 × 0.40	40	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	
143	B10ca	N-70° E	不定形	4.70 × 2.06	94	外傾	皿状	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	
144	C11da	N 8° W	(楕円形)	(1.14) × 0.86	24	緩斜	皿状	自然		SK-164より古い
145	C10ba	N-14° W	楕円形	0.88 × 0.76	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	
146	C10ca	N-13° W	不定形	(1.80) × 1.60	15	外傾	平垣	自然	土師器片(壺・壺) 縄文式土器片	
147	C10ca	N-68° W	不定形	2.20 × 1.14	20	外傾	皿状	人為	土師器片(甕)	
148	C10ca	N-45° W	不定形	2.04 × 1.72	32	外傾	平垣	自然	土師器片(坏・壺)	
149	C10ca	N-90° E	楕円形	2.28 × 1.58	56	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・壺)	
150	C10ca	N 21° W	円形	0.88 × 0.82	10	外傾	平垣	自然		
151	C10da	N-23° W	楕円形	1.50 × 1.26	15	緩斜	平坦	自然	土師器片(坏・壺)	
152	C10ca	N-64° W	楕円形	1.80 × 1.44	13	外傾	皿状	人為		遺品及び土器片を含む
153	C10fa	N 52° W	不定形	1.60 × 1.24	24	外傾	皿状	人為	土師器片(坏)	
154	C10fa	N-47° E	円形	1.70 × 1.58	58	外傾	平垣	人為	土師器片(坏・壺)	
156	C10ca	N-0°	長楕円形	3.40 × 1.72	60	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・壺)	SI-49より新しい
157	C10ca	N-48° W	楕円形	(3.60) × 2.02	50	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・壺)	SI 49より新しい
158	D10fa	N 85° W	不定形	0.76 × 0.66	26	外傾	平垣	自然	土師器片(壺)	
159	D10ba	N 85° W	不定形	1.50 × 0.90	30	外傾	平坦	自然	縄文式土器片	
160	D9ba	N-53° W	長楕円形	2.72 × 0.94	14	緩斜	皿状	人為	土師器片(壺)	
161	C9ba	N 55° E	楕円形	1.58 × 1.20	32	外傾	平垣	自然		
163	C11aa	N-70° W	楕円形	1.58 × 1.20	25	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・壺) 縄文式土器片	
164	C11da	N-83° E	円形	1.80 × 1.66	42	外傾	平垣	人為		SK-144より新しい
165	C11ca	N-43° W	楕円形	0.90 × 0.76	28	外傾	皿状	自然		
166	C11ca	N-30° E	楕円形	0.94 × 0.78	26	外傾	平垣	自然		
167	C11ba	N 0°	円形	0.72 × 0.70	30	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺) 縄文式土器片	
168	C11ba	N 25° W	不定形	0.74 × 0.66	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	
169	C11ba	N-12° E	楕円形	0.90 × 0.76	28	外傾	平垣	自然	土師器片(壺)	
170	C11ba	N-0°	円形	0.72 × 0.66	30	垂直	平垣	自然		
171	C11aa	N-2° W	楕円形	0.66 × 0.50	48	外傾	平垣	自然		
172	C11aa	N 89° W	円形	0.90 × 0.86	20	外傾	平坦	自然		
173	C11aa	N 70° W	円形	0.88 × 0.84	34	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・壺) 縄文式土器片	
174	B11j	N-13° W	楕円形	0.82 × 0.68	30	外傾	皿状	自然	土師器片(坏)	
175	B11j	N-0°	楕円形	0.68 × 0.60	36	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・壺)	
176	B11i	N-65° W	楕円形	0.68 × 0.61	30	外傾	平垣	自然		
177	E7ga	N 30° W	楕円形	1.64 × 1.46	13	緩斜	凸凹	人為	土師器片(壺) 縄文式土器片	
178	F7a	N 45° W	楕円形	1.44 × 1.32	36	外傾	平垣	人為	土師器片(坏・壺)	
179	E7a	N-0°	円形	1.54 × 1.48	50	外傾	平垣	人為		
180	F8ba	N-73° E	円形	0.45 × 0.42	14	緩斜	皿状	自然		
181	F7ba	N-60° W	長方形	0.43 × 0.38	22	緩斜	皿状	人為		
182	G6ca	N-15° E	長楕円形	3.10 × 1.56	34	外傾	平垣	人為	土師器片(坏・壺)	
183	F7ca	N-32° W	楕円形	2.70 × 1.50	48	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・壺)	
184	F7da	N-35° W	円形	0.60 × 0.58	15	緩斜	皿状	自然	土師器片(壺)	

番号	位置	方位方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
185	F7d	N-37°W	楕円形	0.54 × 0.46	24	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
186	F7d	N 53°E	円形	0.42 × 0.40	14	緩斜	皿状	自然		
187	F7e	N 45°W	楕円形	0.66 × 0.60	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
188	F7b	N 25°W	楕円形	0.48 × 0.32	20	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
189	F7b	N 10°W	楕円形	0.62 × 0.52	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・埴・甕)	
190	F7b	N 42°W	楕円形	1.56 × 1.02	26	外傾	平埴	人為	土師器片(坏・甕)	
191	F7b	N-37°E	円形	0.54 × 0.50	14	緩斜	凸凹	自然	土師器片(甕)	
192	F7a	N-0°	円形	0.32 × 0.32	14	緩斜	皿状	自然		
193	F7a	N-10°E	不定形	0.74 × 0.46	38	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	
194	E7a	N-35°W	長楕円形	0.64 × 0.30	34	緩斜	凸凹	自然		
195	G7c	N-47°W	楕円形	2.92 × 2.20	50	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
196	E7j	N-20°E	楕円形	0.56 × 0.46	13	外傾	平埴	自然	土師器片(甕)	
197	F7a	N-42°W	不定形	1.10 × 0.62	15	緩斜	皿状	自然		
198	E7j	N-42°W	不定形	0.85 × 0.74	40	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
199	E7i	N-57°W	楕円形	0.70 × 0.46	12	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 鉄製品(不明)	
200	G6a	N 27°E	楕円形	0.78 × 0.68	32	外傾	凸凹	人為		
201	G6a	N-70°W	楕円形	1.22 × 1.00	24	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片	
202	E7i	N 0°	不定形	1.12 × 0.60	34	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
203	F8a	N-85°E	楕円形	1.28 × 0.70	50	外傾	平埴	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
204	E7f	N 50°E	楕円形	1.02 × 0.82	10	緩斜	平埴	自然	土師器片(坏・甕)	
205	E7i	N 0°	円形	1.22 × 1.22	14	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
206	E7b	N-0°	円形	1.32 × 1.32	42	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
207	E7j	N-63°E	不定形	0.82 × 0.44	36	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
208	F7d	N-6°E	不定形	0.46 × 0.38	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
209	E7b	N-48°E	不定形	0.86 × 0.46	28	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
210	E7j	N-89°W	不定形	0.78 × 0.32	21	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
211	E7j	N-43°E	不定形	1.06 × 0.66	32	緩斜	凸凹	自然	土師器片(甕)	
212	E7j	N-42°W	楕円形	1.20 × 0.98	10	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
213	F7e	N 38°E	楕円形	0.58 × 0.48	18	緩斜	皿状	自然		
214	F7g	N-46°E	長方形	2.60 × 1.18	38	外傾	平埴	人為		埴土・炭化物石り
215	F7j	N 43°E	楕円形	1.34 × 0.96	36	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
216	G7a	N 37°E	長楕円形	1.94 × 0.66	46	外傾	平埴	自然	土師器片(坏・甕)	
217	G7b	N-62°W	長楕円形	2.34 × 1.16	58	外傾	平埴	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
218	G6e	N-0°	楕円形	0.57 × 0.48	22	外傾	平埴	自然		
219	G6a	N-15°E	楕円形	1.14 × 0.98	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
220	G6i	N 76°W	不定形	1.84 × 1.68	82	外傾	平埴	人為	土師器片(坏・甕)	
221	G6c	N 0°	円形	0.76 × 0.74	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
222	G6c	N-30°W	不定形	1.60 × 0.86	54	外傾	皿状	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	SI-71より新しい
223	F7e	N-50°E	円形	0.88 × 0.84	39	緩斜	平埴	人為	土師器片(坏・甕)	SI-66より新しい
224	G5a	N-87°E	台形	2.28 × 1.86	45	外傾	平埴	自然		
225	G5b	N 55°E	楕円形	0.44 × 0.40	35	外傾	皿状	自然		
226	G5b	N-78°E	楕円形	1.56 × 1.24	55	外傾	凸凹	自然		
227	G6b	N 36°W	楕円形	0.88 × 0.76	23	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
228	E7j	N 53°E	楕円形	0.54 × 0.36	14	緩斜	皿状	人為		
229	E7j	N-30°W	不定形	0.78 × 0.62	34	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	
230	F7b	N-40°W	不定形	0.60 × 0.32	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
231	E7i	N-32°E	楕円形	2.30 × 1.64	56	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	SI-72より新しい
232	E7g	N 32°E	楕円形	1.78 × 1.04	50	外傾	平埴	自然	土師器片(坏・甕)	SI-72より新しい

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	厚S(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
233	G6c	N 3°-E	楕円形	0.96 × 0.84	36	外傾	凹状	人為		SI-71より新しい
240	G6d	N-65° W	楕円形	0.66 × 0.56	25	傾斜	凹状	人為	土師器片(杯・甕)	
249	F7b	N 45°-E	楕円形	0.74 × 0.48	24	外傾	凹状	自然	土師器片(杯・甕)	

(3) 遺構外出土遺物

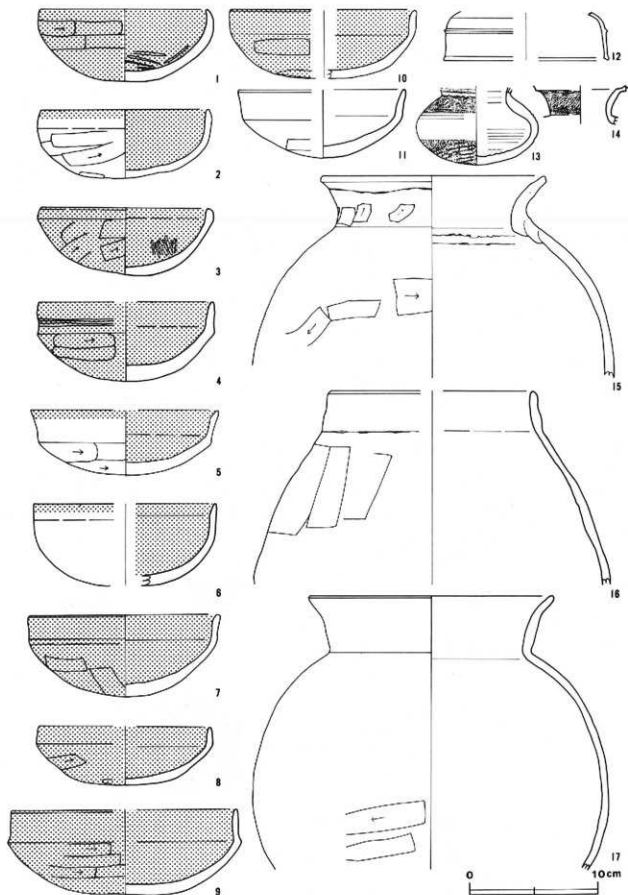
本項では、遺構外から出土した遺物のうち特徴のあるものを抽出して、実測図及び観察表で報告する。

遺構外出土遺物観察表

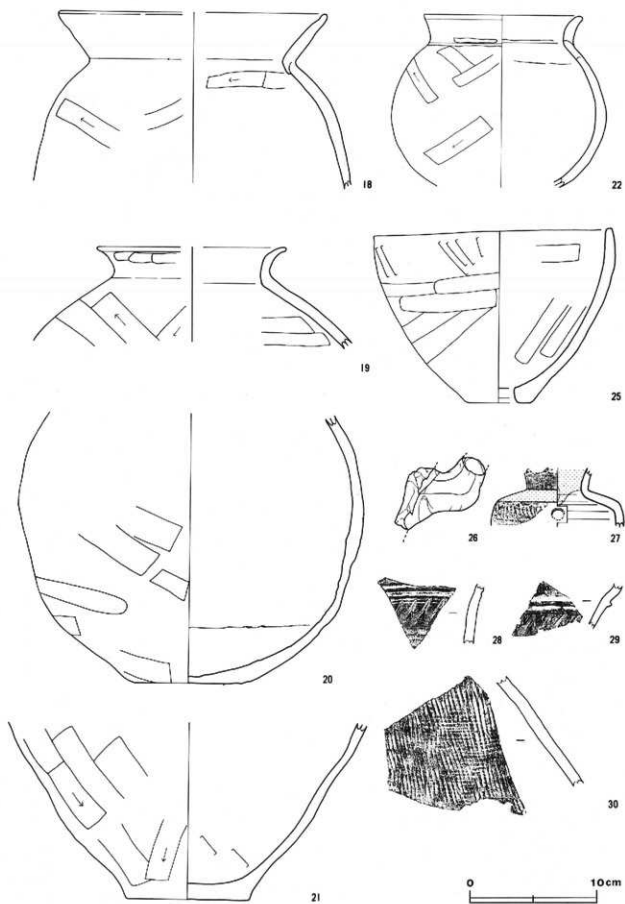
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36-29図 1	土師器	A 13.2 B 3.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。口唇部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P544 100% 表採
	土師器	A 13.0 B 3.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P545 100% B11区
3	土師器	A 13.1 B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P546 95% C11区
	土師器	A [13.8] B 6.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P547 65% E区
5	土師器	A [14.8] B 5.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P548 60% 表採
	土師器	A [14.4] B (6.7)	底部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P549 60% 表採
7	土師器	A 14.8 B 5.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P550 60% B11区
	土師器	A [13.4] B 4.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P551 50% C11区
9	土師器	A [18.0] B 6.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 灰白色 普通	P552 50% 表採
	土師器	A [14.6] B (5.5)	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P553 40% 表採
11	土師器	A [13.0] B (5.4)	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 灰白色 普通	P554 40% 表採
	土師器	A [12.8] B (3.9)	大井部から口縁部の破片。天井部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外傾し、底部に凹面をもつ。	天井部凹面へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰白色 良好	P555 20% 表採
13	土師器	B (6.3)	底部から体部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。体部中位に2本の沈線を送らせ、間に櫛痕状文が施される。	体部内・外面横ナデ。底部外面平行タタキ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P568 P.1.67 50% 底部内面自然釉 付着 表採
	土師器	B (3.2)	頸部の破片。頸部は外反し、口縁部との境に稜をもつ。外面に櫛痕波状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰白色 普通	P569 20% C11区
15	土師器	A 17.4 B (16.2)	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P536 40% 表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	子法の特長	胎土・色調・焼成	備考
16	甕 土師器	A [15.8] B (15.5)	体部から口縁部の破片。体部から頸部は内傾し、口縁部はほぼ直立する。頸部は僅かに肥厚する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘナ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P557 40% 表採
17	甕 土師器	A 19.0 B (21.8)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘナ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P558 40% 表採
18	甕 土師器	A [20.8] B (14.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘナ削り後、ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P539 30% 表採
19	甕 土師器	A [14.6] B (8.0)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘナ削り。内面ヘナナデ。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P560 P L68 30% 表採
20	甕 土師器	B (21.5) C 9.4	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘナ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P561 45% 表採
21	甕 土師器	B (14.0) C 9.6	底部から体部の破片。底部は平底で、突出する。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘナ削り。内面ヘナナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P562 30% 表採
22	甕 土師器	A 12.4 B (13.9)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘナ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P563 75% 外面採付前 表採
23	甕 土師器	A 27.6 B 33.0 C 7.2	体部の一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘナ削り。体部外面ヘナ削り。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P564 P L67 90% C11区
24	甕 土師器	A 27.0 B 30.7 C 8.6	体部の一部欠損。無底式。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘナ削り。内面ヘナナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P565 P L68 75% F区
25	甕 土師器	A 18.8 B 15.0 C 5.0	体部の一部欠損。単孔式。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面上位ヘナナデ。中位から下位にかけてヘナ削り。内面ヘナナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P566 P L68 80% C11区
26	甕 土師器		把手の破片。先端部欠損。	外面ヘナ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P567 5% 表採
27	甕 土師器	B (4.7)	体部から頸部の破片。体部上位に磨損による刺突文、頸部に磨損による波状文が施される。	体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 オリブ黄色 普通	P589 P L67 20% 自然軸付前 表採
28	甕 土師器		頸部の破片。弱い稜を挟んで、帯線状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰色 良好	T P154 5% 表採
29	甕 土師器		頸部の破片。頸部上位にシャブな稜をもち、帯線状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰色 良好	T P155 5% 表採
30	甕 土師器		体部の破片。	外面平行印き目。	長石・砂粒 灰白色 普通	T P156 5% 表採

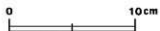
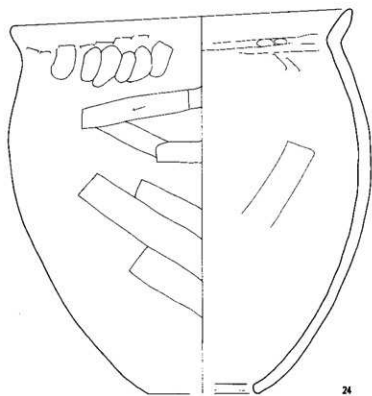
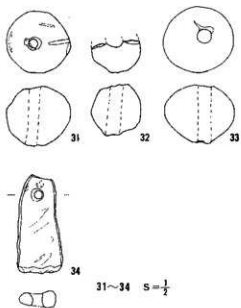
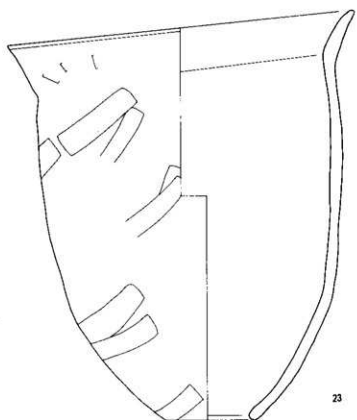
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
31	球状土師	3.2	3.4	3.2	29.3	表採 孔径 6.0mm D P35 100%	P L69
32	球状土師	2.8	(2.6)	2.8	8.1	表採 孔径 9.0mm D P36 50%	P L69
33	球状土師	3.2	3.7	3.2	34.1	確認面 孔径 7.0mm D P40 100%	
34	不明石製	5.3	2.4	0.9	16.1	表採 孔径 7.0mm Q207 100%	P L69



第208図 遺構外出土遺物実測図(1)



第209图 遺構外出土遺物実測図(2)



第210図 遺構外出土遺物実測図(3)

3 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡は3軒で、各調査区(1~3)から1軒ずつ確認されている。以下、その特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

第29号住居跡(第211図)

位置 2区北東部, D9d区。

規模と平面形 長軸2.62m, 短軸2.32mの方形である。

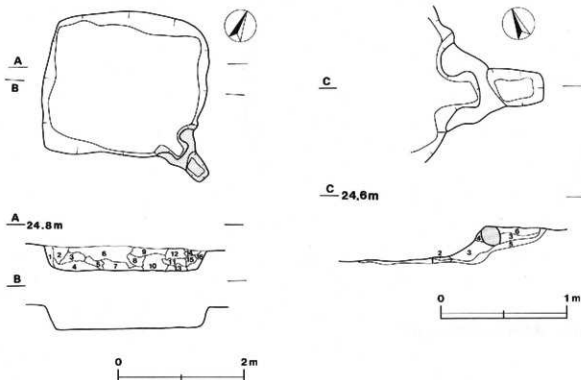
主軸方向 N-170°-E。

壁 壁高は34~38cmで、北西壁は垂直に、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

覆 南東コーナー部を壁外に50cm程掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ86cm, 幅70cmである。袖部の遺存状態は良く、内壁は熱を受け赤変している。天井部の残りは良好で、厚さは15cmである。火床部は4cm程窪み、皿状をしている。煙道部は火床から緩やかに立ち上がっている。煙出口は、長径42cm, 短径29cmの長方形で、僅かに赤変硬化している。覆土は6層からなり、第1層は焼土粒子及び炭化物を微量と焼土小・中ブロックを少量含む粘土ブロック混じりの黄褐色土、第2層は焼土小ブロックを少量と炭化物を微量含む褐色土、第3層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第4層は焼土粒子を中量と炭化物を微量含む赤褐色土、第5層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量含む赤褐色土である。

覆土 16層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を多量、焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黄褐色



第211図 第29号住居跡実測図

土、第2層はローム粒子を少量と炭化物を微量含む褐色土、第3層はローム小ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第4層は焼土粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む褐色土、第6層は焼土小ブロック、炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第7層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土、第8層はローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第9層はローム粒子及びローム小ブロックを少量、炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第14層はローム粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第15層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第16層はローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が29点出土しているが、小片で実測できるものはなかった。

所見 実測できた遺物は1点もないが、出土した土師器片と遺構の形態から、本跡は平安時代(10世紀頃)の住居跡と考えられる。

第49号住居跡(第212図)

位置 1区南西部、C10i区。

重複関係 本跡の南西コーナー部は、第50号住居跡の東コーナー付近を掘り込み、電の右袖部から北東コーナー付近は第156号土坑に、北西コーナー付近の礎は第157号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.02m、短軸3.82mの方形である。

主軸方向 N-0°。

壁 壁高は50~68cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 電の東側は第156号土坑に掘り込まれ確認されていないが、壁下を全周していたものと考えられる。上幅7~20cm、下幅4~16cm、深さ4~6cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

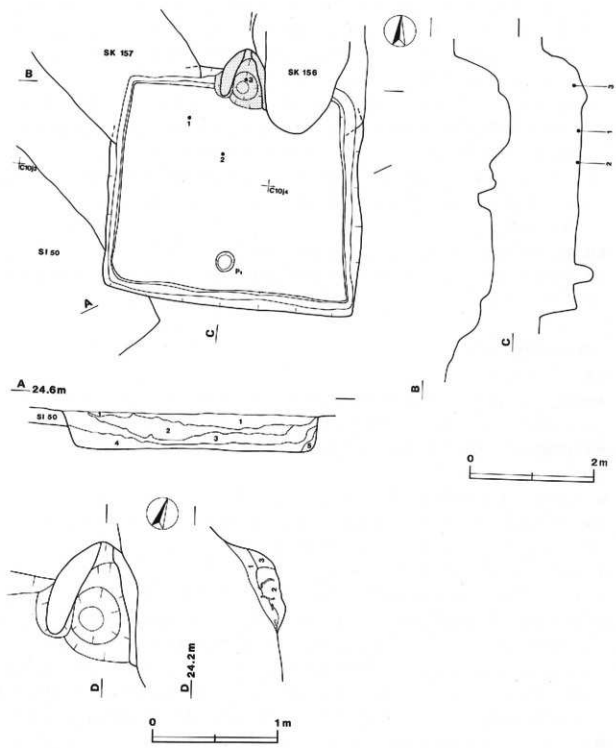
ピット 1か所(P)。径23cm、深さ22cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に38cm掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ96cm、幅約90cmである。天井部は崩落しているが、袖部は第156号土坑に掘り込まれている右袖部の一部を除き、遺存状態は良好で、内壁は熱を受け変色している。火床部は8cm掘り込み、皿状をしている。煙道部は火床部から急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土、第3層は焼土粒子を多量と炭化粒子及び炭化物を少量含む暗赤褐色土である。

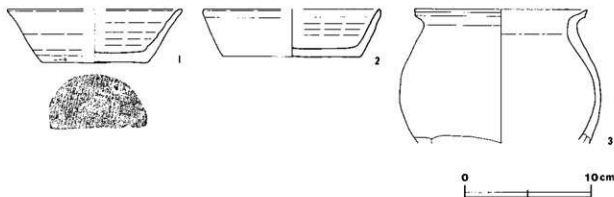
覆土 5層からなり、第2層以外は自然に堆積したものと思われる。第2層は人為的にロームを厚く投げ込んだものである。第1層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を少量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む橙褐色土である。

遺物 竈内及び床面から、土師器壺及び須恵器環片が少量出土している。第213図1と2の須恵器環は北西寄りの床面から正位の状態、3の上師器壺は竈天井部の崩落時に竈内に落ち込んだように正位の状態出土している。

所見 本跡は、出土遺物平安時代前期(8世紀末頃)の住居跡である。



第212图 第49号住居跡実測図



第213図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	坏 須恵器	A [13.9] B 4.4 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底で、 体部から口縁部は外傾して立ち上 がる。	体部外面下位位転へテ削り。底部 外面 方向の手持ちへテ削り。	長石・雲母・砂粒 灰白色 普通	P388 P L60 覆土下層
2	坏 須恵器	A [14.2] B 11.0 C 10.8	底部から体部の破片。平底で、体 部から口縁部は外傾して立ち上 がる。	体部及び底部内・外面摩耗。	長石・雲母・砂粒 灰白色 普通	P389 30% 灰濁
3	密 土器器	A 13.6 B (10.8)	体部から口縁部の破片。体部は内 側して立ち上がる。頸部から口縁 部は大きく外反する。口縁部は外 上方につまみ上げられる。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部内・外面摩耗。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P390 P L60 50% 電

第69号住居跡 (第214図)

位置 3区北西部, F6h区。

重複関係 本跡の竈は第68号住居跡の北西コーナー付近の壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N-113°-E。

壁 壁高は40~48cmで、北東・南西壁は垂直に、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 北東壁下の一部を除き周回している。上幅7~22cm, 下幅4~16cm, 深さ2~6cmで、断面形は皿状を
している。

床 ほほ平坦で、各コーナー部を除き硬く踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は、径32cm, 深さ20~24cmで主柱穴, P₃は、径36cm, 深さ32cmで出入り口
施設に伴うピットと考えられる。

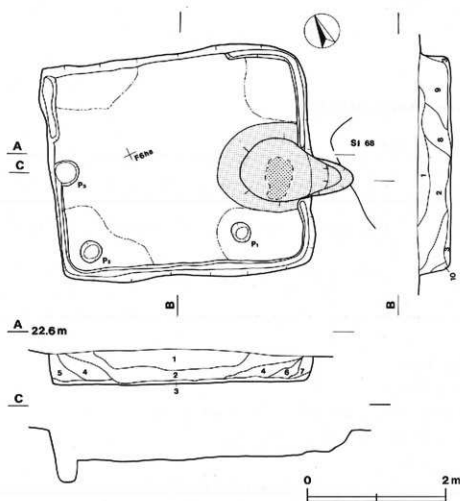
竈 南コーナー寄りの南東壁を壁外に63cm程掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ90cm,
幅約60cmである。天井部は崩落し、袖部は遺存していない。火床部は僅かに窪み、火熱を受け赤変硬化して
いる。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土、
第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム中ブロックを中量含む明褐色
土、第4層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土、第5層はローム小ブロックを少量
含む褐色土、第6層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第7層はローム小ブロックを少
量と焼土粒子を微量含む褐色土、第8層はローム中ブロックを少量含む褐色土、第9層はローム中ブロック

を中量含む褐色土、第10層はローム大ブロックを多量に含む黄褐色土である。

遺物 床面及び覆土下層、竈内から土師器片が175点出土している。第215図1の土師器環は電付近の床面から、2・3の土師器甕は竈内から出土している。

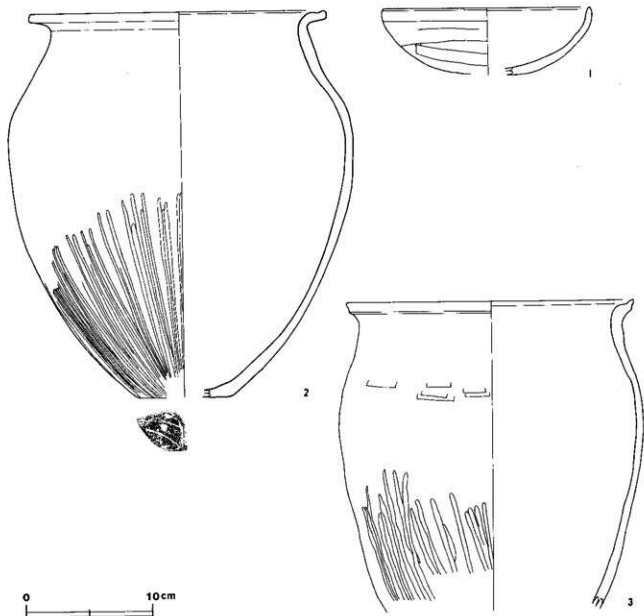
所見 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期（9世紀代）の住居跡である。



第214図 第69号住居跡実測図

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 1	坏 土師器	A 16.3 B (5.4)	底面欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、磨き。内面ナデ。	長石・砂粒 にふい褐色 良好	P504 P L.65 75% 床面
2	甕 土師器	A 23.4 B 31.0 C [7.4]	底面及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は屈曲する。口唇部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位へラ磨き。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P505 P L.67 70% 竈内木炭直 竈
3	甕 土師器	A 20.6 B (24.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラナデ。中位から下位へラ磨き。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P506 50% 竈



第215図 第69号住居跡出土遺物実測図

表3 住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設				壁土	出 上 遺 物	備 考		
							壁溝	柱間 土	土柱 入口	炉・竈 位置					
1	E8h	N-44°-W	方形	7.70 × 7.46	14~32	平州	全周	8	6	4	1	炉(I)	1	土師器(埴・甕・甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗)	古墳時代中期後半
2	E8hc	N-46°-E	台形	2.28 × 2.06	96~50	半垣	-	-	-	-	-	-	土師器(埴・甕)	古墳時代中期	
3	E7f	(N-22°-W)	長方形	4.79 × 3.45	16~24	平垣	-	-	6	2	-	炉(I)	1	土師器(埴・甕) 石器	古墳時代中期後半 出土層位不明
4	E7e	N-42°-W	方形	3.84 × 3.58	14~34	凸出	-	-	7	4	2	炉(I)	-	土師器(埴・甕・甗)	古墳時代中期後半 出土層位不明
5	E7es	(N-40°-W)	長方形	2.00 × 1.74	50~60	半垣	-	-	-	-	-	-	土師器(埴・甕・甗)	古墳時代中期後半 出土層位不明	
6	E8te	N-43°-W	不整形	2.91 × 2.40	6~16	平垣	-	-	-	-	-	-	土師器(埴・甕・甗)	古墳時代中期後半	
7	E8f	N-43°-W	長方形	5.20 × 4.56	18~50	半垣	半周	5	3	2	1	炉(I)	1	土師器(埴・甕・甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗)	古墳時代中期後半 出土層位不明
8	E8c	N-45°-W	長方形	5.88 × 4.62	18~41	平垣	-	-	5	4	1	炉(I)	1	土師器(埴・甕・甗) 土師器(須臾・小甗)	古墳時代中期後半 出土層位不明
9	E8cs	N-60°-W	方形	7.28 × 6.98	32~54	平垣	3/4	3	5	4	-	1	土師器(埴・甕・甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗) 土師器(須臾・小甗)	古墳時代中期後半 出土層位不明	
10	E8es	(N-44°-W)	長方形	3.96 × 3.28	11~14	凸出	-	-	-	-	-	炉(I)	1	土師器(埴・甕・甗)	古墳時代中期後半

所在地 番付	位置	主(北)軸 方	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	構造	内 部 設 計							敷土	出土遺物	備 考	
							礎礎	敷	敷	中	中	中	中				中
11	D9a	N 28°-W	方形	6.05 × 5.10	14~58	平礎	半周	7	6	4	1	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺・甕) 石製品(副土器)	古墳時代中期後半	
12	D9b	N 33°-W	方形	6.50 × 6.48	34~44	平礎	3/4	8	4	4	—	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺・甕) 土師器(鉢、小口壺) 石製品(石鏡)	古墳時代中期後半 鳥取	
13	D9c	N 55°-W	方形	6.82 × 6.70	31~44	平礎	全周	—	5	4	1	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺) 石製品(石鏡) 石製品(石鏡)	古墳時代中期後半 鳥取 鳥取市上野原	
14	D9d	N 15°-W	方形	7.00 × 6.20	12~28	平礎	半周	—	5	4	1	穴(2)	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取市上野原
15	D9e	(N-122°-E)	方形	2.40 × 2.34	14~18	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
16	D9f	(N-122°-E)	方形	2.60 × 2.42	21~28	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
17	C9i	N-37°-W	方形	7.80 × 7.66	38~52	平礎	全周	10	7	4	1	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺)	土師器(杯・壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半
18	C9c	(N-140°-W)	方形	3.00 × 2.80	14~18	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
19	D9a	(N-26°-E)	方形	3.20 × 3.14	12~22	平礎	—	—	—	—	—	穴(2)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
20	D9a	N 26°-W	方形	7.32 × 7.12	20~36	平礎	全周	2	6	4	—	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺) 土師器(壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半 鳥取	
21	E9a	N 40°-E	方形	7.02 × 6.74	20~62	平礎	半周	5	5	4	1	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
22	D9b	N 42°-W	方形	5.68 × 5.32	30~58	平礎	半周	3	6	4	2	穴(2)	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取
23	D9a	N-54°-E (長方形)	方形	2.72 × (2.40)	0~9	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
24	D9b	(N-34°-W)	方形	3.24 × 3.04	8~24	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺・甕)	古墳時代中期後半	
25	E9b	(N-6°)	長方形	3.30 × 2.46	4~34	平礎	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
26	E9f	(N-81°-E)	台形	0.50 × 3.26	12~24	凸凹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
27	E9f	N 60°-E	長方形	3.74 × 3.20	16~30	平礎	—	2	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
28	D9d	(N 57°-W)	長方形	3.00 × 2.66	52~38	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
29	D9d	N-170°-E	方形	2.62 × 2.32	24~38	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平安時代前期
30	F9a	(N-28°-W)	(長方形)	3.10 × (2.10)	14~24	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
31	A11er	N-60°-W	長方形	3.80 × 3.24	14~24	平礎	全周	—	1	—	1	穴(1)	1	自然	土師器(杯・壺) 鉄製品	古墳時代中期後半	
32	B11b	N 71°-W	方形	3.00 × 2.84	20~46	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取
33	B10b	N 92°-W	方形	7.32 × 7.44	32~52	平礎	全周	6	3	4	1	穴(2)	2	自然	土師器(杯・壺・甕) 石製品(石鏡)	古墳時代中期後半	
34	B10c	N-52°-W	方形	7.28 × 7.28	32~52	平礎	全周	10	8	5	2	穴(2)	1	人土	土師器(杯・壺)	古墳時代中期後半	
35	C9c	N 69°-W	方形	7.26 × 7.21	26~70	平礎	全周	3	5	4	1	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺・甕) 土師器(壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半 鳥取	
36	C10a	N-39°-W	長方形	3.14 × 2.06	16~24	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
37	C10b	(N-20°-E)	長方形	3.20 × 2.26	42~58	平礎	—	—	—	—	—	—	3	人土	土師器(杯・壺)	古墳時代中期後半 鳥取 鳥取市上野原	
38	C10d	(N 30°-E)	方形	3.60 × 3.26	4~22	凸凹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
39	C10a	N 26°-E	長方形	5.34 × 4.50	46~60	平礎	全周	—	4	3	1	穴(1)	1	自然	土師器(杯・壺) 土師器(壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半	
40	B10a	N-71°-W	方形	7.36 × 7.10	36~60	平礎	全周	—	5	4	1	穴(2)	1	人土	土師器(杯・壺) 須恵器(甕)	古墳時代中期後半 鳥取 鳥取市上野原	
41	C10a	N-150°-E	不定形	2.52 × 2.34	8~22	凸凹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
42	C10a	N-43°-E	長方形	3.98 × 3.30	26~30	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取
43	C10a	N-27°-E	方形	6.30 × 6.21	42~64	平礎	全周	4	5	4	1	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺・甕) 土師器(土師器)	古墳時代中期後半 鳥取 鳥取市上野原	
44	C10b	N 61°-W	長方形	3.08 × 2.36	30~50	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取市上野原
45	C10a	(N-26°-E)	長方形	4.02 × 2.30	46~56	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
46	C10a	N-45°-W	長方形	6.90 × 5.80	28~56	平礎	全周	2	2	—	1	穴(2)	1	人土	土師器(杯・壺) 土師器(壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半 鳥取	
47	C10f	N 40°-W	方形	7.06 × 7.00	38~50	平礎	全周	—	5	4	—	穴(1)	1	人土	土師器(杯・壺)	古墳時代中期後半 鳥取	
48	D10a	(N 33°-W)	方形	6.00 × 3.78	44~56	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
49	C10a	N-0°	方形	4.62 × 3.82	50~68	平礎	全周	—	1	—	1	穴(1)	—	—	—	—	平安時代前期 古墳時代中期後半 古墳時代中期後半
50	C10f	N-48°-W	長方形	6.70 × 5.94	26~54	平礎	3/4	6	4	3	1	穴(4)	—	—	—	—	古墳時代中期後半 鳥取 鳥取市上野原
51	C10b	(N-43°-W)	方形	6.80 × 6.70	46~56	平礎	全周	—	1	—	1	—	—	—	—	—	古墳時代中期後半
52	C10a	N-25°-W	台形	2.90 × 2.58	7~14	凸凹	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
53	C10a	N 17°-W	方形	2.04 × 2.00	4~8	凸凹	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
54	C9d	N-30°-W	方形	3.36 × 3.30	42~56	平礎	全周	—	5	4	1	穴(2)	1	人土	土師器(杯・壺) 土師器(壺)	古墳時代中期後半	
55	C9f	N-25°-E	長方形	3.50 × 2.76	8~14	平礎	—	—	—	—	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半
56	C9g	N 38°-W	方形	5.62 × 5.32	46~56	平礎	3/4	—	5	4	1	穴(1)	1	自然	土師器(杯・壺)	古墳時代中期後半	
57	D10d	N-53°-W	方形	3.42 × 3.10	6~12	凸凹	—	1	—	1	—	穴(1)	—	—	—	—	古墳時代中期後半

発掘調査番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高(m)	築期	内 部 装 設						出土遺物	備 考	
							壁構	障子	土間	入口	炉	竈			
58	C10c	(N-26°-E)	長方形	2.30 × 2.10	7~20	凸凹	-	-	-	-	-	1人	土師器(埴・埴)	古墳時代中期	
59	E7c	N-17°-E	長方形	3.74 × 2.92	20~36	凸凹	-	1	-	1	伊1)	1人	土師器(埴・埴)	古墳時代中期後半	
60	E7b	(N-4°-W)	長方形	3.34 × 2.10	25~40	凸凹	-	-	-	-	-	1人	土師器(埴・埴・埴) 土製品(土玉)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉) 埴師器	
61	F7a	N-20°-W	長方形	4.64 × 2.86	14~30	平坦	半周	-	1	-	伊2)	1人	土師器(埴・埴) 土製品(土玉)	古墳時代中期後半	
62	F7c	N-18°-W	方形	5.20 × 4.81	34~48	平坦	全周	3	6	4	1	伊1)	2人	土師器(埴・埴) 土製品(土玉) 埴師器(埴・埴)	古墳時代中期後半
63	F7b	(N-38°-W)	方形	[4.20 × 4.20]	-	凸凹	-	4	4	-	-	-	-	土師器(埴・埴)	古墳時代中期
64	F7d	(N-40°-W)	方形	2.94 × 2.88	14~20	平坦	-	-	-	-	-	3人	土師器(埴・埴) 石製品(双孔円板)	古墳時代中期後半	
65	F7g	N-23°-W	方形	5.12 × 5.06	36~54	平坦	全周	-	4	4	-	伊2)	1人	土師器(埴・埴)	古墳時代中期後半
66	F6f	N-46°-W	長方形	6.34 × 4.04	17~24	平坦	全周	2	6	3	1	伊1)	1人	土師器(埴・埴・埴) (埴師器(埴・埴))	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉)
67	F7j	N-25°-W	方形	5.50 × 5.40	38~64	平坦	全周	-	5	4	1	伊1)	1人	土師器(埴・埴) 埴師器(埴・埴)	古墳時代中期後半
68	F8h	N-4°-W	長方形	4.26 × 3.76	14~24	平坦	全周	-	2	-	1	伊2)	1人	土師器(埴・埴・埴)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉)
69	F9h	N-115°-E	長方形	3.80 × 3.70	49~48	平坦	全周	-	3	2	1	伊1)	1人	土師器(埴・埴)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉)
70	G6d	N-34°-W	方形	7.44 × 7.06	12~54	凸凹	全周	4	7	6	-	伊2)	2人	土師器(埴・埴・埴)	古墳時代中期後半
71	G6c	N-24°-W	方形	3.46 × 3.16	7~10	平坦	-	-	-	-	-	3人	土師器(埴・埴) 埴師器(埴・埴)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉)	
72	E7g	(N-65°-E)	不定形	1.06 × 3.46	14~18	凸凹	-	-	1	-	-	伊1)	-	土師器(埴・埴)	古墳時代中期後半 古墳時代中期後半 埴師器 土製品(土玉)

第4節 まとめ

当遺跡で確認した遺構は、竪穴住居跡72軒、土坑23基、炉穴2基、陥し穴7基及び遺物包含層1か所である。

ここでは、時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ、まとめとする。

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物としては、ナイフ形石器が2区の表土から、尖頭器が古墳時代の住居跡の覆土中から、石器が遺物包含層からそれぞれ出土している。

2 縄文時代

縄文時代の遺構は、炉穴2基、陥し穴7基及び遺物包含層1か所である。炉穴はいずれも、1区に所在する遺物包含層付近に位置しており、時期は出土遺物等から縄文時代早期のものと考えられる。陥し穴は、7基のうち4基が炉穴同様、遺物包含層付近に位置しており、小支谷に集まる動物の捕獲・捕獲を目的としたものと思われる。時期は、縄文時代前期の遺物が出土しているもの、縄文時代前期に堆積したと考えられる遺物包含層第2層から掘り込んでいるものがあることから、縄文時代前期に構築されたものと考えられる。遺物包含層からは、縄文時代早期から中期初頭にかけての土器片や石器類が、層別的に出土している。第1・2層は縄文時代前期、特に浮島式、興津式土器群を中心とする時期で、両型式土器群の出土点数は第1・2層全体の約78.5%を占めている。第3層は縄文時代早期、いわゆる広義の茅山式土器群を中心とする時期で、出土点数は第3層全体の約63%を占め、早期貝冚沈線文系及び燃糸文系土器群の出土も多くなる。第4層以下は縄文時代早期の単独層で、燃糸文系土器群を中心とし、スタンプ形石器の出土量も増えてくる。燃糸文系土器群の出土点数は第4層以下全体の約90%を占めている。縄文式土器片は、遺物包含層以外からも多数出土している。時期は、遺物包含層とほぼ同様の縄文時代早期から中期初頭であるが、遺物包含層から多数出土した広義の茅山式土器

群が出土していない点と、遺物包含層からは極少量しか出土しなかった関山式、黒浜式土器群が多数出土している点が異なる。遺物包含層を囲む台地上に展開されていた縄文時代の集落は、縄文時代前期前葉の一時期、集落の中心を遺物包含層の南西方向に広がる台地平坦部に移し形成されていたものと考えられる。

3 古墳時代

東山遺跡の中心となる時期で、5世紀後半の竪穴住居跡69軒と多数の土坑及び多量の遺物を確認した。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は大きく次の4つに分類することができる。

A 1辺が5～7m台の規模で、主柱穴、出入りロビット、間仕切り溝、炉及び貯蔵穴等を有するもの。

(第1・3・4・7～9・11～14・17・20～22・31・33～35・39・40・43・46・47・50・51・54・56・61～63・65～68・70・72号住居跡)

B 1辺が2～3m台の規模で、炉以外に内部施設をもたないもの。

(第10・15・16・18・19・23・24・27・30・32・36・41・42・52・53・55・57・59号住居跡)

C 1辺が2～3m台の規模で、内部施設をもたないもの。

(第2・5・6・25・26・28・38・44・45・48・58・60号住居跡)

D 1辺が2～3m台の規模で、炉やピットをもたず複数の貯蔵穴のみをもつもの。

(第37・64・71号住居跡)

Aタイプは36軒で、全体の52.2%である。床面は硬く踏み固められ、出入りロビット及び貯蔵穴は馬の背状の高まりによって囲み、規模が大きくなるほど、間仕切り溝を付設する傾向がみられ、居住を目的とする建物と考えられる。Bタイプは18軒で、全体の26.1%である。この中には炉のほかに貯蔵穴をもつ第10・24号住居跡、ピットをもつ第27・57・59号住居跡も含まれている。小規模で、掘り込みは比較的浅く、床面はあまり踏み固められていないものが多い。炉は使用頻度の高いものとそうでないものがあるが、出土遺物を見ると、坏・埴類が少なく、甕類が多いことから、火の使用を主目的とする建物、たとえば電屋の建物であったことも考えられる。第41号住居跡は、炉のかわりに山砂混じりの粘土で構築した電状の施設を有しており、この時期の電状の施設としては、龍ヶ崎市屋代A遺跡第39号住居跡について県内2例目である。Cタイプは12軒で、全体の26.1%である。この中には、ピットを有する第25・26号住居跡、1辺が5mを超える第48号住居跡も含まれている。床面はあまり踏み固められておらず、出土遺物も極少量であることから、倉庫的な役割を果たす建物であったことが考えられる。Dタイプは3軒で、全体の4.3%である。いずれも3つの貯蔵穴を有し、床面の占める面積は極薄かで、硬化面はみられないことから、長期保存が可能な食料を貯える貯蔵庫であったことも考えられる。今後、これら目的の異なる建物跡についてのグルーピングをもとに集落構成を検討していく必要があろう。

(2) 遺物

東山遺跡の出土遺物について、特徴的な点をまとめると次のとおりである。

- ・坏・埴・甕類のほとんどが赤彩されている。高坏はほとんど出土しない。
- ・出土した土師器の中には、金属を擦ったような傷跡が残され、砥石に転用されたと考えられるものがある。
- ・出土した土器片は細片が多く、住居廃絶時に意図的に破砕されたと考えられる。
- ・出土した石製模造品は滑石製の双孔円板、白玉及び勾玉で、前述のAタイプの建物跡からのみ出土してい

る。剣形の模造品は出土していない。

- ・須恵器は坏身、坏蓋、把手付埴、埴が出土している。この内、愛知県東山窯産が3点、その他は大阪陶器窯産のものである。時期は、愛知県東山218号窯前後、大阪陶器窯 TK216からTK47段階と考えられる。これら須恵器のうち、第33号住居跡出土の埴は、遺構外及び第34・35・38・43・46号住居跡から出土した破片に、第35号住居跡出土の把手付埴は、第39・51号住居跡から出土した破片にそれぞれ接合し、出土状況が特異である。

4 平安時代

平安時代の遺構は、竪穴住居跡3軒（第29・49・69号住居跡）で、いずれも遺構の形態及び出土遺物に差異がみられ、時期も異なるものである。第29号住居跡は南東コーナー部に竈が付設され、ピットを有していない。遺物は土師器片のみで、時期を明確にとらえられるものは出土していない。第49号住居跡は北壁中央部に竈が付設され、出入口施設に伴うピットを1か所有している。遺物は8世紀末頃と思われる須恵器の坏が出土している。第69号住居跡は南東壁に竈が付設され、主柱穴を2か所、出入口施設に伴うピットを1か所有している。遺物は9世紀代と思われる常総型甕が出土している。以上のようなことから、これら3軒の住居跡は第49号住居跡、第69号住居跡、第29号住居跡の順に存在していたものと思われる。

付章 東山遺跡出土の炭化材同定について

パリオ・サーヴェイ株式会社

I. はじめに

常陸台地の最南部の稲敷台地は、桜川と小貝川の低地にはさまれた台地である。台地南部では小野川とその支流により開折が進んでいる。東山遺跡は、小野川中流部左岸の台地上に位置する。発掘調査により、古墳時代中期末から後期初頭および平安時代の竪穴住居跡が検出されている。今回の自然科学分析調査では、住居構築材の用材選択について検討するために、住居跡から検出された炭化材の同定を行う。その結果と周辺の遺跡におけるこれまでの分析例との比較を行う。

II. 試料

試料は、古墳時代後期初頭の2軒の住居跡(12号住居跡, 47号住居跡)から検出された、住居構築材と考えられる炭化材3点(SI-12 NO. 1, SI-47 NO. 2, 4)である。

III. 方法

試料を乾燥させたのち、木口(横断面)・柱目(放射断面)・板目(接線断面)の断面を作製し、走査型電子顕微鏡(無蒸着・反射電子検出型)で観察・同定した。

IV. 結果

炭化材は、3点ともコナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種に同定された。クヌギ節の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ」(北村・村田, 1979)に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第2巻」(平井, 1979)も参考にした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.)

ブナ科

環孔材で孔洞部は1~3列、孔腔外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと同様放射組織とある。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で、果実(いわゆるドングリ)が2年日に熟するグループで、クヌギ(*Quercus acutissima* Carruthers)とアベマキ(*Q. variabilis* Blume)の2種がある。クヌギは本州(岩手・山形県以南)・四国・九州に、アベマキは本州(山形・静岡県以西)・四国・九州(北部)に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重用材である。このほかに器具・枕材、櫓木などの用途が知られる。アベマキはクヌギによく似た高木で、樹皮のコールク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが、さらに重い。用途もクヌギと同様であるが、樹皮が厚いため薪材にはわかず、炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

V. 考察

クヌギ節の木材は、古墳時代を中心として関東地方各地で住居構築材として利用されていたことが知られて

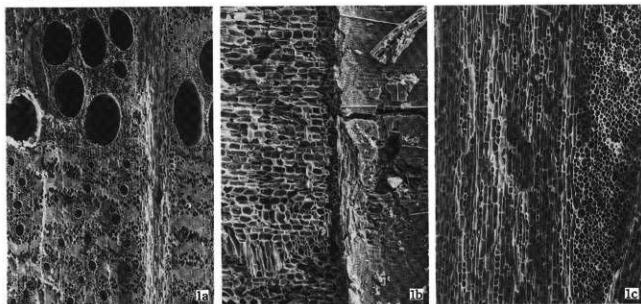
いる。本遺跡周辺でも、ヤツノ上遺跡や中久喜遺跡で古墳時代の住居構築材について樹種同定が実施されている（未公表）。その樹種は、いずれもクヌギ節やクヌギ節と同亜属のコナラ節であり、屋根材や壁材と考えられる試料にはタケ亜科が認められている。これらの結果から、本遺跡周辺では古墳時代を通してクヌギ節およびコナラ節が住居構築材として一般的であったことが推定される。また、これらの木材は、上入野遺跡の結果（未公表）から、最も強度が必要と考えられる柱材にも利用されていたことが推定される。また、ヤツノ上遺跡の結果から、屋根材や壁材にはタケ亜科を利用し、いわゆる「藁葺き」や「芽葺き」の住居であったことが推定される。

引用文献

平井信二（1979）木の辞典 第2巻. かなえ書.

北村四郎・村田 源（1979）原色日本植物図鑑 木本編〈II〉. 545p. 保育社.

東山遺跡・炭化材



1. コナラ属コナラ科クヌギ節の一種 (SI-47 No 2)

a : 木口, b : 柎目, c : 板目

200µm : a

200µm : b, c

